『PRIDE・GP』2ndラウンドを読み解けやーーっ!

紙のプロレス RADICAL

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

860 yen

WANIMAGAZINE MOOK

87 2005

PRIDE・GP2005 開幕戦徹底大特集

総合格闘技・柔道
そして己を語り尽くす
独占ロングインタビュー
吉田秀彦

GP1回戦突破!
勝ち残る者の恍惚と笑顔
この2人にあり!!
桜庭和志×中村和裕

マウリシオ・ショーグン
イゴール・ボブチャンチン
A・ホジェリオ・ノゲイラ
ヒカルド・アローナ
アリスター・オーフレイム

5・22『PRIDE武士道』リニューアル
この男たちに注目!
五味隆典／前田吉朗

吉田道場の新鋭が
『武士道』に殴り込み!
小見川道大&村田龍一

独占二大仰天対談!!
大仁田厚×ハッスル笹原GM
宇野薫×船木誠勝

敗れてなお咲く花あり!!

頂点への実感トライ止まらず!
今夏、強豪と再度激突へーー

7・6『HERO'S』第2弾!
ハリトーノフ、UFC出陣?
初夏のマット界に何かが起こる!!

異常人気爆発! K-1 MAX
紙プロ的徹底総括!!

パンクラスから独立の真相を激白!!
菊田早苗×郷野聡寛

今年から女子部門設立!!
組技の祭典『アブダビ』直前特集

5・10『ハッスル9』新潟ド速報!!
「坂田亘被害者の会」徹底リポート

"I編集長"が前田vs永田
泥沼舌戦をブッタ斬る!!

紙のプロレス RADICAL No.87 敗れてなお咲く花あり!!
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F 電話/03-5368-1795
ワニマガジン社 定価:本体819円+税

特報!!

ハリトーノフ UFC飛来!!ならず

されど、今秋以降出場可能性大 そして6・26さいたま出陣へ――

PRIDEヘビー級四天王の一角、セルゲイ・ハリトーノフが米国メジャーUFCに殴り込み！　『紙プロ』編集部にそんな刺激的なニュースが飛び込んで来たのは先月末。PRIDE－UFC協力体制の一環として、かねてからPRIDEのトップファイターのUFC派遣が検討されていたが、それがついに具現化。6・4米国アトランティックシティで開催される『UFC53』にPRIDEを代表してハリトーノフが出場、前UFCヘビー級王者ティム・シルビアとの対戦が決まりかけたが、残念ながら諸事情により発表ギリギリで流れてしまったようだ。しかし、ハリトーノフ本人、RTTサイドはUFC出陣を承諾しており、今年後半から来年にかけて、ハリトーノフが金網オクタゴンに飛来するという刺激的この上ないシーンが見られる可能性は大きいという。そして、このUFC参戦が流れたことによって、6・26PRIDEさいたま大会にハリトーノフ参戦が浮上。これまたただごとではないカードが噂されている。ミドル級GP真っ只中のPRIDEマットだが、ヘビー級もとんでもないことになってきた！　6・26のさらなる特報はP11へ急げ!!

さらなる6・26PRIDEさいたま衝撃の先取り情報はP11へ急げ!!

吉田秀彦

シウバに負けてもなお強し!
この男の信念が格闘環境を変える!!

負けた俺がリザーバーとして FINALに出るのは恥ずかしい でも、燃える相手と ワンマッチなら8月に出ます!

4・23『PRIDEミドル級GP』開幕戦でヴァンダレイ・シウバに一昨年に続き、またしても僅差の判定で涙を飲んだ吉田秀彦。しかし、シウバと真っ向勝負するその闘いぶりは、敗れるもさらに評価を高める形となった。この男の強さと闘いに対する考えを、我々は今こそ知る必要がある! 2年ぶりの『紙プロ』ロング・インタビュー、じっくりお読みください!!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/丸山剛史　試合写真/乾晋也
designed by hisa (Two Three)

――ヒゲはいつ剃られたんですか？
吉田　負けた次の日にすぐ剃りましたよ。
――あのヒゲは……。
吉田　（遮って）ホントは試合前に剃るつもりだったんですよ。試合前の会見に出て、そのあと剃ろうかな～と思ってたら、みんなが「かっこいいから剃らない方がいい」っていうんでね（笑）。
――いや、ホントにかっこよかったですよ（笑）。
吉田　剃るのも面倒臭かったし、じゃあそのまま行こうかなって。
――ゲン担ぎとかじゃない？
吉田　ないですね。担いでたとしても、負けたから、関係なくなっちゃったし。
――今回はその無精髭だけでなく、顔つきから違ったというか、試合前から、すごくいい顔してましたね。心身ともにかなり充実してましたか？
吉田　そうですね。環境も変わったし、家に帰れば食事もきちっと減量食が用意されてるし、そういう周りの力もあったかなって。
――14キロもの減量をしたわけですよね。
吉田　でも、全然キツくなかったですよ。前が太り過ぎっていうこともあったんですけど（笑）。久々に集中して練習もできたし、年末に歯がゆい試合をしてしまったんですけど、あのときよりは集中できてたんで。バタバタした生活じゃなく、キチッと予定を立てて練習できたんでね。
――では、仕上がり的にはかなり満足いってたわけですか？
吉田　調子良かったですよ。ただ、年齢的なものもあるしね。どこまでできるかなっていう不安もありましたけどね。だから自分の中じゃ「できる」と思ってても体がついてこなかったりとかありましたし。練習も自分の体にあった練習をしたつもりでしたし。
――やっぱり年齢によって練習内容も変わってきましたか。
吉田　それは変わりますよ。前みたいにムチャクチャやってたら、オーバーワークどころじゃないから。それも考えるようになったし、食事も考えるようになったんで、体力こそ若いころより落ちてるかもしれないけど、いまが一番充実して練習に打ち込める環境だと思いますよ。
――やっぱり去年から、このGPに照準を合わせてロングスタンスで準備してきたんですか？
吉田　ミドル級のGPがあるっていうことは前々からわかってましたからね。でも、改めて気合が入ったのは、（2・20『PRIDE・29』のリング上から）シウバに指名されて、そのとき「もうやるしかないな」と、さらにエンジン掛かりましたね。そういう意味では、（シウバ戦の）発表も自分の心を決めるのも早かったんで、準備する時間は結構ありましたから。

守り勝とうなんて全然思ってない
踏み込めない威圧感がシウバにはあった

――「ミドル級GP1回戦はシウバと」っていうのは、半ば予想していた部分もあるんですか？
吉田　いや、シウバは桜庭選手を指名すると思ってたんで。
――じゃあ、リング上から言われたときは『え!? 俺？』みたいな感じですか（笑）。
吉田　「聞いてないよ～！」って（笑）。打ち合わせも何もないんだもん。関係者も聞いてないから焦っちゃって、ボクもどうしたらいいもんかと思ってたら、隣に座ってた髙田（延彦）さんが「指名されたんだから立ったら？」とか平然と言うんですよね（笑）。
――本部長は人ごとになると、どんどん煽りますからね（笑）。
吉田　そう、またもり立てるからね（苦笑）。でも、まぁ今回早く決まったんで、準備する時間もあったから結果的には良かったですよ。やっぱり他の選手とやってもどうなるかわからなかっただろうし。初っぱなからチャンピオンと出来るならね、こっちからお願いしたいくらいだったんで。
――シウバ戦の3週間前に盟友・高阪選手が同じようにヘビー級のチャンピオン、ヒョードルと死闘を展開しましたけど、それは刺激になりましたか？
吉田　やっぱり根性見せてくれたし。セコンドやってるだけでアドレナリンが出ましたね。ただ、セコンドとしては辛かったですよね。止めたらいいのか、でも剛の心境を考えると止めないでくれって言うだろうなって。あれだけ血が出て目が見えない状況だったら、心を鬼にしてタオルを投げるのも優しさなのかなと思ったり。でも、やっぱり「コイツがここまでやってるなら、俺も頑張らなきゃな」って思いましたね。
――壮絶でしたもんね。でも、あの傷がすぐ治っちゃう高阪剛も凄いですけどね（笑）。
吉田　試合中は心配したけど、まぁあいつなら大丈夫でしょう（笑）。
――で、実際ヴァンダレイ・シウバと2度目の闘いを終えて、冷静に振り返ってみていかがでしたか？
吉田　まぁ、気合い負けでしょうね。執念の違いですよ。あそこまで行ったら3ラウンド目は行かなきゃいけなかったんだけど、行けない威圧感っていうものがあったし。ローキックでリズムを狂わされて自分から行けなかったっていうことを冷静になって考えてみれば、やっぱり王者っていうのは凄いなって。
――あのローはかなり効きましたか？
吉田　効いてはいたんですけど、試合中だからそんな痛みは感じなかったんですけどね。リズム的に崩されたのは間違いないですよ。3ラウンド目は勝負かけてボクも行こうと思ってたんで、タイミング計ってたんですけど、そのリズムをローで崩されたのと、やっぱりシウバの持つ見えないオーラが自分を入らせないような威圧感がありましたね。
――それでも1ラウンドはかなり優勢でしたよね？
吉田　無我夢中だったんで、よく覚えてないですよ。ただ、2ラウンドはずっと（グラウンドで）下になってたから、ずっとホールディングして、「イエローカードもらってもいいから、立たせてくれ」って思ってたのは覚えてますね。
――この展開をまずは変えたいと。
吉田　だから2ラウンド目は取られたなと。じゃあ、3ラウンドで勝負掛けないと

という気持ちではいたんですけど、行かせてもらえなかったんで、そこが悔やまれますけどね。

——見てる側からすると、「このまま判定勝ちしよう」優勢だったんで、「このまま判定勝ちしよう」みたいな気持ちが芽生えて、2、3ラウンドで攻め込めなかったのかなとも思ったんですけど。

吉田　そんなことないですよ。このまま守り勝とうなんて全然ない。逆に行かなきゃ負けると思ってたから。見てる人はどう見てるかわからないですけど、ボクは必死こいてやってるだけですから。3ラウンド終わったときはホントに疲れきってたし、自分でも勝ったか負けたかなんて全然わからなかったから。冷静に考えられなかったですね。ただ、決め手がなかったなというのは自分でもわかってたから。3ラウンド目もロー蹴られたけど、テイクダウンを取ったのはボクでしょ。それで最後はフロントチョークでキャッチ入ったんで、3ラウンド目もどっちかなという気がしたんで……。

Hidehiko Yoshida

——ホント紙一重ですよね。

吉田　そういうのを冷静に考えると、テイクダウン取るのをもう少し早く出来てたらな〜とか（笑）。

——そういった後悔が次々と出て来ちゃうわけですか（笑）。

吉田　でも、シウバって直接のテイクダウンってなかなかできないですからね。切るの上手いんで。だから打撃からいかにテイクダウンを奪うかがポイントだったんですけど、その打撃からテイクダウンっていうのは、こっちも打ち合わなきゃいけないから、気持ち入れていかなきゃいけないからね。それを行かせてもらえるような雰囲気じゃなかったんだよね（笑）。

——あの顔で構えて待ってるわけですからね（笑）。

吉田　だから行かなきゃ行かなきゃっていう気持ちは凄くあったんだけど、シウバの顔見ると、カウンター狙ってるような感じだったんで、その威圧感に負けてしまったっていうのがありましたね。あと逆に向こうも打撃で入って来れなかった部分あったと思うんですよ。

——組み付かれてテイクダウン奪われないように。

吉田　それでお互い見合っちゃったんですよね。

——でも、3ラウンドこそ踏み込めなかったとしても、試合を通して、あのシウバに何度も殴り合いを挑む吉田秀彦のあの度胸に驚かされましたよ。

吉田　今日も脳についてのテレビ番組に出たんですけど、人間の脳には誰しも危険を知らせるセンサーみたいなものがあるらしいんですよ。前頭前野っていうんですけど、たぶんボクはそれが欠落してるんじゃない

ですか（笑）。

――危険察知能力を取り外して試合に出てましたか（笑）。

吉田　恐怖っていうのは、それがセンサーの役目をはたして脳に伝えるらしいんですけど、きっとそれが遮断されてるんじゃないかなって（笑）。

――前頭前野が原因かわかりませんけど、しっかり目を見開いてシウバと殴り合ってましたもんね。

吉田　だから見えてましたよ、パンチは。ボクのパンチも結構当たってたと思うんですよ。ジャブも最初は当たらないジャブを（牽制で）打ってたんですけど、当たるかなと思って踏み込んでみたら、結構当たりましたからね。でも、当たると相手の射程距離に入っちゃうから……そういうことは考えちゃいけないんですけどね。一発二発殴られてもいいから、行かなきゃダメなんだけど。だから今度カズ（中村和裕）がシウバとやることになったら、1発2発食らってもいいから勝負かけるような気持ちで行かないと、結構難しいんじゃないかと思うしね。そういうアドバイスはしていこうと思いますけど。

――カズ選手って逆に、デビューしたての頃は、そういう度胸が凄く目立ったのに、最近は技術があがるにつれ、ちょっと慎重な闘いが増えてきてる気がするんですけど。

吉田　ランデルマンとやったときも、もっと行けるだろうって思ったんですけどね。シウバはさらに気持ちでパンチを打ってくる選手なんで、相当気合いれていかないと、いけないんじゃないかなと思いますね。

――シウバと2度闘った吉田選手から見て、カズ選手はすでにシウバを倒せるだけの実力は持ってると思いますか？

吉田　（シウバは）勝てない選手じゃないと思う。あとは気持ちの部分で、どこをどう切り替えるか。シウバの打撃って大したことないと思うんですよ。

――シウバの打撃が大したことない！

吉田　いや、技術が。パンチ力が強いのは別ですよ。でも、技術的には大したことないと思うんですよ。

――確かにパンチのテクニックは別に多彩じゃないですもんね。

吉田　そうそう、だいたいフックだけだから。ただ、パンチ力は凄いし向こうは気持ちが強いから、こっちもどこまで勇気をもって突っ込んでいけるか、そして何で勝負するか決めていかないと無理でしょうね。あとは必ず自分からテイクダウン奪って上に乗らないと、シウバはパウンドのパンチ強いですから。

――あのパウンドはやっかいですよね。

3R終了間際、猪木ーアリ状態から踏みつけてきたシウバの足をキャッチした吉田は足首固めを極めにいく。さらに逃げるシウバをフロントチョークで捕獲するが、このまま無念のゴング。またしても僅差の判定で涙を飲んだ。

吉田　痛いんですよ！　気が遠くなるようなパンチじゃないんですけど、とにかく痛い。だからいまだに鼻痛いですもん。殴られてるというより、金槌振り下ろされてる感じなんですよね。

――金槌！　それは嫌ですね～。

吉田　ホント、拳が固いんですよ！　逆にボクはバンテージ巻かないで出ていってるんで、そんなに痛くないと思うんですよ。シウバのパンチはホント痛いですよ。

――いやぁ……そういう人間と進んで闘いに行くんですからねぇ。

吉田　前頭前野がボクのセンサーを押さえてくれてるんです（笑）。すべて脳なんですよ。どうやって脳から恐怖心を振り払うかだから、一回経験しとけば2回目はわかってますから、慣れるらしいですよ。アゴ引いて踏み込んでいって、一発二発パンチ食らってみれば、どれくらいのもんかパンチ力わかりますからね。

――シウバとは前回も「あと1ラウンドあったら」っていう展開で、今回も同じようにまた「あと1ラウンドあったら」って感じでしたよね。

吉田　それはねぇ、後の祭りですよ。勝負の世界って結果しか残らないですから。いい試合をしようが、すぐ負けようが負けは負けですから。だから勝ちは勝ちでシウバに持っていかれちゃったのは、悔しいとしか言いようがないですよ。だって、いい試合したからって、シウバに2回負けてるボクが上がっていったらおかしいじゃないですか。だからリザーブマッチとかいって、負けてるのにボクが主催者に推薦されてリザーバーとして決勝の舞台に上がっていったら、それはおかしいですよ。負けてる奴が敗者復活みたいで上がるのはね。

――そういうふうにして上がっていくのは美意識として恥ずかしいと。

吉田　恥ずかしいですね。でも、どうしてもって言われたら出ちゃうかも（笑）。ワハハハハ！

――いやぁ、「どうしても」って言われると思いますよ（笑）。聞くところによるとヴァンダレイと2度目の一戦が終わった後、髙田本部長から「もう一丁いくか？」って聞かれて、「もう何丁でもいきたい！」って答えたらしいですね。

吉田　俺、言ってないよ、そんなこと！

――言ってないんですか⁉　じゃあ、あれは本部長の作り話？（笑）。

吉田　俺自身は「何丁でも行く」なんて言った覚えないから。でも周りも「言ってましたよ」とか言うんだよなぁ。だから興奮してて無意識で言っちゃったのかもしれないけど。

――でも、言ったことは事実として、すでに一人歩きしてますからね（笑）。

吉田　だってシウバと何丁でもって……知らない！

――知らない（笑）。

吉田　また2年後を楽しみにして。

――2年後というと、次回のミドル級GPですか？

吉田　そう。負けた奴がもう1回チャンスもらうのは、やっても2年後でしょう。それぐらい引っ張らないとボクもキツしね。

――無意識かもしれないですけど、「もう何丁でもやりたい」という言葉が出たとしたら、チャンピオンということ以外でも、ヴァンダレイ・シウバという選手は特別な存在ですか？

吉田　〝チャンピオンのヴァンダレイ・シウバ〟を倒すのが価値あることじゃないですか。ヴァンダレイがこのGPで負けちゃったら……やっぱり考えちゃいますよね。シ

シウバの打撃は技術的には大したことない
どこまで勇気を持って踏み込めるかなんですよ

Hidehiko Yoshida

ヨーグンが優勝したら、「俺、ショーグンとやりたい」とか言うかもしれない（笑）。

──「ショーグンと何丁でもやってやる」にいつの間にか変わってたり（笑）。

吉田　やっぱり他の人間に負けたヤツだったら、自分のテンションが上がってこないと思うんだよね。おいしいところ狙っちゃうタイプだから。やっぱりボクは若くもないしね、何回もこれから先、試合ができるわけじゃないじゃないですか。ある程度、自分の気持ちを高ぶらせて、やっぱりいい選手とやりたいし、そういう相手に対してどんだけ自分ができるんだろうってのがあるんで。

──やるなら強いチャンピオンと。

吉田　そういう相手だからこそ、自分も相乗効果で力が出せたり、練習に身が入ったりすると思うんですよ。

──じゃあ次、カズ選手がヴァンダレイと当たるのは複雑だったりするんですか？

吉田　いや別に。倒してもらえたら、それが一番ありがたいよね。

──「俺が先に倒したい」とかそういう気持ちはないですか？

吉田　そういうのはないよね。だからボクがやったことをアドバウスしてあげて、「こういう感じだぞ」って教えてあげられると思うんで。それでカズが勝てば、カズが一枚あがるじゃないですか。周りのファンの目も「カズ強くなったな」って思われるだろうし、それで優勝してもらえればね、ボクのターゲットになってもらうと（笑）。ワハハハ！

──そのときは「カズと何丁でもやりたい」に変更すると（笑）。

吉田　そうすればボクもやりやすいし、ベルトが来る可能性も高いと（笑）。まぁ、ボクは負けたんだから、ここはカズに託すしかないですよ。

──ヴァンダレイもこれだけ試合し続けて、これだけ研究されてるのに、それでも勝ち続けているのは何なんでしょうね？

吉田　ヴァンダレイって実はまだ底見せてないんですよね。みんなヴァンダレイがグラウンドできないと思ってるけど、できますよ。あの力はハンパじゃないですから。

──グラウンドでの力も強いわけですか。

吉田　力が強い。サイドポジション取っても動けなかったですもん。はね除ける力が強いんで。しかもボク道衣着てるから、相手も道衣着てたら隙間空けて関節とか行けるんですけど、裸だからくっついてないと、押されて立ち上がられちゃうんですよ。だからサイド取ってもコツコツ顔殴るしかできなかったんですよ。殴ってるウチに隙ができればと思ってたんですけど、なかなか難しいですね。

Hidehiko Yoshida

──吉田秀彦がサイド取っても、そこから先に行けないというのは、相当なもんですよね。

吉田　柔道だったら横四方で終わりですからね。あそこから裸のシウバを極めに行くというのは、もう少し考えないとダメだなと。こうやって後から考えると、ああすれば良かった、こうすれば良かったっていろいろ思うんですけど、実際やってるとね、そこまで余裕はないですよね。

──でも、そういう相手だからこそやりがいもあるわけですよね。

吉田　だからしばらく休んで、アドレナリンを貯めて体を治して、皆さんにいい試合

○ヴァンダレイ・シウバ［3R判定2-1］吉田秀彦×
（ブラジル／シュートボクセ）（日本／吉田道場）

を見せられるように頑張ります。

——やはりアドレナリン貯めて気合が入ると試合は違いますか。

吉田　試合というより、練習が違う。

——じゃあ、正直な話、大晦日はあんまり気合が……（笑）。

吉田　だから気合入らないって言ったじゃん！

——ダハハハ！

吉田　最初から「気合入らないからやれないよ」って言ってたんですよ。ホイスのときもそうだったし……。だってヴァンダレイとやった一ヶ月後ですよ？

——そうですよね。ヴァンダレイとのGP準決勝が11月ですぐ大晦日ですからね。

吉田　だから「もう大晦日はやらない」って今から言ってるから。「今年は紅白見る」って（笑）。

——その代わり、6月、8月ぐらいに容赦なくオファーが来るんじゃないですか？

吉田　いや、別に8月だったら全然試合やってもいいと思ってますよ。練習時間もあるし、体も作れるし、オファーがあって燃える相手だったら、全然OKですよ。体もどこも悪くないしね。

——でも、シウバ戦後は病院に直行されたんですよね？

吉田　あれはパウンドで頭殴られたんで気持ち悪かったんですよ。ケガじゃない。それでCT撮ったけど異常なかったし、全然大丈夫ですよ。

——では、もう五体満足だと。

吉田　ロー蹴られた左太ももが打撲だけど、これが痛くなくなれば練習やりますよ。カズは次があるんで付き合わないと。

——吉田道場はさらに2人新しい選手が入りましたしね。

吉田　どんどん後が続いてくれれば道場ももっと出せますし、他の企画も出来るような気もするし。

——他の企画というと？

吉田　団体戦とかね（笑）。

——全面対抗戦ですか！

吉田　それだとちょっと人が足りないな。団体戦やるにしても、5人いて5人全員選手に選ばれちゃうと、道場見る人誰もいなくなっちゃうから（笑）。そうなるといまのところ厳しいから、もう少しキチッと人が増えてくれたら、入った人のぶんだけ道場を作ってあげたいと思ってるしね。

——選手それぞれが道場を持つような形ですか？

吉田　そう、現役選手として終わったあと、自分で道場を持ってやっていけるような形を作るっていうこともやっていきたいしね。

小見川道大、村田龍一が新たに加わり、吉田、カズ、瀧本を含め５人のプロファイターが揃った吉田道場。日本を代表する一大勢力になる日も近いか。©DSE

“チャンピオンのシウバ”だから価値がある　ショーグンが優勝したら「ショーグンと何丁でもやりたい」って言うかも（笑）

——そういった柔道家がプロ格闘技に進んで、さらにその後、後進を育てるという、そういう道を切り開いたという自負はありますか？

吉田　いや、それはないですよ。たまたまボクがやりだしたら、みんなできるんだなと思って来てることで、まだまだやっぱり開けた世界じゃないし、裕福な生活をやっていけるわけじゃないですけど、それをね今からボクがどうやって変えていけるかっていうのは、まだまだ先は長いと思うし、出来る限りはいろんな部分で変えていきたいと思いますね。

——柔道界っていうのは、やはりその辺の壁は厚いわけですか。

吉田　どうなんすかね。でもボクが来年目指すのは全日本選手権ですから。

——来年は柔道の全日本選手権！

吉田　今年の全日本選手権見てて、「あ、まだ行けるな」と思ったから。

——ほう！

吉田　気持ちとしてはね。実際やってどうなるかわからないけど。でも、そういう気持ちがあるうちはやってみたいなって。

——もうメチャクチャ燃えてるじゃないですか！

吉田　いやだから、全日本選手権に出たいけど、現状ではたぶんエントリーできないから。なんとかエントリーできるようにしてください。予選から出ますから。

——それが実現したら、間違いなく柔道界のためにもなりますよね。

吉田　じゃあ、「柔道界のためにも、吉田を全日本選手権に出した方がいい」って『紙プロ』で書いて、講道館の前で配ってくださいよ。

——まぁ、配るかどうかは別として（笑）、ウチでもキャンペーンを張らせていただきますよ！　レスリング界は結構プロ格闘技に対して柔軟ですもんね。柔道もそうなるといいんですけど。

吉田　でも、そのうち（柔道界も）いろいろ変わってくると思いますよ。それまでボクは地道にやるだけなんで。そのためには道場いっぱい作らないといけないし。ボクも2ヶ月ぐらい道場で練習見てなかったんで、子供たちと触れ合ってね、柔道のほうもどんどんやっていかなきゃいけないなと思いましたからね。

——吉田さんによって、プロの総合格闘技界も変わってきましたよね。吉田さん以降、アマチュアのトップレベルの選手が次に目指す場になってきたというか。

吉田　まだまだこれからあると思いますけど、ボクは普通にやってるだけなんで、それがいい風に向かってくれれば、それはそれでいいことだと思いますけどね。この世界を変えるためにボクが闘うんじゃなく、ボクが闘うことによってそういう方向に向かって自然な流れができたらいいしね。

——では、使命感みたいなものはない？

吉田　使命感はない。上のためにやってるつもりはないしね。自分のためであり、子供たちのため、いまいる仲間たちのために頑張らないといけない、それだけですよ。（突然ぶっちゃけて）だってね〜、上の人たちが人を利用してお金儲けばっかりに走るから！　そういうの嫌だし、ボク大学に

入って以降、そういうの見すぎたんですよ。だからね、そういう人たちに対して「金ならくれてやるよ」と思ったりするけど、それももったいないから（笑）。

――でも、やっぱりそういう状況に嫌悪感があるというか、変えたい気持ちがあってやってるなら、やっぱり内に秘めた使命感があるんですよ。

吉田　それは変わってもらわないと困るしね、だから時間が掛かってもね、少しずつ変わってほしいし、変えていけたらなと。

――プロの世界から見ても、柔道界ってホント人材の宝庫ですからね。みんないいキャラしてるし。

吉田　いいキャラしてるし、実力もあるんだけど、なんせみんな打撃ができないから！（笑）。でも、打たれ強いのは確か。首鍛えてるから。

――今回、吉田道場に入った小見川選手と村田選手も、柔道の実績は素晴らしいし、面構えもいいし、また口も滑らかでいいですよね。

吉田　気が強いからね。だから柔道家の良さっていうのは、喧嘩っぱやくて、気が強いけれど、礼儀は持ってる。ただし、キレたら何をやるかわからない（笑）。

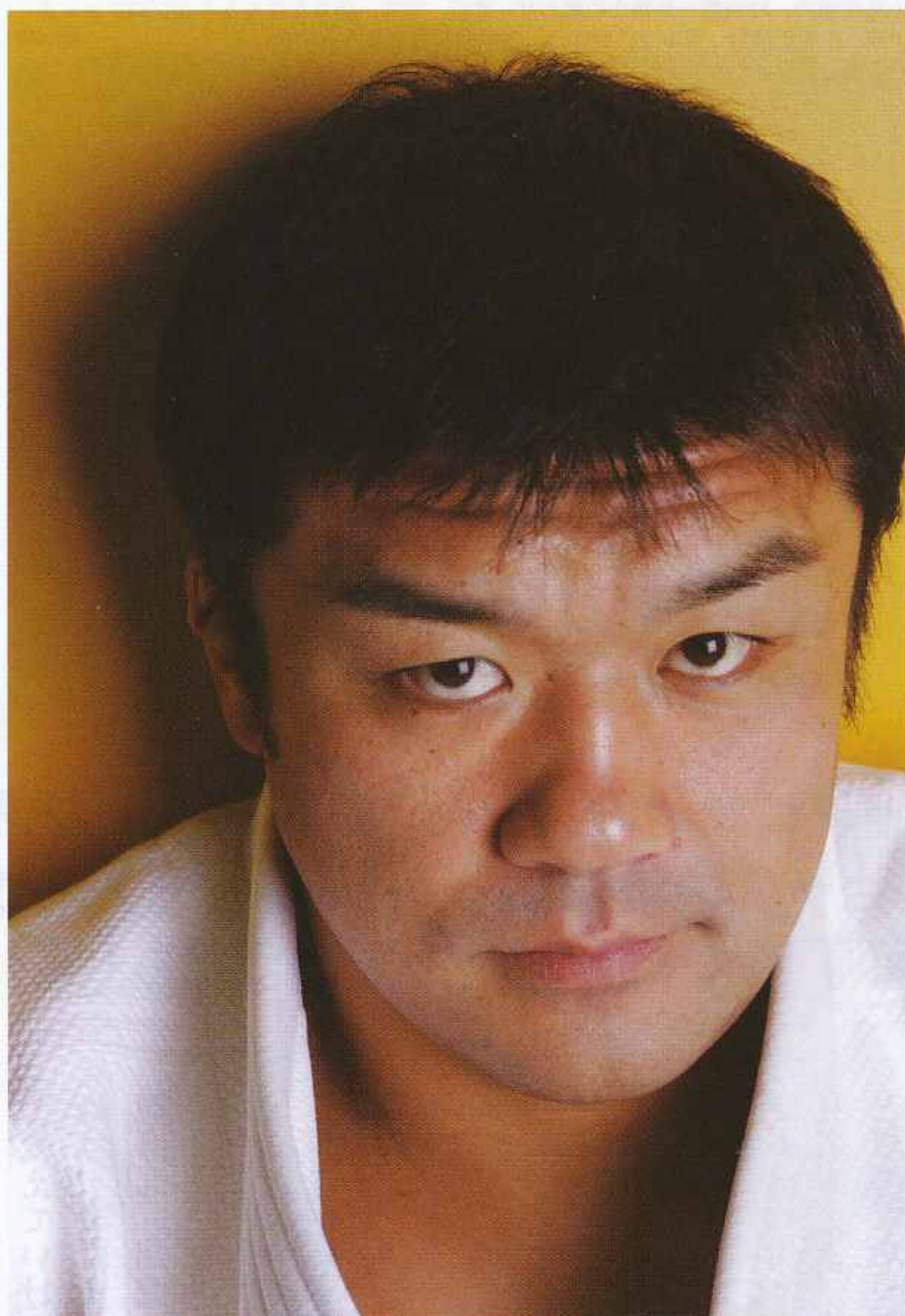
――それは柔道家としては万国共通なんですかね。小見川選手なんてプロデビュー前から「ここは俺の場所だ」って言ってたり、ユン・ドンシクもGP前のビッグマウスは凄かったじゃないですか。

吉田　ユンねぇ～（苦笑）。あれ柔道の悪いクセなんですよ。攻められると亀になっちゃうって。

――あれはさっきの前頭前野の話じゃないですけど、脳の危機センサーが作動してビックリダウンって感じでしたよね。

吉田　そうそう、パンチ食らって体が守りに入ると、柔道家は亀になって我慢するクセがついてるんですよ。だから、殴られたっていいじゃないかぐらいの気持ちでいかないとダメ。

ゼロ戦に乗って大国に向かって行った日本人の魂を受け継いでいかないと

Hidehiko Yoshida

よしだ・ひでひこ■1969年９月３日、愛知県大府市出身。柔道六段。バルセロナ五輪78kg以下級金メダルを筆頭に、98年講道館杯優勝、99年世界選手権優勝の肩書きを引っさげ、2002年ホイス・グレイシー戦でプロデビュー。その後、ドン・フライ、田村潔司、マーク・ハントといった強豪を『ＰＲＩＤＥ』のリングで次々と撃破。"絶対王者"シウバには二度に渡り惜敗を喫したが、その果敢な闘いぶりは大きく評価を上げた。

――そのくらい気の強さを持たないと。

吉田　気が強くないとできないですよ。シュートボクセなんて普段から思い切り殴り合って練習してるわけじゃないですか。やっぱり実戦的な練習してるから強いよね。それに、やっぱり向こうは貧富の差が激しいから、ハングリー精神っていうのが凄いし、ハートの強さを感じますよね。

――向こうの選手はみんな『ＰＲＩＤＥ』で"ジャパニーズドリーム"を掴もうと必死ですよね。

吉田　そういう環境にいるから強いんですよ。生まれて育った場所がスラム街とかじゃないですか。そこから這い上がろうっていう気持ちは半端じゃないよね。ボクの場合は講道学舎にいたから、そういうのが少しでもあったんじゃないですかね。

――とんでもない世界に放り込まれて、揉まれまくったわけですからね。

吉田　そういうところで精神的なものって作られると思うから。『あしたのジョー』じゃないけどね、やっぱりありますよ。いま日本は世界からみると豊かじゃないですか。だからそういう部分でメンタル面では、向こうの方がハングリー精神があるなって思いますね。それが競ったときに出てくる、ボクの試合じゃないですけど。

――髙阪さんは「日本でやってる『ＰＲＩＤＥ』なんだから、日本人が頑張らないと」って言ってましたけど、やっぱり吉田選手もそういう気持ちはありますか？

吉田　それはねボクも思ってますよ。日本人が頑張らなきゃ、そしてボク自身がやらなきゃっていう思いはありますからね。

――柔道の現役時代からずっと日本を背負って闘ってきたわけですからね。

吉田　そういうのは考えないけど、やっぱり日本人の魂っていうのは見せないとね。昔の日本人はそういう気持ちや精神の部分が凄かったじゃないですか。ゼロ戦に乗って大国に立ち向かっていくんだから、それぐらいの根性でやらないと。そういう魂をボクたちは受け継いでやってるつもりだし、こういう世界ですからいつ死ぬかわからないですからね。だから気持ちの部分でも外国人に競り負けないように、もっとハングリー精神をもってやっていきますよ。

――わかりました。では、今後も期待してます！

【05年5月2日／梅が丘・吉田道場にて収録】

6・26PRIDE・GP
独占先取り情報！

ショック!! ヒョードルvsミルコ8月に延期か!?

されど ミルコ怒りの出陣へ!!

ハリトーノフ、ノゲイラ、瀧本参戦濃厚、この超ド級のラインナップを見よ!!

王座戦に向け試し斬り！
6月に妖刀は見られるのか!?

涙のデビュー戦から半年……
天才柔道家、再びリングへ!!

頑固者は出てくるのか!?
目指すは吉田へのリベンジ!!

未知の強豪ゾクゾク参戦!?

タダス・リンカビュチス　スレン・バラチンスキー　パウエル・ナツラ

4・23ミドル級GP開幕戦の興奮も冷めやらぬ中、さらに『PRIDE』は突っ走る！　ここでは、本誌編集部が〆切ギリギリに入手した6・26さいたまスーパーアリーナ大会の最新情報・ワンマッチ編をお届けする。

まず、今年最大の目玉カードといっていいヒョードルvsミルコのヘビー級タイトルマッチだが、〆切段階では正式決定に至らず。最大の焦点であるヒョードルのケガの回復が思わしくなく、8月の対戦が濃厚のようだ。

しかし、6月の対戦に向けて急ピッチかつ完璧に調整してきたミルコが「はいそうですか」と引き下がるわけがない。榊原信行DSE代表いわく、いまのミルコは「準備万端、待ちきれないっていう状態。競馬の馬と一緒で、ちょっと走るとすぐ出来上がっちゃうんですよ（笑）。走りたくてしょうがないというか、人を蹴りたくてしょうがない」

というわけで、6月にはたまりにたまったアドレナリンを噴出すべく〝ピークアウト〟マッチを行なう模様だ。相手候補にはロシアン・トップチームの秘密兵器にしてヴォルク・ハン最後の愛弟子スレン・バラチンスキー、未知なるリトアニアの強豪タダス・リンカビュチスが浮上している。バラチンスキーは過去ヒョードルに2度勝った世界サンボ王者、タダスは〝ベアー〟の異名を持つ128キロのパワーファイターで、その闘いぶりはヒョードルに酷似しているとか。バラチンスキー、ベアーともにミルコにとっては仮想ヒョードルとしてうってつけ。だが〝素通り〟できるほど甘い相手ではない。これまでも幾多の悲劇を味わってきたミルコは、この試練を乗り越えることができるのか……。

ヘビー級戦線では、他にも注目の対戦が続々と進行中だ。まず6・4『UFC53』出場のプランもあったハリトーノフが、諸事情による参戦中止（今年後半から来年にかけて死神落下傘が金網に降下する可能性は大）となり、それを受け6月の『PRIDE』出場が濃厚となった。しかもその相手として浮上してるのが、大晦日の『男祭り』で〝絶対王者〟シウバを下して総合ファイターとしての能力も見せ付けたマーク・ハント。〝冷酷・冷血・冷徹〟なロシア軍人vs〝陽気&呑気〟なサモアンという好対照のキャラにして超絶打撃戦必至のこの闘い、実現すればヘビー級タイトル次期挑戦者決定戦として行なわれるとか。タイトルマッチ自体が流れそうな中、挑戦者決定戦が先に行なわれるというのは異例の事態だが、それだけ『PRIDE』の流れは早いということ。たとえトップコンテンダーでもうかうかしてはいられない。

またミノタウロ・ノゲイラの大晦日以来となる復帰戦も濃厚で、その相手は、参戦がウワサされるパウエル・ナツラになりそうだ。ナツラは昨年末に『PRIDE』参戦を発表したアトランタ五輪柔道95キロ級優勝者。世界大会優勝も含め、31連勝をマークしてもいる。半年間じっくりと総合対策を積んでのデビューだけに、大いに期待が持てそうだ。柔術マジシャンvs柔道金メダリスト。実現すれば真の〝柔〟の誇りをかけた組み技最高峰対決である。

さらにさらに！　ミドル級でもトーナメント枠以外で激震が走る。大晦日にデビューを果たし、「総合をナメてました」という涙の名言を残すも関係者からは高い評価を受けた瀧本誠が、この6月大会でプロ2戦目を行なう可能性があるというのだ。と同時に、DSEでは右拳ケガの回復次第という条件付きながら田村潔司への出場オファーも検討中とのこと。となれば見たいのはズバリ、田村vs瀧本だろう。一筋縄ではいかない、ストレートとは間違ってもいえない個性を持つ者同士がリング上で対峙したとき、どんな化学変化が起こるのか……。吉田秀彦へのリベンジを熱望してきた田村にとっては、吉田道場所属の金メダリストを倒すことは、吉田戦実現への大アピールにもなる。

ヘビー級、ミドル級ともに激しさが増すばかりの『PRIDE』2大メインストリーム。その闘い模様は怒涛の奔流となって6月、そして8月へと突き進む。もちろん、次号では6月大会ド直前の最新情報を掲載。心して待て！

005開幕戦突破対談
と笑顔、この二人にあり!!

桜庭さんは強くて面白くて、
あと……意地悪（笑）

聞き手／ジャン斉藤
撮影／乾晋也
designed by hisa (Two Three)

× KAZU

中村和裕
［吉田道場］

PRIDE・GP2005開

勝ち残る者の恍惚と笑

スパーで一番怖さを感じるのは中村君。ホント気が抜けない。

SAKU ×

桜庭和志

［髙田道場］

――今日は『PRIDE・GP開幕戦』を見事勝ち上がった桜庭さんと中村さんの日本人選手のお二人に、試合の感想はもちろんのこと、当日の祝勝会＆一夜明け会見での泥酔ぶりついても語っていただきたいと思ってます（笑）。
中村 自分は泥酔してないです。それは桜庭さんです（笑）。
桜庭 たくさんたくさん飲みました（ニコニコ）。
――桜庭さんは会見でもかなり酔ってましたよね（笑）。試合を終えてから朝まで飲んでいたんですか？
桜庭 いや……何時まで飲んだんだろう？
――まったく覚えていないですか（笑）。
中村 朝の5時まで飲んでましたね。先に桜庭さんが寝ちゃったんで自分は帰りましたけど。
桜庭 そうそう。いつのまにか中村君がいなくなってた。
――もともと一緒に飲まれる予定だったんですか？
中村 いや、2時過ぎぐらいに桜庭さんから携帯に電話があって、『『モンゴリアンチョップ』（大阪店＝高田総統＆サク・マシン経営のジンギスカン屋）に来い」って言われて。でも、お店はもう終わる時間だったんですよ。
桜庭 そうだっけ……？ いや、あれはたしか12時ぐらいに……ん？ いや、わかんない！ まったく覚えてない!!
――ダハハハ。とりあえず合流したわけで

会見の控室で桜庭さんがビールを飲んでました（笑）。

高田さんとたくさんたくさん飲みました！

SAKU×KAZU

恍惚と笑顔、この二人にあり!!

すよね。
桜庭 そう。4、5人でホテルのボクの部屋で飲んだんですよ。
――中村さんは会見で「ワインやシャンパンばかりでツマミを頼んでくれなかった」ってボヤいてましたけど。
桜庭 え……!?（中村の顔を見ながら）
中村 そう驚かれましても（笑）。
桜庭 いやぁ、俺は覚えてない。でも、ツマミを頼みたければ自由に頼めば良かったのに。
――でも先輩を前にして、なかなか頼みづらい雰囲気があったんじゃないですか？
桜庭 そこはウチの高橋（渉＝高田道場）が気を遣わないと。ボクは悪くありません！
中村 高橋君はひとりでいろいろ食べてましたけどね（笑）。
桜庭 そんなことより中村君はあんま飲まないから。
中村 いや、飲みますよ！ ちゃんと。
桜庭 飲みながらコップをチェックすると、全然進んでないことが多い。
中村 そんなことはないんですけどねぇ。
――お二人は飲む機会がよくあるんですか？
桜庭 たまにですね。
中村 自分は桜庭さんの「乾杯！」の発生音が大好きなんですよ。独特なんです。「ッパ～イ！」って。
――誌面では伝わりにくいネタですね（笑）。
中村 まぁ自分の場合はお酒が好きというより、みんなで騒ぐのが好きなんですけど。
桜庭 ボクは飲むことだけが好きです（キッパリ）。
――さすがお酒大好きなだけあって、桜庭さんは一夜明け会見前の控室でも飲んでいたらしいですね（笑）。
桜庭 はい（ニコニコ）。
中村 ビックリしましたよ。控室に入ったら、髙田さんと桜庭さんが当たり前のようにビールを飲んでましたからね。「ッパ～イ！」とか言いながら（笑）。
――とても会見前とは思えない（笑）。酔った髙田さんと桜庭さんに絡まれたりしなかったんですか？
桜庭 それは会見のあとの宴会で。
――ガハハハ！ 会見後にまた飲み直したんですか！（笑）。
中村 はい。みんなでお好み焼き屋に行ったんですよ。
桜庭 あんまりよく覚えてないけど、「ランデルマンを極めて勝ってほしかった！」とか言っていたと思いますね。
中村 ああ、そうです、そうです。実際、何度かランデルマンを極めることができる瞬間はあったんですよね。5分過ぎたら、ランデルマンのパワーやスタミナが急激に落ちたことはわかったし、そこで倒せなかったところは反省点ですよね。もっとうまく試合を見せることができれば良かったんですけど。
――中村さんは試合後、珍しくマイクアピールをしなかったですよね。
中村 マイクを渡されなかっただけですけど、そんなに珍しいですか？
――リングに上がるとかならずマイクを持っているイメージはありますけど。
中村 そんなことないですよ！（笑）。
――でも（ステファン・）レコに勝ったときも「グランプリはボクを中心に回ります！」とか、けっこう大胆なマイクアピー

ルは多いですよね。

中村 あ～、あのレコ戦のマイクは、吉田（秀彦）さんに「自己中心的過ぎる」と注意されて反省しました。

桜庭 でも格闘家はみんな自己中だよ（ボソッと）。

中村 フハハハ！ 反省しましたけど、心の中ではいまでもそう思ってます。次の試合はランデルマン戦の反省を活かして頑張りたいですね。

――桜庭さんは今回のユン・ドンシク戦で……。

桜庭 （遮って）反省することは何もないです。

――わずか38秒で終わっちゃいましたからね（笑）。

桜庭 打撃でKOを狙っていたわけじゃなくて、パンチを当てたら（ユンの）ヒザがカクンと落ちたんで、そのまま殴りにいっただけで。まぁ勝ったその場で反省はしたんですよ。とりあえずバッと両手を挙げてリングを一周して、自分のセコンドに「秒殺しちゃったよ～。どうしよう？」って。

――「どうしよう」（笑）。それはお客さんにもっと楽しんでもらいたかったという気持ちが強かったわけですよね？

桜庭 そうですね。短くても3分から5分ぐらいはやらないと。お客さんだって満足しないですから。

――ユンは試合前のインタビューで「打撃の練習をするつもりはない」と寝技勝負を匂わせていましたけど、最初の踏み込んでからのパンチを見る限りは、打撃の練習をしていたっぽいですよね

桜庭 あれは打撃の練習やってたでしょ。試合が始まってすぐ飛んできましたし。

中村 デビュー戦であそこまで真っ直ぐ来れるのは珍しいですよね。初めてだと、どうしても相手の動きを待っちゃうもんですから。

桜庭 リング上で（ユンの）顔を見たら緊張しているのはわかった。それなのに試合が始まったらすぐ仕掛けてくるのは肝が座っている証拠ですね。今回は早く終わってしまいましたけど、自分のペースに持ち込める闘い方ができればよくなると思いますよ。年齢的なものがあるから、急ピッチで仕上げていかないと難しいでしょうけど。

――今回は発揮できなかったユンの寝技の実力は見てみたいですよね。

桜庭 ボクの柔道衣を脱がす実力も見てほしかったです（ニコニコ）。ホイス（・グレイシー）のときは脱がすことができなかったからちゃんと研究してきたのに。

中村 そういえば（ユンは）脱がされないように袖が絞ってある道衣でしたよね。

桜庭 柔術衣っぽかった。でも脱がせることはできるから。

――桜庭さんは試合前の公開練習で、柔道衣を着たPRIDEメインキャスターの小池（栄子）さん相手に道衣対策を披露してましたよね。それもかなりセクハラ気味に（笑）。

桜庭 あのときはホントに脱がそうと思ってましたから。

――そのせいか小池さんはかなり慌てていましたけど（笑）。

桜庭 いやいや、変な意味じゃなくて「道衣を脱がす方法を見せてくれ」って言われたからやったまで。

――ああ、なるほど（笑）。中村さんも『PRIDE王（キング）』ナビゲーターのサトエリ（佐藤江梨子）さんとのやりとりはかなり面白いですよね。

中村 そうですか？

――サトエリさんの写真集をプレゼントしてもらった中村さんが不謹慎な発言をする対談はホントに面白かったです！ あとレコ戦で「勝ったらハグする」という全国の男子が羨むような約束をしたのに、リングサイドで必死にアピールするサトエリに目をくれず控室に帰って、あとでサトエリさんに「どうなってるのよ!?」って怒られたり（笑）。

中村 いやいや、忘れたわけじゃなくて、お客さんがいっぱいいるところで抱きつくのも変な話じゃないですか。

――人目がないほうが問題あると思いますけど（笑）。

中村 いや、それこそ問題がないんですよ！（キッパリ）。

――そ、そうでしたか（笑）。ところでお二人は女性の話をしたりすることはあるんですか？

桜庭 女性の話はしないですね。オトコの話しか（ニコニコ）。

――いきなりなんてこと言うんですか（笑）。

中村 ああ、そういえば、自分は一時期、桜庭さんのことをホモだと思ってたんですよ。髙田さんや吉田さんたちもグルになって騙されて。

桜庭 騙しました（笑）。

――え？ そんなことがあったんですか（笑）。詳しく教えてください！

中村 大阪で『PRIDE・27』があったときにホテルの髙田さんの部屋で飲んでいたら、なぜか桜庭さんがずっとお尻を触ってくるんですよね。触られるのがイヤでちょっと力を入れたら、「お！ 堅い、堅い」とか言ってきて！

「PRIDE・GP」ベスト8が決定した翌日の記者会見でサクは二日酔いの大暴走！ 会見終了後、髙田本部長も「二等兵～！」と友人である髙田総統のモノマネをする酔っぱらいぶり！ とにかくゴキゲンな会見だった！

——ガハハハ！　それを髙田さんは黙って見ているわけですか？

中村　髙田さんはお酒を飲みながら「いいね、いいねぇ」って言ってるんですよ（笑）。

——ワハハハハハハ！　どんな飲み会なんですか！

桜庭　反応を見ていると面白いんですよ。「絶対に俺のことをホモだと思ってるんだろうな」って（ニコニコ）。

——どんな娯楽ですか（笑）。

桜庭　というか、一時期、髙田さんとボクがホモじゃないか？　って噂が流れていたので、それからわざと人が見ているところでお尻を触ったりしてたんですよ。

——ガハハハ！　それは余計に誤解を招く行為ですよ（笑）。

中村　自分の場合も『PRIDE』の会場で会うたび会うたびにお尻を触ってきて……。しばらく桜庭さんのことを避けてましたから。

桜庭　避けようとする姿も面白いんです（ニコニコ）。「ホモだと思って中村君が避けてるよ～（笑）」って。

——闘いの緊張感が張りつめた『PRIDE』の会場でそんな神経戦が勃発してましたか（笑）。

中村　笑いごとじゃなくて、周りの人に相談しましたからね。「桜庭さんがちょっと変なんです」って（笑）。でも、吉田さんも自分が騙されていることを知っているのに黙ってるんですよ。結局、『PRIDE』の会場で髙田さんから「カズ、サクはホモじゃない！」っていきなり言われて、よく話を聞いたらみんなに騙されていることが判明しました（笑）。

桜庭　いや、ボクは両方好きなんです！（元気よく）。

——あらぬ誤解が生じそうなので話を変えます（笑）。お二人は『PRIDE・GP 2nd』に進出しましたが、中村さんは次戦でヴァンダレイ・シウバと闘いたいそうですね。

中村　そうですね。ぜひ闘いたいです！

桜庭　飲んでいるときも「シウバと闘いたい！」って散々言ってましたから。

中村　でも、普通に考えて、師匠（吉田秀彦）が負けたら弟子が手を挙げるのは自然なことだと思うんですよ。逆に名乗り挙げないのは不自然じゃないですか。

——桜庭さんから見て、ヴァンダレイvs中村さんはどうですか？

桜庭　いいと思いますよ。面白い試合になるんじゃないですか。

中村　ホントに思ってますか？（苦笑）。

桜庭　ホント、ホント。ちゃんと噛み合って面白くなると思う。

桜庭さんの試合のあとはやりずらい。観客の沸き方がホント凄いじゃないですか（カズ）

韓国柔道の威信を懸けて闘いに挑むユン様に一礼をする桜庭和志くん（35歳）。青の鼻水をペイントすれば完璧だったが、とにかくピッカピカです！

中村君とシウバがやれば噛み合うと思いますよ。ホント面白くなると思う（サク）

——ヴァンダレイはリング上で「サクラバと闘いたい」と桜庭さんに〝四度目〟の対戦を要求してましたけど、桜庭さんはあまりその気ないんですか？

桜庭　ボクは3回やってますからね。中村君がやったほうが面白いと思いますよ。ボクは別の相手と闘います。誰でもいいですけど。

中村　シウバとやるんだったら壮絶な死闘にしたいですよね。試合が終わったらリング一面が血まみれになるぐらいの。

桜庭　……カミソリを仕込めばいいじゃん（ボソッと）。

中村　は、はあ（戸惑いながら）。

——どんなアドバイスですか（笑）。

中村　あと、できれば試合順は桜庭さんより前がいいですね。

桜庭　ん？　どうして？

中村　やっぱり桜庭さんの入場や試合は、もう観客の沸き方がホント凄いじゃないですか。あのあとの試合だと、ちょっとやりづらいかなあと。いままでの経験上、第1試合目が一番やりやすいですけどね。

桜庭　1試合目は出番の時間が完全に決まっているから。あと休憩明けの試合もやりやすい。3、4、5試合目ぐらいだというウォーミングアップすればいいのか判断が難しいし。でも、中村君がシウバとやることになれば必然的にうしろになるでしょ。

中村　あ～、そうですよね。シウバはチャンピオンだし。

——先ほど桜庭さんの入場話が出ましたけど、中村さんも入場にいろいろ趣向は凝らしたいタイプなんですか？

中村　ああ、なんかやりたいなあとはいつも思ってるんですよ。

桜庭　いや、いまのままでいいと思うよ。

中村　そうですか？

桜庭　いまので凄く似合ってるし、何か変わったことをやってしまったらマネだと思われることもあるから。

中村　でも、一度何かやってみたいですけどねえ。桜庭さんがランドセルまで背負ってくると、逆にやりづらいですけど（笑）。

SAKU×KAZU

恍惚と笑顔、この二人にあり!!

○桜庭和志［1R0分38秒／KO］ユン・ドンシク×

打撃から組み合おうとしたユンを軽くいなした桜庭が、ユンが再び打撃を狙ってきたところに鋭い左右のフック！　倒れ込んだユンを“ヒョードル永田状態”でパンチを振り下ろしたサクが秒殺勝利！　戦前、饒舌だったユンは試合後のコメントで「すこし恥ずかしいです」とポツリ。ユン、あんた面白いよ！

○中村和裕［3R判定3-0］ケビン・ランデルマン×

ランデルマンが得意のテイクダンを何度か成功させるが、そこから決め手に欠けた。一方、中村はニー・オン・ザ・ベリーからの顔面パンチ、腕十字、アームロックであと一歩のところまで追いつめる。結局、勝負は判定にもつれ込んだが、ランデルマンを封じ込めたカズの実力はもっと評価されてもいいはずだ

――中村さんがランドセルを背負ってきたらそれは驚きですけどね（笑）。

中村　意味がわかんない（笑）。でもボクは入場で道衣を着ているから格好を変えるのは難しいんですよね。

桜庭　（道衣を）脱げばいいじゃない。

中村　いや、自分、柔道家なんで……。スポンサーさんもついてくれてますし。

桜庭　じゃあ、スポンサーの名前を書いた紙と道衣を持って入場すれば？

中村　いや、そういう問題でもないような……（笑）。

――ダハハハ。桜庭さんは〝新入生〟ネタ以外に何か入場のアイデアはあったんですか？

桜庭　ん～、もうひとつ考えていたんですよ。機会があればやろうとは思ってますけど。次のお楽しみで。

――で、ヴァンダレイ以外にも強豪ガイジンは多いんですけど、他に気になる選手は誰かいますか？　たとえばショーグンの評価はウナギのぼりになっていますよね。

中村　う～ん。とくに気にはならないですよね。というか、何も考えてないです。闘うことが決まったら、もっと真剣に考えるんでしょうけど。

桜庭　実際にやることにならない限りは気にはならないもんですよ。やっぱり、やる側と見る側の意識は違ってくるから。たしかにショーグンは勢いがあって凄いと思うんですけど、見る側はその凄い部分だけを膨らませがちだと思いますね。

――膨らませるのが見る側の楽しみだったりしますからね。

桜庭　やる側は闘うことを考えるから、自然と穴が見えてくるんですよ。たしかにショーグンはランペイジには勝ったけど、ランペイジはオールマイティな選手じゃない。

桜庭さんがホモだと騙されていたんですよ!!

ボクを避ける中村君の姿がまた面白いんです（ニコニコ）

SAKU×KAZU

恍惚と笑顔、この二人にあり!!

いまだに寝技はまったくできないし。ランペイジに通用した戦法が他の選手に有効だとは限らないです。

中村　結局、誰が対戦相手でも一緒ですよね。自分も昔、ランデルマンを生で初めて見たときは「うわ～!!　バケモノだ！」って驚きましたけど、実際闘うとなったら、もう普通の選手と闘う感覚になりましたから。あと試合前に髙田道場で桜庭さんと練習したときにも、ランデルマンの話をいろいろ聞けましたし。

――お二人はよく一緒に練習されるんですか？

桜庭　たまにですけどね。

中村　ボクが髙田道場に行くんですよ。以前は高橋君に前もって電話して、桜庭さんが来る日を確認して。いまは直電できるようになりましたけど（嬉しそうに）。

――桜庭さんとスパー目当ての出稽古ですか？

中村　桜庭さんとスパーするとホント面白いですからね。ホント強いし。

――桜庭さんとスパーした人は誰もが口を揃えてそう言いますよね。

中村　意外なところから極めてきたり。あとは……意地悪なんで（笑）。

――ああ、それもよく聞きます（笑）。桜庭さんは中村さんとスパーされた印象は何かありますか？

桜庭　ボクも中村君とスパーすると面白いですよ。いろんな人とスパーリングするんですけど、一番怖さを感じるのは中村君。

中村　いやいや（照れ笑い）。

桜庭　いや、ホントに怖い。ちょっと気を抜いたら極められる怖さが中村君にはあるから。中村君には技を抜けられたら「ヤバ

イな」と思わせるものがある。
――ランデルマンをああいうかたちで封じ込める日本人選手もいないわけですからね。
中村 いやいや、桜庭さんには十何本も極められてますから（笑）。あと鼻血も……。
桜庭 鼻血？
中村 オープンフィンガーグローブを付けて"なんでもあり"でやったときに。
桜庭 ああ～、あった、あった（笑）。前に"PRIDEルール"でスパーをやったときだ。
中村 あのときは横井（宏考）君も桜庭さんのパンチで目尻を切ったんですよ。2人で血だらけになって（笑）。
桜庭 ああ、それもあった（笑）。でも、あれは当たりどころやタイミングが悪かった。
――その"PRIDEルール"のスパーはよくやっているんですか？
桜庭 たまにやりますね。打撃は半分ぐらいの力で。どうしても7割ぐらいの力になっちゃいますけどね。
――中村さんは先輩の桜庭さんの顔を殴ることに躊躇はしないんですか？
中村 それはまったくないですね。そこで遠慮していたら強くならないですから。
桜庭 練習にならない。でも、高橋なんかは本気で殴ってくるから！
――ダハハハ！　ちょっとは躊躇してほしい（笑）。
桜庭 「半分の力だ！」って何回も言ってるのに!!　それはやりすぎだろう！　というぐらい（怒）。
――それに桜庭さんもムキになって応えちゃうわけですか？
桜庭 ハラ立ってハラ立って、ムカついてムカついて、自分の顔をグイと高橋に突き出して「ほら、殴ってみろ!!　ほら！（怒）」ってやっちゃいますね。
――凄い練習風景ですね、それは（笑）。
桜庭 でも練習で殴られると、試合で下になっても怖くなくなるから。むかし佐竹（雅昭）さんとスパーやったときなんかも、わざと下になって殴られたんですけど、そうすると試合で下になっても平気になる。毎日そんなスパーをやっていたら頭おかしくなりますけど。
――"バーリトゥード・スパーリング"が日課になってるシュートボクセの場合は、ちょっと異常なのかもしれないですね（笑）。
中村さんはまたブラジル修行に行かれるんですよね？
中村 はい。いまって総合（格闘技）のおおよその技術は出尽くしていると思うんですけど、1人での海外修行は技術というより精神的に強くなるので。吉田さんや桜庭さんクラスになると、長期間海外に行くことは難しくなってくるんで、若いいまのうちにいろいろやりたいですね。
――中村さんはいま26歳ですけど、桜庭さんが26歳の頃と比べて"格闘環境"は急激に変化してますよね。
桜庭 ああ、それはありますね。昔の小学生がインベーダーゲームに熱中していたのが、いまはPSPとかやってるみたいなもんですよ。
中村 ボクが大学生の頃には、もう『PRIDE』で桜庭さんがグレイシー倒してましたからね。
――若いうちから総合格闘技というものに入りやすくなってますよね。
中村 でも、周りをみれば、ショーグンやハリトーノフとか同世代はたくさんいますから。若い選手が出てくるのは当たり前の時代でもあると思いますよ。
――一方では、柔道やレスリングやアスリート系の選手たちもどんどん『PRIDE』に出てきそうですよね。
桜庭 そうなれば、『PRIDE』はもっと面白くなると思いますよ。みんな身体能力は高いし。「総合格闘技も同じもんだ！」ってナメて出てくる人は通用しないと思いますけど。
中村 同じもんじゃないですからね。柔道なら柔道、レスリングならレスリングの技術をうまく総合格闘に持ち込めれば面白いですけど、そこは身体能力より精神的なものが重要になってきますよね。
――それは中村さんも体感したところではあるんですか？
中村 ボクはそればっかりですよ。しかも自分の場合はデビュー戦が『PRIDE』でしたから。
――では、一戦ごとに総合格闘技の何たるかを叩き込まれている感じになるんですね。そういう意味では、桜庭さんも中村さんも『PRIDE』で"叩き上げ"られたファイターではありますよね。
中村 やっぱり『PRIDE』は好きですね。他のイベントも見ることは見ますけど、あんまり興味が沸かないですから。ボクは柔道家として『PRIDE』のトップに立ちます！
桜庭 ボクは次も勝ってたくさんお酒を飲みます（ニコニコ）。
――了解しました（笑）。では、日本代表のお二人がグランプリの決勝戦で闘うことを期待しています！
桜庭 ……いや、そうなってもボクは闘わないですよ。絶対に辞退します。やっぱり普段会って話したり練習したりする人とは闘えないです。
――でもそうすると決勝戦がなくなってお客は拍子抜けしちゃいますよ。
桜庭 リザーブマッチの勝者が出ればいいじゃないですか。ボクは中村君のセコンドに付きます！
中村 よ、よろしくお願いします……ってそんなバカな（笑）。
【05年5月2日／高田道場にて収録】

さくらば・かずし■1969年7月14日、秋田県生まれ。180 cm、89.2 kg。御存知『PRIDE』を代表するIQレスラー。『PRIDE・GP』試合後、友人のサクマシンが高田総統と出資したジンギスカン屋『モンゴリアンチョップ』で泥酔。翌日もウワバミのように飲み続け、次戦への英気を養う。新必殺技『ムギュッ』『手羽先ロック』は見られるか？

なかむら・かずひろ■1979年2月21日、広島県福山市生まれ。178cm、93kg。国際武道大学出身。柔道では、ベルギー国際100kg級2位、02年全日本実業団個人優勝、03年ドイツ国際100kg級優勝など輝かしい実績を残す。その後、吉田道場に入門。現在は横浜にある吉田道場・青葉台柔道クラブで師範をつとめる。

小見川道大

死ぬ覚悟でやる。一番上、天下統一しか考えてない

5・22
『PRIDE武士道』
出場決定!!

ない"強豪柔道家が
本気の殴り込み！

聞き手&文／橋本宗洋
構成／堀江ガンツ、松下ミワ
撮影／丸山剛史
designed by hisa（Two Three）

またしても、柔道界から大物選手がプロ転向を果たすことになった。それも、二人同時である。まさに〝堰を切ったような〟という表現がふさわしい状況だ。

5・22『武士道』に出場が決定した小見川道大は60キロ級、66キロ級で活躍。アテネ五輪でも最後の最後まで代表争いを演じたことは記憶に新しい。結局、五輪出場は果たせなかったものの、逆に言えば足りないのはそれだけ。柔道界では紛れもないビッグネームである。

一方、7月開催『武士道』に出場予定の村田龍一が残してきた実績も凄い。78キロ級、81キロ級を舞台に講道館杯優勝をはじめグルジア国際、ハンガリー国際などでも優勝を果たしている。柔道時代のライバルは瀧本誠（日大の先輩でもある）や秋山成勲、中村兼三。いずれも世界屈指の実力を持つ強豪の中でしのぎを削ってきたわけだ。

小見川、村田ともに元強化A指定選手。日本柔道でトップを張ってきた二人だが、最近は吉田秀彦の苦闘、瀧本の「総合をナメてました」発言、ユン・ドンシクの惨敗などで〝柔道バブル〟が弾けた印象がある。トップ柔道家ならば即、総合でも通用する。

村田龍一

格闘技はケンカという意識。勝ちまくればベルトはついてくる

7月開催
『PRIDE武士道』
出場予定

“総合をナメていない
『PRIDE』に本気

そんな幻想はいまや完全に打ち砕かれたといっていい。そんな中、小見川と村田は何を求め、何を賭けて『ＰＲＩＤＥ』という過酷な戦場に向かうのか――。

――お二人とも、プロ転向後の取材は初めてですか？

小見川　初めてです。

村田　ボクも一本目ですね。

――最初の取材がいきなりプロレスと名のつく雑誌になってしまったと（笑）。小見川選手は土浦日大高で桜井〝マッハ〟速人選手と同級生だったんですよね。

小見川　はい。あと『ＨＥＲＯ'Ｓ』に出た宮田和幸とも同学年ですね。

――これまでの経歴はホントに蒼々たるものなんですが、3月の東京都大会（全日本選手権予選）にも出場されてますよね。

小見川　高校生の時以来なんですよ、無差別級に出るの。プロ転向する前に、一回出とこうかなって。

――最後の記念に（笑）。プロ入りはいつ頃から考えてたんですか？

小見川　去年はアテネオリンピックめざして練習してたんですけど、選考の時点で取

りこぼしちゃって。で、世界選手権の選考試合の講道館杯って大会が11月にあったんですけど、それが終わって年末の『男祭り』とか、後輩の中村和裕の試合を観てるうちに「ここは俺の場所だろう!」って。

――『PRIDE』が「俺の場所」! それはどの辺で感じたんですか?

小見川 『PRIDE』って、わりと白黒はっきりしてると思うんですよ。完全に勝ちと負けがある感じで。

――ボッコボコにされるし、失神もあるし。

小見川 どうせやられるんだったらここまでやられたいなと。逆に、やるんだったらここまでやりたいし。そういう部分で、コレ俺に合ってるなって。柔道って勝ったときはいいけど、負けたときに全然すっきりしないんですよね。

――「どこも痛くないのに」という。

小見川 そう。気持ちだけガクーンってなっちゃう。

――じゃあ殴り合うのも全然OKですか?

小見川 怖くはないですね。

――ほお〜。村田選手は総合への転向はいつ頃から?

村田 シドニーオリンピックが終わったあたりからですね、意識しはじめたのは。その後もどうしてもオリンピックに出たくてアテネめざしてたんですけど。もう今はそっち(プロ)に行く時期かなって。総合の方が自分は好きだったんですよね、昔から。柔道って殴れないじゃないですか。

――シドニーって2000年ですから、かなり前ですよね。吉田秀彦選手もまだ参戦してないし。

村田 そうそう。だから、総合の基礎知識みたいなものも結構ありますよ。研究材料として見てた部分もありますし。

――『PRIDE』の試合を、俺だったら勝てるんじゃないかっていう感覚で観てたりしたんですか?

村田 どの試合もそんな感じで観てましたよ。自分とやったときにどうなるのかなって、結構夢中になってましたね。

――柔道の選手でも総合格闘技に注目してた人は結構多いんですか?

村田 確かに多いんですけど、殴られちゃうから総合には行きたくないって人も多いみたいですね。

――村田さんはどうだったんですか?

村田 殴り合いは好きですよ。

――ダハハハ! そう言い切れるってことは、かなりの経験者だと。

村田 その辺はあんまり詳しく言えないですけどね(笑)。

――小見川選手は、弟さんもアマチュア修斗に出場されたりしてますよね? 兄弟して総合に興味があったと。

小見川 そうですね。ボクの場合はマッハにしても弟にしても、周りに総合をしている人間が多かったんで。ボクが柔道で応援してもらって、逆にボクも後楽園に応援しに行ったりして。

小見川道大

これまで『PRIDE』の日本人を見ていて歯がゆかった。お前ら何やってんだって

――他に格闘家で知り合いというと……。

小見川 あとはごっちゃん(後藤龍治)とか、シュートボクシングのシーザージムの選手とか。なんか、遊んでたりしてたら知り合いになっちゃって。

――六本木つながりとか(笑)?

小見川 あ、そんな感じですね(笑)。それでシーザージムにはプロ入り前から行かせてもらってましたね。参考までに遊びにいく感じですけど。あとマッハのジムにも行ってましたし。

――マッハ選手といえば、修斗のミドル級王者だったわけですけど、柔道では小見川選手の方が上だったんですよね?

小見川 はい。

――やっぱり「俺の方が上だ!」という思いがあったんですか?

小見川 いえ。当時は柔道一筋でしたね。マッハは総合、宮田はレスリングって感じ。

――それぞれの道でトップめざそうと。

小見川 でも結局、みんな同じ道になっちゃいましたけど。

――不思議な縁ですよねぇ。本格的な総合の練習はいつ頃から始めたんですか?

小見川 3月の無差別級が終わってからですね。髙阪さんのところとか、あとはシーザージムでやってます。

――総合系の練習で、新たな驚きとか不安な点とかはありますか?

小見川 それはやっぱり不安ですよね。道衣を着ない場合もあるわけだし。

村田 裸だと滑るしね。でも、それくらいじゃないですか? 想定の範囲内という感じですね。殴られて痛いのも普通だし。

――そりゃ痛いですよ(笑)。

小見川 柔道出身の選手は、結構パンチでやられてるんですよ。だけど練習すればいいって話ですからね。

村田 ちょっとナメてますよね、パンチのこと。すぐカメになっちゃったりして。

――体が打撃に慣れてないと、ビックリしてダウンすることがあるみたいですね。

[小見川道大・主な戦績]

年月	大会	階級	成績
97年12月	講道館杯日本柔道体重別選手権	66kg級	5位
98年 2月	ハンガリー国際	66kg級	優勝
98年10月	全日本学生柔道体重別選手権大会	66kg級	優勝
99年 3月	チェコ国際	66kg級	準優勝
99年 7月	ユニバーシアード大会	66kg級	優勝
00年 1月	ロシア国際	66kg級	準優勝
00年 4月	全日本選抜柔道体重別選手権	66kg級	3位
01年 2月	ドイツ国際	66kg級	準優勝
01年12月	講道館杯日本柔道体重別選手権	66kg級	準優勝
02年 1月	日本国際	66kg級	優勝
02年 4月	全日本選抜体重別選手権	66kg級	準優勝
02年10月	釜山アジア大会	66kg級	3位
03年 7月	トレトリ国際	66kg級	優勝
04年 8月	全日本実業柔道個人選手権	73kg級	準々決勝敗退
05年 3月	東京都選手権	無差別級	1回戦敗退

小見川道大 村田龍一

小見川　いや、それは練習してないからじゃないですか？

──またハッキリ言いますね（笑）。では、お二人はかなり打撃の練習もしていると。

小見川　そうですね。でも、さすがに意識が飛んだことはないっすけど。

村田　それは試合だけで充分だから（笑）。

──柔道から総合に転向した先輩でもある瀧本誠選手は、デビュー戦で「総合をナメてました」って涙を流してたじゃないですか。あれを見て何か感じましたか？

村田　いや、ナメてたんだなって。

──じゃあ自分はナメないでいけばいいんだなと（笑）。

村田　そうですね（笑）。

──村田選手は、柔道時代に秋山成勲選手とも同じ階級だったんですよね。秋山選手のプロの試合はいかがですか？

村田　柔道のときより弱いですよね。

──柔道より弱いですか！（笑）。

小見川　体格差があったんじゃないの？

村田　でもリングに上がる以上、体格差は気にしたらダメじゃないですか。気にするんだったらやらなきゃいいし。

──そういうところも、村田選手はきっちりナメないでやると。お二人はプロ転向を一緒に決めた感じだったんですか？

村田　いや、決意したのは別々でしたね。

小見川　学校とか所属が違いましたからね。でも全日本の合宿とか遠征では顔を合わせて、結構二人で悪いことしたりして。

村田　柔道界のワル二人で（笑）。

──柔道家の間でも、例えば日曜日に『PRIDE』があったりすると、月曜日にはその話で盛り上がったりするんですか？

小見川　そうですね。

──『PRIDE』を見てる中で、特にこの人は強いなって思うのは誰ですか？

村田　ヒョードル。あとハリトーノフですね。あの二人はどんな場面でも全然動じないですよね。それに打撃にしても、かなりピンポイントで相手が死ぬところを突いてくるじゃないですか。

──死ぬところ（笑）。

村田　確実に致命傷を負わせますからね。危ないなーって思いますよ。

──それにしても、柔道家の総合転向は増えてますよね。柔道界全体を見渡して、プロに行く抵抗感は薄れてるんですか？

小見川　前は柔道やってたら指導者とか学校の先生、サラリーマンが多かったですね。自分も指導者になろうか迷って、結局プロに転向した部類ですけど。最近は、全体的に見て自分の人生だからやりたいことやっちゃおうって感じですかね。周りからもいろいろ言われなくなってきてるし。

──選択肢の一つとして〝プロ〟という道がどんどん太くなってる感じですか。

小見川　それはありますね。

相手が誰であろうと関係ない。闘犬が相手の犬のこと考えないでしょ？

──お二人が闘うことになる中・軽量級で、意識する選手はいますか？

小見川　あんまし分かんないですね。

──気にしてないんですね（笑）。逆に俺の方がいけるんじゃないかと？

小見川　それもあるし。何せボクは歯がゆかったんで。他の人が出て騒がれるのが。

──柔道って、一般的にはオリンピックに出ないと話にならないって感じですもんね。でも『PRIDE』はバンバン地上波に出られるし。

小見川　それって、モチベーションが全然違うと思うんですよ。そのくせ日本人はなかなか勝てないじゃないですか。〝これだけ注目されてるのに、お前ら何やってんだ！〟って感じですよ。

──『武士道』は世界に挑む日本人って構図になってますけど、柔道は日本人が世界から挑まれる競技じゃないですか。その差もジレンマに感じるんですかね。

小見川　柔道って日本からはじまった競技ですよね。だからボク自身、日本人としてのプライドみたいなものがあるんですよ。今度の試合も『武士道』っていうくらいですからね。負けることも殴られることも怖くはないです。もともと死ぬ覚悟で出てるんだから。それが日本人の昔からの心意気なんじゃないかと思うんですよね。

──村田選手はいかがですか？

村田　格闘技についてはケンカという意識ですからね。自分が勝ちまくって一番になるだけですね。ただ、背負ってるって大袈裟なものはないですけど、自分も日本人ですから。負けたらバカにされるのはやっぱり日本になるわけですよ。

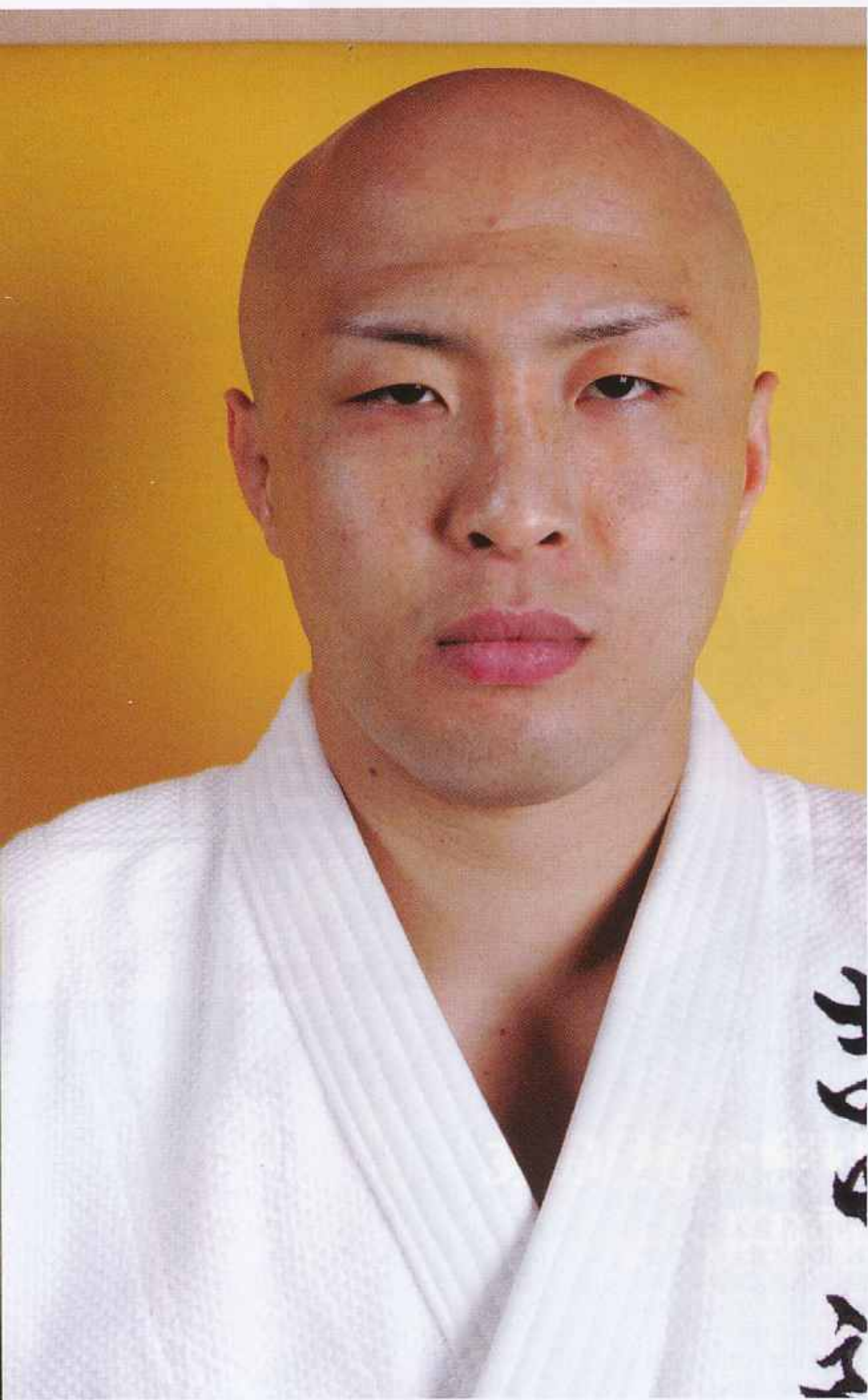
小見川　柔術もサンボも、もとは日本発信ですからね。

──日本人としてっていう部分と、あとは柔道家としてっていう面はどうですか？何か背負っていこうという意識は。

小見川　ボクはありますね。

村田　自分の気持ちの中に柔道家っていうのはありますけど、でも総合はなんでも有りなんで。格闘家として試合しますよ。

──裸で闘う可能性もありますか。

村田　検討中です。

[村田龍一・主な戦績]

95年11年	全日本ジュニア柔道体重別選手権	78kg級	3位
96年11年	全日本ジュニア柔道体重別選手権	78kg級	3位
98年 4月	全日本選抜柔道体重別選手権	81kg級	3位
99年 8月	全日本実業柔道個人選手権	81kg級	優勝
99年11月	講道館杯日本体重別選手権	81kg級	優勝
00年 2月	フランス国際	81kg級	優勝
00年 4月	全日本選抜柔道体重別選手権	81kg級	準優勝
01年 3月	ハンガリー国際	81kg級	優勝
01年 3月	チェコ国際	81kg級	優勝
02年 8月	全日本実業柔道個人選手権	81kg級	優勝
02年11月	講道館杯日本体重別選手権	81kg級	4位
03年 1月	ロシア国際	81kg級	準優勝
03年 2月	グルジア国際	81kg級	優勝
03年 5月	東アジア競技大会	81kg級	3位
04年 2月	全日本選抜体重別選手権	81kg級	3位

――小見川選手の方は？
小見川　それは見てからのお楽しみ。
――裸で上がって、リング上で道衣を着たりとか（笑）。
小見川　もしくは剣道着かも（笑）。
――試合までもう間もなくですけど、相手は決まったんですか？
小見川　聞いてないですね。誰とやるのか……本当に試合やるのかどうかも分からないです。
――いや、それはやるでしょう（笑）。逆にどんな相手がいいですか？
小見川　べつに。この際もう誰でも。結局、観てるだけじゃ分からないですからね。だから自分でやってみるんで。
――村田選手はどうですか？
村田　特にないっすね。あえて言うなら、強いヤツがいいです。
――今日、お話しして思ったのは、柔道出身の総合転向選手としては新しい世代なんじゃないかと。柔道を背負う意識はありつつも〝柔道で勝つ！〟というんじゃなくて打撃の重要性とか、柔道と総合の違いもしっかり認識しているという。
小見川　ボクの場合、柔道を背負うっていうのは柔道家としての自分を支えてくれた人たちに恥じないようにしたいっていう意識ですね。だから、べつに柔道の技で勝たなきゃいけないなんて感覚はないんで。
――ただ小見川選手は、柔道時代からかなり寝技が得意だったわけですよね。
小見川　イヤイヤ練習してたんですけどね。
――得意だけども好きじゃないと（笑）。
小見川　中学、高校と寝技ばっかり練習させられてたんで。好きじゃないんですけど、試合になるとつい出ちゃうんですよね。
――相手がカメになったときに、普通はバックから攻めるんですけど、小見川選手はわざと下になって帯取り返しを仕掛けたりしてたんですよね。それって柔術とか総合でいうスイープじゃないですか。
小見川　いや、自分それしかできないんで（笑）。
――村田選手の方は、基本的に立ち技タイプなんですよね。
村田　そうですね。でも寝技も苦手なわけじゃないし。投げて勝ってるだけで。

小見川道大

『PRIDE』に上がるのが目標じゃない。上がって満足するような奴じゃ勝てない

村田龍

昔から柔道より総合のほうが好きだったんですよ。だって柔道は殴れないでしょ

――寝技までいかなかっただけだと（笑）。
小見川　本当は寝技やりたいんだよね？
村田　やりたくはない。疲れるから（笑）。
――村田選手は『PRIDE』でも瀧本選手と同じ階級になりますよね。
村田　意識はしてないですね。だって、闘犬とかもそうじゃないですか。犬って相手の犬がどこの誰だとか考えないでしょ。それと一緒です。

むらた・りゅういち■1976年8月27日、千葉県出身。八千代松蔭高から日大へと進学。日大では瀧本誠の2年後輩。中村兼三、瀧本誠、塘内将彦と同時代、同じ81kg階級で凌ぎを削り、得意の大外刈り、内股で常にトップクラスの実績を挙げている。小見川と同じく柔道強化指定A選手。吉田道場所属。173cm、83kg。

おみがわ・みちひろ■1975年12月19日、茨城県出身。小学生1年から柔道をはじめ、土浦日大高では桜井"マッハ"速人と同じ柔道部に所属。その後、国際武道大、綜合警備保障へと進み、柔道強化指定A選手の指定を受ける。学生時代には、オリンピック3連覇を成し遂げた野村忠宏に勝利するなど国際大会でも数々の戦績を挙げている。現在は吉田道場に所属。168cm、66kg。

――闘犬と一緒ですか（笑）。とはいえ柔道をするときと殴りもある総合をするときでは気持ちの面で違いますよね。
村田　やっぱり、総合って命がけじゃないですか。死んじゃいますもんね、油断すると。柔道は死なないですから。
――そういう覚悟はもちろんですけど、同時にリングに上がってスポットライトを浴びたいという欲求もありますか？　あの会場で、あの雰囲気でやりたいというのは？
小見川　うーん、リングに上がるのはべつにゴールなわけじゃないですからね。
――そこで何をするかだと。
小見川　そこで満足してるようなヤツじゃ勝てないでしょ。
――では、プロでの目標というと何になりますか？
小見川　やっぱり一番上。天下統一。
――村田選手は？
村田　勝つだけですね。勝ちまくったらベルトはついてくると思うんで。
――あと一つお聞きしたいのが、小見川選手には女性ファンも多いみたいですね。
小見川　どうなんですかね。
村田　本人もかなり好きですから（笑）。
小見川　ボク自身が〝女性ファン〟。
――ああ、逆の意味で（笑）。では『武士道』の女性ファン獲得も含めて、期待しております！

その言葉から分かる通り、小見川も村田も〝柔道幻想〟にまったく頼ろうとしていない。ナメていたら結果は出ない。ならナメなきゃいい――。残酷なまでのリアリズムが支配する『PRIDE』に、あくまでリアルに向き合うこの2人は、これまでの柔道出身ファイターとは一味もふた味も違う闘いを見せてくれるのではないか。

大仁田厚、4.23『PRIDE・GP』
大阪ドーム来場を受けて
今度は笹原GMが
参議院議員宿舎をまたいだ!!

邪道 プロレス・格闘技評論家

大仁田 厚×笹原GM

アイ・アム・GM!!

あの『猪木祭り』での押し問答から4年……
因縁の2人が遂に再会!!

プロレスを卒業し、プロレス&格闘技評論家に転向して4・23『PRIDE・GP』大阪ドームに来場した大仁田厚。それを受けて、今後は逆にハッスルの笹原GMがキンキラジャケットで参議院議員宿舎に殴り込み！ 実はかつて『猪木祭り』で因縁のある2人が、プロレス&格闘技の未来を語る。邪道とハッスルの初融合対談！

聞き手／堀江ガンツ 本文構成／坂井ノブ 撮影／平工幸雄
designed by matsu (TwoThree)

「自称・評論家」としての最初の仕事が『PRIDE』で良かったよ（大仁田）

——さっそくですが、大仁田さん。この方を覚えてらっしゃいますか？

大仁田　このないだ『PRIDE』の大阪ドーム大会でお会いしましたよ。

笹原　じつは、それ以前にも一度お会いしてるんです。

——覚えていらっしゃらないですか？（笑）。

笹原　（おもむろに大仁田がアントニオ猪木との対戦を迫った際の嘆願書を取り出す）このときです。

大仁田　ああっ！

笹原　一番最初の「INOKI BOM-BA-YE」（大阪ドーム）で、大仁田さんがいらっしゃったときに、私が対応をさせて頂いたんです。

大仁田　あのときは大変だったなぁ〜。あのイベントは「INOKI BOM-BA-YE」ってタイトルでしたけど、DSEさんは関わっていたんですか？

笹原　イベントの運営・制作を我々がやってました。

——あのときに大阪ドームの関係者入口で押し問答をしていた両者が、かたや国会議員、かたやハッスルGMになり、この議員宿舎の中で革ジャンとラメのジャケットで両者が向かい合って対談するとは思いませんでした（笑）。大仁田さん、今回の大阪ドームはすんなり会場入りできましたか？

大仁田　今回はあくまでプロレス・格闘技評論家として会場に行ったんで止められることもなかったし。DSEさんに迷惑をかけるつもりもなかったから、ニュートラルな状態でしたよ。普通にプレスの部屋に入っていったら、他のマスコミがビックリしてたけどね（笑）。

笹原　それは驚きますね（笑）。

大仁田　いまさら『PRIDE』に乗り込んで、どうこうしようとは思ってないから。俺はプロレスラー的な生き方をしようと思ってるだけ。俺は別にDSEのスタッフの人がプロレスを嫌ってるとは思わない。基礎基本の部分にはプロレスやエンターテインメントという部分があるなぁと思いますよ。

2000年大晦日の第1回『猪木祭り』に大仁田が来場した際、猪木に宛てた書簡を逆に議員宿舎に持参した笹原GM。これによって、大仁田の手紙は猪木には渡っていないことが判明した。

笹原　おっしゃるとおりです。私もそうなんですけど、もともと『PRIDE』を立ち上げたスタッフは、昔からプロレスにかかわっていたり、プロレスが好きだったスタッフが集まって始めたんですから。根底には間違いなくプロレスがありますね。

大仁田　やっぱりね。大阪ドームでパンフレットを読みながら、「この人たちもプロレスで育ったんだな」って思ったよ。

——もともと『PRIDE』は髙田（延彦）vsヒクソンから始まってますからね。

大仁田　『PRIDE』の試合を見ていて、俺たちが昔、道場でセメントの練習をしてた頃を思い出したんだよ。「お前ら、プロレスラーは素人に負けちゃいけないんだ。そのためにはコレ（シュートサインを指でつくる）が必要なんだ」って先輩に言われながら、俺は「こんな地味で暗いことをなんでやんなきゃいけないんだよ」って思ってたんだけど（笑）。『PRIDE』さんはそれを掘り起こして、あれだけの人に支持されるものにしたんだから凄いと思うよ。

——『PRIDE』の根本はそうですよね。

笹原　髙田さんをはじめプロレスラーの方も大勢試合をしましたし。

大仁田　桜庭（和志）選手はうまいこと展開して『PRIDE』に出続けてよかったよね。普通にプロレスの試合をやってたら、はたしてあそこまでの脚光を浴びたかな？って考えると疑問だから。

笹原　そうですね。

大仁田　それでいて、桜庭選手っていうのはプロレスをまったく否定してないんだよね。ああいうところが素晴らしい。どうしてもプロレスラーは格闘技を目の敵にしながら上がっていったところはあるんだけど、ある時期からそれが逆転しちゃったのかな。逆に、まだプロレスはそういう部分が遅れてるよ。

——いまや大会の規模は格闘技の方が大きくなっちゃいましたからね。

大仁田　俺は各国でいろいろ見てきたけど、ああいう格闘技を地上波のゴールデンタイムで放送してるのは日本だけなんだよ。韓国では衛星放送のスポーツチャンネルでマニアが見る世界だから。ゴールデンタイムに地上波で放送されるというビッグチャンスを掴んだ部分で『PRIDE』やK-1は伸びたんじゃないかな。

笹原　その通りです。『PRIDE』を最初に立ち上げたときには「地上波で放送してほしい」という話をTV局に持って行ったんですが、「バイオレンス」「危険すぎる」という理由でまったく相手にされなかったんです。ただ、時間が経つにつれて、スポーツとして理解されるようになってから地上波でも放送されるようになったんです。

大仁田　プロレスは常に「八百長だ」という声が常につきまとっていたんですよ。たぶんGMも若い頃は「ふざけんな！」「プロレスは最強なんだ」って言ってたと思うんだけどね（笑）。

笹原　もちろんです（キッパリ）。

大仁田　深く言えば『PRIDE』は、そ

プロレス・格闘技評論家転向を表明した大仁田は、“週刊ゴング記者”として4・23『PRIDE・GP』大阪ドームに来場。ターザンとリポート対決を行った。

ONITA meets GM

の延長線上にあると思うんだ。そのへんのオヤジが「プロレスなんか八百長だろ」って言ってるのに対して、必死になって「ふざけんな！」と俺も言ってた。大多数のプロレスファンはどこかで自分たちが胸を張って堂々と言えるスポーツはないかと模索してたと思うんだよ。そのコンプレックスがK-1を生み、『PRIDE』を生んだのかなって。

――少なからずそういう部分はありますよね。

大仁田　まあ、石井（和義・元）館長の場合はちょっと違うのかもしれないけど。だから、俺は先に『PRIDE』を会場で見て良かったなと思ってるんだよ。『PRIDE』はプロレスの一番近くにあるものだから。K-1は石井さんという空手家が作り上げたものだから、ちょっと離れたところにあるんだよな。

――だからこそプロレスと『PRIDE』の間には近親憎悪のような感情が渦巻いていたんでしょうけどね。

大仁田　でも、正直に言うと一時期の『PRIDE』はつまらなかったから（笑）。

笹原　（苦笑）。

大仁田　それをあそこまで熱狂的なものに作り上げたのは凄いと思う。ひとつ笹原さんに聞きたいんですけど、大阪ドームで桜庭選手が韓国の選手（ユン・ドンシク）に殴り勝ちましたよね？　戦意喪失ということでレフェリーが試合をストップしましたけど、そのへんの明確さは今後どうするんですか？

笹原　誤解を恐れずに言ってしまうと明確な基準というものは存在しないんです。一番近くにいるレフェリーが判断するしかないですから。桜庭選手の試合には「あれは早すぎた」という意見もあれば、「的確なレフェリングだった」という意見もありました。ただ、レフェリー陣と話をすると「選手の安全を第一に考えれば、判断が遅くなって何か事故を引き起こすことになるなら、止めるのが早過ぎるということは絶対にない」という言葉が出てくるんです。「ストップが早過ぎて批判が出てくるなら甘んじて批判を受けよう」というのが彼らの姿勢ですね。私は間近で見ていましたけど、あれは止められても仕方がないと思いました。

大仁田　なるほどね。俺はプレスルームのモニターで見ていたから臨場感が伝わらない部分もあったんです。ただ、電波に乗せるということは、会場に来ているファンの何倍も多くの人が見るわけですよね？　ボクシングだったら1Rに3回ダウンしたら試合終了という分かりやすさがあるけど、そういう部分でルールの分かりやすさがあると、もっと広まるはずですよ。

笹原　そうですね。

大仁田　「自称・評論家」として最初の仕事が『PRIDE』で良かった。いままでは自分のエンターテインメントを確立することだけを考えてたんだけど、他人の大会をみていろんなことを書くのは面白いね。

笹原　最初に『PRIDE』を選んで頂いた理由というのは、何だったんですか？

大仁田　俺は別に誰が嫌いとか、そういうのはないからね。（アントニオ）猪木さんが「あいつだけには触るな」って俺のことを嫌ってるけどさ（笑）。俺は『PRIDE』を見たとき、「やり方によってはもっと伸びるなぁ」と思ったんだよ。日本人のスターが作りやすいでしょう。

――そうですか？

大仁田　どうしても『PRIDE』は後発だからK-1と比べられがちだけど、なぜ『PRIDE』が上がってきたかというと日本人のスターを育てられる土壌があるから。自国の選手がいないとなかなか盛り上がらないよ。今後の課題は桜庭選手、吉田（秀彦）選手の後が続くかどうかっていう問題だと思うんですよ。

笹原　そうですね。そこが大きな課題です。ただ、桜庭選手と吉田選手という2人のエースが成功する姿を周囲の若い選手が見てるんで、たぶん後に続く選手が大勢出てくると思うんです。特に吉田選手はアマチュアで金メダルを取って、プロのリングでも成功を収めてるわけです。五輪レベルの若い日本人アマチュア選手がこの先、プロのリングを目指してくることはもっと増えると思います。

大仁田　そういう意味では立ち技系よりも、総合格闘技の方が若い選手が育ってくる土壌があるわけですよね。

笹原　柔道、レスリングからプロ転向する選手が、すでに何名かいます。

――となると今後はプロレスにはいい人材がなかなか入らなくなりますね。

大仁田　しょうがねえよ。ただ、ここでプロレス界も「負けちゃいかん」としのぎを削るべきなんだよ。

――新日本プロレスが木村健悟スカウト部長を起用してますけど、あまり効果はないというのが現状です（笑）。馳（浩）さんはアマレスの選手を積極的にスカウトしてますけど。

大仁田　俺はプロレスを愛してるからプロレスにはなくなってほしくないんだよ。プロレスしか知らなかった、という方が正しいかもしれない。俺らの時代には『PRIDE』もK-1もなかったんだから。

2000.12.31
OSAKA

2001.12.31
SAITAMA

大仁田vs笹原GM　因縁の歴史

すでに引退していたアントン総帥との電流爆破マッチ実現のために、『猪木ボンバイエ』に2年連続来場した大仁田。しかし、この"招かざる客"に対して主催者側は毅然たる態度で門前払い。その最前線に立って大仁田に立ちはだかったのがDSE笹原広報。現在のGMだ！

笹原　私の時代もそうでした。

大仁田　ただ、こないだの大阪ドームで感じたのは客層が変わってきたなということなんですよ。以前は『PRIDE』の会場にもプロレスの延長線上にいるファンが多かったと思うんだけど、いまは『PRIDE』がブランド化して「『PRIDE』のお客さん」がついてるもん。

笹原　おっしゃる通りですね。

大仁田　俺が会場にいても分からないお客さんもいたもんな。

——まあ、リングに乱入したりすれば一発で分かるんでしょうけど（笑）。

大仁田　みんな俺が普通に会場にいることを胡散臭く思ってるかもしれないけど、こういうことをやるのは自分で楽しんでるだけだから（キッパリ）。それを真面目な顔して受けてくれるっていうんだから、DSEさんもプロレスが好きなんだよな（笑）。

笹原　ハハハハ。間違いなく根っこは同じだと思います。

——いま、『PRIDE』とK-1が二大メジャーになりつつあって、プロレスがどうしたらいいのか分からない状況に陥ってますけど、どうしたらいいと思いますか？

大仁田　だって、（プロレスは）曖昧だから。「プロレスラーは何なんだ？」っていう定義を誰もが分からなくなっちゃったもんね。『PRIDE』やK-1でプロレスラーがボコボコにされる現実を目の当たりにすると、「最強」という名の定義が崩れてる。だから闘う土壌をまったく別の世界にもっていくしかないんだよ。WWEみたいなエンターテインメント性を追求するとか。

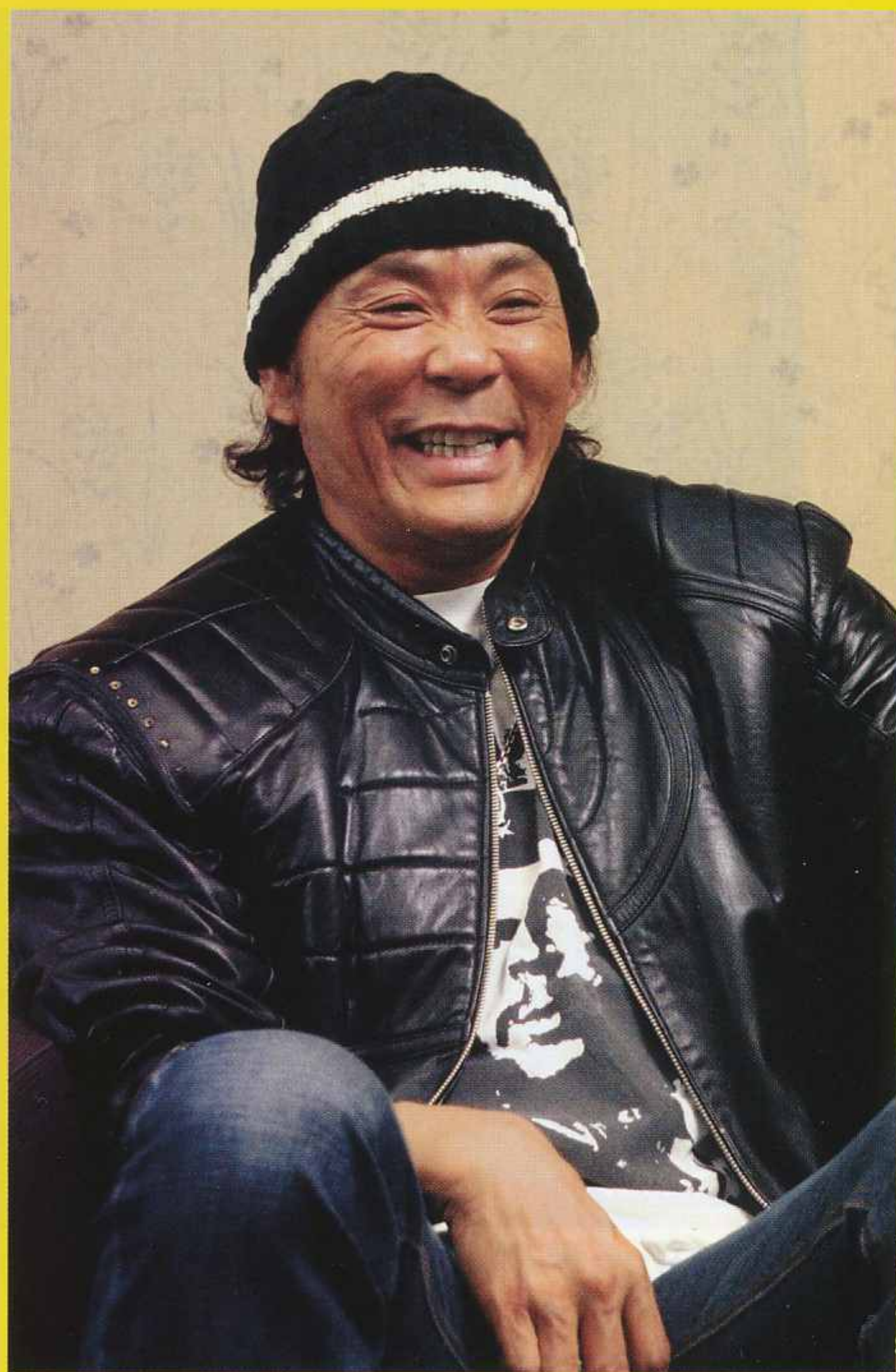
——日本のエンターテインメント・プロレスの源流をたどると大仁田さんに行き着くんですよね。

大仁田　だからさ、俺が新日本の東京ドームに上がったときに教えてやっただろ？　真鍋（由・テレビ朝日アナウンサー）を殴ったり水ぶっかけたりしてさ。あれがジャパニーズ・エンターテインメントだよ！　あの後、誰かが真鍋をイジってたけど、面白くねえじゃん！　俺がイジった方が面白かっただろ？

笹原　ええ（笑）。

大仁田　佐々木健介だって俺と最初に当たったときは固かったんだよなぁ。まあ、俺が火を投げてやったんだけど（笑）。フリーになってやっと分かったじゃん。

——プロレスの何たるかがようやく分かっただろ？と（笑）。

大仁田　そうだよ。武藤（敬司）選手が全日本を背負って、蝶野（正洋）選手が新日本を背負ってたことでガチガチに固まっちゃったら、重圧から解き放たれた佐々木健介がポーンと上がってきた。他と同じことやったってダメなんだって。

俺が真鍋を殴ったりしただろ？　あれがジャパニーズエンターテインメントだよ！

——大仁田さんは一番最初に格闘技とは対極に位置するプロレスをやった人ですもんね。現役時代から「俺は弱い」と言ってたぐらいですから（笑）。

大仁田　強い弱いで測るものじゃないから、プロレスは。『PRIDE』とは真っ向から対比してるんだよ。だから、普通こういう対談は絶対にあり得ないんだよ（笑）。

——ところで大仁田さん、ハッスルってご存じですか？

大仁田　見たことないけど。

——そのハッスルのGMがこちらの笹原さんなんです。

大仁田　ハッスルも、ある種のエンターテインメントの追求なんだよな。これはネタばらしになっちゃうけど、俺はひとつのことを真面目にやってきた。ハッスルはちょっと茶化してる部分があるから、そこはちょっとスタンスが違う。それが受け入れられる時代なのか、時代じゃないのか、それは分からないけど。

笹原　決して茶化しているわけではないんですけどね。

大仁田　ただ、よくあれだけのタレントを揃えたよね。「ハッスル」という流行語も生まれたし。あれは小川選手が生んだんじゃなくて、ハッスルという舞台が生んだものだからね。

笹原　初めてそう言って頂けました（笑）。どうしても、小川さんのポーズが先行してイベント自体がなかなか追いついていかない状況でしたからね。小川さんがあのポーズをやっていることは知ってても、イベント自体は認知度が低いのが現状です。

大仁田　今度は全国ツアーやるんでしょ？

笹原　ええ。ツアーというほど大規模ではないんですけど、地方にもどんどん進出していきます。

大仁田　色っぽい女もいるよね。あの人は何なの？

笹原　インリン様です。ああ見えて試合もするんですよ。

——ハッスルの発想は大仁田さんと同じだと思うんですよ。ハッスルも絶対に『PRIDE』ではできないことをやろうとしているわけですから。おかげでプロレス業界の一部からは批判されてしまうんですけど。

大仁田　プロレス界がなぜそれを拒否するのか分からないよな。プロレスの人たちって、大仁田を拒否するでしょ？

一時期の大仁田さんに比べたらハッスルへの批判は全然足りないと思いますよ（笑）

笹原　一時期の大仁田さんに比べたらハッスルへの批判は全然足りないと思いますけど（笑）。

大仁田　うまく使えばいいのにな。（後期）FMWにしてもそうだよ。俺が株を半分持ってるから強引に上がろうと思えば上がれたんだよ。でも、そうしなかった。俺が光ったら、もうそれ以外は間違いなく沈んじゃうよ。

——光の強い方が勝ちますよね。

大仁田　当たり前のことでしょ。勝とうと思うなら同じ土俵で闘わないことだよ。まったく違うものを見つめていけばいい。DSEさんが同じ会社で2つの興行をやっていくっていうのは一粒で二度おいしいけど、それが成功するかどうか俺には分からない。だけど、GMも『PRIDE』でフラストレーションがたまった部分をハッスルで発散してるんじゃないの？（笑）。

笹原　ハハハハ、いやいや。

——かなり発散してるはずですよ。ホントに弾けてますからね（笑）。

笹原　確かに『PRIDE』は競技として確立しているので、みていると肩が凝るような試合が続くんですよね。逆にハッスルは大人から子供まで楽しめる、それこそ我々まで楽しんでやっている部分があります。もちろん、ハッスルには別のフラストレーションもあるんですけど（笑）。現状でやりたいと思っていることの半分もやれていないんですけど、これが正しいと思ってやるしかないですね。

大仁田　ひとつ覚えておかないといけないのは地上波がつくのはなかなか難しくなってきてるということなんだよ。

笹原　本当にそうですね。

大仁田　もう「プロレス」って単語がついちゃうとダメなんだよ。でも、俺はいま47歳だけど、たとえば50歳の誕生日にボブ・サップと対戦するとかいうドキュメンタリーだったら地上波でもいけると思うんだ。

笹原　ええ（笑）。

大仁田　サップと電流爆破をやるまでの過程を追ったら面白いじゃん（笑）。そういうプロレスの表現の仕方だったら、可能性はあるよ。ハッスルはデジタル放送の時代に向けてのコンテンツとして考えてるんじゃないの？　2～3時間の枠ですべてのストーリーをひっくるめた『レッスルマニア』のような規模の大会を日本でやれる可能性が十分にあると思うんだよ。

笹原　そうですね。いま、大仁田さんがおっしゃったようにプロレスというと地上波放送は見向きもしてくれないというのが現実なんです。とはいっても、ハッスルはいろんな選手やタレントが出ているので興味は持って頂いてるんですが、そこは何とか打破したいと思っています。

ONITA meets GM

大仁田　それは笹原さんが今後、ビンス・マクマホンになれるかどうかにかかってるわけだよ。

笹原　かなり遠い道のりですね（笑）。

大仁田　レスラーが増長したら「ファイヤー」の一言で首を切るとか、そういうシステムを確立するしかない。

——実際、これからのプロレス界はそうなっていくでしょうね。

大仁田　『PRIDE』を軸とした巨大なメディア組織を作って確固たるものを確立してから、その他の部分でサイドビジネスとしてハッスルを成功できるかどうかだよ。サイドビジネスとか遊びっていうと誤解をする人が多いけど、人間って遊びのときの方が真剣になるもんなんだよな。

笹原　分かりますねぇ。大仁田さんも遊びの方が真剣なんですか？

大仁田　俺は全部、遊んでるようなもんだから（キッパリ）。国会議員も、大学も遊びの延長線上だし。

笹原　そうだったんですか？（笑）。

大仁田　そうだよ！　大学にしても帳尻合わせがうまいから卒業できたようなもんだし。44単位もよく取れたよなぁ。よく卒業できたよ（しみじみ）。

——大学編入も卒業もエンターテインメントでしたからねぇ。

大仁田　それで卒業証書を小泉総理まで持って行ったからな。総理に「卒業おめでとう」って言われて、その後はプロレスの話だよ。「あの頃はルー・テーズのバックドロップ一発で……」とか言うから、「総理、いまは時代が違うんですよ」って言ったけど（笑）。

笹原　そんな話をあそこでされてたんですか（笑）。

大仁田　その映像は残ってるから、現在は評価されなくても未来にはきっと評価されると思うよ。ところで、『PRIDE』の選手は選手寿命短いでしょ？　選手は引退したら何をやるんですか？　TV放送の解説とかやるんですか？

笹原　そういう選手もいます。選手を育てる側に回る方も多いですね。髙田さんもそうですし。

——大仁田さん、髙田総統はご存じですか？

大仁田　ん？　髙田さんは知ってるけど、髙田総統は分からない。何で総統なのか

普段はちゃんとスーツ着てるのにキンキラのジャケットに着替えるそれがプロレスだよ!

も分からない。

笹原　総統の存在感は本当に凄いですよ。

大仁田　結局、みんなやりたかったんだよな。FMWみたいなものをやりたい人はいっぱいいったんだよ。みんな自分の殻を破りたかったんだよ。FMWの延長線上で、もっとエンターテインメント化しようとしたのがハッスルでしょ？　既存の団体じゃなくて、ハッスルという場にプロレスを愛する人間を集めてエンターテインメントを追求してるわけでしょ？　これで新日本が東京ドーム大会でコケようもんならハッスルにも可能性は十分出てくるよ。これで新日本が潰れる可能性だって出てくるでしょ、そしたらテレビ朝日だって放送しなくなるよ。プロレスから撤退するんじゃないの？

——そこまで予想しますか!?（笑）。

大仁田　何が起こるか分からないのがプロレス界だから。ただ、プロレスがハッスルというものになってくれれば地上波がつく可能性もなきにしもあらずだよ。

——プロレスのイメージが完璧に変われば地上波もあり得るということですか？

大仁田　そうじゃない。最初に言ったように『PRIDE』も認めさせるまでに時間がかかった。でも、TV局のプロデューサーが食いついて、GMが「こういうものを作り上げるんですよ」という話し合いをすれば出来上がる可能性はあるということだよ。俺はそれを一人でやってたんだもん。ただ、俺は『PRIDE』やK-1とは違ってスポンサーに頭を下げるのが嫌だったから。「頭を下げるぐらいだったら、ひとりで突っ張っていよう」と思って。頭を下げてりゃもうちょっと金儲け出来たのになと思うこともおあるけどな（笑）。

笹原　ハハハハハ。

大仁田　国会議員になったらペコペコ頭下げてんのに（笑）。よく分かんねえよなぁ。

笹原　礼儀正しい邪道なんですね（笑）。

大仁田　「挨拶がいい」とか言われるからね（笑）。基礎基本だよ。

——でも、大仁田さんのアプローチは新しいプロレスの創造でしたよね。

大仁田　プロレスに対するアンチテーゼであり、世間に対するアンチテーゼの部分があるから良かったんだろうな。だから、新日本もFMWを潰そうという気になったんだろうし。後期のFMWの失敗は、ハヤブサが三沢（光晴）選手の方向を向いてたことだよ。最初から迎合しようとしてるんだから！　その時点で無理だよ。K-1と『PRIDE』はお互いに「まったく違うんだ！」って張り合ってる部分があるから面白い。どっちかがどっちかに擦り寄ってたら面白くも何ともないよ。

笹原　そうですね。

大仁田　戦国時代に「こっちの味方になろうかな、あっちの味方になろうかな？」ってキョロキョロしてるようなヤツが出世するわけないんだよ。いまはK-1と『PRIDE』の熾烈な闘いの真っ直中でしょ？

笹原　熾烈ですねぇ。

大仁田　時代は変わったんだよ。

笹原　一時期の新日本と全日本の関係に似てるのかもしれないですね。

大仁田　いいこと言うね、そうそう。いまの状況を見てると、石井さんが総合格闘技をやりたくて仕方がないんじゃないの？

——そうかもしれないですね。

大仁田　手を変え品を変え、前田（日明）さんを使ったりしてるけど。

——さすがプロレス・格闘技評論家。鋭いところ突きますね（笑）。

大仁田　もう30年もやってんだぞ。流れをみてたら誰がどうやって動いてるか分かる

よ！　俺が何も分かんないで「お前ら〜！」とか言ってると思うか？　猪木さんの件だって言ってれば何年後かにどうにかなればいいやって遊んでるだけだよ（笑）。

—大阪ドームで猪木さんに対戦を迫ったのも、すぐにどうこうなるとは思ってなかったんですか？

大仁田　思ってないよ。その場を楽しめればいいだけ。そしたら、大阪ドームに100人ぐらいバーッと来ちゃったから、手紙を渡す前に「もう帰ろうかな」と思ったけど（笑）。あのときはDSEさんが受けてくれたから感謝するよ。

笹原　現場は大仁田さんのファンの方がノボリを持って大勢かけつけて凄いことになってましたから。大仁田さんご自身ももみくちゃになってて道路まで人が溢れて、誰かが転んだら将棋倒しになってもおかしくない状況だったんですけど。

大仁田　あれを門前払いしちゃったら面白くも何ともないよ、楽しまなきゃ。

—毎年の恒例になったら面白かったんですけどね。

大仁田　でも、二回目のさいたまスーパーアリーナのときはダメだったな。

笹原　一回目の大阪ドームの修羅場の中でも大仁田さんは「大仁田厚」のまま受付にいらしてましたよね。あれには感銘を受けました。

大仁田　でも、疲れたよ。どこが入り口だか分からなくなっちゃって（笑）。参ったよ。でも、いまや『PRIDE』は猪木さんの名を借りる必要もなくなり、子供として巣立っていったんだよな。半年ぶりの休みを『PRIDE』を見に行くために使ってよかったと思うよ。今日もいまから着替えて岩槻市に講演にいかなきゃいけないんだよ（笑）。七変化しなきゃいけないんだよなぁ。

—それが大仁田さんにとってのプロレスなんですね。

大仁田　そうだよ。GMだってさっきまで普通のスーツを着てたのに、そんなキラキラのスーツに着替えてるじゃん（笑）。

笹原　そうですね（笑）。

大仁田　分かるでしょ？　それがプロレスしてるってことなんですよ。会社に戻ったら、また着替えて真剣な話をするわけでしょ？　それがプロレスなんだよ。

—つまりGMも立派にプロレスをしてるってことですね（笑）。

大仁田　そう。『PRIDE』を自分たちのビジネスとして割り切りながら、ハッスルという自分たちの故郷を忘れないような興行をやってるのかなと感じたんだけど。これは間違ってますか？

笹原　その通りです（笑）。もちろん、ハッスルもビジネスとして確立できれば最高に嬉しいんですけど。

—DSEはハッスルにものすごい時間・労力・お金・人材をかけてますよね。

笹原　たぶん、いまあるプロレス団体の中で一番プロレスのことを考えてるのがハッスルだと思いますよ。

大仁田　プロレスが難しいのは、選手は自分がスターになってしまうと頭が固くなってしまって「自分が客を呼んでるんだ」って錯覚してしまうことなんだよ。その点、『PRIDE』は常にマッチメイクが変化してるから選手をビッグヘッドにさせないのはうまいですね。

—FMWでは企画会議ってやってたんですか？

大仁田　短時間で俺が決めていくしかなかったよ。自分がいる限りFMWは大丈夫だろうと思ってたんだけど、（団体を）渡したら経営危機に陥って、しょうがねえから「出てやるか」って復帰したんだけど、ゆとりが出来てきたら今度は下の連中が反発して「辞めろ」とか言うし。だから新日本に出たんだよ。そういうのを察知したら俺は早いから。常に先を考えてるよ。

ONITA meets GM

—だからこそプロレスが盛り上がったし、大仁田さんの知名度も上がったんですね。

大仁田　俺はプロレスをこよなく愛してるからどうにかなってほしいけど、この先に淘汰されたときには仕方がない。こないだプロレスの雑誌を読んだときに写真を眺めてたら「ああ、世代が変わったなぁ」と感じたんだよ。だけど、グラビア上ではいい試合なんだけど、もはやプロレスの上に覆い被さった変なものがあるんだよな。その感覚、分かります？

笹原　ええ。

大仁田　そこから抜け出せないわけですよ。「最強だ！」って言ったところで、もう『PRIDE』とK-1があるんだから。ある意味で開き直らないといけないわけですよ。時代がハッスルを要求してるのか、全日本・新日本のカムバックがあるのか、それとも前田さん率いる団体が受け入れられるのか、それは俺には分からない。

—でも、大仁田さんの言う「プロレスの上に覆い被さった変なもの」を突き抜けないと、プロレスの次の展開はないですよね？

大仁田　若い選手に思い入れを持てないという部分、ありませんか？　通り過ぎていくような、通行人Aとか通行人Bみたいな選手ばっかりで、「この選手にかけてみよう」と思わせる選手がいないですよね。

笹原　この部分は『PRIDE』でもプロレスでも同じですけど、そういう選手を生み出さないとジャンルとしての熱は絶対に生まれないですよね。

大仁田　だから『PRIDE』とK-1を潰すなら、負けても負けても『PRIDE』とK-1に挑戦するヤツと、『PRIDE』とK-1の選手をボンボン投げ飛ばすヤツ、この2人がいればどうにか勝てるよ。そいつらが「俺はプロレスラーだ！」って名乗ってるヤツがいたらプロレスも勝てるから。

—そういう選手を育てるのは、かなり厳しいと思うんですけど（笑）。とにかく楽をしてスターにはなれないということですね。

大仁田　俺は猪木さんがやれなかったことをやってみようかなと思ってやってきたんだよ。プロレスを世間に「八百長」と言われながら抑圧されてきた。それを対世間でちゃんと確立されることで認めさせようとする自分がいるわけだよ。それで切磋琢磨して政界に来た。政界でも俺は馳さんとまったく違う生き方をしてるから。そういう

周りをすべて"プロレス"に引きずりこむ天才・大仁田は、新日参戦時、テレ朝の真鍋アナと抗争を展開。悲願の長州戦実現後は、2人の間にも友情が芽生える素晴らしい展開。

意味で大仁田厚という人間は、プロレスに育てられて世間との闘いの中で生きてきたというストーリーを自分の中で描いてるから。自分のことをプロレスラーだと思うしね。だから、今日は嬉しかったですよ。GMから「プロレスが好きだったんですよ」という言葉が聞けて。『PRIDE』に親近感を持ったよ（笑）。

笹原　ありがとうございます（笑）。

大仁田　以前、武藤選手がこんなことを言ってたよ、「どんな人間でもプロレスをできるようになった」って。違うんだ。プロレスっていうのは全員が参加できるんだよ！　プロレスの良さはそこにあるんだよ。そりゃメジャー団体にしてみれば「大仁田がインディーを膨らましまして、誰でもプロレスをできるようになった」って批判もあるけど、こっちにしてみりゃ「誰にでもプロレスが出来るんだよ」ってことだから。

――WWEだって、オーナー一家が全員プロレスをやってますからね（笑）。

大仁田　俺が考えて（グラン）浜田選手と最初に男女混合のタッグマッチをやってブーイングを浴びたけど、いまやアメリカでも日本でも普通にやってるじゃん。

――ひとつの団体の中に男女がいるというのもFMWが先駆けでしたよね。

笹原　いまやハッスルでは小川直也とインリン様が闘って、小川選手がフォール負けしてますから。

大仁田　GM、俺の50歳の誕生日にまだハッスルが続いてたら、誕生日祝いにボブ・

俺が50歳になるまでハッスルが続いてたら小川、曙、サップと電流爆破組んでくれ！

いいですね！枠がない自由さがまさにハッスルの理念に基づいたカードですよ

ONITA meets GM

サップを呼んで電流爆破を組んでくれ。

笹原　ボブ・サップが受けるかどうか分からないですけどね（笑）。

――痛いのは嫌いみたいですから（笑）。

大仁田　俺はやると思うよ。その試合にはドキュメンタリーのカメラを入れるよ（笑）。でも、また試合をしたら「嘘つき」って言われるんだろうけどなぁ。

――ズバリその試合が実現する可能性はありますか？

笹原　大仁田さんもおっしゃってる通り、先のことは分からないですから。

大仁田　そうだよ。新日本の東京ドームがコケたときにプロレス界がどうなってるか分からないんだから。あと、『PRIDE』で引退間近な選手もいるでしょ？　そんなの俺が全部やってやるよ！

笹原　おおっ！（笑）。

大仁田　闘うってことじゃないよ。動き方から何から全部教えてやるからってことだから。ホント、有刺鉄線って下手に動くと危ないんだよ。指が飛んじゃう場合だってあるし。爆弾が破裂したときは3000℃だからね。

笹原　想像もつかない領域ですね（笑）。

大仁田　嫌なモンだよ。あと難しいかもしれないけど、俺と曙選手の試合とかね。

笹原　いいですね。まさしくハッスルの理念に基づいたカードですよ。

大仁田　まあ、長州さんとでやったときは、1年8ヶ月待ってたからね。あのときは長州さんが新日本を出るのが匂いで分かったから自分から動かずに話が来るのを待ってたけど、いまはボブ・サップも曙選手も匂いがしないから。自分からどうのこうのというのはないよ。俺と小川選手が明治大学の先輩後輩で電流爆破をやってるかもしれないし。

笹原　それ、いいですね！　レフェリーは坂口征二さんで（笑）。

大仁田　いいねえ。

笹原　枠がないという自由さがハッスルの可能性ですから。

大仁田　そのときには毒でも何でも入れちゃうことだよ。それでシャッフルして、いらなくなったらポイって捨てる。そんなもんだよ。

――そんなもん（笑）。

大仁田　アメリカもそうでしょ？そこに人情とか義理が入ってくる時代はあったけど、もうしょうがないんだよ。こういう時代になっちゃったんだから。アメリカだってそうでしょ？　そのときさえ盛り上がればいいんだから。

――プロレスはその作業を延々と繰り返してるわけですね。

大仁田　そうだよ。だから常に悩むんだよ。いいかGM、いつか、ハッスルの会場に乗り込むかもしれないから覚悟しておけよ！

【05年4月29日／麹町・参議院議員宿舎にて収録】

大仁田バンドが炎のデビュー！浜省の名曲を大胆にもカヴァー

プロレスを卒業し、政治家兼プロレス&格闘技評論家の道を歩み始めた大仁田が、今度はなんとバンドを結成！　大仁田自身思い入れ深いという浜省の名曲『もうひとつの土曜日』をカヴァー。テイチクより発売中！

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2005 NO.87

PRIDE GP

頂点への“実感トライ”止まらず!

敗れてなお咲く花あり!!

BUSHIDO

HUSTLE

PRO-WRESTLING

RADICAL SPECIAL

MMA

Columns

※『金ちゃんのドンとやってみよう!』はお休みです。

Another

ターザン山本！生誕59周年記念

命懸けの対談2005

狂える変態

ターザン山本！

〈ターザンギャルド取締役〉

×

思考する変態

堀辺正史

〈日本武道傳骨法創始師範〉

変態司会／堀江ガンツ　変態構成／ジャン斉藤

designed by nogu (two three)

仰天！PRIDEに変態待望論！

“男の中の男”とは“変態”のことである!!

青春の大発見

4・23大阪ドームでついに開幕した『PRIDE・GP2005』。16人すべてがハイレベルな実力者揃いとなった、この空前のトーナメントは、開幕戦においてはハイレベルがゆえに実力が拮抗した、比較的地味な試合が多かった。はたして今後、『PRIDE』はこの競技論と観客論のバランスをどう取っていくのか？　『PRIDE』の行く末、理想をおなじみ2人の“変態”がつば飛ばしながら語りまくります！

――今日は久しぶりに堀辺先生と山本さんの対談になります！

山本　対談は久しぶりになるけど、先生には先日、ボクの誕生日を祝ってもらったばかりなんだよ。銀座の『中納言』という店で伊勢エビ料理をご馳走してくれたんだけど、これがメチャクチャ美味しかったんだよねえ……（恍惚の表情で）。

堀辺　それは良かった（笑）。

山本　先生、ご馳走さまでした！　で、ガンツ！　前号は山口（日昇＝本誌鬼畜編集長）さんが極上の水たきを食べさせてくれたけど、今日はいったい何を喰わせてくれるんだよ!!

――え〜、今回の『ターザン山本！の食いしん坊バンザイ』は、この骨法會の道場でお茶でも飲みながら、じっくりと語っていただきます（笑）。

堀辺　わかりました（笑）。

山本　安上がりだなあ、『紙プロ』は！　スタートからドしょっぱすぎますよぉぉぉ！

――糖尿病の山本さんの体を思ってのことですよ（笑）。では、さっさと本題に入りますが、今日は大阪ドームで行われた『PRIDEミドル級GP開幕戦』ついて語っていただきたいんですけど、あの大会内容について賛否両論意見が飛び交ってますよね。

山本　このあいだの大阪（『PRIDE・GP開幕戦』）はそんなには面白くなかったなあ。たしかにレベルの高い試合は多かったと思うけどさぁ。

――それゆえに派手な展開は見られなかった。総合格闘技が成熟すると、スペクタクルな展開はなかなか生まれないとは思うんですが、はたして『PRIDE』は今後どのような道を進むべきなのか？　そしてファンはどのように見れば面白いのか？　ということが今後、重要になってくると思うんですよ。

山本　ボクは昔から“興行とは初めに観客ありき”と常々言ってきてるわけですよ。お客が楽しむ、エキサイトする、感動する！　そのためには「興行論」「競技論」「観客論」がバランス良く成り立っていないといけないんだよね。でも、今回トーナメント1回戦は競技自体にウェイトが置かれていて、試合のレベルは高くなってるんだけども、興行のスタンスとしては観客論を忘れているんじゃないのかなって感じたんだよね。

――競技としてレベルアップしたことで、「競技」「興行」「観客」の三角形のバランスがちょっと崩れてしまったんじゃないか、と。

山本　そう！　正三角形をつくらないといけないのに「競技」の方にウェイトが傾いてしまった。真剣勝負という価値観に甘えてしまったというか、そこは興行者側がちょっとアグラをかいてるというかさぁ。“格闘技だから絶対的な価値がある。真剣勝負だから価値がある！”というところで満足してしまって、それ以上のことを興行者サイドがデザインしようとしてないわけですよ！　先生、どうですか？

堀辺　いま山本さんが言ったことは非常に大切ですね。やっぱり観客がいることを前提としているのが興行なんですから。先ほどの三角形の話でいえば、観客論と勝負論は対立概念でもあるわけですが、このふたつをうまく両立させるのがマッチメイカーの仕事なんです。マッチメイカーという役割は、ただカードを決定するだけじゃないんですよ。対立する観客論と勝負

PRIDE大阪大会は「競技」「興行」「観客」のバランスが崩れていたよォ！（ターザン）

論をどう折り合いをつけるかという能力が問われてくるわけですね。

山本　先生！　折り合いをつけるということは、試合の見方をファンや客に懇切丁寧に教えるということでしょ？

堀辺　はい。別の言い方をすれば、選手や試合のストーリーを提示するということですね。これまでは〝格闘技はプロレスと違ってストーリーは必要ない〟という考え方があったと思うんですけど、真剣勝負で行われる試合であっても、その選手がどんな過酷なトレーニングをして、どういう対戦相手を目標にして、何を目指して闘っているのかというストーリーが見えてこないといけないんですよ。

山本　だから今回の開幕戦には、観客が求めている選手のモチベーションや、闘いの意味性がわりと置き去りにされている感じがしたんだよねえ。たとえば去年のヘビー級GPだったら、まさかの小川直也の参戦があったり、不気味なハリトーノフという存在もいた。そしてヒョードルやノゲイラははたして勝ち上がれるのか？　一回戦で負けたミルコはどうなるんだ？　というようないろいろなテーマがあちこちに転がっていたんだよ！

――ヘビー級GPのスケール感や、ダイナミックな展開から生まれた熱はちょっと異常でしたよね。出場メンバーの全体の水準では、今年のほうが断然高かったりするんですけど。

堀辺　つまり、昨年のグランプリのほうがテーマや幻想、ストーリー性が感じやすかったということなんです。やっぱり観客を惹き付ける隠し味というものは、どんな真剣勝負や興行をやるうえでも絶対に必要なんですよ。興行側はそれらを〝必要悪〟な存在として大いに認めていくべきなんです！

山本　まぁトーナメントの一回戦は、選手にとってはまず勝ち上がることが最優先されるので、テーマを掲げるのも難しい話なんだよね。

堀辺　だからマッチメイカーは、テーマを理解させるために観客には〝眼鏡〟を与えるべきなんですよ。

――観客に〝眼鏡〟を与えるというと？

堀辺　つまりですね、裸眼で格闘技を見ていたのでは、もうこれ以上、格闘技というジャンルは発展しないんですよ。裸眼だと〝どちらが勝ったか？〟という事実しか見えなくなってしまう。そのために赤いレンズでもいいし、青いレンズでもいいんですけど、観客に〝眼鏡〟を与えて、この試合にはどういうテーマがあるのか？　ということを打ち出してあげることが必要なんです。

――いわゆる試合の見所ですよね。たとえば〝対グレイシー〟のようなテーマであったり。

プロレスだけでなく真剣勝負の格闘技にも幻想やストーリー性は必要なんです！（堀辺）

山本　グレイシー一族のテーマというのは、〝オール・オア・ナッシング〟だったんだよね。負けたら彼らはすべてを失うという強い危機意識がグレイシー一族にはあった。〝オール・オア・ナッシング〟というハンディキャップを自らに背負って闘っていたからこそ、勝負論を超えた求心力が試合に生まれていたんですよぉ！　ヒクソン然り、ホイス然り！　いまの格闘家でそういった色気のあるハンディキャップを自分に課してる人物はたった一人しかいない！

――それはズバリ、誰ですか？

山本　そんなもんミルコ・クロコップに決まってますよぉぉぉ!!　だってミルコがいる・いないじゃ興行の雰囲気がまったく違うじゃない。

堀辺　ミルコが出ると興行の求心力が格段に上がりますよね。ミルコの場合は、グレイシーの〝柔術のために死ねる〟という過剰で美しい自意識とは違って、〝俺は絶対に負けられない〟という勝負に対する徹底した拘りが匂ってくるんですよ。

山本　ミルコは勝負論や観客論を完全に超えて、自分自身をギリギリの崖っぷちに追い込んでいるんですよ。だからミルコが負けると、それだけでショッキングな事件として大きく扱われるでしょ？　ミルコの試合は〝オール・オア・ナッシング〟の上下振動が激しいんだよなあ。

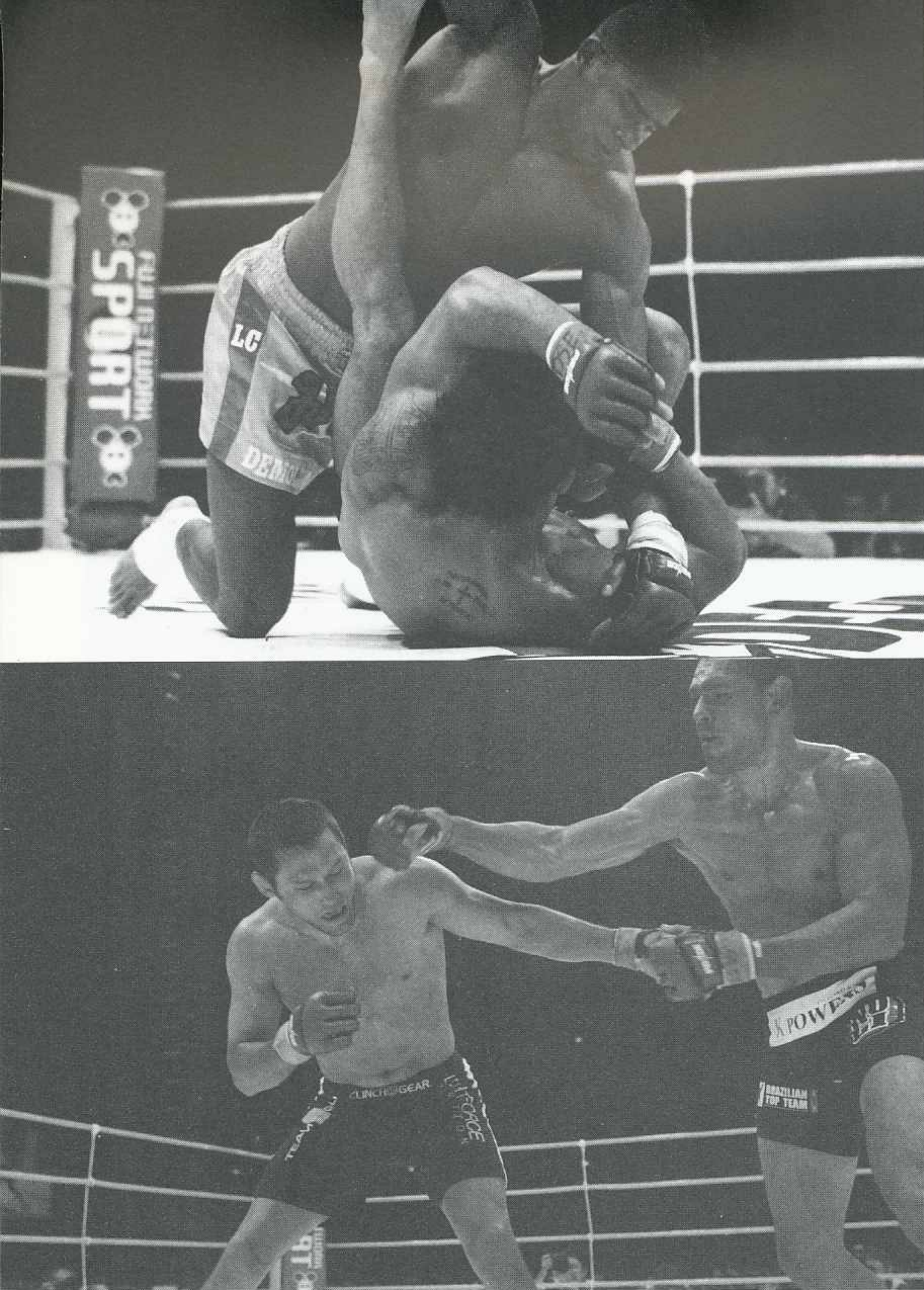
堀辺　初期のUFCにも〝オール・オア・ナッシング〟の雰囲気が根付いていましたよね。あの金網に入ることは、格闘家としての名声がすべて失われるか、一気に名を上げるかという存亡の懸かった闘いだったんですよ。でもそれが大会として繰り返されると、当然興行化していくわけです。こうして選手にとって生活が保証された場になった結果、たとえ負けても格闘家として否定されることはなくなってしまったんです。

――そうなると、ミルコやグレイシーに感じることができる存亡のかかった悲壮感はなかなか出づらいですよね。

堀辺　つまり、〝決闘者〟としての雰囲気が漂ってこないんですよ！

山本　だから格闘技についてまわる〝オール・オア・ナッシング〟が希薄になってしまって、本来、格闘技が持っているべきはずのものを損ねてしまっているというかねえ。

堀辺　なぜUFCに〝オール・オア・ナッシング〟の空気が漂っていたかと言えば、もともとは〝流派間の対立〟だったからなんですよ。それぞれの選手が己の流派の存亡をかけた闘いをしていたわけですね。だから真のプライドをかけた闘いだったわけです。

山本　いまは打撃系の選手も寝技系

るでしょ？　ミルコの試合は〝オー

山本　いまは打撃系の選手も寝技系

の選手も、総合格闘技という同じジャンルの中で技術を切磋琢磨している。そうなると自然と同型質の選手ができあがってしまう。どうしても特色のない、流派も必要ない、個性もとりたてて必要ない同質のファイターばっかりになってしまうんだよなあ。

堀辺　ルール内で闘えるノウハウをみんなが身に付け出してしまったわけですね。それは技術水準の上昇に繋がるわけですが、同時に互いが得意分野に引き込もうとする異種格闘技戦的な攻防や緊張感が生まれないんですよ。

山本　ユン・ドンシクが通用しなかった最大の理由はそれですよ！　ドンシクは柔道家としては寝技なんか最高レベルだったかもしれないけども、いまの『PRIDE』の競技形態の中では、柔道という武器だけではすでに通用しないレベルまで達しているんだよねえ。

——柔道家が投げて絞め技で仕留められる世界じゃなくなってるわけですよね。

山本　だってさぁ、百戦錬磨のビクトー（・ベウフォート）があんなにあっさり負けちゃうんだよ。あのビクトーの敗戦は、ここ数年間を通して『PRIDE』が急激にレベルアップした証拠ですよ!!

——ビクトーも慣れ親しんだオクタゴンだったらそう簡単に負けたりはしないんでしょうけど、リングにおける総合格闘技の技術に対応できなかったところもあるんでしょうね。

堀辺　それはつまり、ほとんどの選手が『PRIDE』の傾向と対策を練りに練って試合に臨んでいるということなんです。だってルールはもう確定してるんですから、どのタイミングでブレイクされるとか、選手の頭の中に『PRIDE』の格闘環境がインプットされているんですから。その環境に適応して勝利者になるにはどう練習したらいいのかもわかってきている。そうすると、かつての他流試合や異種格闘技戦でもなく、同質の選手が勝ち負けを決することになって、柔道vs柔道、空手vs空手、ボクシングvsボクシングという限定された競技の中での闘いと同じような現象が『PRIDE』にも起きてしまうんです。

——そこで問われるのは、『PRIDE』はこれから完全な競技としての方向に進むのか？　それとも再び異種格闘技的な闘いを目指すべきなのか？　ということだと思うんですよ。

山本　いやあ、もう興行者側が新たに『PRIDE』をデザイン、変革していく余地がないほど、競技者主導型のリングに完全にできあがってしまうと思うなあ。

堀辺　いや、そんなことはないですよ。興行側が闘いの概念を観客に提示できれば競技的方向に進むとは限りません。そこで必要になってくるのは、先ほど私が言った〝眼鏡〟なんですよね。観客側はどこを見たらいいかを判断する、遠近両用の眼鏡を持ってないんですから。

——競技の純粋性を楽しむ側の人間は観客論を意識したものを嫌ったりする傾向がありますからね。その逆もまた然りで。

堀辺　概念を観客に伝えていかないと、単なる〝勝った・負けた〟の世界で終ってしまう。そういう眼鏡が与えられた観客は、リングのファイターに対して一種の圧力になるんですよ。なぜかというと、観客がその選手に期待している闘い方ができなければ、その選手の人気はなくなるわけですから。

——つまり、観客がその選手の〝存在証明〟を問うわけですね。

山本　だから己の〝存在証明〟のためだけに全力を傾けているミルコが『PRIDE』の中でスーパーエリートになっているんですよ！

——ミルコは完全なKOか一本勝ちじゃないと納得しないんですよね。自分に対してのハードルを常に高い位置においているというか。

堀辺　彼はKOや一本勝ちじゃないと勝負に勝ったと思わないんでしょう。ところが大部分の選手は判定で、しかも僅差であっても、とりあえず勝ちという称号をもらえばそれで満足してしまうところがある。それでは戦闘者としての武士の精神が見えてこないんですよ！　たしかにルール上はそうなっているかもしれない。でもそういう精神状態で選手が闘っている限りは『PRIDE』は絶対に進展しません！

山本　競技者にとって判定もまた決められた公式ルールだし、勝負の約束事でいうならそれは社会的ルールなんだから、それにのっとって勝つことは、彼らにとって何の悪でもない。むしろ善なわけですよ。ところがミルコには、そういうルールを越えて、自分をより高めてそれを試合で自己表現するというか、自分の生き方を示そうとしているから美しいんだよなあ。

堀辺　だって判定決着というのは興行の性質上、〝仮の遮断機〟を降ろしているに過ぎないですからね。本当の意味での勝負はついてないわけです！

山本　俺から言わせたら、格闘技における『PRIDE』もK-1もつまりは〝世間のルール〟内のことなんですよ！　その世間が作ったルールとはまったく別の次元で闘うことが……。

堀辺　（遮って）それこそがプライドなんです！　誇り！　名誉!!　他人

命懸けの対談2005

元キックボクサーのアリスターがフロントチョークで柔術黒帯ビクトーを絞め落とし、柔術家ホジェリオがパンチでヘンダーソンを追いつめるなど、闘いがより総合、多岐にわたる現在のPRIDEマット。レベルアップと同時に確かに、個性的な闘いかたは少なくはなっているか。

が作ったルールの中で勝って満足することをプライドとは言わない。プライドとは、あくまでも胸の奥にある価値観のことを指すんですよ！　それこそがいま求められている格闘家の究極な魂であって、そのスピリチアルなものが『PRIDE』の中で問われてくると思うんですよね。

山本　それこそが〝武士道〟的な生き方というか、それを貫くと失うものがあるん……。

堀辺　（遮って）山本さん、〝武士道〟については私も言おう言おうと思ってたんだけど、ちょっと控えていたんです。なぜかというと、〝武士道〟をテーマにすると非常に抽象論的に聞こえてしまうので、はたして現実的な話として興行側が受け入れてくれないと思ったからです。

山本　いや、それでもいま一番必要なのは、〝内なるルール〟を自分の中に持っている〝武士道〟的な生き方ですよ！

堀辺　たしかにいま『PRIDE』が抱えている問題を一挙に解決できるのは、存亡の懸かった闘いとしてリングに上がる侍の精神なんですよ！

山本　まさにミルコですよォォォォ!!

堀辺　〝ここで負けたら、もう恥ずかしくてリングに上がれない〟という姿勢を持った、真の闘いに徹した選手が絶対的に求められてくるんです。それは目に見えない価値観をどうやって見せていくのかという個人の資質が問われることですよね。単なる技術的な攻防以外で、その選手の精神、戦闘者としてのプライド、そういうものが見せられるかどうか？　というトータル的な人格の闘いになるべきなんです。それを象徴するものが、じつは〝武士道〟や〝侍〟というキーワードなんですよぉ！

山本　そういう意味でも、繰り返すけどやっぱりミルコは凄いですよ！　だって（マーク・）コールマンとなんか試合をする必要もないのに危ない橋を渡っているわけですよ！　そして相手のタックルをすべて切って完璧に勝った！　技術的にも精神的プレッシャーにもミルコは勝ったんだよ！　ボクはミルコにミリオンダラーのボーナスをやりたいぐらいですよォォォ!!

――ターザンギャルド（ターザン山本！の会社）からぜひ進呈してください（笑）。

山本　（急に小声になって）でもさあ、こんなこと言ってる俺たちは〝変態〟なわけですよ。

――ガハハハハ！　いきなり〝変態〟宣言ですか（笑）。

山本　だって一般人にとっては、格闘技の試合を見るということだけですでに〝非日常〟なんですよ。でも、俺たちは常に興行としての格闘技を見続けているから、さらにもっと高いレベルのものを求めてしまうわけじゃない。つまり『PRIDE』という非日常にさらに上位自我としての〝武士道〟をそこに求めていくというのは〝変態〟がやることですよぉぉ！

――となると堀辺先生も〝変態〟になるんですか？（笑）。

堀辺　もちろん私も〝変態〟です！（キッパリ）

――ガハハハ！　今日は〝変態〟同士が〝変態〟を語る対談でしたか！

堀辺　現状から体制から外れたものを期待するのは、いつの時代も異端として扱われるわけですからね。たとえば、革命家、発明者、天才、これらも言わばみんな〝変態〟なんです！　でも〝変態〟の異議申し立てがあるからこそ物事は進展していくわけで、〝変態〟の意見を取り入れなければ、物事はそこで停滞するんですよ！　言うならば、〝変態〟あるいは異端の中にこそ、先取りされた未来があるとも言えますね。

PRIDEに最も必要なのは武士道的価値観 GPこそが『PRIDE武士道』なんです（堀辺）

山本　〝変態〟は必ず世間に対してシュートしていくんだよね。あらゆる偉人や先駆者、前衛的な人間は、世の中にまだ存在してない、たったひとりだけのルールや信念を持って世間を変えていった。そのロジックでいえば、ニュートンもアインシュタインもモーツァルトも、みんな〝変態〟なんですよぉぉぉ!!

堀辺　偉人はみんなとまったく違うことを考えたりやったりしてるわけだから、まさに〝変態〟なんです！　それが後世になって普遍化したときに、やっと偉人という評価が下されるのであってね。

山本　ハリトーノフやヒョードルにしても、従来の格闘家やプロレスラーの概念に当てはまらない不気味で怖さもある異端な存在なわけじゃない。いわば彼らはフリークスなんですよ！

――たしかに『PRIDE』は〝常識人〟ではその存在が浮き出てこない場ではありますよね。

山本　でも、小川（直也）選手なんか『PRIDE』のリングで試合をしても別にフリークスに見えなかったでしょ？　彼の場合は切羽詰まった闘いの場にごく普通の精神状態として出ていったことが別の意味では〝変態〟的ではあるんですよ。つまり小川直也は『PRIDE』に染まらない、なじまない点で〝変態〟だったわけ！

――『ハッスル』のために『PRIDE』に出てくるのは異端ではありますよね（笑）。それにしても、〝武士道〟＝〝変態〟とは青春の大発見ですよね！

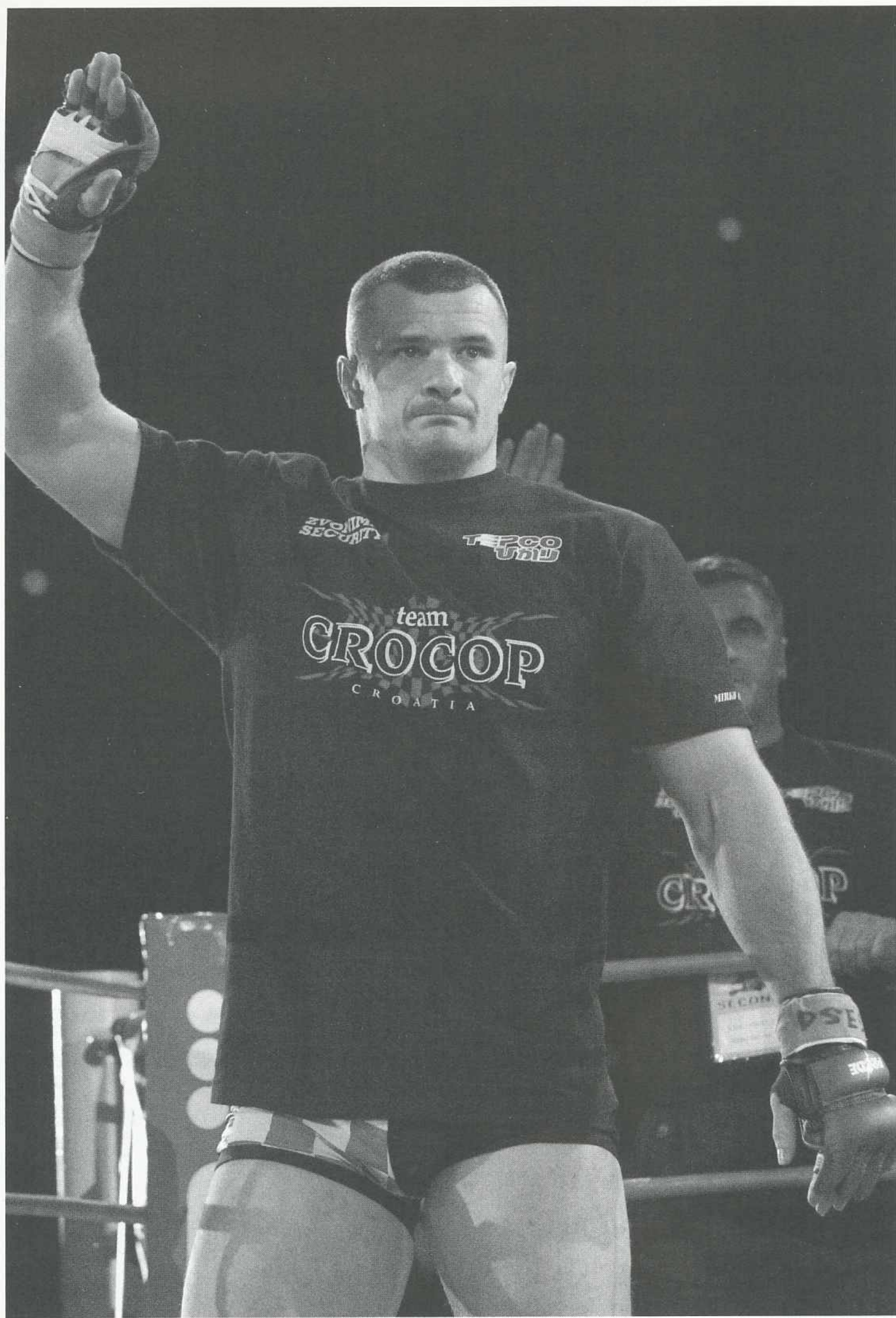
堀辺　〝武士道〟の話で言えば、私は『PRIDE武士道』という大会名は常々おかしいと思っているんですよ。これだけははっきりと載せてほしいんですが、『PRIDE武士道』とは本来『PRIDE・GP』で使うべき名称だと思うんです。ところが『PRIDE』の登竜門的位置にあるイベントに『武士道』と名付けてしまった。これは大ペケですよぉ!!

――大ペケですか！（笑）。

堀辺　なぜかといえば、フレーズというのはもの凄く大切なんです。『PRIDE・GP』＝武士道の心を持った決闘という意味づけにすれば、ミルコみたいな選手をどんどん排出されていくはずなんです！

――『武士道』は5月から中軽量級を特化するイベントにガラリと変わるそうなので、その部分でも期待したいですね。

堀辺　そもそも現代社会での格闘技の趣向性、精神高まりは〝武士道〟にしかありえないんですよ！　はっきり言って西洋が作ったスポーツには、いくらオリンピックで金メダルを与えようが、国家が金を渡そうが、精神の

己の存在証明に全力を傾けているミルコこそPRIDEのスーパーエリートですよォ！（ターザン）

高みはある程度にしか達しないんですから。でも日本という武士を生んだ国の中で、『PRIDE』とは〝武士道〟の精神を見せつける場なんだということを突き詰めていったら、もうスポーツを遥かに越えた存在になりますよ。

山本　そうなれば、観客やプロモーターがジャッジできるんだよねえ。「〇〇は〝武士道〟だった」「いや、そうじゃない！」と。

堀辺　あるいは「判定勝利は〝侍〟とはいえない。続行すべきだ！」となるわけです。それで闘いを続けても決着が付かなかったら、「2～3ヶ月後にもう一回闘おう」となる。それが内面のプライドを重んじる〝侍〟なんじゃないかと思うんですよね。

山本　先生の言う〝武士道〟は決闘であって、精神的な部分での生死を賭けた命のやりとりになりますよね。

――それは興行というスタイルを完全に放棄しないと実行するは難しいところはありますよね。

堀辺　でも、そういう発想でやれば世界中の格闘技はすべて吹っ飛びますよ。なぜなら他人が作ったルールで闘うんじゃなくて、ファイターとしての誇りを唯一の掟として闘うことを表現するわけですから。そうすることによって、本来の『PRIDE』の〝なんでもあり〟という原理が貫かれるわけです！

山本　古い話で申しわけないんだけどさぁ、その〝武士道〟の精神に基づくと、ヒョードルのケガでノーコンテストになった昨年8月のグランプリ決勝戦は、ノゲイラの勝ちにしないといけないわけですよ。それを中途半端に無効試合にしてしまったのは、実は『PRIDE』側が〝武士道〟に関する真の哲学を持っていないことになるんだよね。

堀辺　山本さん、その通りですよ！　たしかにルール上では無効試合は適切です。しかし、あの裁定でわかったことは、『PRIDE』に一番大切な中心的哲学が確立してなかったことなんです。私は他のイベントにこんなことは望まないですが、『PRIDE』だけには〝武士道〟という哲学を追究してほしいんですよ！

山本　そうですよ!!　オリンピックに代表されるスポーツ全盛の世の中で、それとは違った価値観を示してもらいたいんだよなあ。

堀辺　その通り!!　我々はスポーツを見たいんじゃないんだから！　〝何でもあり〟に我々が期待したのは、スポーツ的な世界じゃない!!

山本　でも、いまのテレビ局はスポーツ中心だから、人間の存在をおびやかしかねない〝武士道〟的な闘いにはイレギュラーが起きると思うんだよねえ。

――イレギュラーどころか放送できません（笑）。ヒョードルvs高阪戦なんかも極限まで闘い抜いた〝武士道〟的な内容でしたけど、テレビでは傷口がパックリ割れたTKの顔をうまく映らないようにしていたし、「ストップが遅いんじゃないか？」という疑問も

あったわけですから。

山本　だから映像媒体との関わりをどうやっていくかは大きな問題になるんだよね。

堀辺　いまのテレビは視聴率主義じゃないですか？　コアなファンからだんだん世間に広がって、テレビ局もそういう試合を流さなかったら視聴率を稼げないという時代を作ればいいんですよ！（笑）。

――ガハハハハ！　それは恐るべき〝変態〟革命ですね！

堀辺　まぁそういう現実的な問題もいろいろとあるんですけど、一番大事なこと『PRIDE』の理念をはっきりさせることだと思うんですよね。

山本　そのためには『PRIDE』の原点に立ち返ればいいんですよ！　つまり、高田vsヒクソン戦！　あの試合はヒクソンと高田が己の存在を賭けた個人の闘いであり、同時にグレイシーvsプロレスというジャンルの命運を賭けた闘いでもあり、負けた方が背負っていた名誉をすべて失うわけだよね。それこそ〝武士道〟の闘いだったんですよ！

堀辺　そうです！　高田vsヒクソン戦こそが互いの存亡がかかった究極の一戦だったんです!!　負けたら道場が潰れたり、すべてのキャリアを否定されてしまう。そういう危機感があったんです。ヒクソンと高田選手には自分の全存在を賭けてリングに上がっていたわけですよ。

山本　つまり、スポーツになくて決闘にあるのは、存在の奪い合いですよ！　存在の奪い合いをしたときに、それこそが本当の闘いにつながるから、それを見て俺たちは大興奮する!!　そう考えると、ヒクソンvs高田戦の試合をデザインした人は闘いのすべてをわかっていたんだよなあ。

――ある意味、選手にとって一番重要なことは、負ける価値がどれだけ高められるかということなんですよね。あの一戦は高田延彦が負ける価値、グレイシーが負ける価値がもの凄く高かったわけですから。

山本　なぜ負ける価値が高いのか？　それは男のアイデンティティがそこにあるからなんだよね。自分はいつか滅びる、負ける、死ぬという男の生き方を見せるあのマゾ的精神構造が〝変態〟的行為と言えるもので、それが観客の中にもある〝変態〟のツボを刺激するんだよなぁ！　最大のポイントは、試合で選手が負けたときにそれを見ているファンや客が痺れるような色気を感じさせる人が最高のファイターということですよぉぉぉぉ!!

堀辺　その通りですよ！

山本　ミルコの負けは、並のファイターの負けの100倍は色気がある！　そうやって我々〝変態〟は大興奮できるわけですよ！

堀辺　それは普段から負けるということを徹底的に嫌っているからこそ負けの価値が膨らむわけですよね。負けを拒否して、勝つことに全力を注いでいる男が負けたときに色気が生まれてくるわけですよ。現代では生死に関わることは、いかなる格闘技も許されないけども、個人が持つ特有の存在を打ち破るような闘いまで進行すれば、それは生死というものに近似したところまでいけるんです。観客論に当てはめて見ても、人が本当に見たいものとはそういうものなんですから。

山本　そんな闘いに挑んだからこそ高田延彦は最大限に評価されるべきなんだよね。だって『PRIDE』でほとんど勝ったことのない高田が『PRIDE』の統括本部長をやっているんですよ。成績や記録重視のスポーツだったらありえない！　相撲でいえば優勝回数が多い人が理事長をやるべきで、オリンピックで金メダル取った人が協会なんかの会長になるべきなのに、高田が統括本部長をやってるところに面白いパラドックスがあるというか、格闘技の素晴らしき本質がそこにあるわけですよ！

――高田延彦という存在こそが、『PRIDE』の価値観がどこにあるのかということを明確に示してますよね。

堀辺　なぜ高田延彦がそういう立場になれたかはハッキリしてるんです。負けたらプロレス界からメチャクチャ叩かれるということがわかっている状況であえて闘ったからですよ！　そして美しく散った!!　その一事をもって我々の心を支配してるんです。日本の歴史を振り返っても、戦史に名を残している武将というのは、かならずしも勝った側ではないんですよ。何万という敵に対してわずか千騎で立ち向かって敗れた武将の方を美化しているんです。

山本　そういう意味では、船木（誠勝）も偉いんだよね。ヒクソンとの決闘に負けて、すべてを悟って市井の人に戻ったんだから。

堀辺　負けても自分のすべてを尽くして、強大な相手に敗れたのならば、自分を尽くすエネルギーに対し我々は敬服して頭を下げるわけです。これまでの話を要約すると、『PRIDE』は哲学をはっきりさせなきゃいけないことが根本的な問題ですけど、とりあえず、いまの状態を脱することができる簡単な方法があるんですよ。

――簡単な方法があるんですか？

堀辺　あります！　競技のルールを変えれば変革は起きるんですよ。たとえばヒジ打ちをOKにする。これだけで向こう5回の大会ぐらいまでは格闘環境が確実に変化しますよ。いままでの『PRIDE』とは違った闘いが見れると思います。ヒジ打ちじゃなくて頭突きでもいい。それだけで闘いの様相は大きく変わるでしょう。

――たしかに『PRIDE.13』で四点ポジションからの膝蹴りを解禁したことで、それまでの勢力図はガラリと

すべてを賭けてヒクソンと闘い、すべてを失ったと思われた高田延彦だが、いまや世界最高の総合格闘技イベントとなった『PRIDE』を統括する本部長に就任。ふんどしで暴れ太鼓を叩きまくるこの姿を『PRIDE・1』の時点でいったい誰が想像できようか！

変わりましたね。

堀辺　でも、それは〝とりあえず〟の話であって、ルール変更だけで格闘環境は完全には変えられません。やはり〝武士道〟の理念を突いていくことが最も重要になりますね。でもそれは運営側が意識改革しないと大変難しいですよ。

山本　俺はいまの『PRIDE』は変われないと思うんだよね。いま『PRIDE』はチケットがさばけてるしテレビの視聴率もいいでしょ？　好調のときほど変われないもんですよ！

堀辺　それは言えてますね。危機感がわかないと変えようとする力が働かないものですから。

山本　はっきり言うよ。俺は視聴率中心主義が悪いことだとはまったく思っていない。でも、『PRIDE』には、K-1のような視聴率絶対主義にはなってほしくないんですよぉぉぉ!!

堀辺　同感です！　現在のK-1みたいになってしまったら、何の意味もないですから！

――『PRIDE』はとにかく異端な〝変態〟を目指せ、と（笑）。

堀辺　K-1の方向性にはいろんな批判があるし、格闘技としてどうなのか？　という疑問は多々あります。でも、テレビを媒体にして伝えるK-1はあれでいいんですよね。

山本　まったく問題なし！　ただ『PRIDE』にはK-1になってほしくないんだよぉ。K-1のイベントスタイルは、はっきり言って〝ワイドショー格闘技〟だから。視聴率はどんどん上がっていくかもしれないけど、イベント自体の発展はしないんだから。

堀辺　『PRIDE』には良くも悪くも未来のことは案じますけど、K-1にはとくに気にならないですから。

すべての偉人はみな〝変態〟なんです。そして日本人はその〝変態〟を〝侍〟と呼んだんです！

勝てなかった髙田延彦が本部長になったところにPRIDEの価値観の本質があるんですよぉ！

――〝変態〟はK-1には興味がない（笑）。

山本　やっぱり『PRIDE』にはライブの凄さを追求してほしいんだよね。そうでなかったら、ミルコみたいな〝変態〟が突然変異的に出現することを期待するしかない。運営している側に哲学がないとダメな形の他力本願になってしまうんですよ。

――K-1がボブ・サップで躍進した現象と逆の意味を持ってきますよね。

山本　ミルコは『PRIDE』に来ることによって飛び抜けた〝変態〟に進化したわけだけど、それはあくまで〝場〟と選手の奇跡的な融合によって生まれたもの。視聴率重視で興行数が多い現状の中からは、〝変態〟が生まれることは難しいだろうなあ。

――どうしてもボブ・サップのように消費されちゃいますからね。

山本　そういう意味では、高田延彦は非常に正しいことを言ってるんだよね。彼は〝男の中の男、出てこいや〜！〟って言ってるじゃない。あの〝男〟のホントの意味は〝変態〟のことなんですよぉぉぉ!!

――ふんどし一丁で「〝変態〟出てこいや〜！」と叫んでいたわけですか。
そりゃ、まさに変態ですよ（笑）。

山本　異質な遺伝子を持った〝男の中の男〟とは、究極の〝変態野郎〟ということなんですよぉぉ！

堀辺　だから、かつて日本人はその〝変態〟を「侍」と呼んだわけですよ！　その侍をいまの時代に見せていくのが『PRIDE』なんです！

――よくわかりました！　では、『PRIDE』の今後のためにも、〝変態〟の出現に期待しましょう！（笑）。

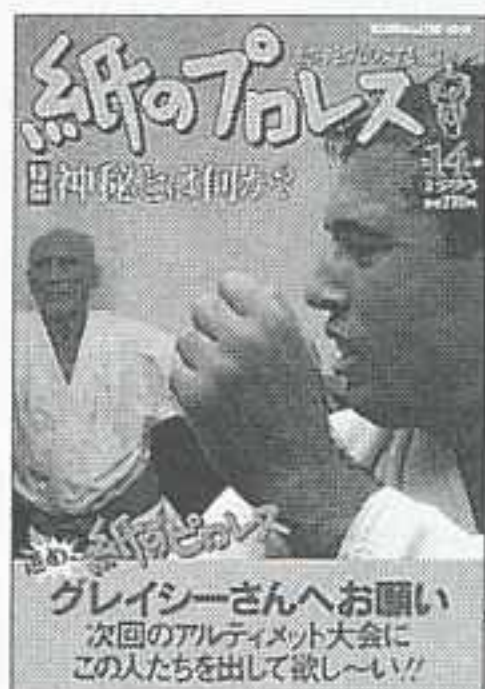
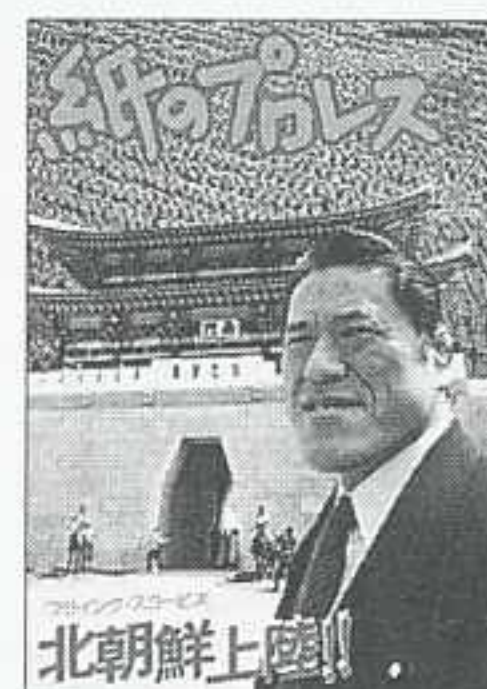
山本　俺が呼び込んでやりますよぉぉ!!　（立ち上がって）〝変態の中の変態〟たちよ、出てこいや〜〜っ！（声を裏返しながらのけぞって）。

――ガハハハ！　〝変態〟バンザ〜イ！

堀辺　バンザ〜イ！

【05年4月29日／東中野・骨法武術館にて収録】

本誌 Back Number

no.08 '94.01
特集 さらば新日本プロレス
仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！
50% OFF
700yen⇒350yen

no.14 '95.04
特集 神秘とは何か？
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー
50% OFF
780yen⇒390yen

no.17 '95.07
特集 実況パワフル北朝鮮
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野／パトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」
50% OFF
780yen⇒390yen

no.13 '95.03
特集 道場破りとは何か？
安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦
50% OFF
780yen⇒390yen

no.15 '95.05
特集 インディペンデントの逆襲
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Kーとは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－１三兄弟（当時）インタビュー
50% OFF
780yen⇒390yen

極真魂溢れる16人を直撃！ 完売間近
極真とは何か？
松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏
50% OFF
1530yen⇒800yen

---

no.57 表紙 高山善廣 '02.11／840yen
一瞬の11・24!!
高田延彦引退試合を大総括!!
●サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
●新たなる"U"が始動!! 田村潔司
●悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ
●"北尾戦・セメントマッチの真実" ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤＆船木 '03.01／880yen
新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!!
●夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
●Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
●Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
●カルガリー師弟対談 ミスターヒト×ハシフ・カーン

no.59 表紙 ヒョードル '03.02／880yen
吹けよ!呼べよ嵐!!
マット界新風景が見えてきた!!
●いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
●アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
●爆発!! WJマグマ語録
●吉田道場の秘密兵器 中村和裕
●UWFの再興と再考 田村潔司

no.60 表紙 ヒョードル '03.03／880yen
英雄、変貌好む!!
『PRIDE』RE・BORN!!
●ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
●驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
●あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
●全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04／880yen
5・2仁義ある闘い!!
やっちゃうぞバカヤロー!!
●裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也
●1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
●プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
●リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05／880yen
誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!
●ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
●現役復帰間近!? 船木誠勝
●藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル
●新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト） '03.06／880yen
吉田秀彦が大英断!
ミドル級GP出陣!
●「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦
●『PRIDE』REBORNを大総括!!
●憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー
●芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭＆田村 '03.07／900yen
灼熱の『PRIDEミドル級GP』直前号!!
●"異次元格闘技戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
●『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー
●ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"
●スマックガール・ビキニ特写!!

no.67 表紙 シウバ＆吉田 '03.10／880yen
吉田とシウバ、いざ激突!!
衣(ギ)は赤く染まるか!?
●ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ
●"柔術超獣"復活へ!! ノゲイラ
●『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー
●アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

no.68 表紙 高田＆桜庭 曙＆猪木 他 '03.11／880yen
人類史上稀にみる"大晦日・格闘技大戦"!!
白黒ハッキリ決めようやーッ!!
●大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 高田延彦
●横綱がK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
●一年ぶりの勝利で ニコニコインタビュー 桜庭和志
●"野良犬"『紙プロ』初登場! 小林 聡

no.69 表紙 OH砲 '03.12／900yen
大晦日・格闘技大戦&1・4プロレス戦争直前!!
年末年始もドゥ・ザ・ハッスル!!
●出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也
●『泣き虫』著者登場! 金子達仁
●大晦日直前インタビュー! 田村潔司
●アイ アム リアルプロレスラー 美濃輪育久

no.70 表紙 ミルコ '04.01／880yen
年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!!
OH、ゴーバー登場!『ハッスル』とは何か!?
●PRIDE征服宣言! ミルコ
●シウバに宣戦布告! 近藤有己
●ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶
●発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&高田 '04.02／880yen
プロレスよ、踊れ!
3・7『ハッスル2』は大フィーバー!!
●『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ
●待望の『紙プロ』初登場! 川田利明
●理想のプロレスを追い求める! AKIRA
●スクープ! 幻の猪木 vs アミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ '04.03／840yen
最強への求道者たち全員集合!!
PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!
●GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル
●第二のミルコとなるか!? ステファン・レコ
●K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁
●全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

no.73 表紙 小川直也 '04.04／880yen
暴走王が忘れたころにやってきた!
PRIDE・GPでハッスルするぞ!!
●GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也
●PRIDE・GP出場全選手パーフェクトガイド
●キックの名伯楽登場! 伊原信一
●魔界のニューリーダー 村上和成

no.74 表紙 小川直也 '04.05／880yen
シュート? ワーク? くだらねえ、次元が違うよ!
いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!
●PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也
●リベンジロード発進!! 桜庭和志
●"ハードコアのカリスマ" ミック・フォーリー本誌初登場!
●擊剣会館皇帝 佐山サトル激語り!!

no.75 表紙 小川&桜庭&吉田 '04.06／880yen
英雄、奇蹟の揃い踏み! 小川、桜庭、吉田がPRIDE GP準決勝に集結!!
●シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也with藤井軍鶏侍
●奇蹟の独占インタビュー! 高田総統
●インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン
●年金未納からUFOまで ザ・グレート・サスケ

no.76 表紙 小川直也 '04.07／880yen
プロレス大爆発へ最後の挑戦!
ハッスルするなら今しかねえ!!
●スクープ発言連発! 小川直也
●小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ
●厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志
●新連載『月刊PG談（仮）』 吉田豪×掟ポルシェ

no.77 表紙 小川直也 '04.08／880yen
『PRIDE・GP決勝』直前濃密大特集!
小川、史上最大の査定試合へ!!
●「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」 小川直也
●狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ
●サンボの神様降臨!! ビクトル古賀
●ロシアで英雄と再会! ヴォルク・ハン
●幻想大国ロシア・現地潜入徹底リポート

通販申し込み方法
▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『紙プロHand』で注文
②電話注文 03-5368-1797
③メール注文 kapra@kamipro.com
※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。
※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。
ご注意 郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

no.78 表紙 小川直也 '04.09／840yen
『PRIDE・GP』徹底総括!
ハッスルとは出直しの連続なり!!
●衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也
●小川の敗戦をどう見る!? 高田PRIDE統括本部長
●K-1のトップが小川を語る 谷川貞治
●壮絶インディー人生! 田中将斗

no.79 表紙 高田総統&小川直也 '04.09／840yen
プロレス暗黒時代に魔王降臨!
高田総統の激白を独占スクープ!!
●ハッスルキャプテンに休息なし! 小川直也
●特別付録・高田総統特製ピンナップ
●谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』
●ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

no.80 表紙 ミルコ・クロコップ '04.10／880yen
『PRIDE.28』直前!
守護神ミルコ、外敵狩りへ——
●独占ロングインタビュー ミルコ
●ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也
●新連載! 佐山サトルの右流々ン探訪紀
●袋とじ企画・女子プロ界の謎に迫る! グリズリー岩本

no.81 表紙 桜庭和志 '04.10／880yen
サク、4度目のシウバ戦決定!
大晦日格闘技戦争・濃密大特集号
●ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ＆ノゲイラママ
●新日本でハッスル成功! 小川直也
●スーパーひとし君登場! 草野仁
●狂気の天才対談が実現!! 佐山サトル×船木誠勝

no.82 表紙 桜庭和志 '04.12／890yen
大晦日大戦・超直前特集号!
男のSADAME、見に来いやーッ!!
●「ボクは絶対に諦めない」 桜庭和志ロングインタビュー!!
●"道場破り"の全てを激白! 安生洋二
●WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪
●伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

no.84 表紙 セルゲイ・ハリトーノフ '05.02／880yen
ロシア人はロシア人が始末する!
ハリトーノフがヒョードルに宣戦布告!!
●PRIDE王座へまっしぐら! ミルコ
●"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ
●"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司
●"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

no.85 表紙 前田日明&高田総統 '05.03／860yen
PRIDE vs HERO'S開戦!
どっちが面白いか決めたらええんや!!
●PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、高田延彦
●パンクラス2大王者が揃い踏み! 高阪剛×近藤有己
●怒濤の37ページ!『前田イズムとは何か?』
●HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

no.86 表紙 ヴァンダレイ・シウバ '05.04／860yen
出場16選手を徹底分析!
PRIDE GP 2005開幕直前号!!
●大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司
●ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!
●皇帝、いざミルコ鎮圧へ E・ヒョードル
●PRIDE GP&K-1 WORLD MAX 出場全選手パーフェクトガイド

紙のプロレスRadical 常備店
■アイドール新宿店 ■書泉ブックマート
■新宿ファイター ■書泉ブックタワー
■プロレスマニア館 ■書泉グランデ
■チャンピオン ■グレートアントニオ
■タコシェ ■東京イサミ
■レッスル池袋

炸裂するサムライ魂!
武士道・四天王特集!!

Radical Back Number

BACK NUMBER

5・22『武士道』直前! 日の丸戦士たちの言葉に耳を傾けろ!!

no.53
"無謀美"美濃輪育久が『紙プロ』初登場!
"ノーフィアー"高山とリアル・プロレスラー対談!!
- 『Dynamite!』ド直前! 桜庭和志がミルコ戦を語る!!
- すべてガチンコ! 伝説の『LEGEND』徹底検証!!
- 昭和プロレスの驚くべき真実! サムソン・クツワダ
- 今となっては実現不可能!? クレイジーMAX座談会!!

'02.08 / 880yen

no.65
『PRIDE武士道』が遂に合戦開始!!
桜井マッハ速人、衝撃の野生児インタビュー!
- 3強揃い踏み!! ミルコ、ヒョードル、ノゲイラ
- PRIDEミドル級GP開幕戦を徹底検証!!
- 格闘技でンじゃラストーク炸裂! ギュウゾウ
- マット界にイリュージョン! 『ハッスル』誕生前夜!!

'03.08 / 880yen

no.66
マッハの野望を打ち砕いた"赤い暗殺者"長南亮!
「当然の結果。何回やっても勝てる自信はある」!!
- 武者修行中の美濃輪が、ブラジルでベルト獲得!!
- その"凄味"と"非常識"に触れろ! 近藤有己
- 15歳のVTデビュー! 天才空手少年・中嶋勝彦
- "プロレスの神様"再降臨! カール・ゴッチ

'03.09 / 880yen

no.83
破竹の5連勝! 中量級の鍵を握るのはこの男!!
『武士道』のエース・五味隆典の魅力に迫る!
- ミルコ、ヒョードル、ノゲイラ…『男祭り』大総括!
- 語ろう、我が青春の新日本 橋本真也×船木誠勝
- 驚愕の『シベ超』対談が実現! 水野晴郎×サスケ
- 飛び出せ名言・珍言!『マット界語録2004』

'05.01/ 880yen

バックナンバーは電話で注文できます!!

03-5368-1797

【平日15:00～22:00 (株)ダブルクロス】

no.15 表紙 小川直也 '99.02 / 780yen
リアル・アルティメット・クラッシュ!!
小川 vs 橋本"1・4事変"勃発!!
- あの"1・4事変"を徹底大検証!!
- "前田日明・最後の相手"
  アレキサンダー・カレリン
- 引退記念雑談会
  「語ろうマサ・サイトー!」
- S多重アリバイ 佐野雄飛

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03 / 780yen
格闘ノストラダムス!!
エンセン表紙初奪取号!!
- 環境問題を『紙プロ』で語る!!
  アントニオ猪木
- 完全無欠の怪物!!
  語ろうジャンボ鶴田
- 相撲多重アリバイ 石川孝志
- マーク・コールマン

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen
「格闘環境」は刻一刻と変化する!
ノア勢フルメンバーで登場!!
- 三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- プロレススーパースター列伝
  仲野信市
- 本誌独占ジャンボ鶴田夫人
  最愛の夫の真実を語る!!
- TKおかん

no.32 表紙 小川直也 '00.10 / 840yen
針はどちらに向くのか!?
新プロレス vs 純プロレス開戦!
- 田村潔司に快勝!
  A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
- プロレススーパースター列伝
  ラッシャー木村
- "和製カレリン"本田多聞

no.34 表紙 小川直也 '01.01 / 840yen
『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは
「闘い」を忘れたときに老いていく!
- UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- プロレススーパースター列伝
  ミスターヒト
- 修斗から『猪木祭り』へ! 宇野薫
- ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン(イラスト) '01.02 / 840yen
「純プロレス」を考え倒せ!
500人アンケートも実施!
徹底検証号
- ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- プロレススーパースター列伝
  ジョー樋口
- "ノアの怪物"杉浦貴
- UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也(イラスト) '01.02 / 840yen
新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
- ノアから独立!
  高山善廣を確認せよ!!
- ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言
- W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- 吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37 表紙 小川直也(イラスト) '01.04 / 840yen
小川と三沢が遂に絡んだ!!
純プロレス戦国絵巻
- 安田忠夫が借金から
  自殺未遂まですべてを語る!
- アブダビコンバット2001一大探検記!
- シュート活字×ファンタジー活字
- 他に比類なきプロレスが
  WWFにはある!

no.38 表紙 高田(イラスト) '01.05 / 840yen
小川と長州、どちらが
孤独だったのか!?
- 忘れ物の正体は――。高田延彦
- ヴォルク・ハンの最強の遺伝子
  E・ヒョードル
- プロレススーパースター列伝
  阿修羅原
- 死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06 / 840yen
どうなるんだ、リングス!
前田 is デッド!?
- 前田道場新エース・金原弘光
- 怪物か!? それとも……
  藤田和之座談会
- 壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen
猪木軍 vs K-1に見たいものは
"地上最強のプロレス"
- 蘇れ!Uインター&キングダム伝説!
  高山善廣×金原弘光
- 熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎
- プロレススーパースター列伝
  グラン浜田
- グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen
Can you カミングアウト?
"最後の黒船"WWF襲来!
- リングス10周年!
  ヴォルク・ハンが振り返る
- 真樹日佐夫×三池崇史
  巨頭対談が実現!
- W☆INGの真実・茨城清志
- 毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen
猪木なら何をやっても
許されるのか!?
- ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- "ヒャッホーの真実"辻よしなり
- 蘇れ!UWFインター伝説!!
  高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- 誇り高きルチャ戦士
  カト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.10 / 880yen
サクと『PRIDE』のケツに
火がついた!!
- ブラジリアン・トップチーム
  3大柱インタビュー
- 大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
- 金原弘光×サスケの
  新日本プロレス学校同窓会
- 野武士が語るんだよな 中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen
サクの連敗が『PRIDE』に
語りかけるものは何か?
- その修羅場の数々!
  シーザー武志
- 怪物伝承対談!
  高山善廣&杉浦貴
- ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- 闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen
「K-1 vs 猪木軍」命懸けの
エンターテイメント!!
- 悪魔の書、現る! ミスター高橋
- ジェラルド・ゴルドー人生相談
- プロレススパースター列伝
  グレート小鹿
- 語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen
WWE日本侵攻5秒前!
- "天才"武藤敬司が
  『紙プロ』驚愕の初登場!
- 噂の馳浩が新日分裂から
  ミスター高橋本までを語る!
- 第一次リングス閉幕特集
- プロレススーパースター列伝
  ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen
見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
- 奇跡のメガトン対談!
  小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- 和田最強伝説が遂に現実に!
  語り部・金原弘光
- 伝説の男が笑撃の登場!
  ジョー・サン
- WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン& 小川&桜庭 '02.04 / 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!!
マット界灼熱の噂!
- 和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- アレクに怒りの火を付けた
  菊田早苗とは何者か!?
- 破壊王も火のヤリ特訓!
  小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
- ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05 / 880yen
サクが笑えば、世界が笑う!!
- 「地方発世界」開始!
  小川直也&橋本真也
- リングスロシア軍団の軌跡
- パンクラス取材解禁!
  菊田、"尾崎の野郎"が登場!
- ギョ!?
  I編集長が新日本に三くだり半!

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen
ZERO-ONEに願いを!
- 両国国技館だよ、全員集合!
  橋本真也
- 『PRIDE』の魅力をマン開!
  小池栄子
- 天才が悩みに答える!
  武藤敬司人生相談
- 新・超獣 ザ・プレデター

no.52 表紙 OH砲 '02.07/ 880yen
見えない鎖を引きちぎれ!
小川直也リング外での暗闘!!
- 全身プロレスラー・高山善廣
- USAの渡世人ドン・フライ
- 『PRIDE』侵攻開始!!
  ロシアン・トップチーム
- 戦慄の『LEGEND』前夜!

売り切れ寸前!!

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08 / 880yen
不平等の時代を克服した
英雄ノゲイラ!!
- "首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー
- "青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット
- 純プロ頂上対談!
  武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- 猪木とは何か?
  アントン実兄・猪木快守

売り切れ寸前!!

言うちゃ悪いけど今月の直言

前田と永田のコメントをほったらかしにしておいて“暴露はダメ”だとか言うな!!

永田vs前田　仁義なき口ゲンカをブッタ斬る!!

プロレス・マスコミの哲人・I編集長の

喫茶店トーク V（バード）

PROFILE

井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けた人間は数知れない。バード（VTの意）、“殺し”、など、破天荒なI用語を次々と生み出している。

先月の「嵐山スペシャルバージョン」が大好評だった『I編集長の喫茶店トーク』。今月のお題はなにかと話題の前田日明vs永田裕志の仁義なき泥沼舌戦。カミングアウトすれすれのこの“口ゲンカ”を“I編集長”がブッタ斬ります！

聞き手／堀江ガンツ

design by さおとめの事務所

I編集長の喫茶店トークV

前田と永田がやってることこそ暴露合戦。ミスター高橋ですよ！

——さて、井上さん。今日はいまプロレス誌（紙）上で展開されている、前田日明と永田裕志の泥沼舌戦について、井上さんがどのように捉えているのかをお聞きしたいのですが。

井上　まぁ、その件については俺も捉えてはおるけどやね、これは具体的に話すと非常にヤバいテーマなんですよ。

——前田と永田のコメントの時点ですでにヤバいですからね（笑）。

井上　だからその前に一つ言っておきたいのだけれども、〝上井プロデュース〟や『WRESTLE—1』のイデオロギーというか方向性について、「プロレスルールによる真剣勝負じゃないか」と俺は書いたりトークしたりしてるわな。

——ここ数ヶ月、繰り返し言われてますよね。

井上　ところが、そういった俺の原稿に対して「それは〝プロレスが八百長だ〟ということを裏返しにして言ってるのと一緒だ」「あいつが言ってることは、ミスター高橋の暴露本だ」と。そういったことを言ってる団体関係者やマスコミの連中が相当おるらしいんだよ。

——ほうほう。

井上　要するに井上義啓は暴露本を裏返して言ってるんだと。でも俺はそんなこと言ってないんだよな。だから、もういっぺん君んとこの誌面で活字にさせてもらうけども、俺は「プロレスルールによるホンマもんの勝負」と言っただけでね、ハッキリ言ってドッキ合いのケンカだとか、目ん玉をえぐるだとか、そういったことは言ってないのよ。

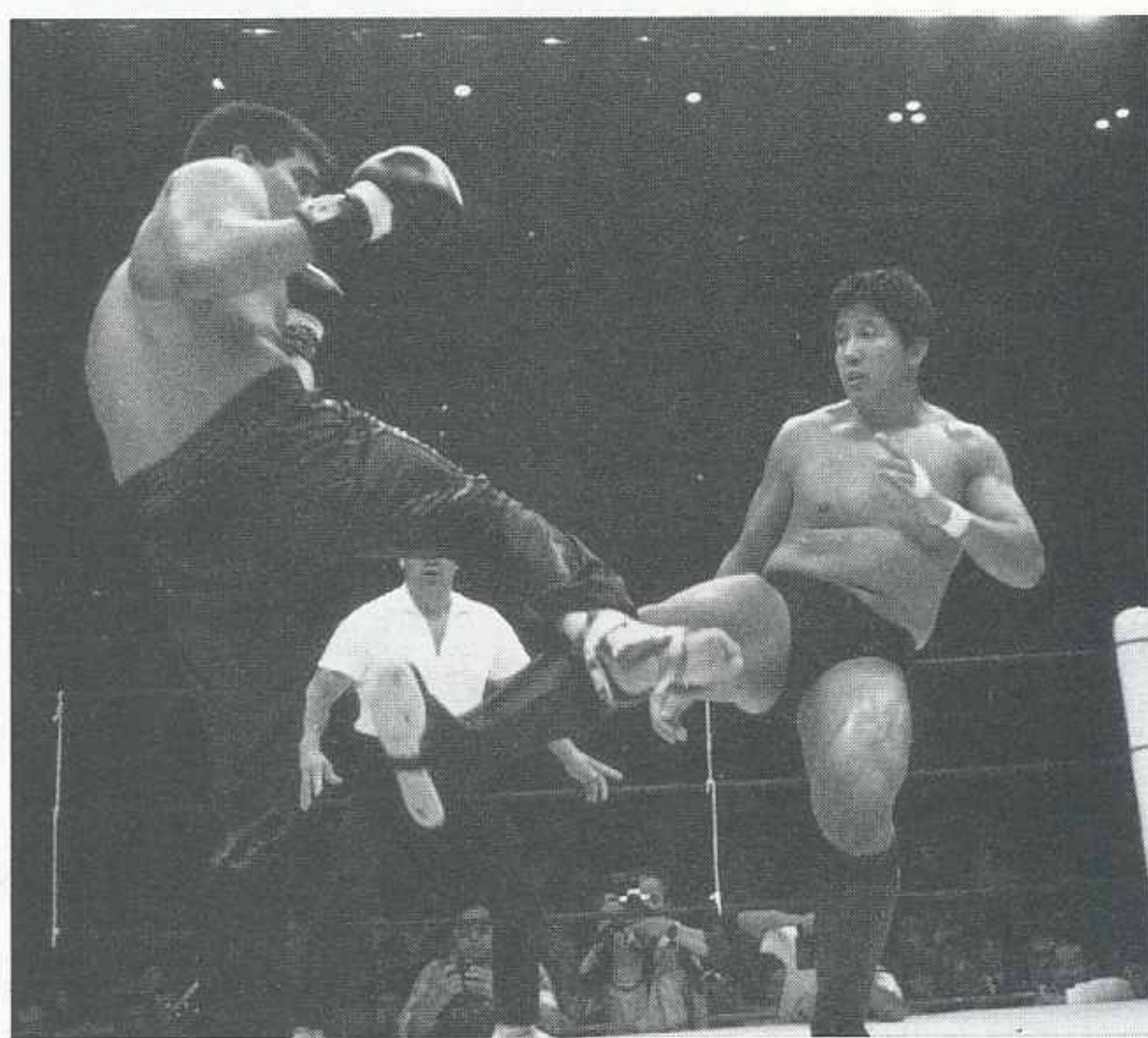
——確かに目ん玉をえぐれとまでは言ってませんよね（笑）。

井上　それなのに、そういったことだと考えてるバカがおる！　たとえ俺の言ってることで暴露的なことがあるとしても、じゃあ、〝大阪の馬鹿〟だけがそんなこと言ってるのかと。それを言うなら前田と永田がやってるのは、アレなんなんだと！

——あれこそ暴露じゃないかと（笑）。

井上　そ〜うですよ！　あれこそ暴露合戦！　ミスター高橋ですよ！

——前田も永田もミスター高橋（笑）。

井上　「大阪の馬鹿が言ってることは、ミスター高橋の暴露本と同じだ」と言った馬鹿に、その言葉をそっくりそのまま返してやるよ。

異種格闘技戦史に残る名勝負であり、前田日明のベストバウトという声も多い伝説の前田vsドン・ナカヤ・ニールセン戦。陰謀渦巻く当時の新日マットゆえに、他の格闘技戦とは一線を画す緊張感溢れる闘いではあったが、現在の価値観で見るとまた評価が違ってしまうのも事実だ。

前田と永田が言ってるのは何なんだと！

——井上さんが暴露だったら、あれも思いっきり暴露ですよね（笑）。

井上　そうじゃないか！　永田が言ってる「俺のヒョードル戦とニールセン戦はジャンルが違う。一緒にするな」という発言はなんなんだよ。「かつての前田vsニールセンというのは異種格闘技戦であって、異種格闘技戦とは何かと言えばそれはプロレスだ」と。「ハッキリ言えば筋書きがある。極端に言えば、あれは前田が勝つことになってた」と、そう言うてるわけだろ！

——まぁ、普通の国語力のあるファンだったら、そう読みますよね（笑）。

井上　でも「俺がやったヒョードルとの試合は純然たるバーリ・トゥードであって、これは真剣勝負だ」と。「それで俺は負けたし、前田はニールセンに勝ったけれども、同じように勝ち負けで言ってくれるな」と。それが永田の言い分ですよ。

——まさにそうですよね。

井上　それを「ああ、そうか。じゃあ、同じルールとリングを持ち込んでやるから、クルーザー級のチャンピオンとやれ」と言ってるのが前田の言い分でしょ？　もうこれは俺が言ってるどころの騒ぎじゃないですよ！　そんなもんね、ハッキリ言って、プロレスの恥部の恥部の恥部を見せ合ってるじゃないか！

——しかも20年前のものをわざわざ掘り返して（笑）。

井上　しかも前田は「今度の5・14ドームで高阪と永田がやるけれども、プロレスで永田が勝ったところで俺は認めない。総合で勝ったら認める」と言ってるわな。

——「俺が高阪に『プロレスじゃなくて、シュートで行け』と言えばすむこと」とも言ってますね（笑）。

井上　いま言ったことは活字にもなってるし、みんな知っとる話だ。これは一体なんなんだよ！　これこそやね、ハッキリ言ったら暴露対談のトップじゃないか！

——ある意味、一線を越えてますよね（笑）。

井上　そういった発言をほったらかしにしておいてやね、「〝大阪の馬鹿〟が……」とか言うとる関係者がおるんだから、全然わかってない！　そういった誤解があるだろうから、俺はなんべんも言ってるのね。「プロレスルールでの真剣勝負」とは、かつて国際プロレス時代にビル・ロビンソンがピンピンしているマイティとか井上を小包固めで動けなくしただろうと。

——井上さん、マイティも井上も同一人物です（笑）。

井上　（聞かずに）そういったことを実際やっていたんだから。やれんことはないというのを根拠に言うとるだけであって、何も「どつき合いの喧嘩をしろ」「ドスを持って来て相手の金玉をえぐれ」なんて俺は一言も言ってない！

——少なくとも「金玉をえぐれ」とは一言も言ってませんね（笑）。

井上　そう言ってると思っとるバカがいるんだよな！　別に俺は一匹狼だし、フリーだし、編集長でもなんでもないんだから、何を言われようが団体を出入り禁止になろうが構わないわけよ。もういまは会場には絶対に足を入れないことにしとるから。

——PPVで見れるからですか？

井上　それもあるんだけど、極端な話、ある団体の会場に行ったとき受付で俺の顔を見た瞬間にプイと横を向いた奴がおるんだよ。

——そんな失礼な受付がいるんですか！

井上　ああ、おる！　しかも言うに事欠いて

今のレスラーには〝殺し〟がない！前田がホントに言いたいのはそれ

「オタクはどちらさんですか?」だと。どついたろかと思ったよ！

——そりゃキレますよね！

井上 そんな奴がおるんだよ！　こんな閉鎖的なね、いつまで経っても「臭いものに蓋」……今年は平成何年だよ！（ドンッ）

——平成も17年になります（笑）。

井上 しかもK—1や『PRIDE』がなかったら、まだわかるけれども、この2つがあって、真剣勝負かどうかというのはハッキリしてるんだよ！　それなのに未だに「臭いものには蓋をしてください」。……もう話にならんですよ（寂しそうに）。

——蓋をするのもとっくに限界超えてますよね。

井上 だから俺はもうハッキリ言ってプロレスの会場にも行かないし、関係者と会って話もしないし、とにかく今はPPVで見るだけで十分ですよ。新日の両国なんかにしても、PPVで見ようとしたら見れるからね。まぁ、見ないけどね。

——見ませんか（笑）。

井上 まぁ、それでも前田と永田の舌戦のおかげで、今度の5・14ドームの観客動員的には、新日本は得したんとちゃう?

——まぁ、ネガティブながら話題にはなってますからね。それ以外の試合が話題にならなすぎなんですけど（笑）。

井上 だいたい、この間の3月の永田vs高阪のままだったら誰も行かないですよ。ハッキリ言って2回やろうが3回やろうが、「あっそう」で終わり。でも、今度は違うからね！

——どんな試合になるのか、5・14ドームで一番の注目カードですよね。それにしても、これまでほとんどタブーだった内容である今回の前田と永田舌戦を、新聞や週刊誌がガンガン載せてるのが不思議なんですけど。

井上 だからね、暴露本的な記事は載せるなというなら、前田と永田の記事も載せるなよ。そういったことをしゃあしゃあと載せている新聞があるのに、「〝大阪の馬鹿〟が何を言ってる」と言い出すこのナンセンスね！

——『紙プロ』や井上さんが出入り禁止なら、あれを載せたスポーツ紙、プロレス専門誌はみんな閉め出さなきゃウソですよね。

井上 そういうことですよ。こんなことを野放しにしておいて、人が「真剣勝負」という言葉を使ったことをやり玉に挙げる。こんなのはどう考えたって納得いかないし。そういうことが永田と前田問題の根幹ですよ。

——ただ、もう永田や前田のコメントも何も全部出さざるをえない時代なんですよね。

井上 そうそう。これが時代なんだよ！　だから俺は言っとる。「プロレスにおいて『八百長』という言葉は死語になった」と。誰も真剣勝負だと思ってないんだから！

——ダハハハ、いまのファンの大半はそうでしょうね（笑）。

井上 何回も言うてるけど、『水戸黄門』を見て「八百長だ」と言う馬鹿はいないからね。『七人の侍』にしたって、俺の大好きな『晩春』にしたってもちろん脚本があるけれども、それをガタガタ言う奴はいない。おんなじことだよ。いまのWWEを見て「八百長だ」と言う馬鹿はいないんだから。

——WWEはとっくにそういうことを超越してますからね。

井上 そう！　筋書きはあるけれども、いかに凄い試合をするか。いかに凄い身体で出てくるか。もの凄い身体で出て来て、その巨体でスピーディーな試合をやってね、ウワーというようなパワフルな技を使うわけよ。だから銭が取れるんだよな！　筋書きがあるけれども凄い試合をやる、それがプロレスなんだよ！　もしかしたら上井さんも『WRESTLE—1』でそれをやろうとしてるのかもしれない。

——ほう！　上井プロレスはWWEを目指してるかもしれない！

井上 それはなにもエンタメをやるというわけでなく、凄い試合をするということですよ。おそらくジャイアント・バーナードだとかを使うことを考えとるんじゃないかと思う。あれは凄い試合をするからね〜。だから今のプロレスだってね、まだまだ活路というか銭が取れる方法はあるわけですよ。

——それをしないからダメだと。

井上 そう。腹はボテーとしてるし、スピードはないし、頭上30センチぐらいをラリアートで空振りしてるからダメなんだよ！　俺はなにもプロレスがダメだというんじゃなしに、そういった見え透いたことをやるなと言ってるだけでね。エンタメプロレスならしっかりとしたエンタメを見せればいいんですよ。ただ、プロレスには〝ハプニング〟というのもあるからね。

——ハプニングですか?

井上 例えば、2月20日の小島vs天山にしたって、あれはひとつのハプニングですよ。ハッキリ言うたら、あれは両者引き分けにしようとしていたに違いないんだから。俺の推測ですけどね。そういうことがあるのよプロレスには。

——リング上では何が起こるかわからないということですね。

井上 そう。猪木の試合にはそれがあったしね。アクラム・ペールワンとの試合にしたって、俺に言わせればハプニングですよ。

——意図しないところで、ああなってしまったと。

井上 新間氏が言うとったよ。「言葉が通じなかったんだ」って。お互い通訳立ててやってたけどね、通じないままやってしまったと。それで猪木はアームロックで音を上げてくれ

今年に入ってからカミングアウトすれすれの素晴らしい発言を連発している永田。スキャンダルを経営に結びつけて、ゼヒ違った意味でブレイクしてほしい逸材だ。

るだろうと思ったけど、いつまでたってもギブアップしない。そりゃそうでしょう、死んでもギブアップしませんよ！　ペールワンはパキスタンの英雄ですからね。仕方がないから猪木はギクッと行ったと。だからあれはハプニングですよ。

——なるほど。

井上　それを捕まえて「あれは筋書きがあった」と言うやつがおるけれども、筋書きがあったかもしれないけど、図らずもああいった壮絶な結果になったんだよ。シュツッドガルドでやったローラン・ボックとの一戦もそうですよ。あれはある意味、真剣勝負ですからね。ああいうことは猪木にはあったんだよな。ハッキリ言うたら、誰かさんにはないけどね。

——誰かさん（笑）。

井上　だから俺は猪木を買ってるんだよ！　パクソンナン戦にしたって、君らも知ってるだろうけどホンマもんのケンカだからね。だから、少なくとも新日本プロレスはそういった試合をやってもらいたいんだけども、猪木以来そういった試合はでてこない。

——1・4小川vs橋本戦ぐらいですよね。

井上　というのは、ホンマもんの〝殺し〟がもう新日本プロレスにないからですよ。ハッキリ言って、いまの永田にしても中西にしたって〝殺し〟がない！　だから（VTで）コテッとやられるのよ。

——前田も永田に対してホントはそういうことが言いたいんでしょうね。

井上　そうですよ！　ホントは前田も「殺しがない」と言いたいんだと思うよ。やっぱり前田にしたって、アンドレ戦だとか、長州の顔面蹴撃だとか、ああいったことをやってきたわけですよ。いま、それがあれば、プロレスもまだ持ちこたえてたと思うけど、いまはみんな大学出のお坊ちゃんばかりだからね。

——そういうプロレスを復活させるのは、なかなか難しいですよね。

井上　だから前田と上井さんがやろうとしていることは、非常に難しくて、ホントの意味で改革であり、イデオロギーの発露ですよ。だから俺も同調するわけでね。ただ、これは諸刃の剣ですよ。やりそこなったらおしまいよ。

井上さんも絶賛の山本KID vsザンビディスの一戦。初のKO負けを喫したKIDが次に上がるリングは『HERO'S』か、それとも……？

I編集長の喫茶店トークV

ハリトーノフvsイグナショフならPPV1万円でも見ますよ！

——『PRIDE』やK—1がある時代にやるのは難しいですよね。

井上　『WRESTLE—1』が延期を続けてるのもわかるよ。だから俺はとりあえずこれをもって上井プロレスについてトークするのは封印するから。あとは旗揚げ戦をやって2戦、3戦とやったときに言うべきことはいいますよ。いまはまだわからんからね。

——では、上井プロレスの話は旗揚げしてからまたうかがいます。

井上　そういったこともあって俺は今日ホントは、この間のK—1ラスベガスの試合とか、そういった話をしたかったんだよ。

——あ、そうだったんですか（笑）。

井上　マイティ・モーにしたってK—1MAXのザンビディスにしたって非常に面白い。『PRIDE・GP』もシュートボクセとブラジリアン・トップチームが2人ずつ勝ち上がって、いよいよ直接対決も濃厚だ。これを見てもわかるように。もうチーム同士の争いになっていくわけであって、『PRIDE』なら『PRIDE』、K—1ならK—1というコップの中の嵐ではなく、吉田道場、トップチーム、クロコップチームなど、小軍団がひしめき合って、闘うことになる。

——チーム対抗戦みたいになりますか。

井上　そう。だから今年の大晦日は『PRIDE』とK—1が何人か出し合って、ホントの意味での対抗戦をやってほしいんだよな。そうなったら凄いことになるぜ！

——そりゃ凄いことになるでしょうね（笑）。

井上　とにかく『PRIDE』からはミルコ、ヒョードル、シウバ、ショーグンといった蒼々たるメンツがおるし、K—1にもザンビディスや山本KIDを始めとして凄いのがおるからね。恐らくそうなるとイグナショフも出てくるだろうしね。この男を忘れちゃいけませんよ。そしてハリトーノフをやらせろと。それからマイティ・モーvsシウバのどつき合いとかね。そしたら面白くなるぜ〜。

——いやぁ、素晴らしいカードです（笑）。

井上　そしてどつき合いのケンカとなったら、〝アマゾンの大巨人〟も黙ってないでしょうからね。

——あ、ここでやっぱりモンターニャ登場ですか！（笑）。

井上　そりゃそうですよ！　でも、曙やサップはお呼びじゃない。

——〝大晦日男〟であるその2人は早くも落選決定ですか（笑）。

井上　いまさらあの2人が出てもどうにもならないんであってね。マイティ・モーとかマーク・ハントみたいなホントに強いやつを出さなきゃダメですよ。それで『PRIDE』vsK—1をやってごらんよ、そんなもんアンタ、10万円の特別席が飛ぶように売れますよ！　PPVも1万円！

——1万円PPVですか！

井上　これが1万円で見られたら安いもんだぜ〜。こんなのが実現したら、ますますプロレスは入りませんわな。ま、そういった妄想で今日の話は終わり。

——ありがとうございました（笑）。

【05年5月7日／電話取材にて収録】

RADICAL CALENDAR

5 MAY

16 MON.
NEO■東京・板橋グリーンホール（19:00）

17 TUE.
NOAH■新潟・新潟市体育館（18:30）
AtoZ■北海道・倶知安町総合体育館（18:30）

18 WED.
NOAH■富山・富山産業展示館テクノホール（18:00）
AtoZ■北海道・旭川市大成市民センター（18:30）

19 THU.
AtoZ■北海道・北見市立体育センター（18:30）

20 FRI.
全日本■東京・後楽園ホール（18:30）
ZERO-1 MAX■大阪・大阪府立体育会館 第2競技場（19:00）
みちプロ■福島・田島町民体育館（18:30）
IWA JAPAN■神奈川・横浜赤レンガ倉庫（18:30）
AtoZ■北海道・伊達市体育館（18:30）

21 SAT.
新日本■神奈川・平塚総合体育館（18:30）
NOAH■青森・青森産業会館（18:00）
ZERO-1 MAX■和歌山・和歌山県立体育館（18:30）
みちプロ■福島・鏡石町営鳥見山体育館（18:30）
DRAGON GATE■群馬・サンピア高崎（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
666■東京・バトルスフィア東京（18:30）
AtoZ■北海道・函館市民体育館（18:30）
JWP■福岡・大野城まどかぴあ（18:30）
格闘美■東京・新木場1st RING（18:30）
キングダムエルガイツ■東京・ファーストスピリット（19:00）

22 SUN.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
全日本■熊本・山鹿市民センター（17:30）
NOAH■北海道・函館市民体育館（17:00）
ZERO-1 MAX■岡山・岡山県卸センター展示場オレンジホール（15:00）
みちプロ■山形・朝日町民体育館（14:00）
DRAGON GATE■埼玉・越谷桂スタジオ（16:00）
大日本■静岡・焼津市民体育館（18:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
IWA JAPAN■東京・大泉学園北園バス停横広場（13:00）
DDT■大阪・アゼリア大正（13:00&17:30）
AtoZ■北海道・札幌テイセンホール（15:00）
LLPW■東京・後楽園ホール（12:30）
JWP■山口・海峡メッセ下関（17:00）
PRIDE武士道-其の七-■東京・有明コロシアム（16:00）
修斗■岡山・津山コミュニティーセンター（16:00）

23 MON.
全日本■福岡・小倉北体育館（18:30）
IWA JAPAN■東京・後楽園ホール（18:30）

24 TUE.
新日本■静岡・キラメッセぬまづ（18:30）
全日本■大分・佐伯青果場（18:30）
NOAH■北海道・岩見沢市スポーツセンター（18:30）
ZERO-1 MAX■鹿児島・大口市体育センター（18:30）
AtoZ■北海道・小樽市民会館（18:30）

25 WED.
全日本■大分・大分イベントホール（18:30）
ZERO-1 MAX■熊本・熊本市興南会館（18:30）
DRAGON GATE■長崎・対馬シャインドームみね（19:00）
AtoZ■北海道・滝川市青年体育センター（18:30）
シルバーウルフ■東京・六本木ベルファーレ（19:00）

26 THU.
全日本■熊本・八千代市総合体育館（18:30）
NOAH■北海道・帯広市総合体育館（18:30）
ZERO-1 MAX■福岡・博多スターレーン（19:00）
DRAGON GATE■福岡・久留米リサーチパーク（18:30）
AtoZ■北海道・釧路市観光国際交流センター（18:30）

27 FRI.
新日本■群馬・太田市新田総合体育館エアリスアリーナ（18:30）
DRAGON GATE■福岡・小倉北体育館（18:30）
ZERO-1 MAX■長崎・ncc＆スタジオ（18:30）
みちプロ■福島・田村市船引体育館（18:30）
DRAGON GATE■福岡・小倉北体育館（18:30）
K-1 WORLD GP■フランス・ベルシー体育館

28 SAT.
新日本■埼玉・草加市スポーツ健康都市記念体育館（18:30）
全日本■福岡・甘木青果市場（18:00）
NOAH■北海道・釧路市鳥取ドーム（18:00）
みちプロ■青森・尾上町おのえスポーツセンター（18:30）
DRAGON GATE■福岡・行橋市民体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
SPWF■東京・西調布アリーナ（18:30）
AtoZ■北海道・帯広市総合体育館（18:30）
キングダムエルガイツ■東京・ファーストスピリット（19:00）
アブダビコンバット■米国カリフォルニア・ザ ピラミッド

29 SUN.
新日本■東京・後楽園ホール（12:00）
全日本■兵庫・神戸サンボーホール（17:00）
NOAH■北海道・北見市立体育センター（18:00）
ZERO-1 MAX■静岡・ツインメッセ静岡（16:00）
みちプロ■宮城・東松山市体育館（15:00）
DDT■東京・新木場1st RING（18:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（13:00&16:30）
FUCK!■大阪・羽曳野J2K道場（14:00）
AtoZ■北海道・共和町民センター（18:00）
新日本キック■東京・後楽園ホール（17:00）
修斗■東京・北沢タウンホール（18:30）
アブダビコンバット■米国カリフォルニア・ザ ピラミッド

31 TUE.
NOAH■北海道・旭川地場産業センター（18:30）
AtoZ■北海道・根室青少年センター（18:30）

6 JUNE

1 WED.
NOAH■北海道・名寄市スポーツセンター（18:30）
ZERO-1 MAX■茨城・西部総合公園体育館（18:30）
DRAGON GATE■兵庫・神戸チキンジョージ（19:00）
AtoZ■北海道・苫小牧総合体育館（18:30）

3 FRI.
全日本■東京・後楽園ホール（18:30）
ZERO-1 MAX■山形・山形市総合スポーツセンター（18:30）
みちプロ■山形・南陽市民体育館（18:30）
修斗■東京・北沢タウンホール（18:00）

4 SAT.
NOAH■北海道・札幌メディアパークスピカ（18:30）
ZERO-1 MAX■宮城・若柳町中央公民館（18:30）
みちプロ■岩手・遠野市民体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（18:30）
格闘美■東京・新木場1st RING（18:30）
我闘姑娘■東京・板橋グリーンホール
DRAGON GATE■北海道・札幌テイセンホール（18:00）
グラジエーター■韓国ソウル・オリンピック公園第1体育館

5 SUN.
NOAH■北海道・札幌メディアパークスピカ（16:00）
DRAGON GATE■北海道・札幌テイセンホール（13:00）
みちプロ■岩手・岩手町トレーニングセンター（15:00）
リキプロ■東京・後楽園ホール（12:00）
バトラーツ■埼玉・桂スタジオ（17:00）
北都プロ■北海道・琴似パトス（14:00）
JWP■東京・JWP道場（16:00）
パンクラス■東京・大森ゴールドジム（14:00）

7 TUE.
NOAH■宮城・宮城県スポーツセンター（18:30）

8 WED.
大日本■神奈川・横浜文化体育館（18:30）
DDT■東京・新木場1st RING（19:30）

9 THU.
リアルジャパンプロレス■東京・後楽園ホール（18:30）

10 FRI.
新日本■兵庫・明石市立産業交流センター（18:00）
NOAH■東京・後楽園ホール（18:30）

11 SAT.
新日本■岡山・山陽ハイツ（18:00）
DRAGON GATE■愛知・東海市民体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
AtoZ■山形・山形市総合スポーツセンターサブ（18:30）
格闘美■東京・新木場1st RING（18:30）
D.O.G.■東京・ディファ有明（17:00）

12 SUN.
DRAGON GATE■埼玉・本川越ペペホールアトラス（17:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（17:00）
AtoZ■秋田・大館市民体育館（17:00）
全日本キック■東京・後楽園ホール
新日本キック■東京・ディファ有明
J-NETWORK■東京・大森ゴールドジム

13 MON.
新日本■大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:30）

14 TUE.
全日本■東京・新木場1st RING（18:30）
K-1 WORLD GP■広島・広島グリーンアリーナ（17:00）

15 WED.
新日本■岡山・津山市総合体育館（18:30）
全日本■千葉・東金アリーナ（18:30）
DDT■東京・新木場1st RING（19:30）

16 THU.
新日本■徳島・阿南市スポーツ総合センター（18:30）

17 FRI.
新日本■香川・高松市総合体育館（18:30）
全日本■岩手・岩手県営体育館（18:30）
みちプロ■秋田・鳥海町トレーニングセンター（18:30）

18 SAT.
新日本■京都・京都市体育館（18:00）
全日本■福島・白河中央体育館（18:30）
みちプロ■青森・名川町B＆G海洋センター（18:30）
DRAGON GATE■岐阜・岐阜商工会議所（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
NEO■福井・敦賀市きらめきみなと館（18:30）
IKUSA■東京・Zepp Tokyo（17:30）

美濃輪の後見人にして韓国格闘技界とのパイプ役

その正体は……PRIDEを作った男だった!!

のリング

CMA会長

諸岡秀克

「いつもリングサイドで見かけるあの人は誰なんだろう？」と、誰でもプロレスや格闘技を見ながら気になっている人はいるだろう。今回紹介するのはそんな中の1人、総合格闘技団体CMA（CentralMartialAssociation）会長・諸岡秀克氏。美濃輪育久の後見人、韓国格闘技界とのパイプ役、ドラゴンゲート、AtoZのプロモーター、さらには日本のプロレス&格闘技団体のほとんどのリングも作ったという、この男の正体に迫ってみました！

聞き手／松澤チョロ designed by Shirak(TwoThree)

AtoZ■北海道・滝川市青年体育センター（18:30）
シルバーウルフ■東京・六本木ベルファーレ（19:00）

5 SUN.

――ここ最近、韓国格闘技界と日本の格闘技界との橋渡し役的な存在となった諸岡さんに、よくお見かけするようになった諸岡さんに、いろいろとお話をうかがえればと思ってます。

諸岡 よろしくお願いします。

――諸岡さんといえば、美濃輪選手の後見人でもあるんですよね。

諸岡 そうですね。美濃輪は昔から見てきたんだ。

――さかのぼれば、美濃輪さんがパンクラスのプロテストに落ちて、帰りの新幹線で一緒になったのが一番最初の出会いだったみたいですけど。

諸岡 そうそう。そのときにウチの井場（正和）っていう選手も受けさせに行ったのよ。で、井場と美濃輪は100%受かるなって、その日見てたんだけど、そしたら、そのときは全員落ちたの。

――えっ、1人も合格者なしだったんすか？

諸岡 誰も受かんなかったの。もうこれ10年も前の話だから言っちゃっていいと思うんだけど、廣戸さん（パンクラスレフェリー）と鈴木みのるの両方に聞いたの。「あのレベルでどうして落ちるの？」って。そしたら「実はいま新弟子が多すぎて、入る部屋がないんです」って（笑）。

――そんな理由でしたか（笑）。

諸岡 まだその頃、パンクラスって出来たばかりで、建前と本音があって、要はテストだけはしないとまずいし、「受け入れの箱がないんで、今回は全部見送りました」って言うの。それで、俺は帰り際に自動販売機があったから1人で買ってたのさ。で、パッと見たら美濃輪がいて「キミ、ゼッケン何番だったよな。惜しかったなぁ」って声かけて、「どっから来たの？」って言ったら「岐阜です」って言うから、「じゃあ、一緒に帰ろうか」って言って。それで「どこで練習してるの？」とかいろいろ聞いたら、練習場所がないみたいだったから、「良かったらウチに来てみるかい？」って言って、それからアイツは岐阜から岡崎までず～っと通うようになったのさ。

――岐阜から岡崎っていうと、かなり距離はあるんですよね。

諸岡 うん。で、美濃輪は三洋電機かなんかの関連の下請けの仕事をやってたんだ。で、「岡崎で働かせてくれないですか？」って言うから、「じゃあ、いま働いてるとこの社長に先に事情を話せ」って言ったの。どんな企業でも、おそらく後釜が見つかるまではダメだと言うと思うから、それをキチンとしてクリアしてくるならいいよって言ってさ。

――ちゃんと、その辺はクリアして出てきたわけですよね？

諸岡 たしか2ヶ月ぐらいあとに来たんじゃなかったかなぁ。それで、ウチは格闘技バカとかプロレスバカを作りたくないから、もしケガとか、いろんなことでリタイアしなきゃいけなくなっても、一般社会にすぐ適応できるように昼は仕事やってもらうぞって言ったの。

――それは美濃輪さんに限らず、諸岡さんがやられている誠ジムの決まりというか、条件なんですよね。

諸岡 そうそう。それからの練習だと。アイツは1回落ちちゃったけど、目標はパンクラスだったから。それでウチは、仕事やって、夜だけの練習でもパンクラスより強くなる選手を育てたいなっていう意地があったの。で、その中で美濃輪だけがホントにプロになりたいっていう意欲持ってたのさ。

――最初から美濃輪さんはプロ志望が凄く強かったんですね。

諸岡 そう。当時、ウチのジムには強い選手がもっといたんだけど、彼らはプロにはなろうとしなかったの。それに、いまみたいに、まだウエイト制がなかったじゃないですか？

――そうですね。

『武士道』の上山戦のあとに、美濃輪を丸坊主にさせたことがあったのさ

諸岡 当時はフリーで大きくなきゃ出来ないっていう感じでしょ。

――まだパンクラスとかもそんな感じでしたからね。

諸岡 でも不思議なことに、みんなで美濃輪をパンクラスに送り出そうっていう団結力が出来てたのさ。

――へぇ～。

諸岡 だから、いま思うと途中から美濃輪重視の練習になってたなぁ。

――諸岡さんはパンクラスの入団テストで美濃輪さんを見たときから、「コイツは他の選手とは違うな」っていうのを感じてたわけですか？

諸岡 もう全然違うなと思ったね。美濃輪とウチの井場は100%受かると思ってたんだけど、さっき言った理由で落とされて。プロテスト見たの、そのときで2回目なんだよ。で、前回見たときよりも、この2人はレベル高いのにって思って。井場の方は、その話を聞いたときにパンクラスというものに魅力を感じなくなったと思うんだ。テストやったのに、そういう理由で落とされたっていうことに凄く不快感を感じたみたいで。自分のレベルが低くて落とされたんじゃなくて、住む寮がないからっていう理由だったからね。

――それはガクッってなったでしょうね。でも、そんなことがありながらもジム全体で美濃輪さんをバックアップして、ネオブラッドトーナメントでの活躍が認められて晴れてパンクラス入りとなるわけですよね。

諸岡 あれは運が良かっただけじゃない？（笑）。

――いやいや、そんなことはないと思いますけど。

諸岡 パンクラスが名古屋で大会やったときに、ウチがリングを持って行ったの。そしたら、船木（誠勝）が思いつきで、「窪田（幸生）とちょっとスパーリングやってごらん」って美濃輪に言ったの。そのとき美濃輪はリングの設営で行ってるから何も持ってないのね。で、高橋義生がジャージ貸してくれてやったんだけど、そんときに窪田から結構取ってたんだよね。そしたら、そのあとに、すぐに尾崎さんから電話があって、「美濃輪、ウチで受け入れますけど、どうしますか？」って言うから「ああ、いいよ」って言って。

――そのときは、トントン拍子で話が進んだんですね。

諸岡 そうそう。そのときに尾崎さんと、船木、鈴木にも言ったわけ。「美濃輪はそっちへ預けるという形になるから、本人にも言ってあるけど、君たちが俺に会っても社長という言葉はやめてくれ」って。「話するときは「諸岡さん」って呼んでくれ」って。その方が、彼らも扱いやすいと思ったしね。

――諸岡さんはパンクラスのリングを作ったりして、その頃から尾崎社長をはじめ選手たちとも面識があったんですよね。

諸岡 そうなのさ。だから、変に気を遣わせたくないなって思ったの。

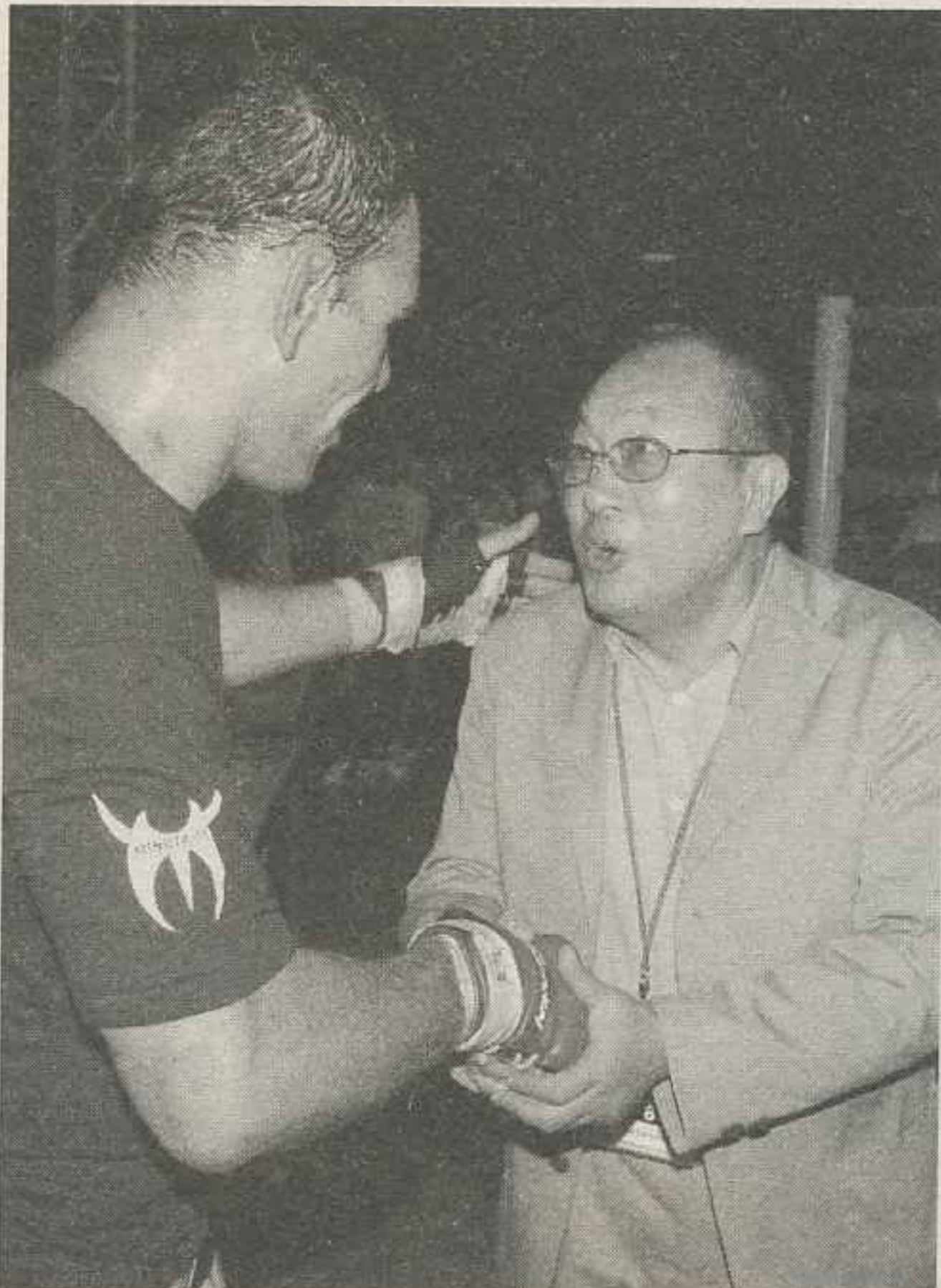
――パンクラス入りを目標としてたわけですから、美濃輪さんは、その話を聞いたときは大喜びだったんじゃないですか？

諸岡 そうだね。ただ、入ったはいいけど、一年は全然芽が出なかったでしょ。

――あれ、最初はあまり活躍できなかったでしたっけ？

諸岡 もう全然ダメ。それで、鈴木に会ったときに「東京道場から横浜へ移してくれ」って言ったの。で、その頃はパンクラスと凄い懇意にさせてもらってたから、船木って、こんなこと言っちゃ失礼だけど、選手を作れないと思うんだ。

――どうなんでしょうね。近藤選手とか渋谷選手とかは船木さんが育てたイメージが強いですけど。

諸岡 結果的に個性を引き出せないっていうのかな。自分のコピーを作ることは出来るけど、選手って、身長、体重、筋肉の固さ、柔らか

もろおか・ひでかつ■北海道出身。「有限会社・誠産業」の代表にして、CMA（中京格闘技連盟）の会長。韓国に総合を持ち込んだ男としても有名。リング製作職人の第一人者として、PRIDE、NOAH、DRAGON GATEなど、新日本、K－1以外のほとんどのリングを製作している。一方でDRAGON GATEやAtoZなどプロレス団体のプロモーターとしての顔も持ち、日本全国を駆け回っている。趣味は孫と一緒に行くスーパー銭湯とのこと。

さ、全部人それぞれ違うじゃない？

——当然違ってきますよね。

諸岡　俺なんかは、苦手なモノがあったとしても、それ以上のことをすれば、苦手なモノも克服できるぞって言うの。苦手なモノを7割練習させるんじゃなくて、やはり得意なモノを8割練習させて、2割苦手なものをやらせた方がいいと。誰でもそうじゃない？　苦手なモノって、なかなか上達しないじゃない？

——まあ、そうですよね。

諸岡　その点、鈴木は選手を作るのはうまいなと思ったの。で、美濃輪は横浜道場に行ってから変わったのさ。これはやっぱり、俺の作戦当ったなと。これは俺と鈴木の2人だけの裏話にしといて鈴木に頼んだんだ。で、鈴木も「前から俺も呼ぼうと思ってたんだ」って言ってくれて。

——それから、リング上で結果が出るようになったんですね。

諸岡　そうなの。いい形で勝っていくようになったから。

——一時期は結果も試合内容も凄くいい試合が続いてましたけど、パンクラスを退団する前は、ちょっと不本意な試合が続いてましたよね。

諸岡　うん。ただね、美濃輪は本来決して強い選手じゃないの。弱いの、アイツ。

——技術的な部分だけで言えば、美濃輪さんより上の選手はたくさんいるでしょうからね。

諸岡　そう。アイツが強いのは運！いや、運のみ（笑）。

——いやいや、運だけってことはないでしょうけど（笑）。

諸岡　ある意味、一発屋だね。それとね、ヤツは喘息なのよ、先天性の。

——ちょっと聞いたことありますね。ボクは喘息の苦しみはわかんないですけど、高山選手とかも、いまだに苦しんでるって言いますからね。

諸岡　だから、タイとかブラジルとか暖かいところで練習してるときは凄くいいんだけど、やっぱり寒い地方に行くと調子悪くなっちゃうんだ。体調の変化でいうと、『DEEP』での田村戦がいい例だったんですよ。

——田村戦のときは体調が良くなかったんですか？

諸岡　最悪の状態でさ。まあ、アイツも言い訳とかはしたくないヤツだし、これ以上は言わないけども。

——いまでも、田村さんと闘いたいっていうのは良く口に出してますけど、ベストコンディションで闘えなかった悔しさもあるんでしょうね。

諸岡　あるだろうな。それと、もう一つ体調悪かったのが、去年の『武士道』での上山（龍紀）戦ね。

——またしてもU-FILEですか（笑）。でも、たしかにあの試合は見るからに動きが悪かったですよね。

諸岡　あのときも喘息がぶり返しちゃってて。だけど、そんなことは全然理由にならないから。

——美濃輪さんのホームページで諸岡さんは、「2004年の美濃輪は正直ダメだった」と書かれてましたよね。で、その年の『男祭り』出場までの裏話を披露してましたけど。

諸岡　結果も出てないから当たり前なんだけど、『男祭り』はオファーなんて全然なかったの。逆に、美濃輪じゃなくて、チェ・ム・べを出してくれっていう話だったのさ。

——ム・べ様も韓流ブームに乗って人気上昇中でしたからね。

諸岡　でもね、俺が『PRIDE』に言ったのは、「美濃輪も出してもらえなかったら、チェも出さない」って。俺は正直言って、一番可愛いのは美濃輪だから。

——付き合いも長いですし、そういう親心みたいなのもあるでしょうね。

諸岡　そうそう。「今回もし美濃輪が出れないんなら、チェも辞退します」って言って。その代わり、もし美濃輪を出してもらって負けたんなら、その時点で『PRIDE』に二度と出ることもないし、他の日本の団体で試合させるっていうのも頭にないって言ったの。逆に言えば、そこで美濃輪っていうのは終わらせるかもしれないって。それだけの意気込みはあるってことを、俺は榊原さんに手紙書いて出したのさ。

——ほぉ。あえて手紙にしたと？

諸岡　うん。俺も命を懸けるし、美濃輪も命懸けでやらせると。我が子の責任は親にあることだから、なんとか俺を信じて、枠を1つ取れるんなら出して欲しいと。その代わり、負けたら潔く、2度と『PRIDE』とは接点を持たないって書いてね。そういって他の大会に出ようっていうのも全然考えてないし。格闘技界から足を洗うって意味だから。

——それぐらいの強い覚悟で挑んだのが、昨年の『男祭り』でのステファン・レコ戦だったわけですね。

諸岡　そうそう。

——諸岡さん的にも賭けみたいなところはあったわけですね？

諸岡　ホント賭けだったね。あのね、上山戦のあとにアイツを丸坊主にさせたことがあったのさ。

——あぁ、ありましたね。『PRIDE』の会場で見かけたら、丸坊主になってて驚いた記憶があります。

諸岡　でも、上山戦のあと、アイツは3日間、俺の言うこと聞かなかったの。「お前、上山戦は反省したのか？」「反省っていうのは、どうやって見せるんだ？」って。俺は頭の中に、そのあとの勝負があったのさ。

——上山戦のあとに、大勝負を考えてたわけですね。

諸岡　うん。俺と美濃輪の間では反省してるのはわかってるのさ。だけど、ある一部の関係者からは、「美濃輪っていいよな。諸岡さんがいるから、『PRIDE』出れて」みたいな声も入ってきたのよ。

——美濃輪さんに限らず、そういった声はよく聞きますからね。

諸岡　そういう声を聞いて「コノヤロー！　絶対なんとかしてやろう」って思って。で、そのあとに、「お前、頭丸めてこい！　いい加減にしろよ！」って。それで、次の日に、チェの試合のセコンドに付くのに会場向かうバスに乗ったんだけど、神王がいたんで、「美濃輪は乗ったのか？」って言ったら、美濃輪はもう乗ってたのさ。話聞いたら、美濃輪はもう前の日に風呂場でカミソリ使って2時間ぐらいかけて剃ったみたいで気付かなかったの（笑）。

——見事なスキンヘッドになってましたからね（笑）。

諸岡　それ見て「そうか。わかったよ」って言って。なんか可哀想になって、横にいる神王に「お前はどうして頭丸めて来ないんだ？　お前も入江に負けてるだろ！」って八つ当たりしたのさ（笑）。

——アハハハハ！

諸岡　そのあとに美濃輪といろんな話をして、年末、試合に出れないんなら、自分もいったん考えようかなっていう感じになって。

——格闘技から足洗わせるぐらいの気持ちもあったわけですか？

諸岡　そこまではなかった。俺は美濃輪1人を生かすことはできるから、自分だけはこの業界から足洗おうと思って。どっちかがそれだけのハン

デを背負わないとって思ったの。ただ、運良く、気持ち良く勝ってくれたからいいんだけどさ（笑）。

――レコ戦は久々に美濃輪さんらしい試合でしたけど、先ほど諸岡さんが言ったとおり、美濃輪さんは強運の持ち主なのかもしれませんね。

諸岡　運もそうだけど、美濃輪って、みんなアホみたいと思ってるかもしれないけど、あの子、実は頭いいんだ。

――紙一重なんですかね（笑）。

諸岡　そうだね（笑）。でもホント、頭いいから。というのはね、噛んで砕いて話してやると、あの子はそれ以上の答えを持ってくるんだ。で、ちょうどハイアン戦の前ぐらいから気持ち的にちょっと落ち込んでたの。

――それは何か理由はあったんですか？

諸岡　その頃って、アイツ、パウンドばっかりにこだわってたんですよ。

――はいはい、そうでしたね。シウバにパウンドで敗れたのが大きかったんでしょうけど。

諸岡　そうそう。俺から美濃輪に言ったのは、「とりあえず、もし年末出れるようになったら、いったん全部真っ白にしろ」って。「たとえば、そこに足首があったら足首、手首があったら手首を取れ。パウンドにこだわったり、お客さんにいいとこ見せようとか、自分がいい格好しようとか、もうそういうの全部捨てろ！」って。それにさ、アイツの身長は実寸で171～2しかないのさ。

――アハハハハ！　その辺はリアルプロレスラーですから、多少増やしても問題ないと思います（笑）。

諸岡　175センチって公表してるけどさ（笑）。そういうのも含めて、体力的、肉体的にハンデがあったとしても、とにかく大きい選手とやりたいっていうのが我々の目標だったからさ。

――大きい選手と闘いたいっていうのは、諸岡さんも含めた〝我々の〟目標なんですか？

諸岡　いや、美濃輪の本音だったんだよね。だから、パンクラスをやめるんでも、これは事実は誰も知らないと思うのさ。

――まあ、いろんな噂話は入ってきますけど、事実はわからないですね。

諸岡　いろいろねじ曲げられて伝わってるだけであって、要は美濃輪は、自分よりも大きい選手、ホントに無差別でやりたいのさ。それから、パンクラス以外の道場にも練習に行きたかったと。そういう、いろんなことが重なってやめたのさ。

――どれか1つの理由ってわけではなかったんですね。

諸岡　そうそう。そういう気持ちがホントの気持ちだったの。裏切るとか、そういうのは何にもない、あの子には。美濃輪とすれば、勝ち負けっていうのは関係ないのよ。凄くいい意味のワガママで、たとえば「シウバとやりたい」「ジャクソンとやりたい」っていうのが、いい例で、あれがホントの気持ち。

――とにかく〝リアルプロレスラー〟として、デカくて強い相手をブッ倒したいと。

諸岡　そう。いまでも、もう一回アイツらを潰したいっていう意欲を持ってるからさ。だから、いま『PRIDE武士道』で、83キロ級と73キロ級をやるって話だけど、ウチは正直言って、話があっても断りたいってハッキリ言ったの。

――美濃輪さんは体重的には83キロ級で十分いけそうですけどね。

諸岡　83キロ級でグランプリをやるって話があるけど、いまのところそれには出したくないなっていうのはあるよね。変な意味じゃなく。だから、美濃輪とも話したのさ。リスクが大きくなるかもしれないけど、美濃輪自身が「契約ちょっと待ちますか？」って言い出したから。いまハ

いまの新日、K－1以外は全部ウチが作ったリングじゃないかな

ッキリ言うと『PRIDE』と契約はしてないんだ。

――あ、そうなんですか？

諸岡　そうだよ。俺と『PRIDE』の榊原さんたちとの関係は、契約書なくたって、信じ合える部分があるでしょっていつも言うの。で、榊原さんはやっぱり、経営者として、団体の長として、たとえば美濃輪が『HERO'S』行かれたら困るとかあると思うんだ。

――そういう心配もあるでしょうからね。最近は特に。

諸岡　でも、これっぽっち、針の穴ほども俺は考えてないし、美濃輪も考えてない。やっぱりどこも出れないときに榊原さんたちに声かけてもらったんで凄く感謝してるの。でも、逆に言えば契約書で俺とか美濃輪を縛ることは無理だよっていう気持ちもあるのさ。

――なんか無理そうですね（笑）。

諸岡　でもやっぱり、一番苦しみ悩んだときに出してもらえた舞台が『PRIDE』だったのさ。で、榊原さんとかは『PRIDE』が始まる前からだから、もう付き合いも長いしね。でも、いまの美濃輪は何をしなきゃいけないかっていったら、やっぱり練習なのよ。美濃輪だけじゃなくて、格闘技の選手って何をしなきゃいけないかって言ったら、練習でしょ。

――第一は練習になりますよね。

諸岡　だから、そういう環境を作ってやるのが、いまは一番大事だと思ってるのさ。

――DSEの榊原代表とかは古くからの付き合いってことですけど、具体的にはどういう接点があったんですか？

諸岡　もうだいぶ前になるけど、高田道場が出来て、ウチがリングを納めたときからの付き合いだったんだ。

――以前の高田道場で使ってたリングも諸岡さんのところで作ったものだったんですね？

諸岡　そうそう。その頃に東海テレビに行く用があって、そこで榊原さんと知り合ったのさ。

――榊原さんは以前は東海テレビにいたみたいですからね。

諸岡　そうそう。それからしばらくしてから、いまの『PRIDE』関係者に呼ばれて行ったの。そしたら「リング作ってください」って頼まれたんだ。

――もしかして、それが『PRIDE』のリングってことですか？

諸岡　うん。そのときは『PRIDE』っていうのが何なのか、まだ知らないから「何のリングなの？」って言って俺は最初は断ってたの。でも、いろいろとあって結局作ったんだけどさ。

――諸岡さんは、ある意味、『PRIDE』を作った男なんですね（笑）。

諸岡　『PRIDE』っていうか、リングだけだよ（笑）。でもさぁ、やっぱりプロレスとか格闘技の世界もそうだし、あと芸能界とかもそうだけど、ホント嘘つきばっかりさ。

――芸能関係もいろいろと付き合いはあるんですか？

諸岡　芸能っていうか、昔、エッチなヤツじゃないけど、Vシネマがあったの。藤原（喜明）とか、橋本真也とか、馳（浩）とか出た作品があってね。そのときの撮影用のリングを作ったのさ。

――Vシネマの撮影だけのためにわざわざですか？

諸岡　そうそう。あのときは支払いが半年から1年かかったね。それで、最後出てきたのが●●団だ（笑）。

――あららら。

諸岡　なんで、●●団が出てくるのっていう、そんな次元だったんだけどさ。ウチは売ったもんは「金くださいよ」って、集金するしかないからさ。

――まあ、リングって安い商品じゃないでしょうからね。

諸岡　そういうのが続くと、この業界ってイヤだなぁって思うわけよ。

――プロレス界って全体的に不景気ですし大変そうですよね。実際、いまリングを作ってるところって、日本にどれぐらいあるものなんですか？

諸岡　いまの新日本以外は全部ウチが作ってんじゃないかなぁ。

――え、新日本以外は全部、諸岡さんのところなんですか？

諸岡　あとK―1も違う。だから、新日とK―1以外はほとんどウチ。NOAHと全日が分かれたときも、ウチで作ったし。それから、みちのくと大阪プロレスが分かれたときも、イヤで作らなかったんだけど、みちのくの瀧澤（専務）君が「気にしないで作ってやってください。困ると思うんで」って言うから「わかったよ」って。それで、NOAHのときも、全日のリング屋で黒木さんっているんだ。で、黒ちゃんが「社長、気にしないで助けてやってよ」って。「黒ちゃんが言うんならいいよ」って作って。だから、ほとんどウチで作ってるのさ。

かつてパンクラスに格闘留学していたキム・ジョンワンと諸岡氏は10年来の友人。ハン・テユン、リ・スイルの4人で韓国で大きなイベントを開催するのが夢だった諸岡氏は、昨年「グラジエーター」でそれを実現。第2回大会でキムはドスJrとの対戦が決定！

昨年の6月26＆27日にソウルで開催された『Gladiator Fighting Championship』。2日目の試合終了後にはノゲイラ兄弟をはじめ出場選手、関係者、ラウンドガールまでリング上に勢揃い。そんな中、諸岡氏はリングのド真ん中でポーズ！

——それは凄いなぁ。

諸岡　でもね、ウチの本業はリング屋じゃないからね。リング屋だと思ってる人が多いと思うけど（笑）。

——肩書きはたくさんあると思うんですが、本業は何になるんですか？

諸岡　本業はね、トヨタ自動車の下請け（笑）。

——それが「誠産業」になるわけですか？

諸岡　それが本体だね。それで、たまたま自分とこでリングが欲しいから、見よう見まねで作ったの。で、一番最初に作ったのがＪＷＰのリングなのよ。

——最初は女子プロだったんですか？

諸岡　うん。そのときもＪＷＰといまのＬＬＰＷが分かれたでしょ。

——ホント、プロレス界はそんなことばっかりですね（笑）。

諸岡　ホントそうだね（笑）。そんときもジャパン女子が分裂して、ＪＷＰはリングをどこかから借りてたらしいんだ。で、トラぶって、そのリングを引き上げられたのさ。それは困ったということで、当時、青柳（誠司）か誰かを通じて来たんじゃなかったかなぁ。で、作ったのが第一号さ。その頃、デビル（雅美）とか（ダイナマイト）関西とかがいて、ロープへの反動というのか、選手がぶつかってとか、そういう計算をしてなかったから、だんだんポールが曲がって来ちゃうのさ。

——デビルさんや関西さんは女子としては、かなりの大型ですからね（笑）。

諸岡　そうでしょ。その当時、後楽園ホールでＪＷＰがあるときに見に行って、職人連れてって、大体寸法を測らせたの。まだ、その頃は図面も何もなかったんだよなぁ。

——最初は見よう見まねで作ったってことですけど、何を参考に作ったんですか？

諸岡　組むところから全部写真を撮らせてもらって、で、寸法を測ってスケッチかけて、それからすぐ試作品を作ったの。その試作の一号機はどうでもいいやと思って青柳に使わせて。こんなんでいいんだなって、そんときは思ってたんだけど、ＪＷＰに納めたら曲がっちゃったのさ。

——実際使ってみると想像以上の衝撃があったってことなんでしょうね（笑）。

諸岡　そうそう。それで職人がブチ切れちゃって、「親父、これは恥だ。これ真剣に取り組もうよ」って。それがきっかけで、それから各団体のリングを作るようになったんだ。でね、パンクラスのを作ったときに…俺は、いまリングがここまで出来たのは船木に感謝するね。

——船木さんは、いろいろ事細かく指示を出してたみたいですね。

諸岡　船木は凄いこだわってたのさ。だから、コイツをいずれ騙してやろうと思って、十回以上だね、わざと作戦変えて持って行ったの。そしたら船木が「今日はちょっとリングが違いましたね。どっかいじりました？」って。コイツも凄いヤツだなって思って。

——すぐに違いを発見してしまうんですね。

諸岡　うん。それでね、パンクラスのリングの遊びだけで一千万ぐらいかけたからね。

——へぇ〜。遊びだけで一千万！

諸岡　その代わり、絶対よそに負けないリングを作ってやろうと思って、最後は船木に見抜かれなかったけどね。それで「今回、ここいじったんだぞ」って教えてやったりしたんだ。あと、プロレスでも男子と女子、それから、格闘技でも基本サイズから外れたサイズを作るときにはどうのとかっていうのはウチの設計と話したりしながら作ってるのさ。

——大きさや、マットの柔らかさとか、リングによって違うっていいま

AtoZ■北海道・滝川市青年体育センター（18:30）
シルバーウルフ■東京・六本木ベルファーレ（19:00）

5 SUN.

美濃輪はハッキリ言ってスケベ！　教えたのは全部、佐伯です！（笑）

すからね。

諸岡　そうそう。どこに支点を置くかとかさぁ、全部変えていったね。

—でも、これだけ団体が増えたら、リング作りの仕事も凄い増えちゃったんじゃないですか？

諸岡　いや、断るとこもあるよ。失礼だけど、ここの団体はもたないだろうっていうとこは断ったね。

—リングを買うお金は払えたとしても、長くは続かないだろうってところは断ってきたわけですね。

諸岡　そうそう。あのね、俺はリングは、男と女にたとえたら、女だって言うの。お化粧して、飾って、お嫁に出すわけじゃない？

—そうですね。

諸岡　それで、潰れたら帰ってくる場所がないわけでしょ。

—捨てられっぱなしになっちゃう可能性も高いですからね。

諸岡　うん。もしくはどっかに売られていっちゃうという、凄い悲しい運命にあるじゃない。だから、たまにウチのリングを他の団体が使ってるのを見つけると「お前、スプレーでちゃんと塗っとけよ！」とか口うるさく言うのさ。

—そりゃ、大事な女の子ですから、言いたくもなりますよね（笑）。

諸岡　やっぱり、リングがあって初めて試合ができるわけでしょ。で、見に来たお客さんにしてみたら、剥げたリングよりもキレイにお化粧したリングの方がいいじゃん？

—ですよね。明からに手入れしてないなってリングもたまに見ますからね。

諸岡　見るねぇ。だから、それは団体のポリシーだと思うんだ。俺はパンクラスに行くときには必ずスプレーを持ち歩いてて、組み終わったあとに、ちょっとでも剥げてたらスプレーで化粧してたからね。リングって決して安いもんじゃないし、大事に使えば一生もつモノなのよ。でも、みんななんか、ただのリングとしか思ってないなって。選手が偉そうなこと言ったって、リングが到着しなかったら、試合出来るのかって。

—実際に、台風とかでリングが届かなくて試合が出来ないときもありますからね。

諸岡　あるでしょ。だから、リングに対しては、もっと大事に扱って欲しいなっていう気持ちはあるね。

—リング作製以外にも韓国のグラジエーターの理事とか、肩書きは他にもたくさんあるんですよね。

諸岡　いや、韓国ではいま肩書きないよ。顧問とか理事とか外してくれって言ったの。というのはね、いまは日韓、日中の問題もあるし、それに、まだ正直言って、俺は韓国の格闘技界も勘違いしてると思うんだ。

—それはどういった意味でですか？

諸岡　要するに、韓国の格闘技界は、見る目と聞く耳と、あと言うこと、これだけはプロ。

—韓国の格闘技マスコミは突っ込みが凄いんですよね。日本だと気を遣って聞けないようなこともバンバン質問しますからね。

諸岡　そうそう。もう、耳、目、口だけは、みんなプロだ。ただ、やってることはアマチュア以下。それをいま、直していきたいのと、あとは大会とかタケノコみたいに乱立してるじゃない？

—聞いたことのない大会がドンドン増えてるんですよね。

諸岡　それと、今回のユン・ドンシクとか、この間、『HERO'S』に出たキム・ミンスもそうなんだけど、自分の国で「契約金五千万もらった」とか「一億もらった」って吹くわけよ。

—吹いちゃうんですか（笑）。

諸岡　実際どれぐらいもらってるかはわからないよ。でもね、韓国の格闘技界で、いま一番大事にして欲しいのは、プロレスで言ったら大木金太郎さん。格闘技界ではキム・ジョンワン。キム・ジョンワンは弱いとか何だかんだ言われたって、日本で20戦以上やったじゃない？

—パンクラスや『BEST』にも出てますし、韓国人選手の中ではキャリアはトップクラスですよね。

諸岡　当時、まあいまでもそうだけど、韓国の人がアメリカに行くってったら、ビザもなかなかもらえないんですよ。それをキム・ジョンワンがなんとか取得してキング・オブ・ザ・ケージに出たりしてね。その苦労っていうのは、俺とキムしかわかってない時代があるわけよ。

—もう、10年ぐらいの付き合いになるんですよね。

諸岡　そうだね。それから、韓国でスピリットMCっていうのが出来て、それで多少華やかになってきたと。それで、最近はチェ・ム・ベとか出てきたでしょ。チェもそうだし、この間、『武士道』に出たデニス・カーンもそうだけど、「千ドルからスタートだよ」って。

—デビュー戦のギャラは千ドルぐらいってことですか？

諸岡　そんなんでいいの。それで言ってやるのは「金はこのリングにいくらでもあるんだから、お前たちがいい仕事すれば金取れるんだよ」と。で、素直にキムでもチェでもそれでやってきたの。これを崩したのが、『PRIDE』なりK—1なのよ。

—ギャラがドンドン上がっていったわけですね。

諸岡　それが事実なのかどうかは誰もわかんないじゃない？　それをやっぱり「五千万もらった」とか「一億もらった」って言ってしまったことに対してのペナルティーを与えるとか、修正をして欲しかったなっていう気持ちもあるわけよ。そうすると、いままで頑張ってきたキムとかチェっていうのは日本の格闘技界に不信感を持ったわけよ。もしくは、俺に対して不信感を持ったの。

—この人は間に入って、お金を抜いてるんじゃないかってことですか？

諸岡　そうそう。でも、俺とアイツらはホント兄貴と弟みたいな感じで付き合ってるから、そういうことは思わないし、ちゃんと現実を知ってる子だからね。話せばわかってくれるよ。でもやっぱり、勘違いしちゃう子が多いのさ。

—俺は、もっともらえるんじゃないかと思っちゃうんでしょうね。

諸岡　そうなんだ。でさ、いま韓国にキム・ミンスって2人いるんだよ。

—『HERO'S』でデビューしたミンスの他にもう1人キム・ミンスがいると。

諸岡　そう。チーム・タックルにいるレスラーのキム・ミンスっているの。他にも何人か、いい選手がいるんだけど、みんな『PRIDE』に出たいって言うわけ。「じゃあ、お前らチャンスを作ってやるから。最初は、お客さんに喜んでもらえるいい試合しろよ」って言うと、「自分たちがいま『PRIDE』に出ても三百万ぐらいもらえるんじゃないですか？」とかって、そういう頭になってるの（笑）。

—気持ちはわからないでもないですけどね（笑）。

諸岡　だから、そういうのを全部修復しないと、韓国の格闘技はダメだろうな。だってさ、まずビルを建てるんでも基礎工事から始まるじゃない？　人間でもハイハイから始まって、やっと足から立つようになるじゃない？　そういう意味で、いまの韓国の格闘技界で一番大事なのは基礎の部分なのさ。だから、韓国の人に「まず道場作りなさい」って言うの。「道場を作って、練習環境作るとこから始めないとダメだよ」と。そこからしっかりやっていくとこには協力しましょうと。チャンスさえもらえれば、韓国から、いい選手はドンドン出てくると思うよ。

—周りの環境はともかく、選手自体のレベルはかなり上がってきてるわけですね。

諸岡　上がってきてる。だから、俺なんかも韓国の格闘技界を良くしていきたいと思ってるから、ある程度、安月給をはたいてでも頑張らなきゃいけないし。そういう気持ちで今年はちょっとやっていこうかなと。今年は韓国で1回やるけど、来年は4〜5回やりたいなと思ってるのさ。

—それはお金儲けというより、選手の育成の場っていう感じで？

諸岡　お金儲けどころか出て行くだけだよ！（笑）。

—失礼しました！（笑）。諸岡さんは格闘技の興行だけじゃなく、プロレスの方もプロモーターとしていろいろと手がけているんですよね。

諸岡　うん。でももう、今年からやめようかと思って。

—やっぱりプロレスは厳しいんですか？

諸岡　それもあるし、徐々に減らそうかと思って。いまやってるのはドラゴンゲートとAtoZ。2つあわせて、100から100ちょいやってるかな。

—いまは、2団体ぐらいですか？

諸岡　そうだね。いままでいろいろ頼まれてやってきたけど、もういい。プロレスは疲れるんだ（笑）。

—一番疲れそうな全女とかも以前は手がけてたみたいですからね（笑）。

諸岡　全女もそうだし、他も疲れるとこばっかりだ（笑）。

—女子プロつながりで言うと、今度の韓国のグラジエーターで大向美智子さんが総合デビューするみたいですね。

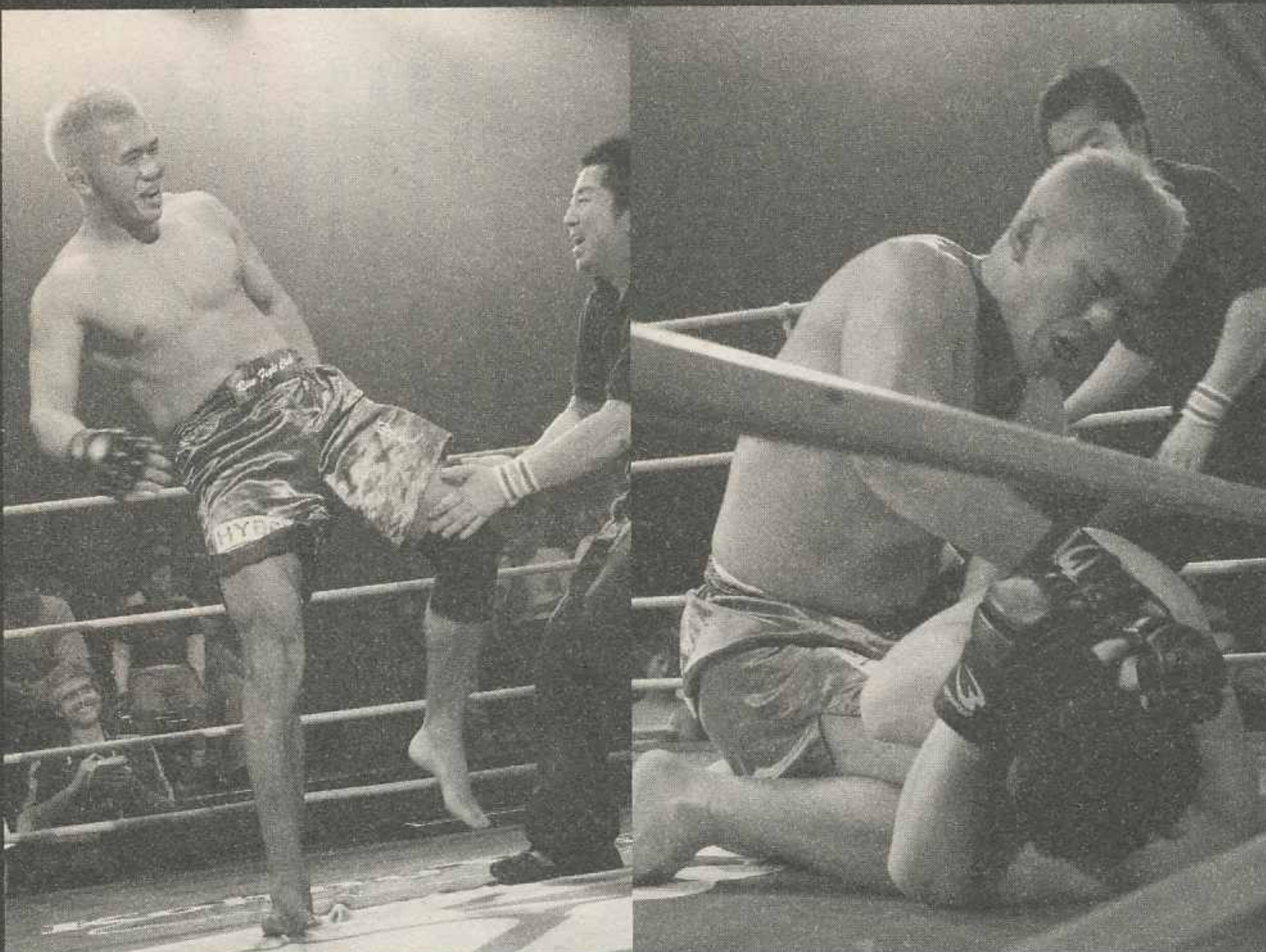
諸岡　そうそう。「やりたい」って言うから組んでやったのさ。

—大向さんは、前に韓国の大会で

もうひとつのヒーロー

「DEEP HERO 1」

超満員札止めスタート!!　4.17 Zepp Nagoya

3月にオープンしたばかりのZepp Ngoyaで開催された「DEEP HERO・1」は、立ち見が200人近くも出る、掛け値なしの超満員札止め。２部構成で行われたイベントの１部では今成とTAISHOがエキシビジョンで激突！

DEEPの新イベント4・17「DEEP HERO・1」のメインを務めたのは滑川康仁。滑川は禅道会の秋山賢治にテイクダウンからのパウンドの連打で１R3分48秒TKO勝ち！　試合を止めた野口レフェリーのタックルで吹っ飛びそうになった滑川は試合後、ヒザ蹴りでお仕置き!? 勝った滑川は桜井隆多が持つDEEPミドル級王座獲りを宣言。一方、敗れた秋山はプロ総合格闘家としての引退を表明した。

セミでは修斗ウェルター級ランカーの雷暗暴にPRIDEチャレンジ3戦全勝のジョン・バチスタ・ヨシムラが挑戦。前半はバチスタがパンチのラッシュで何度も追い込むも、最後はガス欠し試合続行不可能となり雷暗がTKO勝ち！

元修斗ウェルター級王者にして元ボクシング日本ランキング６位の大原友則が坂田亘の弟子・木村直生と対戦。木村はパンチで流血しながらも最後はパウンド連打で勝利！　勝った木村は最後はハッスルポーズで締めた。

井上貴子さんとUWFルールで試合してましたよね。

諸岡　あれも俺がやらせたんだけど、ありゃあプロレスだもん（笑）。

――まあ、そうなんでしょうけど（笑）。

諸岡　去年ね、美濃輪とウチの濱田（順平）っていうのを「2～3日札幌に遊びに来るか？」って言って呼んだの。で、話はそれるけど、美濃輪はハッキリ言ってスケベなんです！（キッパリ）。

――アハハハハ！　一部では有名な話ですけどね（笑）。

諸岡　そう。アイツの趣味はソープランドです！　韓国にチョンヤンリーって、そっち方面では有名なとこがありまして、そこに色紙置いてますから、アイツは（笑）。

――さすが、リアルプロレスラー（笑）。

諸岡　それぐらい好きです。で、教えたのは全部、佐伯です！（笑）

――犯人は佐伯さんでしたか（笑）。

諸岡　誠ジムにいるときは1回もありません。全部、佐伯です！

――悪い遊びを教えたのは佐伯さんなんですね。まあ、それも業界内では有名な話ですけど（笑）。

諸岡　あの佐伯っていうのは人間じゃないな（笑）。まあ、佐伯の話はいいんだけど、美濃輪たちが札幌来たときに「ちょっと練習させてもらってもいいですか？」って、練習してたのよ、順平と美濃輪が。そのときに大向が、「私にも教えてよ」って総合の練習してたの。そのときは気まぐれだと思ってたんだけど、しばらくしたら「私、真剣に格闘技戦やろうと思うんだ」って相談してきたのさ。だから「お前、なにアホなこと言ってんの。やめときな」って。

――大向さんはＬＬＰＷ時代とか、神取さんとか周りは格闘技戦をやってた人もいましたけど、大向さん自身は格闘技志向はそれほど強くなかったですよね。

諸岡　そうそう。「そんなこと言ってないで、出っ歯の手術、先にしてこい！」ってホントに言ってやったの（笑）。

――アハハハハ！

諸岡　そしたらね、いまは美濃輪とかと結構、ちゃんと練習してるんだ。試合近くで見たり、練習してるうちに目覚めたんじゃない？　でも俺はハッキリ言ったけど「お前、勝てないよ」って。「甘くないよ。いいの？」って言ったら「全然いいよ」って。「じゃあ、やれ」って決まったの。

――負けることは恐れてないと。大向さんはプロレスラーとしてのプライドはかなり高い選手だと思うんですけど。

諸岡　それがね、「プロレスはプロレスであって、格闘技は格闘技だからいい」って言ったのさ。「じゃあ、ホントに組むよ」ってなって。それで、韓国にリー・スンヒっていうプロレスラーがいるんだ。最初は、その選手と堀田（祐美子）をやらせようと思ったのさ。

――まあ、堀田さんは総合も何試合かやってますからね。

諸岡　そうそう。で、そのリー・スンヒって美人なのさ。

――ほう。それは素晴らしいですね（笑）。

諸岡　だから、ちょっと堀田だと不利だなって思って（笑）。大向だったら、そこそこ釣り合うだろうし、韓国なら負けても日本まで届かないし、いいだろうと。で、決めた瞬間、韓国側が「諸岡さん、ホントにバーリトゥードですか？」って聞くから「ホントだよ」って言ったの。そしたら「すいません。選手代えます」って代えられちゃったのさ。

――リー・スンヒは逃げちゃったんですか？

諸岡　そう。代わりに出ることになったのが柔道の国家代表のイ・ヨン

5 MAY

AtoZ■北海道・滝川市青年体育センター（18:30）
シルバーウルフ■東京・六本木ベルファーレ（19:00）

5 SUN.

NOAH■北海道・札幌メディアパークスピカ（16:00）

ジュって選手。日本で言う国体選手より上だよ。国の代表だからさ。

―ゲッ！　それって、かなり強いんじゃないですか？

諸岡　まだ見てないけど、100%勝てないよ（キッパリ）。

―あ、100%無理（笑）。大向さんは相手は誰でもいいって感じなんですか？

諸岡　うん。たとえば、いままでの大向だったら「諸岡さん、ちょっと私が勝てそうな相手探してよ」って絶対言うと思うのさ（笑）。

―そう言ってもおかしくはないですよね（笑）。

諸岡　でしょ。それを言わないから、コイツ、本気だなって思って。「選手が代わって、柔道の国家代表らしいぞ」って言ったら「あ、そう。いいじゃん」って、これで終わりだもん（笑）。

―なんか期待できそうですね（笑）。

諸岡　それはわかんないけど「コイツすげぇなぁ」って思って。ちょっと見直したよ（笑）。

―1回限りじゃなくて、継続して総合もやっていきたいみたいな話も聞きましたけど。

諸岡　やるでしょ。そのあと、スマックガールも出るからね。まあ、格闘技戦に関しては、マネージメントは全部やって欲しいって頼まれたんだ。「別にいいけど、格闘技だからって金はそんなに高くはないぞ」って言ってやったの。

―もしかして、大向さんも勘違いしてたんですか？（笑）。

諸岡　「別にいいよぉ」とか言ってたんで、「どれぐらいもらえると思ってんの？」って聞いたら、「●●万から●●万ぐらいもらえるんでしょ？」って言うのよ。

―女子の総合は、まだそこまでは、もらえないですよね。

諸岡　「誰がそんなこと言ったの？」って聞いたら、また、佐伯さぁ（笑）。

―またしても、佐伯さん（笑）。

諸岡　あの男が余計なこと言ってんだよ（笑）。で、佐伯に怒ったら、「いやいや、2試合やってそれぐらいかなって言ったまでですよぉ」って言うのさ。あと「大向さんが日本で初めてやればそれぐらいの価値が付くと思います」って。

―その言葉を信じて、大向さんは、すっかり●●万ぐらいもらえると思っちゃったと（笑）。

諸岡　そうそう。「佐伯、大向は中学校しか出てないんだから、ちゃんと説明してやんないと理解できないよ」って怒ってやったのさ。やっぱり●●万って聞いたら●●万もらえると思うじゃない？

―当然、思っちゃうでしょうね。

諸岡　その話を聞いて、すぐ大向には「そんなにもらえないからな」って言ったけどね。それでも「やりたい」って言ってるし、まあ今回は、お金のことや、あと技術的なところは二の次にして（笑）、アイツの気持ちを見てもらいたいね

―どういう試合を見せてくれるか楽しみですね。

諸岡　ルールは『PRIDE』と、ほぼ一緒だから、顔面だろうと、なんだろうと、えげつないけど、蹴りもヒザも入れちゃえって言ってるの。

―いままで以上にワイルドな大向さんが見れるかもしれないと（笑）。

諸岡　かもしれないけど……まあ負けるだろ（笑）。

―大向さんは、美濃輪さんと同じく、諸岡さんが後見人みたいな感じになるんですか？

諸岡　そうだね。でもさ、俺が後見人になったら、使ってくれないとこ多いんじゃない？（笑）。

―いや、そんなことないと思います（笑）。これからも、いろんな面で諸岡さんの活躍を期待してます！

【4月22日／新横浜駅近くの喫茶店で収録】

大向の総合初挑戦は技術的なところはこの次。気持ちを見てやって

第2回
Gladiator Fighting Championship
inソウル・オリンピック公園第1競技場
2005年6月4日（土）[OPEN]15:00 [START]17:00

5月9日、都内で6・4グラジエーター韓国大会の会見が行われ、CMA諸岡秀克会長、DEEP佐伯繁代表、試合に出場する松井大二郎、桜井隆多、大向美智子、7/8DEEPに出場する、しなし、金子らが出席。諸岡氏は「3月が延び、4月が延び、6月4日に開催することになりました。すでにチケットは6000枚ほど売れてます。あと1万枚ぐらい売れてくれればいいなと」と笑顔で挨拶。

【決定対戦カード】
マーク・コールマン（アメリカ）vs ジェームス・トンプソン（イギリス）
キム・ジョンワン（韓国）vs ドスカラスJr.（メキシコ）
マリオ・スペーヒー（ブラジル）vs 神王（韓国）
アレックス・スティーブリング（アメリカ）vs ジェフェルソン（ブラジル）
エリオ・ジッピ（ブラジル）vs スルタンマゴメドフ・カフカズ（ロシア）
石井淳（日本）vs アブメドウ・サウル（ロシア）
松井大二郎（日本）vs シュリジン・ワレンチン（ロシア）
エルミス・フランカ（アメリカ）vs マックシミリアノ・チアゴ・ビテンクルテ・メッテレル（ブラジル）

【韓国vs日本対抗戦】
イム・ジェソク（韓国）vs 桜井隆多（R-GYM）
イ・ヨンジュ（韓国）vs 大向美智子（フリー）
キム・ソンヒ（韓国）vs 谷村光教（S-FACTORY KOBE OKAMURAGYM）

【チケット料金】
VIP席 550.000ウォン（50.000円）、R席 385.000ウォン（35.000円）
S席 275.000ウォン（25.000円）、A席 110.000ウォン（10.000円）、B席 55.000ウォン（5.000円）

【主催】
KRSエンターテインメント（株）

【問い合わせ】
CMA事務局（82-119581-6619）担当／千（セン）

大好評、船木誠勝対談シリーズ！ 今回はUCSに登場!!

宇野薫商店

ヒーロー揃い踏み!!

船木誠勝 Masakatsu Funaki × 宇野薫 Caol Uno

船木誠勝、そして宇野薫。ヒーロー揃い踏み！前号でも紹介したとおり、3・26『HERO'S』で『紙プロ』読者が選んだMVPは、ヨアキム・ハンセンに敗れはしたものの、ダントツで宇野薫だった。その宇野薫にとってのヒーローは大会の解説者も務めた船木誠勝である。佐山聡、破壊王、田村潔司と毎回大好評の船木誠勝対談シリーズ。今回は宇野薫が経営する「UCS」へ船木が出向いた！

聞き手／橋本宗洋&松澤チョロ
撮影／福島勝儀
design by さおとめの事務所

—こうやって、お2人がゆっくりとお話されるのは久しぶりですか？

船木 （資料として持参した、船木×宇野が表紙の『ゴング格闘技（NO.88）』を指して）それ以来ですよ。

—へぇ～、これは99年発行ですから、約6年ぶりですね。宇野さんが修斗のタイトルを獲られた直後ぐらい。

宇野 そうですね。

船木 俺はもう引退してたんですか？

—いやいや、ヒクソン戦が2000年ですからまだ現役です（笑）。

船木 あれ、ヒクソンとやる前ですか？

—そもそも、船木さんが初めて宇野さんに会ったのはパンクラスの入門テストですよね。

船木 そうです。第一回の入門テストを受けてるんですよ。で、身長が足りないって鈴木（みのる）に言われて、俺が計ったんですけど、ちょっと可哀想だから1～2センチぐらい上乗せした記憶がありますね（ニッコリ）。

宇野 よく覚えてます（微笑）。

船木 鈴木がやるとガチッて押し付けて計るんですよ。だからちょっと緩めに（笑）。

—身長以外はクリアしてたんですか？

船木 そうですね。そのときは第1回だったんで、かなり人数が多かったんですね。それで（合格者は）4人ぐらいって決めてて、小さいってことで落ちただけだったんです。近藤（有己）もそのとき受けて落ちたし。渋谷（修身）は一緒に受けて受かったんですよね。同じ高校の同級生でレスリング部でって聞いてたんですけど。

宇野 そうですね。

—宇野さんもそのときのことは鮮明に覚えてるんですか？

宇野 覚えてます。渋谷選手と一緒に受けに行って。で、船木さんに身長をプラスにしてもらって和んだ覚えがあります。凄い緊張してたんで。

—最近、新しいファンも多いんで改めて説明しておくと、もともと宇野さんはUWFマニアで船木さんファンだったんですよね。

宇野 格闘技をやるきっかけになったのは、船木さんを知ってですから。プロレスは小さい頃から好きだったんですけど、武藤（敬司）さんが凱旋帰国したのを見て復活して。で、『ゴング』とか『週プロ』とか見だしたらUWFがちょうど流行ってるときで、中でも船木さんが凄くカッコよくて。

—船木さん、初対談以降の宇野さんの活躍はご覧になってますか？

船木 見てました。アルティメット（UFC）に出たのと、あとは『Dynamite!!』で1人だけ異種格闘技戦やったときも解説やってましたし。修斗でルミナ選手に勝った試合も見ました。それでチャンピオンになったのに外に出ちゃったんですよね。ベルトを防衛した、その場で返上して。

宇野 そうですね。

寝技制限とロープエスケープありはホントに嫌なルールでしたね

—そのときはどういう風に見てましたか？

船木 面白いと思いました。そういうことは普通はやらないじゃないですか。だから面白いなと。で、UFCに行ってあれだけ活躍したっていうのも凄いなと思いましたね。

—船木さんもUFCの金網でやってみたいっていう気持ちはあったみたいですね。

船木 ありましたね、最後。まあ、代わりに宇野選手がやってくれたんで（微笑）。

宇野 あの金網の中で試合ができたのは凄く光栄に思ってます。近藤選手と一緒に出たときもありましたね。

—近藤選手が（ウラジミール・）マティシエンコとやったときですね。

宇野 そうですね。僕がファビアノ・イハとやったときで。それまで近藤さんとはご挨拶する程度だったんですけど、そのときにやっぱり、パンクラスの強い選手と一緒に試合できるのが……。

船木 （遮って）しかも第1回テストで不合格になった同士（笑）。

—たしか、近藤さんと年も一緒なんですよね。全然見えませんけど、宇野さんも今年30歳で（笑）。

宇野 そうなんですよ、日曜日（5月8日）で30です。

—どうですか、30歳っていうのは。

宇野 前の対談のときに船木さんが「25歳すぎたら身体を磨かなきゃいけない」ってことを凄い言われてたんですよ。そのときはガンガンやってたんで、ハッキリ言って意味が分からなかったんですけど（笑）。でも年を重ねるごとに船木さんの言葉が凄く分かりだしたんですよね。

—30近くなって当時の船木さんの心境が分かってきたと。

宇野 今日も整体に行ってきたんです。前は平気だったことでも、だんだんボロじゃないですけど、ケガが出てきたりとかしますね。

船木 そうそう、やっぱり身体が武器ですから、武器をちゃんとケアしながら磨いていかないといけないですよね。

—宇野さんは修斗からUFCに行って、その後、修斗に1回出て、去年の大晦日からはK-1と結構移り変わってますよね。船木さんも団体移り変わりの先輩として気持ちは分かる部分はあるんじゃないですか？

船木 そうですね、同じところに留まるっていうのは刺激がだんだんなくなってくるんですよ、正直。それをずっとやり通すのもひとつの道だと思うんですけど、ただやっぱりこれだけ大会もあるし、大会を変えないとやりたい相手とできないじゃないですか、いまは。できるだけいろんなところに行って強い選手とやるっていうのが理想だと思いますね。

宇野 慧舟會はどこでも出させていただける団体で、修斗に出たりUFCに出たり、今回は『HERO'S』に出たりとか、自然と道がいろいろ分かれてくところで……うまく言

えないですけど、こうやって試合ができることに関しては凄く感謝してますね。
——そういうときって一大決心して「よし、動くぞ！」って感じなんですか？　それとも流れが自然にできてくるというか。
船木　試合後のインタビューで勝手に言っちゃったりとかもしますね。それで既成事実を作ってしまう。
——まずフライングするわけですね（笑）。
船木　大体そんな感じでしたね（笑）。じゃないと進めないですよね。そうやって言えば誌面を通してファンの人が期待するじゃないですか。そうなったらこっちも退けなくなりますし。
——有言実行にしようと努力しますよね。
船木　必ずそうでしたね。勝った後はファンの人に対してお土産じゃないですけど、次の予告編を提供することで、自分のステップがひとつ上がれるっていう。
——ただ、新しいことをやるとか動くということによって、それまで支持してた人の中から後ろ指をさすような人も出てくると思うんですよ。
船木　いますね。でも自分がどれだけ真剣にやってるかっていうのを身体で見せていけば、それを支持してくれる人がドンドン増えてきますから。そっちの方を多くすれば批判してる人の方が少なくなるじゃないですか。
——宇野さんもそういう手応えを感じながらやってきたんですか？
宇野　そうですね。最初は凄くそういう批判みたいのを気にしてたかもしれないですけど、ある時期からはリングで……。
船木　証明する。
宇野　はい。それだけなんで。自分の場合は口で言っても難しいと思ったので、リング上でそのままぶつけるだけでしたね。だからいまの話を聞いて凄く嬉しかったです。
——やっぱりK—1のリングって、それまで宇野さんが出ていた大会とはファン層も違いますから勇気も要ったんじゃないですか？
宇野　そうですね……。
船木　去年の『Dynamite!!』はちょっと冷たい風が吹いてましたよね。1試合だけ異質なものが入ってるっていう感じで、それほど期待もされてないような、一部のファンだけって感じで。闘ってて分かると思うんですよ、凄く寒い感じが。
宇野　（黙ってうなずく）
船木　でも最後に一本で勝ったら、ちゃんと次のステップが待ってますからね。それに、あのルールは結構大変だと思いましたよ。寝技何秒でしたっけ？
宇野　30秒です。
船木　30秒ってホントに難しいんですよ。倒した瞬間に極めにいかないと逃げられちゃいますからね。相手がキックボクサーでも、30秒なんてガードポジション取られたらおしまいなんですよ。だから解説しながらも心の中では「倒す瞬間に極めた方がいい」ってずっと思って見てて。そしたらホントそのまんま、倒す瞬間に首を取って。

デュラン戦はSWSの大会の前日かなんかで、両方とも行きました

——宇野さん、会見のときも言ってましたけど、寝技30秒ルール、通称〝宇野ルール〟は船木さんの異種格闘技戦のイメージがあったらしいですね。
宇野　船木さんや鈴木さん、僕の憧れてる諸先輩方が経験したことを僕は経験したことがなかったので。自分が入ったときにはもう異種格闘技っていうのはなくて、総合格闘技でしたから。同じものを経験したいっていう気持ちですね。
船木　あれ、普通の総合よりもやりづらいと思います。30秒っていうのは。あっという間に時間が経っちゃうんですよね。
宇野　そうですね。1Rが終わってコーナーに戻ったときに、汗かいてなくてセコンドがビックリしてましたから。緊張感ありましたね。
船木　あれってロープエスケープはなかったですよね。
宇野　なかったです。
船木　昔はあれでロープエスケープもあったんですよ。だからホントにリングの中央で倒した瞬間に極めないと、こっちは体力消耗していく一方なんですよね。あれはホントに嫌なルールですね。誰が作ったのか……猪木さんの流れだと思うんですけども（笑）。
——船木さんが寝技限定のルールをやられたのは、ロベルト・デュラン戦とモーリス・スミス戦ですよね。
宇野　僕、見に行ってました。たしか、デュラン戦はSWSの大会の前日かなんかで。両方とも見に行きました（笑）。
——両方とも行ってましたか（笑）。
宇野　僕はデュラン戦とかモーリス・スミス戦とか、ああいう形の試合をしてみたかったんです。周りはそれほどっていうか、船木さんも思われたようにあんまり期待もされず出てるみたいなところがあったかもしれないですけど、僕の中ではあの試合で勝てたことが凄く経験になりましたし。自信につながったじゃないですけど、やって良かったです。
船木　『HERO'S』の試合（vsヨアキム・ハンセン）もベストバウトですよ。
——『紙プロ』でやったアンケートでもダントツで宇野さんがMVPでしたからね。
船木　あれ、判定までいってたら勝ってましたね。でもそれで負けたっていうのも、また面白いんですよね。判定まで延ばして勝つよりは、完全にKOされて散った方が、また次もう1回やってやろうって気持ちになりますよね。最後は自分のミスじゃないですか。
宇野　……はい。
船木　だから、これで終わりたくないって気持ちになる試合だったと思いますね。で、ファンにも、もう1回宇野選手の試合を見たいっていう期待感を感じさせる試合だったと思

ルッテン戦は現役時代、一番ダメージが残った試合なんです

います。

――あちこちで聞かれたと思うんですけど、最後のヒザ蹴りを食らう前、セコンドを見ちゃったんですか？

宇野 セコンドじゃなくて時間ですね。残り30秒か40秒ぐらいでテイクダウン取って、そこで固めれば良かったんですけど、僕の中で攻めにいく、守るなっていう気持ちでパスガードにいったんですよ。で、それをガードされて、残りどれぐらいかなって。いつもあそこには時計は……。

船木 （遮って）ない。

宇野 ないんですよね、普通の総合だと。MAXでの30秒ルールのクセで見ちゃったというか。いつもだったら廣野（剛康）さんに聞いてるんですけど。でも、後で見たらハンセンのヒザに対して僕はガードしてるんです。その間からヒザが入ってやられたんで、あれはハンセンがうまかったです。

――実は船木さんも、ヒクソン戦でセコンドに時間を聞いて墓穴を掘ったというか（笑）。

船木 よそ見した瞬間にガッと極められて（笑）。だからセコンドとかは、あまり頼りにしない方がいいと思いますね。終わるときはちゃんとゴングが鳴りますから。

――それはそうですよね（笑）。

船木 ヒクソンもマウント取るまではセコンドに何も聞いてないし、セコンドも指示を言わないんですよ。で、マウント取った瞬間に、「あと何分？」って初めて口に出したんですよね。それまではどうやって俺を倒すかってことだけに集中してたんで。やっぱりそこの差だなって思いましたよね。

――『Dynamite!!』とか『HERO.S』の会場ではお話されたんですか？

船木 話というかリング上で必ず俺を見てくれて。必ず目が合いますよね（笑）。

宇野 ……すいません（笑）。試合の後、四方に礼をするときに目が合って。『HERO.S』って、マットの色が黄色かったじゃないですか。それで僕、試合前に船木さんとバス・ルッテンの試合をパッと思い出したんですよ。

船木 あのときはオレンジですね、スポンサーのエネルゲンのマットで。

――そうでしたね。しかし宇野さん、よくそういうことが思い浮かびましたね。よっぽど船木さんの試合が染み込んでるんですね（笑）。

宇野 試合の後もパッと頭に浮かんだのがルッテン戦で。船木さんがリングでなんて言ったっけなってずっと考えてたんですよ。

船木 「明日また生きるぞ！」ですね（笑）。

宇野 最後、リングで礼をするときにそれを言おうとしたんですけど、ずっと思い出せなくて、帰って古い雑誌を探しちゃいましたね（笑）。

――ダハハハハ！ 「これだったか」と。

宇野 はい。そのぐらいの気持ちで最後お礼したというか。

――マットの色だけじゃなくて、試合のフィニッシュもルッテン戦とハンセン戦は似てますよね。

船木 俺もあのときは、最後ヒザでやられちゃいましたから。あれは現役時代、一番ダメージが残った試合なんですよ。試合後2日間、熱が41度出ましたから。高熱が出て何も食えなくて、水しか飲めない状態でしたね。

――それはきつかったでしょうねぇ。

船木 ファンがいないときに痛みがくるっていうのは大変なんですよ。ずっと布団の中で「なんで試合の最中にこういう苦しみが来ないんだろう？」って。

――せめて頑張ってる姿をファンに見てほしいと（笑）。

船木 試合が終わってからの3日間とかを追っかけて取材してほしいですよね（笑）。まあ裏の辛さっていうのは見せるもんじゃないと思いますけどね。ただ、格闘技やってる人たちは、みんなそういう痛みを試合の後に味わってるはずですから。

――『HERO.S』には前田日明さんもいるじゃないですか。船木さんが解説にいて、前田さんもスーパーバイザーでいて、そういう中での試合っていうのはどうでした？

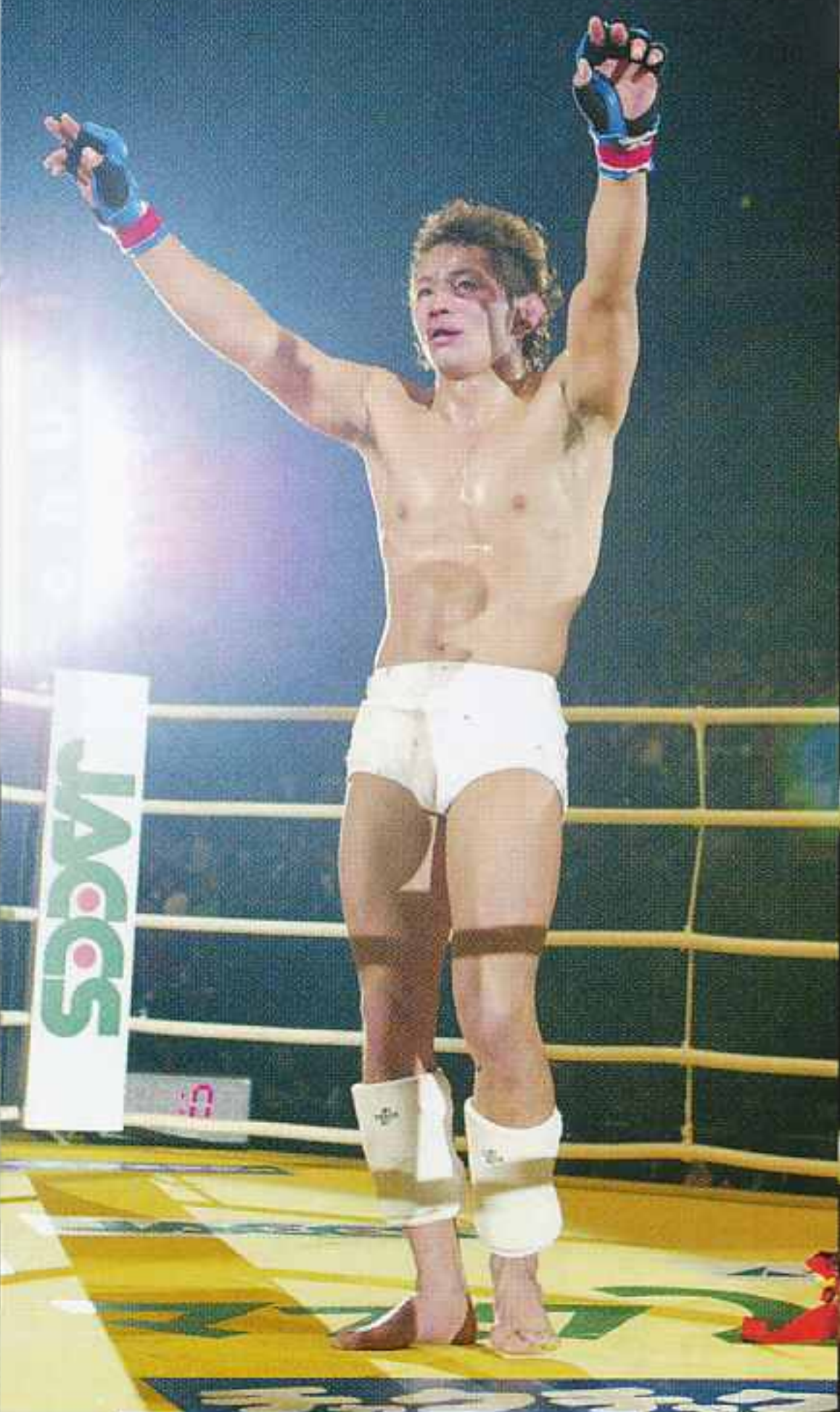
宇野 記者会見で前田さんと肩を並べて写真を撮ったとき、自分だけ笑ってるんですよね。なんで自分がこんなとこにいるんだろうって。UWFの記者会見の写真でも、よく同じようなことやってましたよね。

――やってましたね。みんなで肩を組んで。じゃあデジャヴみたいな感覚だったと（笑）。

宇野 「あ、これ『ゴング』とかで見てたヤツだ」って思い出して、笑ってるんですよ、1

1996・9・7、NKホールで行われた旗揚げ3周年興行。この大会のメインで王者ルッテンに挑戦した船木誠勝。倒れても倒れても起き上がりルッテンに食らいつく船木だったが、最後は強烈なヒザ蹴りでTKO負け。試合後、マイクを持った船木は「明日からまた生きるぞッ！」

と思いますけどね。ただ、格闘技やってる人

だ」って思い出して、笑ってるんですよ、1

『紙プロHand』で実施した3・26『HERO'S』アンケートで、前田日明を抑えMVPに輝いた宇野。修斗で猛威を振るっていたヨアキム・ハンセン相手に終始押し気味に試合を進めた宇野。しかし、残り20秒を切ったところでハンセンのヒザ蹴りを食らい、まさかの大逆転負け！

ハンセン戦のあと「明日また生きるぞ！」って言いたかったんです（笑）

人で（笑）。

——「俺は高田さんの位置だ」とか（笑）。

宇野 そうですそうです。そういうのをパッと思い出して。UWFの旗揚げ戦って、タイトルが『スターティング・オーバー』だったじゃないですか。僕、会見でその言葉を使おうと思ったんですけど、浮かばなかったですね（笑）。「そうだ、あれ言っとけば良かった！」って。いま、その意味が分かる人はあんまりいないんでしょうけど。

船木 逆にいま言ったら、それが新しいファンに対して新鮮に聞こえるかもしれないですよ。

——会見で「スターティング・オーバー」って言って、試合後に「明日また生きるぞ！」って言ったら、かなり新鮮ですよね（笑）。古いファンはグッとくるし。

船木 「そうだ、俺も明日からまた生きよう」って若い人たちが感じると思うんですよね。俺のその言葉で救われた同年代のファンの人たち、いっぱいいたらしいですから。「船木も生きてる。俺も生きるぞ」みたいな。まあ、確かに死んではいないですからね、当たり前ですけど（笑）。

——それはそうなんですけどね（笑）。

船木 お金を払って見に来てくれたファンの人たちに、生きる活力を与えるのが俺たちの仕事なわけじゃないですか。でも、KID選手とかはどういう感覚で試合してるんですかね？ 自分らなんかが格闘プロレスとかやってたのは知ってるんですかね？

——どうでしょうねぇ。子供の頃からレスリング一本かもしれないですね。

船木 そうですよね。たぶん、そっちの感覚の方が強いでしょうね。

——前田さんに話しかけられても、あんまりピンと来てないような感じですよね（笑）。

宇野 そうですね（笑）。

——KID選手の反応とかを見てビクッとしたりします？ 「前田さんにそんな……」みたいな（笑）。

宇野 僕なんかは船木さん、前田さんとは目を合わせられないんですけど、KID選手はかなりフランクな感じで（笑）。ビックリしますけど。

——『HERO'S』の中での宇野さんを、船木さんはどう見てますか？

船木 『HERO'S』は、誰がヒーローになるかって競争じゃないですか。そういう意味では、ひとつ飛び抜けたなって感じは受けましたね。で、そこに（山本）KID選手も入ってきて、須藤元気もいて。今度トーナメントやりますよね、そこでホントの競争が始まると思うんですよ。これはもう、容赦なしにやるしかないですよ。

——宇野さんは、その辺の心構えはいかがですか？

宇野 はい！

宇野 まさにその通りって僕も思ってます。あとは練習して、リング上で出すだけだと思いますね。やっぱりこないだの試合に関しては……。

船木 （遮って）ひとつだけマイナス点を挙げるとすれば、負けたことですね。

宇野 はい。そうですね。

船木 それだけですね。それ以外は全部凄かったんだけど。

宇野 「いい試合だった」って言われるじゃないですか、でも、もうちょっとで勝利に手が届くってところで黒星がついたことが凄く悔しかったんで、次につなげなきゃいけないって。いい試合ができたことは自信になったんですけど、負けちゃ発言権も何もないんで。

船木 でも、負けた試合の方が勉強になりますね。なんで負けたかっていうのを追求しますから。勝った試合は、そんなに反省もないじゃないですか（笑）。とりあえず「あ、こうやって勝ったんだ、分かった」って。でも負けた試合は「なんでこの状態になったのか？」って、ビデオを20回は見ましたね。

——20回！

船木 最低20回ですね。

―宇野さんは今年30歳ですけど、船木さんから見て30歳、いわゆるベテランとか円熟の域に入ってからの選手生活っていうのはどういうふうにしていくのがいいと思いますか？　先ほど身体のケアっていうお話もありましたけど。

船木　自分の場合はこの仕事に15歳から入ってますから、単純に5年ぐらい早いとして、自分が25歳のときと同じ感覚ですよね。だとすれば、ホントにガムシャラに来るもの拒まずでやりまくったって感じですよね。

―やりまくってた時期ですか（笑）。

船木　いま一番頑張らなきゃいけない時期ですよ。ファンに印象を残すような相手とドンドン闘っていくってことだと思いますね。で、あと3年ぐらいしたら、今度は逆に相手を選んで、ホントにこの人と闘いたいっていう人とだけ闘ってほしいですよね。とにかくここから3年間は、やりまくる時期だと思います。

―宇野さん、実際に試合のペースは上がってますからね。

宇野　そうですね。でもホント、僕もそう思います。いまはやりまくるしかないって。『HERO'S』も前の試合との間隔がかなり短くて。3ヵ月連続みたいな感じでやるのは初めてだったんですよ。でも拒む必要もないですし、自分でも今年はいっぱいやりたいと思ってましたので。

―正直、あの試合間隔でハンセン戦って、相当な覚悟が要るとは思うんですけど。

船木　いましかできないですよ。これが3年後だったら、恐らくそこまでは……やっぱり身体も徐々に落ちてきますから、「もうちょっと準備を」ってなると思いますね。

―2人の共通の話をすると、宇野さんも純プロレスを経験されてますよね。

宇野　はい。

―船木さんは宇野さんのプロレスは見たことありますか？

船木　なんでしたっけ？　……あ、『レッスル1』ですね。そのときに見ました。タッグマッチでしたよね。

宇野　そうですね、ケンドー・カシンさんと組ませてもらって。全部で10試合ぐらいやってます。APE興行とか全日本プロレスで。

―やってみて難しさは感じました？

宇野　難しいです、はい。

船木　難しいと思いますね、格闘家がプロレスをやるのは。プロレスから始まった人が格闘技やるよりも、格闘技やってた人がプロレスをやるっていう方が難しいと思いますね。プロレスは、どうしても技を大きく見せなきゃいけないし。あと格闘技は相手の技を受けないじゃないですか。でもプロレスは、あえて相手の技を受けるってこともしなきゃいけない。ホント逆のことですから。

―宇野さん、プロレスもまた機会があればやってみたいっていう感じですか？

宇野　そうですね、はい。

船木　次、『HERO'S』はいつでしたっけ？

―7・6ですね。

船木　で、『WRESTLE―1』はいつなんですか？

―6月って話があるんですけど、正式発表はまだされてないんですよ。

船木　日程的に『HERO'S』の近辺になっちゃうんですね。じゃあウォーミングアップで（笑）。

宇野　正直、『HERO'S』で勝ったら発言権が出てくるじゃないですか。そしたら『WRESTLE―1』って勝手に考えてるとこはありますね（笑）。船木さんは出られるんですか？

船木　いや、俺は出ないですよ（アッサリ）。

―勝って発言権を得て、船木さんに対戦表明とか？（笑）

船木　え、俺が挑発されるんですか（笑）。

―「船木さん、出てきてください！」と。ここも名セリフの引用で（笑）。

宇野　いやいやいや。でもやっぱり船木さんと闘えるなら、どういうルールでもやりたいですね。一番はUWFルールで、レガース付けてやれたらいいなっていうふうには思ってますけど。

船木　じゃあ宇野選手が勝ったときは怖いですね（笑）。

宇野　やっぱり、自分の中で船木さんへの憧れは凄くあるんで。試合の最後に四方にお礼するのも、船木さんを見てですから。

船木　あれ、ちゃんと心を込めてやるんですよ、心の中で「ありがとうございました」って。

宇野　はい。ヨアキム戦のときも、リングの外に担がれて出たあとで、もう一回戻ったんですよ。無意識のうちに「お礼しなきゃ」って凄く思って。「あ、礼してない、礼してない」ってずっとレフェリーに言ってたんですよ。大阪ドームでは礼するときに解説席の船木さんと目が合ったんで、それで勝手に伝承させていただいたと思ったんです、自分の中で（笑）。

―四方に礼をする儀式を伝承したと。

宇野　はい、ホントすいません……余計なこと言っちゃいましたね。

―いやいや（笑）。"格闘王"の称号も襲名したいって言ってましたしね。

宇野　あっ……はい。……あとバク転ができれば。

船木　ああ、練習した方がいいですね。

宇野　それだけちょっとできないんですよ。試合で足を傷めてるんじゃないかとか、そういう余計な心配ばっかりするんですよね。あとグニャッと崩れたらどうしよう、みたいな。でも、あれはカッコいいですよね。ホント憧れですね。

―"格闘王"の称号の話だと、船木さんもモーリスとやる頃に「ここで勝ったら僕が格闘王って言われることになりますかね？　前田さんから引き継げますかね」って言ってたことがありましたよね。

船木　へえ～、そんなこと言ってました？　もう忘れちゃいましたね（笑）。

―ククク（笑）。あと、パンクラスのある選手に聞いたことがあるんですけど、船木さんから「本名だけじゃなくてリングネームを持った方がいいよ」って言われたと。やっぱり、リングネームを持つと気持ちが違ったりするんでしょうか？

船木　単純に本名と違った方が楽じゃないですか。病院で「船木さん、船木誠勝さん」とか、あと飛行機で乗り遅れそうになったときに「船木誠勝様」とか呼ばれたら思いっきりバレちゃうんで。そういうのはありますね。プライベートのときにあんまりバーッと来てほしくないっていうのがありましたんで。

―宇野選手はその辺、気にならないですか？

船木　もう最初からリングネームみたいな名前ですからね（笑）。全然OKですよ。でも「かおる」って、いま漢字でしたっけ？

宇野　はい、漢字です。

前田日明の笑顔が素敵な『HERO'S』旗揚げ前の会見での一枚。大のUWFファンの宇野は前田に肩を組まれると「あ、この場面、UWF時代にもあった」と1人で思い出し笑い

とにかく、ここから3年間は、
やりまくる時期だと思います

船木さんと闘えるなら、
どういうルールでもやりたいです

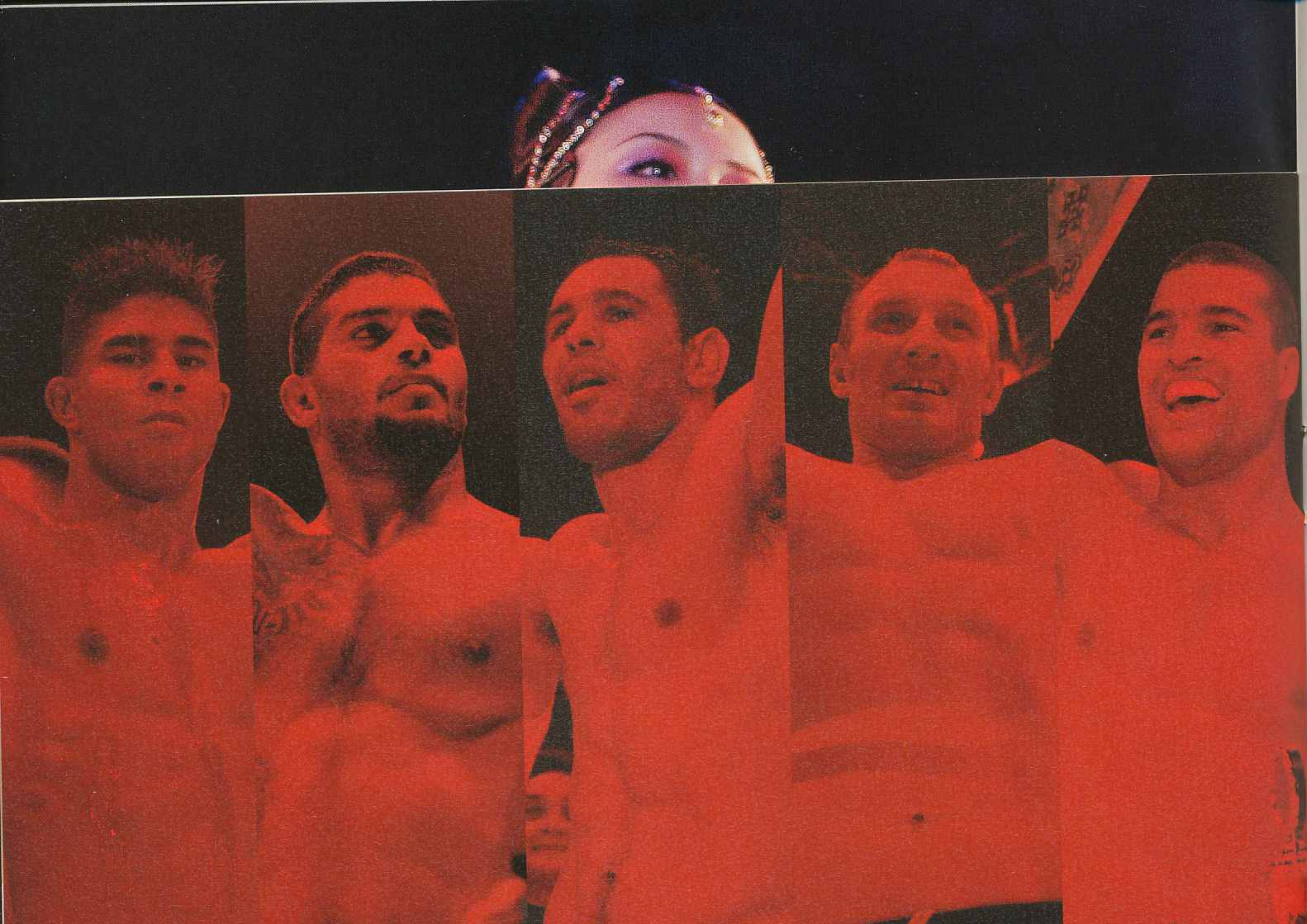
船木　……これ、カタカナに変えた方がいいですよ。
宇野　ホ、ホントですか?
船木　カタカナにしたら相当儲かりますよ(笑)。
――船木さん、占いも詳しいとか?
船木　画数は結構勉強しましたね。
宇野　宇野……カオルですか?
船木　でも佐藤ルミナと被りますね(笑)。だったらプロレスやるときは「カオル」にするとか、分けたら楽しいですね。
宇野　考えてみます。あ、でも英語のときは、僕「CAOL」なんですよ。
――それは自分で変えたんですか?
宇野　いや、UFCに上がったとき「CAOL」になってて。お店も「宇野〈CAOL〉商店」で「UCS」なんですよ。
――「KAOL」じゃなくて「CAOL」なんですね。
宇野　はい。キャオルです(笑)。
船木　でも、この「薫」って字、殺人犯と同じ薫ですよね(笑)。
――小林薫容疑者ですか……。一緒は一緒ですけど(笑)。
宇野　カタカナに変えるかもしれないです(笑)。
船木　でもホント、この前の試合で『HERO'S』で一番ヒーローに近いポジションに上がってるんで、できれば今年の『Dynamite!!』で一発バッと行ってほしいですね。
――70キロ級のトーナメントの決勝戦を『Dynamite!!』でやるって発表してますからね。
船木　どうなりますかねぇ、KID選手と、あとは元気選手と、調子がいい方が上がって来るんでしょうね。
――その2人は日本人の二大ライバルになりますよね。
宇野　でも、外人も強いですから。もう誰っていうのは選べないでしょうし、ホント生き残りだと思うんで。
――船木さんも言ってたように、今年はとにかくやりまくると(笑)。
宇野　はい(笑)。あと、一つ船木さんにお聞きしたいところがあったんですけど、僕って殺気が足りないんじゃないかなと思う部分があるんですけど……。
船木　ああ、殺していいですよ(キッパリ)。
――またストレートですね(笑)。
船木　いや、それぐらいでやっとかないと、逆に自分がやられちゃうんで。それに、ヤバイと思ったらレフェリーが止めてくれますから。それは負けるときも一緒なんで。だから全部レフェリーに任せて、あとは好き放題やった方がいいんですよ。
宇野　は、はい。
船木　それで死んじゃったとしても事故なんで。ホント、親の仇だと思ってやんないとダメですね。
宇野　そういうふうに思ってやられてたんですか?
船木　パンクラチオンルールってありましたよね。あのときはホントに、まったく何も関係なしに加減もしないで全部やってました。頭突きもヒジも全部ありで。その方がやりやすかったんですよ。まったく知らない、いままでパンクラスに上がったことないような外人を集めてやってたんで、情も何もなかったし。とにかくやるだけやって、あとはレフェリーが勝手に止めるだろうと。ケガしようが何しようが関係なし。それが格闘技の基本だと思いますね。
――宇野さんは「ぶっ殺してやる!」って気持ちで試合に臨んだことってあります?
宇野　……なんて言うんですかね、僕はどこかで競技性を考えてるのかなって。きれいに極めるのがいい試合って意識があって。
船木　実は俺、それを宇野選手に対して思ってたんですよ。「優しさを捨てないと」って。でも自分から言ってきたんで良かったです。
宇野　僕もそれをお聞きしたかったんです。
船木　もう関係ないですよ、恨みがなくても敵です。だって外国人とかはこっちのことを殺(や)りに来てるんですから、金を稼ぐために。シウバとかあの辺の選手を見てるとホントそんな感じですよね。とにかく自分の生活、家を守るために狩りに来てるみたいな感じで。誰であろうが目の前に来たヤツは敵っていう。あれは見習った方がいいですね。
――宇野選手へのメッセージは「やりまくれ!」と「殺しちゃっていいよ」ということですね。
船木　レフェリーが止めてくれるんだから大丈夫ですよ。自分が格闘技界で生きてくためには、そういうのも必要ですね。その気持ちでこれからも頑張ってください。
宇野　はい。頑張ります!

【5月6日/「UCS」近くの「三愛ヨコハマホテル」にて収録】

オシャレ格闘家として有名な宇野選手経営のショップ「UCS」でお買い物する船木。お店の感想を聞いてみると「宇野選手らしい素敵なお店ですね。でも、僕はファッションは昔から興味ないんですよ。自分の肉体がファッションなんで」と、実に船木らしいコメント。ちなみに「UCS」は桜木町駅から徒歩3分です! 運が良ければ宇野選手に会えるかも!?
【UCS店舗住所】横浜市中区花咲町3-88 TEL.045-260-5175
HP→http://www.uno-caol-showten.com/

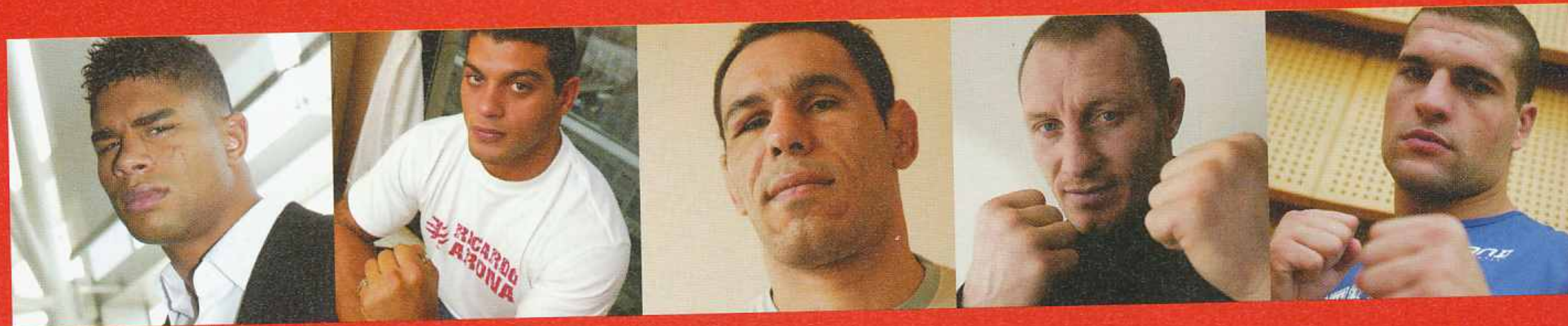
殺していいです。それぐらいでないと自分がやられる

僕って殺気が足りないんじゃないかなと思ってて……

船木誠勝衣装提供:madfenice

史上最も過酷な1回戦を突破！

PRIDE・GP 2005

見てみぃ、このメンツ！
4・23大阪ドームで『PRIDE』史上最も過酷な1回戦を勝ち上がった実力派のこの5人。
果たしてこの中から現王者シウバの首を刈るファイターは出現するのか？

designed by Tani-Yan（Two Three）

グランプリはシュートボクセのためにあるのか!? 〝絶対王者〟ヴァンダレイ・シウバが吉田秀彦を返り討ちにし、そしてマウリシオ・ショーグンは、ミドル級屈指の怪力を誇るクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンに何もさせず戦慄の完勝劇！　ヴァンダレイの盤石さも見事であったが、将軍様の〝殺戮大行列〟の前には、見る者のすべてが平伏したのではないだろうか？　〝ストップ・ザ・ヴァンダレイ〟のテーマも帯びている今回のグランプリだが、〝目には目を、シュートボクセにはシュートボクセを!!〟――シヨーグンが打倒ヴァンダレイの最右翼のポジションに居座ったといえるだろう。

激闘から一夜明けた翌日、グランプリのキーマンとなったこの弱冠24歳の怪物に、きたるべき〝禁断の同門対決〟について胸の内を探ってみた。

――ショーグンさん！　昨日のクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン戦は見事な勝利でした！

ショーグン　……ああ、どうもありがとう（元気なく）。

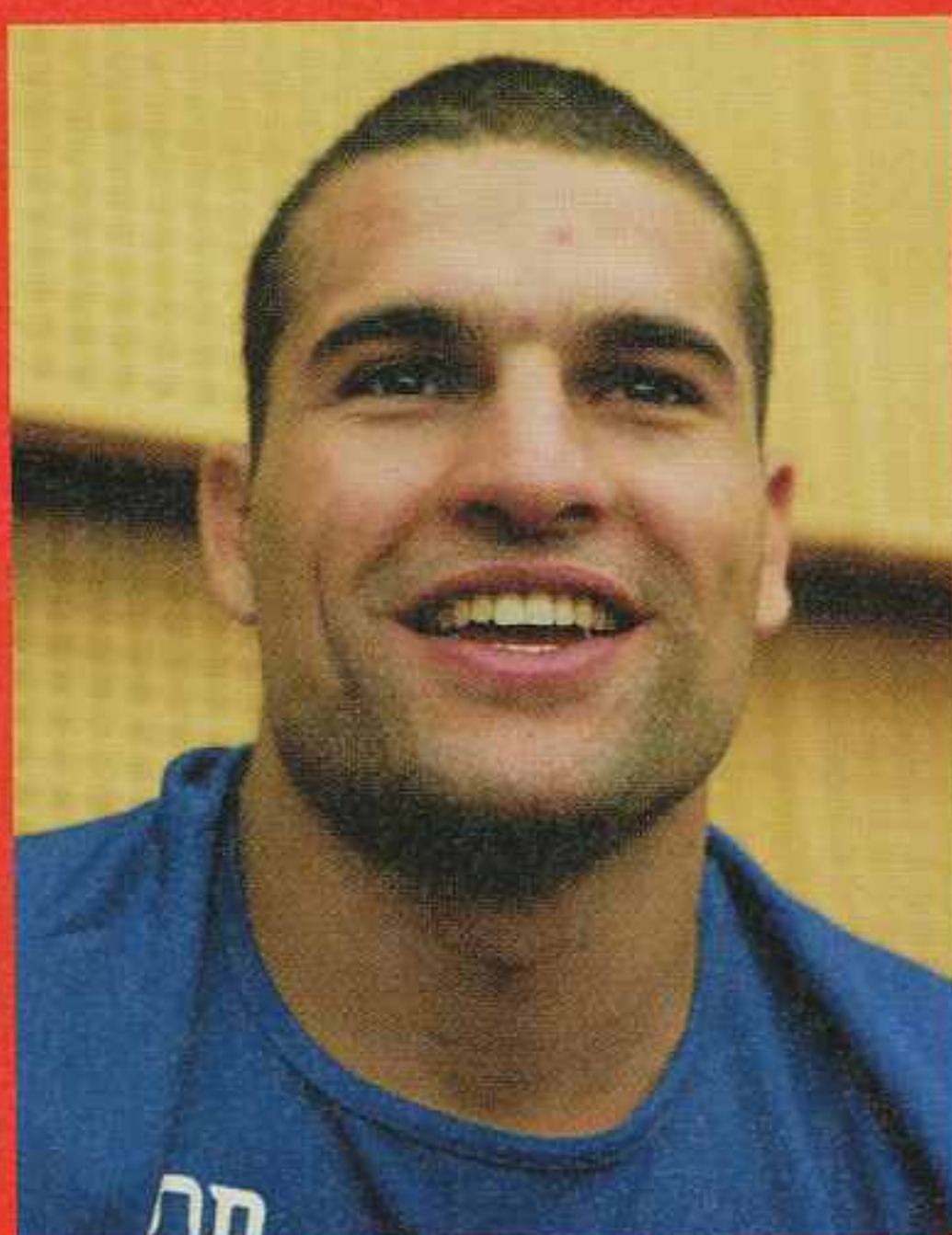
――あの手が付けられない強さや怖さ！　ファンや関係者のあいだでは、同門のヴァンダレイ・シウバと並んでショーグンさんを優勝候補に押す声が高まっているんですよ。

ショーグン　……ああ、そうなんだ。

――どうでしたんですか？　とても勝利者インタビューとは思えないそのローテンション振りは（笑）。

ショーグン　いやぁ、今日はずっ〜〜と取材だったからねえ。ちょっと疲れているんだよ。

ニンジャ　あ〜ぁ（大きなあくびをしながら）。

――あら、付き添いのニンジャさんまでお疲れですか（笑）。シウバさんが『PRIDE』のプロモーションのために北京に向かわれてどこもインタビュー収録が困難だから、ショーグンさんに取材が集中してしまったのかもしれないですね。

ショーグン　でも、キミのマガジンが最後の取材ということでホッとしているところだよ（死んだ魚のような目をニッコリさせて）。

――ちなみにこれで何社目のインタビューですか？

ショーグン　え〜っと、たしか8社目かなぁ。

――そんなに！　脅かすわけじゃないですけど、このグランプリを優勝したら、この2倍は取材が増えるかもしれませんよ。

ショーグン　に、2倍？　大丈夫！　受けて立つよ（笑）。

バーリトゥード・スパーリングはまったく普通の練習だと思っているよ

――頑張ってください（笑）。で、これが8社目のインタビューということで、もう散々聞かれているとは思うんですけど、まずは快勝となったジャクソン戦の感想から聞かせてください。

ショーグン　そうだね。ジャクソンは『PRIDE』のミドル級の中でも、とびきりタフなファイターだけど、兄貴のためにも絶対に勝たないといけないと強く思っていたんだよ。

――『PRIDE．29』のニンジャvsジャクソンはジャクソンの判定勝ちでしけど、あの結果についてショーグンさんはかなり不満だったみたいですね。

ショーグン　あの試合は兄貴が絶対に勝っていた。もうブラジルに帰ってからもずっとイライラしていたんだよ。だから完全にノックアウトできたことは本当に嬉しいね。

――あのタフなランペイジを完膚なきまでに叩きのめしたことにみんなビックリしてるんですよ！　ショーグンさんからすると予定どおりの展開？

ショーグン　ゲームプランどおりというか、シュートボクセで普段から練習していたことがうまく発揮できたことはたしかだね。

――ジャクソンはショーグンさんの強烈なヒザ蹴りで肋骨を折ったみたいですけど。

ショーグン　どのタイミングで折ったかはわからないけど、あの首相撲からのヒザ蹴りは、ヴァンダレイとよく練習している技なんだ。自然な流れで繰り出すことができたのは練習の賜物だよ。

――ショーグンさんって、観ているボクらの背筋がゾッとする超危険な技を本当に自然に出しますよね（笑）。

不安要素があったとすれば、リミットオーバーで再計量までもつれ込んだことじゃないですか？

ショーグン　それでコールマンがスウェットスーツを貸してくれたんだ。でも、計量はオーバーしたけどコンディション的には最高だったから、大きな問題ではなかったよ。そのことでチームのみんなや関係者、そしてファンに不安がらせてしまったことが申しわけなかったけど。

――でも終わってみれば不安を微塵も感じさせない内容。もうショーグンさんはPRIDEを代表するファイターの1人ですよ。

ショーグン　そう評価されるのは嬉しいけど、まだまだ気は抜けないよ。それにグランプリの闘いも終わったわけじゃないからね。

――次戦の相手も気になりますけど。

ショーグン　誰でも構わないよ。ただ、二回戦でヴァンダレイとはやりたくないね。闘うんだったら決勝戦がいいね。

――やっぱり最後に見据えるのは、ヴァンダレイとの同門対決になるんですか？　ファンや関係者はこの組み合わせが決勝と予想する声が多いんですけど。

ショーグン　ヴァンダレイとの試合は決してありえないことじゃない。じつはその件についてヴァンダレイやフジマール会長と話をしたんだ。

――あ、そんな三者ミーティングがあったんですか！

ショーグン　そこでフジマール会長は「もし闘うことになったら、普段のスパーリングで思いきり殴り合っているようにやりなさい」と言ってくれたんだ。他に闘う相手がいる場合はやりたくないけど、決勝戦だっ

船木 ……
ですよ。
宇野 ホ、
船木 カタ
（笑）。
――船木さ
船木 画数
宇野 宇野
船木 でも
だったらプ
るとか、分
宇野 考え
は、僕「C
――それは
宇野 いや、
L」になっ
商店」で「
――「KA
んですね。
宇野 はい。
船木 でも、
じ薫ですよ
――小林薫
すけど（笑
宇野 カタ
（笑）。
船木 でも
O.S」で
上がってる
mite!!
ね。
――70キロ
『Dynam
ますからね
船木 どう
あとは元気
来るんでし
――その2
ますよね。
宇野 でも、
ていうのは

たらしょうがない。そうなったらヴァンダレイと殴り合う覚悟はできているよ。

――"同門対決"はこの世界では絶対的タブーになるんですけど、そんなエピソードを聞いてしまうと、これは"禁断の対決"なんかじゃなくて、もはや"宿命の対決"と思えてしょうがないですね。

ショーグン 簡単に言うと、闘う場所が変わるだけなんだよ。ヴァンダレイやニンジャの兄貴とだって、いつもスパーリングで試合さながらの殴り合いをしているからね。

――シュートボクセでは、"なんでもあり"のバーリトゥード・スパーリングを毎日、繰り広げているんですよね。

ショーグン うん。格闘家はハードなトレーニングを積まないといけない。それにシュートボクセはブラジルでも頂点に位置するジム。ボクはそこで一流の格闘家になろうと思って入門した。だからまったく当たり前のトレーニングだと思っているんだ。

――はあ～、バーリトゥード・スパーリングは当然の練習（笑）。ヴァンダレイと激しいスパーリングすることで得るものは多いんですか？

ショーグン うん。ヴァンダレイのような強いファイターと練習することでボクも強くなっていくんだ。ヴァンダレイはホント強いよ。まだまだボクは彼のレベルに到達してないから。

――ショーグンさんにそこまで言わしめるヴァンダレイはやっぱり"怪物"なんですねえ。ちなみにショーグンさんはどんなトレーニングメニューで1日を過ごされているんですか？

ショーグン 10時から11時30分までバーリ・トゥードの練習、15時から筋肉トレーニング、8時から10時半までは柔術の時間。集中して濃密なトレーニングをすることが効果的なんだ。

――柔術の練習に多くの時間を割いてますね。ヴァンダレイの柔術のスキルも素晴らしいものがありますが、当然ショーグンさんも自信はある？

ショーグン もちろんだよ！ バーリ・トゥードはスタンドの攻防だけじゃないからね。寝技の展開だって待っている。寝技に自信があるからこそ、逆にあそこまで踏み込んでの打撃勝負ができるんだ。

――つまり、一段構えの勝負ができるということですね。

ショーグン そうだね。残念ながら、まだボクの柔術スキルのすべてをファンに見せることには至ってないけど。

――寝技に入る前に決着を付けてしまうことが多いですからね。あとショーグンさんといえば、スタミナの埋蔵量もハンパじゃないですよね。よくあそこまで激しく動き続けることができるというか。

ショーグン これは才能かどうかわからないけど、ボクの母親はいまでもブラジルでも有名な現役のマラソンランナーなんだ。きっと母親の血を受け継いでいるんだと思う。

――その人間離れしたスタミナはお母さん譲りだったんですね。

ショーグン ボクの家族はみんなスポーツが得意なんだ。ボクも小さい頃はサッカーをやっていてポジションはミッドフィルダー。

――殺人的な踏みつけやサッカーボールキックは、サッカー時代に養われていた（笑）。格闘家になろうと思ったのは、兄のニンジャさんの影響なんですよね？

ショーグン そう。シュートボクセに入門したのは6年前の17歳のとき。俺や兄貴の影響で弟も近々デビューすることになるよ。

――噂のショーリンがいよいよデビューしますか！ ショーリンの背丈はショーグンさんやニンジャさんを超える逸材らしいですね。

ショーグン ショーリンは83キロ級のカテゴリーでやりたがっているんだよ。俺や兄貴と同じファイトスタイル（ニヤリ）。きっと日本のファンもきっと喜ぶファイトすると思うよ。

――期待しています！ ところで、話は変わりますが、ショーグンさんのもうひとつの"顔"であるモデルのお仕事は、いまはやられてないみたいですね。

ショーグン 最近はあまりやってないね。やっぱり最近は『PRIDE』に専念したい気持ちが強いからね。練習のさまたげになるし、試合にも悪い影響が出てきかねないし。一番最近のモデル仕事は4ヶ月前のファッションショーかな。

――現役モデルのうえに格闘家としても知名度があるし、ブラジルではかなりモテそうですね！

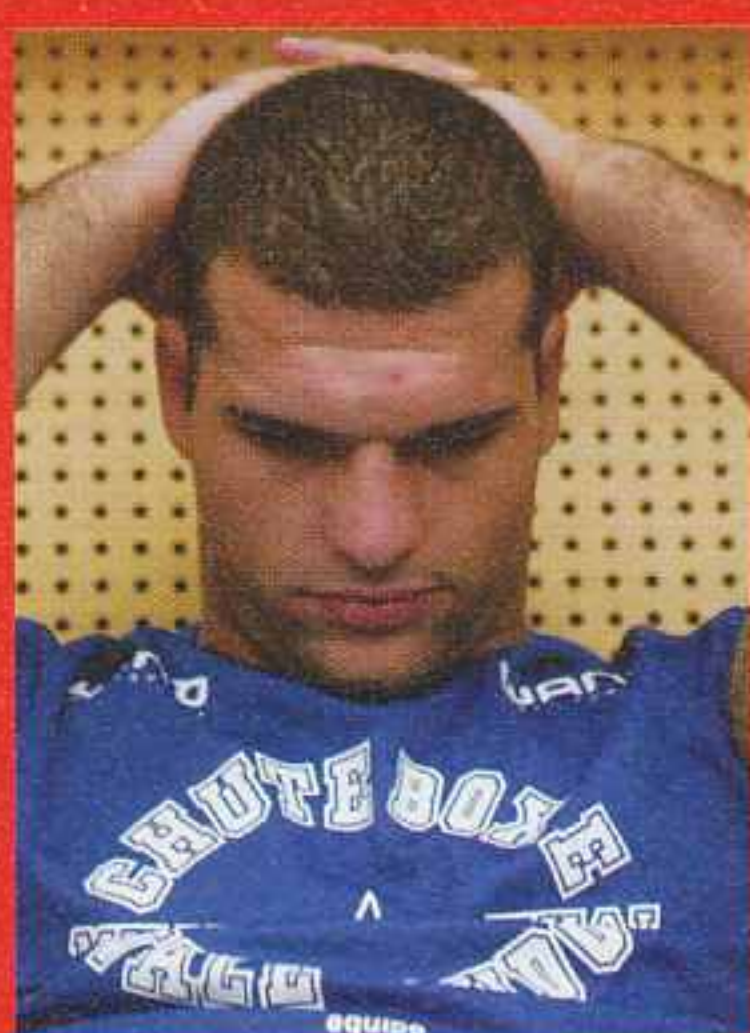
ショーグン みんなにそう言われるけど……キミはどう思う？（真顔で）。

――どう思う？って（笑）。ガールフレンドにでも聞いてください！ 今日はお疲れのところありがとうございました!!

【05年4月24日／大阪の某ホテルにて収録】

弟のショーリンは兄貴や俺と同じスタイル 日本のファンが喜ぶ試合をすると思う

○M・ショーグン（1R 4分47秒 KO）
●Q・"ランペイジ"・ジャクソン

ショーグンの強烈な首相撲からヒザでランペイジは脇腹を骨折！ 「脇腹が折れた」とセコンドにアピールするがタオルは投入されず。ショーグンのさらなる追撃によりTKO！

MAURICIO SHOGUN

1981年11月25日ブラジル出身。ヴァンダレイ・シウバを擁するシュート・ボクセの"次期エース"。現在『PRIDE』5連勝中。特筆すべきはすべて1Rで相手を仕留めていることだ。容赦ない"踏みつけ"を大連射し、絶え間なく動き続ける脅威的なスタミナを誇っている。兄はムリーロ・ニンジャ。182cm、92.7 kg

進化した北の最終兵器が
王者シウバと打撃戦を熱望!!
「ぜひヴァンダレイ・シウバと
殴り合いがしたいですね」

IGOR VOVCHANCHYN

イゴール・ボブチャンチン

聞き手／橋本宗洋

船木　……ですよ。
宇野　ホ、
船木　カタ
（笑）。
—船木さ
船木　画数
宇野　宇野
船木　でも
だったらプ
るとか、分
宇野　考え
は、僕「C
—それは
宇野　いや
L」になっ
商店」で「
—「KA
んですね。
宇野　はい
船木　でも
じ薫ですよ
—小林薫
すけど（笑
宇野　カタ
（笑）。
船木　でも
O.S』で
上がってる
mite!!
ね。
—70キロ
『Dynam
ますからね
船木　どう
あとは元気
来るんでし
—その2
ますよね。
宇野　でも
ていうのは

—GP開幕戦での近藤戦勝利、おめでとうございます！　2月の試合もそうでしたけど、かなり精悍になられましたね。

ボブチャンチン　以前に比べて、15、6キロは落ちましたから。

—やっぱりいまのご自分の方がカッコいいと思いますか（笑）。

ボブチャンチン　そうですね（微笑）。

—減量はどういう形で進めていったんですか？　食事その他、特別なプログラムを組んだとか。ミドル級規定を大幅にオーバーしているボクとしては、その辺も個人的に興味があるんですが（笑）。

ボブチャンチン　もちろん食べ物にも気を遣いました。寝る前にはあまり食べないようにするとか。

—ダイエットの基本ですね。それをボクはなかなかできないんですけども（笑）。

ボブチャンチン　あとは、基本的にたくさんトレーニングをするということですね。速く動けるように、ということを意識した練習を重点的にしてきました。練習はいままでにないくらい厳しいものだったんですが、その分だけ試合が楽になりますから。

—去年の2月に試合をされてから、10月の『武士道』での藤井軍鶏侍戦までだいぶ間隔がありましたよね。それも肉体改造のためにあえて休んだということですか。

ボブチャンチン　ヒジをケガしたという理由もあったんですが、その間の休みがいいきっかけになったというのはいえるでしょうね。

—階級を落とそうと思ったのはいつ頃だったんですか？

ボブチャンチン　昨年10月の試合を98キロくらいで闘って、調子がよかったのでこのままミドル級に落とそうと思いました。その方がより自分の強さを発揮できるだろうと。

—ヘビー級時代は、かなり無理をして体重を増やしていたんですか？

ボブチャンチン　そういうわけではないんですが、特に絞ろうとも考えていませんでした。そういうことに無頓着だったんですよ。

—それでもずっと勝ってきたわけですしね。でも、ここ数年は『PRIDE』戦線もだいぶ様変わりしてきました。以前はストライカーといえばボブチャンチン選手のことだったんですが、シウバやミルコなど、ボブチャンチン選手以外のストライカーが目立つようになって。そういう状況に焦りみたいなものは感じなかったですか？

ボブチャンチン　特にストライカーとしてというのではなく、『PRIDE』全体のレベルが急激に上がり続けているというのは意識せざるをえなかったですね。寝技の選手もどんどん打撃を覚えているし、スタンドの選手も寝技を学ばないと勝てなくなっているのがいまの『PRIDE』だと思います。

—自分もそれに追いつかなければいけない、と。

ボブチャンチン　そうです。

—前回の高橋義生戦、今回の近藤有己戦を見ているとパンチも蹴りも凄まじくスピードアップしていますよね。それからグラウンドの技術もかなりレベルアップしたように思いますが。

ボブチャンチン　サンボの練習にも、かなり時間を費やしましたからね。有名なコーチについてもらっているので、いい練習ができていますよ。

—日本やアメリカ、ブラジルでは柔術のアカデミーがたくさんあって、最新のテクニックを学ぶこともできると思うんですよ。それに比べるとボブチャンチン選手が住んでいるウクライナはいかがですか？　やはりハンデはありますか。

ボブチャンチン　そういう面では、やはり厳しいものがありますね。情報もなかなか入ってこないですし。やはりロシア、ウクライナで組み技というとサンボということになるんですが、そのサンボでも優秀なコーチが亡くなったりして、状況はいいとはいえないですね。幸い、私はいいトレーナーに恵まれたんですけど。

—普段、柔術の練習はされてないんですよね。

ボブチャンチン　そうです。

—環境の問題もあるんでしょうけど、あえて主流になってるものを学ばずにやっていこうと。

もし近藤選手が関節技をかけてきても私には通用しないだろうなと思いました

ボブチャンチン　というより、サンボには非常に優秀なテクニックがたくさんありますから、それで充分に対応していけると思っていますね。バーリ・トゥードで使えるテクニックという意味では、サンボは柔術以上じゃないかと思います。いまは打撃とサンボ50％ずつ練習しています。

—それぐらい組み技にも力を入れていると。それから近藤戦では、技はもちろんパワー、体の圧力そのもので圧倒していた感じもありました。

ボブチャンチン　それは自分で感じました。試合が始まってみて思ったんですが、もし近藤選手が関節技をかけてきても、私には通用しないだろうなと。極めさせない自信がありましたね。

—これまでのボブチャンチン選手にはなくて、いまは成長したと思う部分ってどんなところですか？

ボブチャンチン　スピードとスタミナ、それから経験ですね。

—調子が悪かった時期というのは、どこがよくなかったと思いますか。

ボブチャンチン　（大きくため息をついて）やはりココですかね（頭を指差す）。

—頭がよくなかったんですか（笑）。

ボブチャンチン　まあ、全体的に疲れていましたね。『PRIDE』に出る前も、『PRIDE』に出るようになってからもずっと闘い続けてきたので、肉体的にも精神的にも疲労しきっていたと思います。

—確かに、『PRIDE・4』で初出場して以来、『PRIDE・15』まで、2000年のヘビー級GP（準優勝）も含めて15大会連続出場してますからね。その後、また『PRI

DE・17』から3連続出場してますし。疲れない方がどうかしてますよ（笑）。
ボブチャンチン　激しい試合も多かったですから。そして疲れがたまってくるといい練習ができなくなり、結果も出なくなってしまう。疲労のためにケガもしてしまって、そのときに「しっかり休んでリフレッシュしよう、新しい自分を作ろう」と思いましたね。そう考えると、去年ケガをしたのは自分にとってよかったのかもしれないです。
―ケガをしてしまったときに、競技生活をやめようとまでは思わなかったですか。
ボブチャンチン　それはなかったですね。やはり私は闘うことが好きですし、それが自分の生活だと分かっていますから。
―話は変わるんですが、ボブチャンチン選手はヒョードル選手と仲がいいみたいですね。
ボブチャンチン　そうですね。電話で連絡を取り合ったりしてますよ。彼が住んでいるスタールイ・オスコルと私のいるハリコフは距離的にも近いですし。200キロくらいしか離れてないですから。
―200キロだと近いうちに入るんですね（笑）。ヒョードル選手とはどんなお話をされてるんですか？
ボブチャンチン　まあ世間話ですよ。女性の話とか（笑）。
―ヒョードル選手にインタビューしていると、ボブチャンチン選手に対するリスペクトを凄く感じるんですよ。それは同じ旧ソ連圏の先輩としてなんでしょうね。ヒョードル選手も出身自体はウクライナですし。
ボブチャンチン　お互いにリスペクトしあう関係といっていいでしょうね。私の方が『PRIDE』では先輩になりますが、彼もヘビー級のチャンピオンですから尊敬に値する選手です。試合についてのアドバイスを送りあったりしますし、『PRIDE』についての情報交換もしていますよ。

ヒョードルとは電話でよく世間話をしますよ あとは女性の話もよくします（笑）

―GPに話を戻すと、ベスト8ファイターを見渡して、ボブチャンチン選手よりフィジカルで優れているなと感じる選手って誰かいますか？
ボブチャンチン　フィジカルといっても様々な要素がありますから、一概には言えないですね。ある部分では私より優れている選手がいるかもしれない。で全体的に、自分が誰かより劣っているとは思わないですね。
―いま、ミドル級のチャンピオンはシウバ選手で、ボブチャンチン選手と同じストライカーです。もし闘ったらどんな試合になると思いますか？
ボブチャンチン　打撃の種類が違うので、どうなるかは分からないですが、とにかく殴り合いになるのは間違いないですね。彼とは打ち合いがしたいです。寝技で闘っても意味がないと思います。
―シウバとは打ち合わないと意味がない！（笑）。さすが、かつて『PRIDE』の打撃の代名詞だっただけありますよね。
ボブチャンチン　向こうは打が得意ですけど、自分も得意ですからね。彼がどうこうではなく、自分が打撃で闘いたいだけですよ。
―そのシウバ選手も含めて、GP優勝に向けて最大のライバルは誰になると思いますか？
ボブチャンチン　月並みな答えですが、やはり全員がライバルだと思っています。開幕戦を勝ち残った8人は、誰を見ても弱い選手はいないですからね。危険な選手ばかりです。もちろん、私もその中の1人ですからかなり危険ですよ（微笑）。
―それは当然です（笑）。では、GP制覇に向けて今後のボブチャンチン選手の活躍を楽しみにしてます！
【05年4月23日／グランキューブ大阪にて収録】

○イゴール・ボブチャンチン（3R 判定 3-0）●近藤有己

『PRIDEミドル級GP』開幕戦では近藤有己に判定で圧勝。スタンドで押しまくり、タックルも楽々と潰して上に。近藤の下からの仕掛けもクリアしてパウンド三昧。さらにアームロックを極めかける場面もあった。感想は一言、強い！

IGOR VOVCHANCHYN
1973年8月6日、ウクライナ・カリコフ出身。98年10月『PRIDE4』参戦以来、必殺のロシアンフックでKOの山を築く。04年10月14日『PRIDE 武士道 其の伍』の藤井軍鶏侍戦以降、急激に体重を絞り、持ち前のパワーにスピードを加えた。現在、ミドル級GPの頂点を狙う。176cm、92.5kg

船木 ……
ですよ。
宇野 ホ、
船木 カタ
（笑）。
――船木さ
船木 画数
宇野 宇野
船木 でも
だったらプ
るとか、分
宇野 考え
は、僕「C
――それは
宇野 いや、
L」になっ
商店」で「
――「KA
んですね。
宇野 はい。
船木 でも
じ薫ですよ
――小林薫
すけど（笑
宇野 カタ
（笑）。
船木 でも
O.S』で
上がってる
mite!!
ね。
――70キロ
『Dynam
ますからね
船木 どう
あとは元気
来るんでし
――その2
ますよね。
宇野 でも、
ていうのは

目指すは兄・ホドリゴもできなかった全試合一本勝ちでのGP制覇！「ジョーグンが踏みつけてきたらその足を極めてやるだけさ！」

ANTONIO ROGERIO NOGUEIRA

アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ

聞き手／堀江ガンツ　構成／松下ミワ

――まずはホジェリオ選手、一回戦勝利、おめでとうございます！　昨夜は、祝勝会だったんですか？

ホジェリオ　そうだね。食事をして、その後、ナイトクラブでちょっとだけ遊んできたよ。でも、それも昨日1日だけで、しばらくはお預け。ブラジルに帰ったらすぐに6月の2回戦に向けてトレーニングを再開するからね。

――それにしても、GP1回戦のダン・ヘンダーソン戦は見事な勝利でしたね。

ホジェリオ　ありがとう。自分でもいい試合になったと思うし、判定ではなく一本勝ちできたことがなにより嬉しいね。

――最後の寝技も見事でしたけど、ヘンダーソン戦では特に打撃がよかったように感じましたが。

ホジェリオ　ボクシングやムエタイの練習はたっぷりと積んできたし、ボク自身、寝技だけでなく立ち技にも自信があるからね。

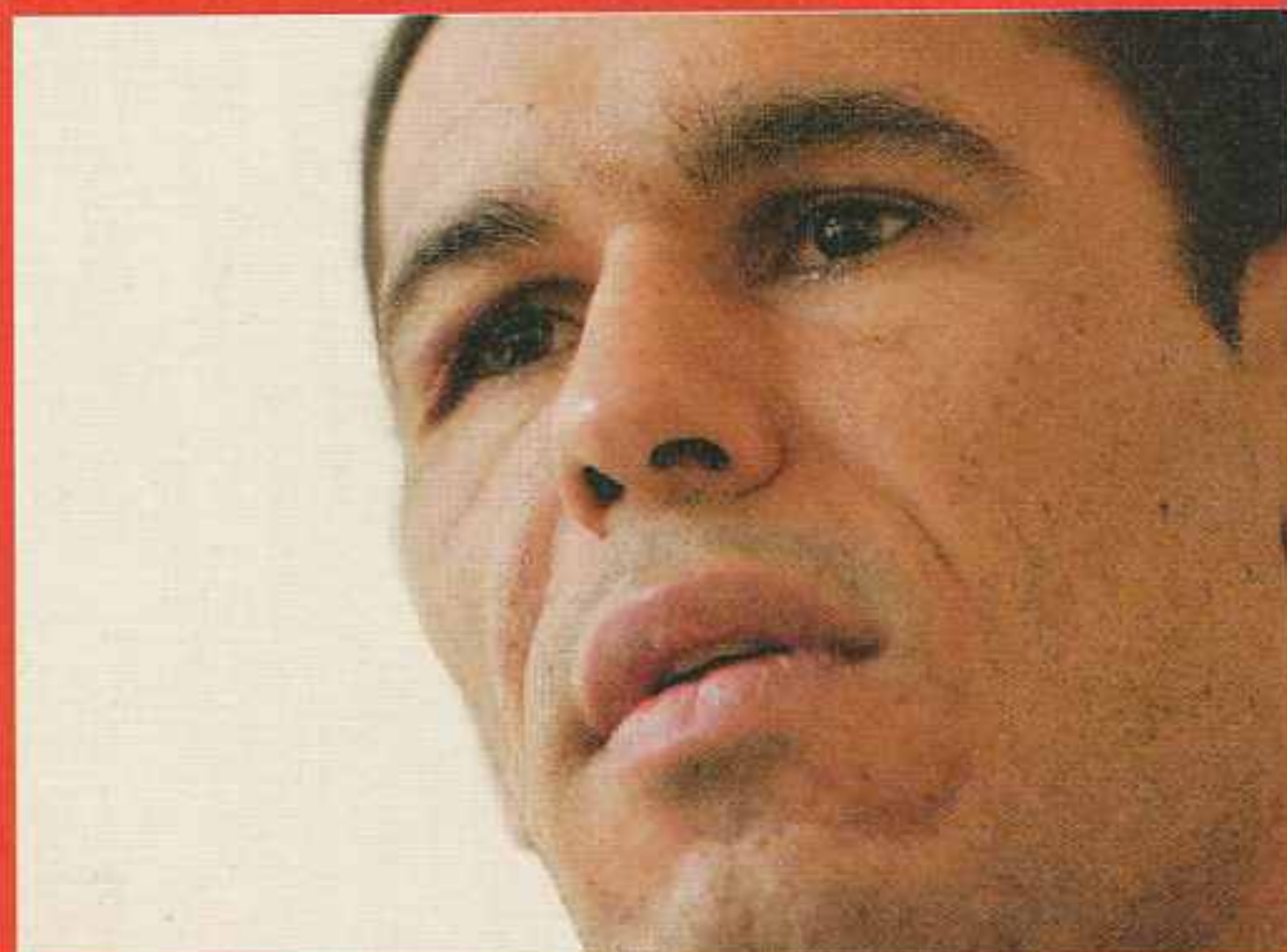
――ヘンダーソンもボクシング技術には定評がありますけど、それでも自信があったんですか？

ホジェリオ　うん。ボクのほうがリーチが長いから、うまく距離をとりながらやれば、立ち技でもイケると思っていたよ。実際それがうまくいったね。

――では、今回はどちらかと言うと立ち技を重点的に練習してきたわけですか？

ホジェリオ　そういうわけではなくて、総合的にすべての技術のレベルアップを心がけたんだ。前回の試合（2・20『PRIDE・29』アリスター・オーフレイム戦）が終わってから2ヶ月間ぶっ続けで練習してたんだけど、ボクシング、ムエタイ、それからレスリングの先生であるアメリカ人のデアロ・コーランとも練習したよ。それに、寝技は兄やトップチームの仲間たちとの練習が多かったね。

――ということはトップチーム以外での練習も結構多かったということですか？

ホジェリオ　寝技はトップチームで、それ以外は兄たちと自宅で練習してたんだ。

――自宅ですか!?

ホジェリオ　自宅にリングやトレーニング機材が揃った練習スペースがあって、そこに何人かの選手が集まって練習しているんだ。専属のコーチもついているよ。

――なるほど。ちなみにどんなメンバーがいるんですか？

ホジェリオ　立ち技がすごくうまいイタリア人のアレッシオ・サカラや、この間『PRIDE武士道』に出たヒカルド・モラエス。あとはリノ・バンボス、ファリュ・モドナル、この4人が中心で、あとカッテオという選手もいるよ。

ジャクソンのセコンド陣にはガッカリした ボクが同じことをされたら即刻クビにするよ！

――それは、みんなバーリトゥードのプロファイターなんですか？

ホジェリオ　ほとんどがそうだね。ただ、ボクシングの先生をしているリノはバーリトゥードじゃないな。リノは、とても優秀なボクサーなんだ。彼もそうだけど、どちらかというと打撃系の選手が多くて、彼らが寝技を練習しにきている感じかな。もちろん、ボクたち兄弟も彼らから打撃の技術を学んでいるから、お互いにとっていい練習ができていると思うよ。

――コーチ料の支払いはどうしてるんですか？

ホジェリオ　ルイ・ザオビスというレスリングの先生に支払ってるよ。家にくる選手みんなで先生たちに授業料を払うというシステムになっているんだ。

――強くなるための経費というわけですね。

ホジェリオ　もちろんそうだね。

――その友人たちは、ノゲイラ兄弟の家に泊まってたりもするんですか？

ホジェリオ　試合が近くなると、泊まり込みになるかな。合宿のような感じだね。

――合宿ができるほどの部屋数があると（笑）。

ホジェリオ　いや、ボクたち兄弟が住んでいる家の近くに別棟があって、そこにみんな泊まっているんだ。

――あの豪邸の他にさらに別棟がありますか！　自宅はホジェリオ選手とお兄さんのホドリゴ、それからそれぞれの彼女の4人で住んでいるんですか？

ホジェリオ　彼女はよく家には来るけど、一緒に住んでいるわけじゃないよ。

――定期的に相手が変わるというわけでもなくて？（笑）。

ホジェリオ　ちがうよ！（笑）。

――そういえば、ホジェリオ選手はまだ結婚とかは考えてないんですか？

ホジェリオ　うん、全然まだだね。

――先日、マリオ・スペーヒー選手にはお子さんが生まれたそうですが。

ホジェリオ　彼はボクより10歳くらい上だからね。ボクもあと10年ぐらいは自由にさせてよ（笑）。

――候補がいっぱいいすぎて、選びきれないとか？（笑）。

ホジェリオ　いやいや、いつもちゃんと真剣に付き合ってるってば！

――わかりました（笑）。ではマジメな話に戻って、次の対戦相手はまだ決まっていませんが、ホジェリオ選手にとって勝ち上がったメンバーで、一番のライバルになりそうなのは誰ですか？

ホジェリオ　全員がハイレベルな選手なので、誰と試合をしても勝ち上がるのは難しいと思うよ。

――その中でも、あえて誰かを挙げるとすれば？

ホジェリオ　アローナだね。

――同門のアローナですか！

ホジェリオ　ボクとアローナの決勝戦になれば一番いいと思っているよ。そしてその可能性は十分あると思っている。

――同じブラジルでシュートボクセもトップチームと同じように2人勝ち上がりましたけど、シュートボクセに対する特別なライバル心というも

○アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ（1R8分5秒、腕ひしぎ十字固め）
●ダン・ヘンダーソン

試合は「序盤は打撃、後半からジリジリとグラウンドで攻める」と言ったホジェリオの作戦通り。目まぐるしい打撃の攻防でヘンダーソンが疲れを見せたその隙に、ホジェリオがグラウンドに持ち込み、最後は腕ひしぎ十字で見事一本勝ち。

INTERVIEW ANTONIO ROGERIO NOGUEIRA

ボクのほうがリーチが長いから立ち技でもヘンダーソンに負ける気はしなかったよ

のはありますか？

ホジェリオ　ライバル心はもちろんあるけど、それは、いいライバル心だね。同じ目標に向かって努力している者同士、彼らが活躍すればボクらも刺激になるし、競い合ってレベルアップできればいいと思っているよ。

——シュートボクセの中でも、最近マウリシオ・ショーグン選手の勢いが止まらない感じですが、彼のことはどう見てますか？

ホジェリオ　立ち技の技術がとても優れているね。アグレッシブでいい選手だと思うよ。ジャクソン戦に関しても、試合開始すぐにケガを負わせたしね。でも、あの試合については、ジャクソンのセコンドにガッカリしたよ。試合中、ジャクソンが異常を訴えてるのにストップしなかったんだからね。

——同じファイターとして、そういうのは腹が立ちますか？

ホジェリオ　そうだね。もしもボクのセコンドが同じことをしたら、即刻クビにするよ。ファイターの命を預かっている立場のセコンドが選手を守ってくれるからこそ、危険な闘いに出ていけるんだ。それなのにあんなことをされたら、リングに上がれない。ジャクソンのコーチは、もっと選手のことを理解しないといけないよ。

——ああいったことはトップチームではありえませんか？

ホジェリオ　絶対にありえないね。ああいうのはあくまでアクシデントなんだから、正しい判断をしないとダメだよ。

——ホジェリオ選手がショーグンと戦うとしたら、どんな試合にしたいと思いますか？

ホジェリオ　それはショーグンの出方次第だね。相手が立ち技なら立ち技で勝負するし、寝技できたら柔術で一本勝ちするだけさ。

——ショーグンの一番警戒すべきところは？

ホジェリオ　やっぱりヒザ蹴りだね。でも、逆にショーグンのほうがボクの寝技により警戒しないといけないんじゃないかな。

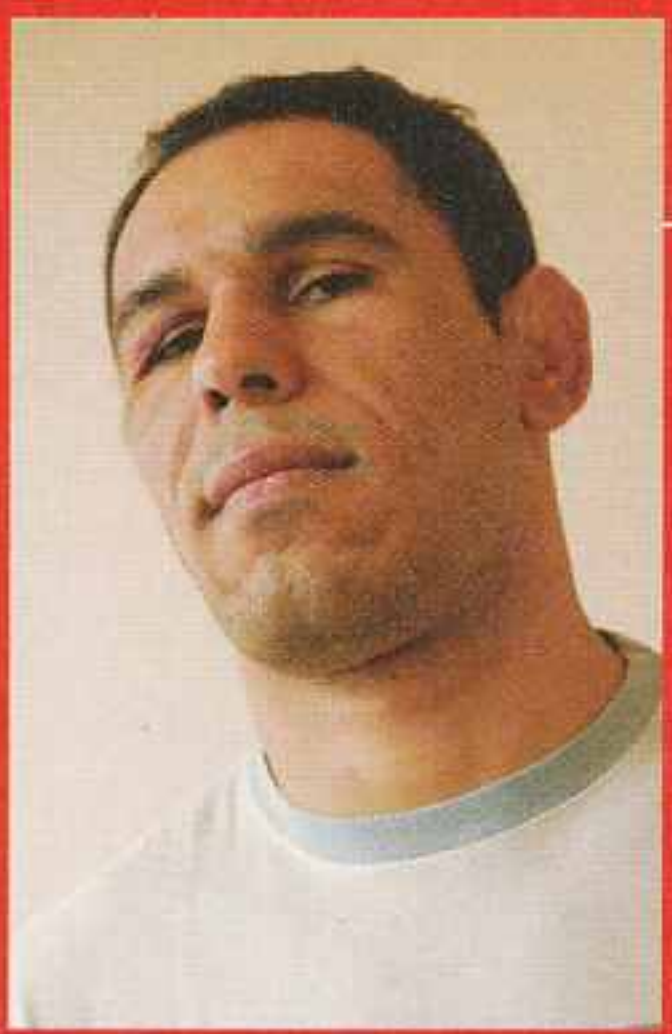
——ショーグン選手は倒れた相手を踏みつけるのが得意ですが、トップチームの選手はその踏みつけをかわして極めるという動きも練習してるんですか？

ホジェリオ　あの攻撃も強烈だとは思うけど、その対処については問題ない。いつも練習していることだから、特別なことじゃないよ。逆にショーグンには忠告しておくよ。ボクを踏みつけたら、極められる危険性が増えるだけだってね。

——おぉ～、頼もしいですね！　では、2回戦も期待しています！

【05年4月26日　都内・某ホテルにて収録】

ANTONIO ROGERIO NOGUEIRA

1976年6月2日、ブラジル・リオデジャネイロ出身。『PRIDE』ヘビー級の頂上決戦に絡むホドリゴ・ノゲイラの双子の実弟。兄と同様、高度な寝技テクニックを持ちながら、打撃は兄以上という定評も。スピニングチョークの開発者としても名高い。『PRIDE』では現在7戦無敗。ミドル級GPの頂点を飾る日は近い!?　191cm、92.9kg

『アブダビ』参戦回避を決断！
目指すは『PRIDE』の頂点のみ!!
「ヴァンダレイが"無敗"なのは
俺と闘ってないからだ！」

RICARDO ARONA

ヒカルド・アローナ

聞き手／堀江ガンツ　構成／松下ミワ

—GP1回戦はディーン・リスターとの"アブダビ王者対決"を制したわけですけど、ご自身の満足度はいかがですか？

アローナ 勝ったことは満足しているけど、判定になってしまったことは不満だね。絶対にKOか一本で決めて、"進化したアローナ"を見せたかったんだ。

—今回は勝つだけでなく、勝ち方にもこだわったと。

アローナ そう。俺たちブラジリアン・トップチームはみんな一本、KO勝ちを目指している。そのためにハードなトレーニングを積んでいるわけだからね。

—それはファンが一本勝ちやエキサイティングな試合を求めているからですか？

アローナ それはもちろんそうだ。そういったファンの欲求に応えるのも俺たちファイターの役目だからね。

—以前のアローナ選手は、正直言って「強いけれど堅実な闘い方で試合が地味」というイメージがあったんですよ。そういったものを覆したいという思いはありますか？

アローナ 俺は常にアグレッシブを心がけてきたが、自分自身で何かを変えなきゃいけないという危機感はあったよ。だから臨機応変に上からでも下からでも極められるように準備してきたし、一発でKOを狙える打撃力を身につけるために、打撃の練習も増やしているんだ。

—確かにジャクソン戦（6・20『PRIDE・GP』）あたりから、試合展開が変わったように思います。

アローナ やっぱり、ジャクソンとの試合でいろいろ学んだよ。あれから寝技にしても何にしても、動いて動いて相手のペースをかき乱そうと心がけるようになったんだ。

『PRIDE』でさらに上を目指すためには何かを変えなきゃならない危機感はあったよ

—リスター戦でも動きのある寝技で見応えがありましたよ。

アローナ そうかい？ リスターは寝技の技術でも定評のある選手だし、テイクダウンも上手い。ただ、リスターが足を取りにくるときは結構こう着状態になりがちだったから、俺はあまり好きじゃなかったな。あの試合は仕掛けられたたから仕方なかったけどね。

—いやぁ、それにしてもアローナ選手がそこまで危機感を持って試合に挑んでいるとは思いませんでしたよ。これまでだって決して戦績が悪かったわけじゃないですよね？

アローナ 『PRIDE』はハイレベルな選手が揃っていてレベルアップしているから、常にモデルチェンジをして自分自身をバージョンアップしなければ生き残れないんだよ。

—そういった意味では、久々に『PRIDE』で結果が出せなかったビクトー・ベウフォートの試合はどう感じましたか？

アローナ ビクトーは戦略があいまいだったと感じたよ。内容的にもそんなにいい試合とは言えなかったね。おそらく、練習環境が変わってしまったからというのも影響しているだろうな。そういうことは、選手のコンディションを大きく左右するからね。

—アローナ選手はいま、トップチーム以外でも練習しているんですか？

アローナ 練習の中心はトップチームだけど、もちろん自宅でも練習しているし、ノゲイラ兄弟の練習場、他にもいろんなところに顔を出しているよ。いい練習はできてるよ。

—同じブラジル人のシュートボクセ勢もトップチームと同じように2人2回戦に勝ち上がりましたけど、彼らのことは意識しますか？

アローナ 別に。前はシュートボクセとライバル的なところがあったんだけど、あの頃とは考えも変わったからね。今はいいライバルだと思ってるよ。

—以前、確かアローナ選手はシウバと新宿のホテルで乱闘寸前だったという話を聞いたことがあるんですけど。

アローナ そんなこともあったな（笑）。でも、ヴァンダレイに関しても今は特別な感情は持ってないよ。どちらかというと、そういうのはホテルやレストランじゃなくてリング上で決着をつけたいな。お互いプロのファイターだからね。

—シウバvsアローナ戦が実現すれば、相当凄い試合になるでしょうね。

アローナ もちろん。きっとすごい試合になるだろうな。瞬きするのも惜しいくらいね。

—シウバはいまだ『PRIDE』ミドル級では無敗。最近ではまさに"無敵"というオーラが漂っていますが。

アローナ それは俺とやってないからじゃないのか⁉ 俺は、ずっと勝てると思ってるからね。

—おぉ！ さすがですね（笑）。では、アローナ選手だったらどんな闘い方をしますか？

アローナ 戦略なんて気にしないよ。俺だったら、立ち技でも寝技でもなんでも勝負できるからね。

—その待望のチャンスが、いよいよ

○ヒカルド・アローナ（3R 判定 3-0）
●ディーン・リスター

終止足間接を狙うリスターに対し、アローナは打撃で反撃。2Rにはアローナが本業の寝技を発揮。三角締めで一本勝ち寸前までいったが、リスターはゴングに救われる。結局、試合は3Rまでもつれ込み、3－0でアローナの判定勝ちに。

ヴァンダレイにはずっと勝てると思っていたし ヒョードルにだって負けない自身はある！

6月に巡ってくるかもしれませんが。

アローナ　早くやりたくてウズウズしてるよ。

―以前は桜庭戦を熱望していましたけど、いまはあまりそういう気持ちはありませんか？

アローナ　いや、もちろん闘ってみたいよ。サクラバはこれまで自分がトップファイターであることを試合で証明してきた選手だからね。闘えるとなれば、とても光栄だよ。

―最近、桜庭選手はいい結果が出ませんが、アローナ選手から見て力が落ちているという感じはありますか？

アローナ　結果が出ていないと言っても、彼はヴァンダレイにしか負けてないんじゃないか？　特に、彼のレベルが落ちてるわけじゃない。タフな選手との試合が続いているから、たまに負けることは仕方がないんじゃないかな。そういう闘いを続けていること自体が凄いんだ。

―なるほど。ところでアローナ選手は2回戦の前に5月末には『アブダビ』のスーパーファイトも予定されていますけど、これはどうするつもりなんですか？

アローナ　その件については何とも言えないな。チームとも相談してから決めることだ（のちに『アブダビ』は辞退を表明）。

―アローナ選手は『アブダビ』では階級別と無差別両方でチャンピオンになっていますけど、『ＰＲＩＤＥ』でもそういった希望はあったりしますか？

アローナ　将来的な希望としては否定しないよ。しっかりと準備をすればヒョードルにだって負けない自信があるからね。

―ヒョードルにも負けない！　確かにリングス時代、ヒョードルと互角に闘っていましたもんね（結果は延長ラウンドまでもつれ込んだ末、アローナの判定負け）。

アローナ　あの試合については、なぜか判定がヒョードルについただけであって、俺は勝ったと思っている。だからヒョードルは決して無敗じゃない。ＴＫに負けたのは流血のアクシデントだけど、俺には判定で負けてるんだ。

―では、ヒョードルと決着戦をやりたい気持ちもありますか？

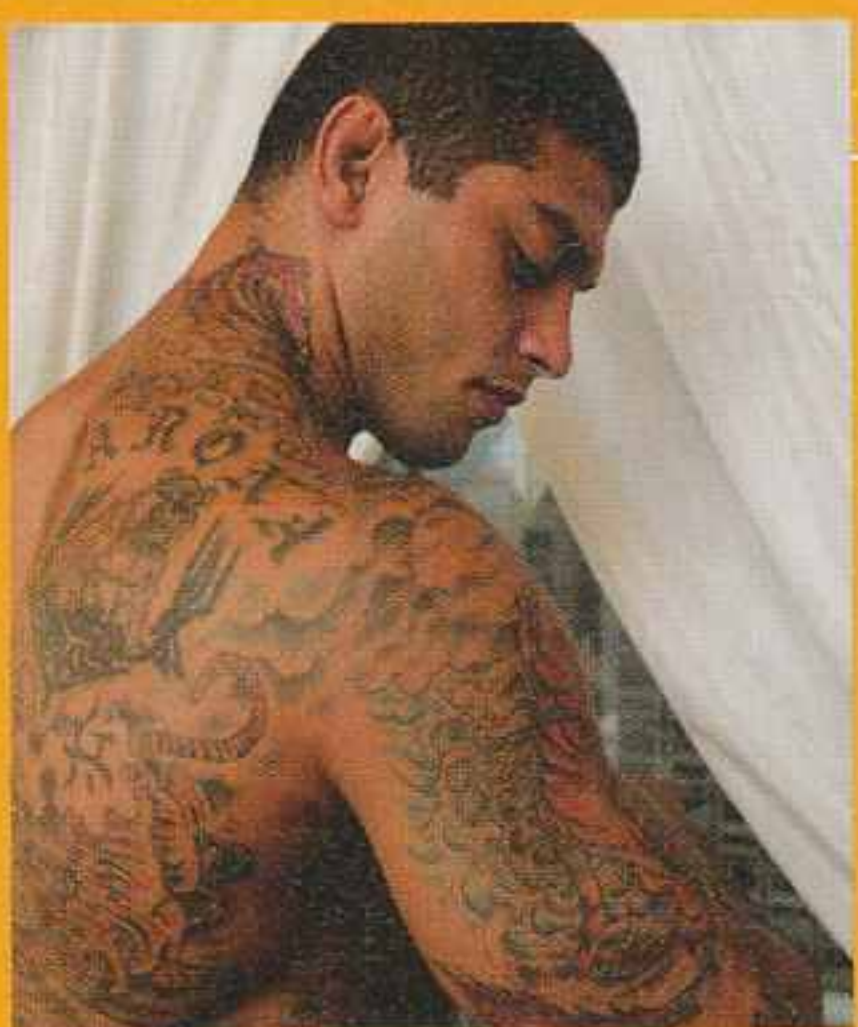
アローナ　ゼヒやりたいね。ただ、それは俺がミドル級ＧＰで一番になってからだ。いまはＧＰで優勝することしか考えてないからね。

―わかりました。では、6月の2回戦も期待してます！

【05年4月25日／都内・某ホテルにて収録】

INTERVIEW RICARDO ARONA

RICARDO ARONA

1978年7月17日、ブラジル・リオデジャネイロ出身。01年の『アブダビ』で98キロ以下級、無差別級ともに優勝したリアル寝技世界一。『ＰＲＩＤＥ』でもヘンダーソンやニンジャといった実力派を破っており、その実力は折り紙付き。03年のミドル級ＧＰでは足のケガにより無念の欠場。今回はその雪辱なるか!?　180cm、92.9kg

リデルやホジェリオに負けたことが俺をプロフェッショナルにしてくれた

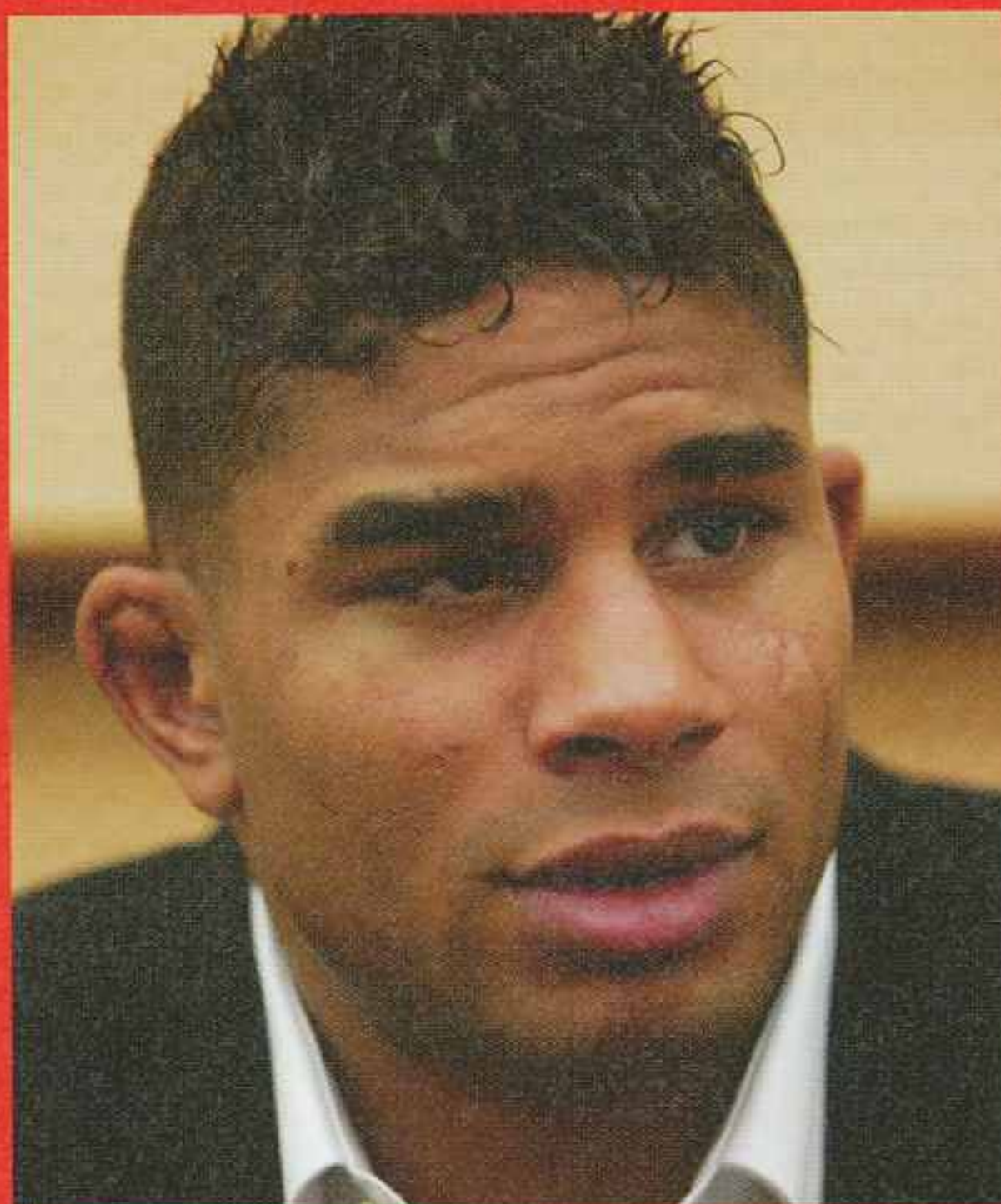
あのビクトー・ベウフォートをフロント・チョーク葬！　ロシアン・トップチーム総監督のウラジミール・パコージン氏は、かつて同チームに所属していたエメリヤーエンコ・ヒョードルを〝新・ロシア人〟と紹介していたが、このアリスター・オーフレイムは、〝新・オランダ人〟とでも評価すべき大進化を遂げている。

パコージン氏は、それまでルール的に戦術としてありえなかった、えげつない顔面攻撃が決定打になる「ブラジル人がつくったブラジル人のための競技（＝バーリ・トゥード）でも、最強になるため、我々は〝新・ロシア人〟をつくりあげた」と誇らしげに語っていた。

一方、かつて一時代を築いていたオランダ格闘王国は、「ブラジル人のための競技」の前に久しく鳴りを潜めたままだった（ドールマン氏いわく「格闘家として将来性がある人間は、キックボクシングに流れてしまう」ために、それが総合格闘技の発展の妨げにもなっているようだ）が、このアリスターはアブダビ欧州予選を優勝し、そして今回のビクトー戦の劇的な一本勝ちで、この時代性を完全に克服した初めてのオランダ人となったと言えるのではないか。

〝新・オランダ人〟アリスター・オーフレイム、その恐るべき進化の過程とは――？

――昨日のビクトー（・ベウフォート）戦は見事な勝利でした！　『PRIDE・GP』一回戦突破、おめでとうございます!!

アリスター　ありがとう！　ミドル級最強のファイターを決める大舞台で勝ったことはもちろん嬉しいんだけど、相手のビクトー・ベウフォートは俺のアイドルだったから、彼と闘えるだけでもすごく光栄だったんだよね。

――二重の喜びがあったわけですね。

アリスター　そうだね。俺はまだ17歳の頃、ビクトーがUFCのオクタゴンで暴れ回っていた姿を興奮しながら眺めていたもんだよ。ビクトーはトータル・ファイターとして当時もっとも優れていた。いまの俺のファイトスタイルは彼がモデルになっているんだ。

――強烈な打撃を主軸としながら、柔軟に寝技にも対応できるタイプということですよね。

アリスター　イエス。モデルとなったそのビクトーとの試合で、俺の打撃と寝技がうまく噛み合って、こうして結果を出すことになるとは、なんだか因縁めいたものを感じるな。

――しかし、アリスターさんの打撃でビクトーの意識が朦朧としていたとはいえ、まさか寝技で一本極めるとは思いもしませんでした。アリスターさんが寝技で仕掛ける場面も見られて戦前予想と違った展開になりましたし。

アリスター　いや、この『PRIDE』は、トータル・ファイターしか生き残れない過酷なリングだからね。そう考えればまったく不思議な光景じゃないよ。それどころか、もう少し早いタイムで倒せなかったことを反省しているぐらいだから。

――それはちょっと欲張りというものですよ！（笑）。

アリスター　いやいや、この勝利に満足してないというわけじゃないよ。ただ、俺は、ハイレベルな試合をたくさんこなすことでいろいろ教訓を得ようとしているんだけど、昨日の試合で学んだことのひとつが「もう少し早く倒せたんじゃないか？」ということだったのさ。

――勝利に浮かれずに課題や反省点を探している、と。アリスターさんが試合後、「今回の勝利は、2年前のチャック・リデル戦の敗北が良い教訓になった」とおっしゃっていたことに通じますね。

アリスター　そうなんだよ。あの敗戦から学べたことは、プロのファイターは試合直前までどんな些細なことにも注意を払って、何事も完璧に仕上げるということだった。プロフェッショナルなら当たり前のことかもしれないけどさ（笑）。たとえばビタミンの配分やトレーニングスケジュールを綿密に考えないといけない。睡眠だってちゃんと取らないとダメなんだよ。

――つまり、普段の生活からプロに徹するということですね。

アリスター　そういうことだね。『PRIDE・29』のホジェリオ（アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ）戦にしたって、減量に失敗して試合途中でスタミナが切れてしまった。振り返ればわかるけど、リデル戦もホジェリオ戦も決して俺の戦闘能力が彼らに劣っていたとは思わない。これは決して強がりなんかじゃないよ。

――リデル戦に関していえば、試合の主導権を握っていたのはアリスターさんの方でしたよね。

アリスター　最後の最後で集中力が切れてしまってシャープに動くことができなかった。なぜテンションが急に落ちたかといえば、それは試合に対して万全に備えるという姿勢があきらかに欠けていたからなんだ。でも、いまは違う。俺はプロフェショナルなスタンスを普段から保とうとしているんだよ。

――オランダのファイターというと、普段はバウンサー（バーやクラブの用心棒）として大暴れして、戦略なんておかまいなしに本能だけでファイトする荒くれ者のイメージがあるんですけど（笑）。

アリスター　たとえば、誰？

――リングスオランダのエースだったディック・フライとか。

アリスター　なるほどね（苦笑）。あとは？

――その相棒だったハンス・ナイマ

INTERVIEW
ALISTAIR OVEREEM

ン。2人ともバウンサーあがりのバイオレンスな言動やあの風貌がとにかく強烈で！

アリスター　（苦い表情で）う〜ん、今日からオランダ人ファイターといえば、俺のことをイメージしてくれないかな（笑）。

——たったいまからそうします！　後ろ髪引かれる思いですけど（笑）。

アリスター　たしかに俺も18歳のガキの頃はバウンサーをやりながら試合に出ていたよ。でも、ホント嫌な思い出しかないね。ファイターにはまったくお薦めしない職業さ。

——〝幻想増幅装置〟としては抜群なんですけどね（笑）。

アリスター　でも、それは現実的な話じゃないよ。だってバウンサーという職業は、夜中から朝までが〝勤務時間〟になる。ちゃんとしたトレーニングなんてできっこない。それに危険が付きまとう職業だろ？　街を歩けば友だちが笑顔で近寄ってくるように、トラブルが笑顔で訪れる（うんざりした表情で）。

——かつて過剰防衛の罪で〝塀の中〟にぶち込まれたこともあるアリスターさんが言うとやけに重みがありますね（笑）。

アリスター　もう無駄なトラブルは心底こりごりなんだよ。トラブルを解決する時間があるならトレーニングに励んだほうがいいに決まってるって。

——それはそうですよね（笑）。で、かつてのオランダ人ファイターと比較して、ファイトスタイルの明らかな違いって何ですか？　寝技への対応能力？

アリスター　ああ、まったくそのとおりだ。はっきり断言しておくけど、オランダの〝オールド・ファイター〟たちとは闘いに対する姿勢や価値観はもとより、とくにグラウンドテクニックに関してはまったく変わっている。それは時代やルールの違いという言い方もできるけど。

——当時といまではルールも違えば、テクニックも進化しています。一概には比べられない部分は当然ありますよね。

○A・オーフレイム（1R 9分36秒 フロントネックロック）
●B・ベウフォート

〝シウバをKOした男〟にして元UFCライトヘビー級王者ビクトーが一回戦敗退！　ビクトーのこれまでの戦果を紹介する、煽り映像の長さからも期待の高さは見てとれたが……。

オランダ人が初めて柔術の黒帯からチョークで一本奪ったんだ

アリスター　ただ、柔術を中心とした時代の流れに対して、モチベーションが足りなかったファイターがいたのも事実なんだよ。俺は15歳の頃から（クリス・）ドールマンのジムのスタイルで寝技の勉強をしていた。ビクトーのスタイルを目指していたように、トータル・ファイターとしての将来設計図は描いていたのさ。

——ドールマンといえば、御大はアリスターさんのことを「ヨーロッパで最も注目すべきファイター」と褒めちぎってました。

アリスター　それはすごく嬉しいね！

——アリスターさんは、もう数年前から「オランダ格闘王国の若きエース」「ヨーロッパ最強」という呼び声が高かったわけですよね。でも、リデル戦やホジェリオ戦では思うように内容を残せていなかった。焦りはなかったんですか？

アリスター　いや、とくに焦りはなかったよ。俺はプロフェショナルを目指すことしか考えていなかった。生活を懸けて没頭していた。それは誰のためでもない。自分自身のためにやっていたんだ。

——周囲の期待という名の重圧や、敗北にめげることなくプロフェショナルを目指した結果、ビクトーをタップさせたことにつながったわけですよね。

アリスター　イエス。俺はオランダ人として初めて、ブラジリアン柔術のブラックベルトからチョークで一本奪ったんだ。しかも柔術の白帯どころか帯を持っていない男がね（笑）。

——それにアブダビ・コンバットの欧州予選をオール一本勝ちで優勝することもできた。

アリスター　そのアブダビは『PRIDE・GP』に専念するためにキャンセルすることになるだろうけど（後日、正式に欠場を発表）。

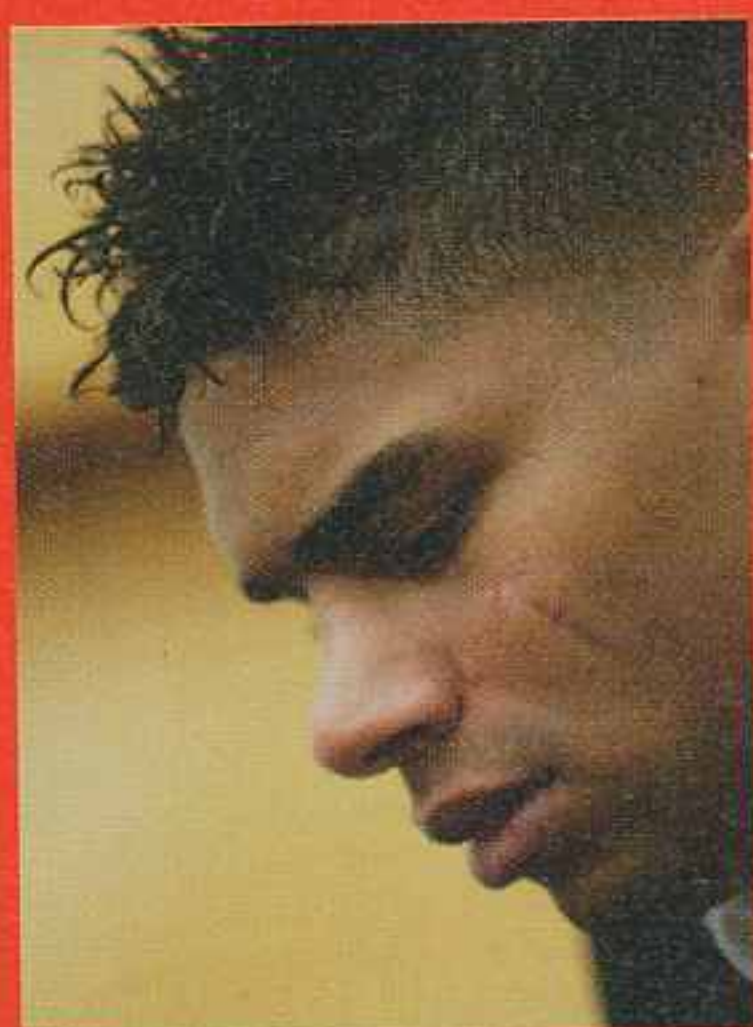
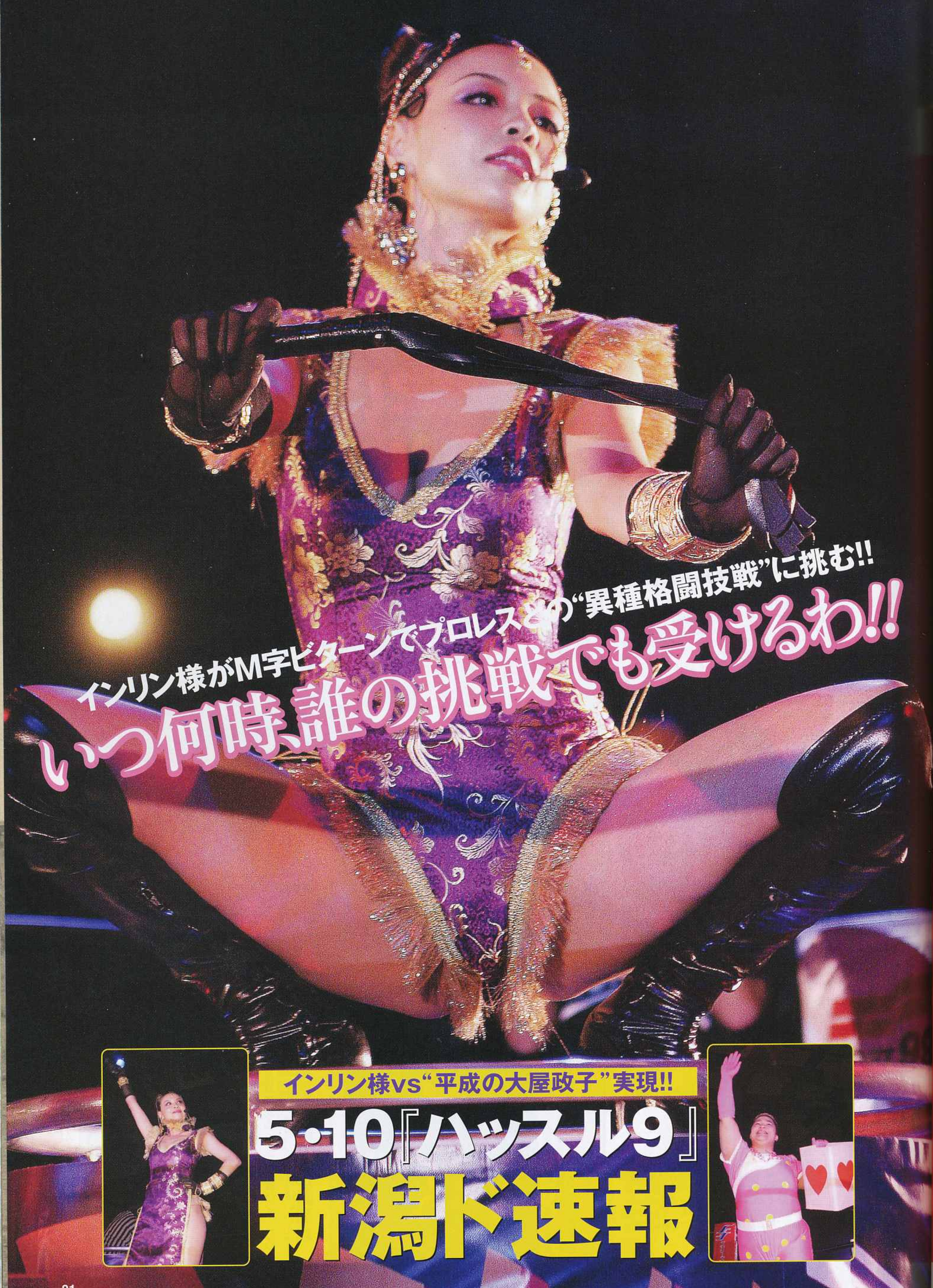
——アブダビを回避してまで臨むグランプリの二回戦は、誰と闘いたいですか？

アリスター　ビクトーと同じく俺のお手本になった（イゴール・）ボブチャンチンや、同じスタイルの（マウリシオ・）ショーグンかな。まぁ、誰でも構わないけど、俺はプロフェッショナルなファイターとしてもっと成長するためにハイクオリティなファイトがしたいんだ。『PRIDE』は、俺が望むそんな〝きっかけ〟がゴロゴロ転がっているリングだからね。グランプリ一回戦を勝ち残った7名の誰と闘っても、タフな経験になると思うよ。

——わかりました！　さらに進化したアリスターさんの姿を期待しています！

【05年4月24日／大阪の某ホテルにて収録】

ALISTAIR OVEREEM

1980年5月17日、オランダ出身。デビュー当初から非凡の才能を高く評価され、長い手足から繰り出される鋭い打撃が武器。前回の『PRIDEミドル級GP』にもエントリー。チャック・リデルをあと一歩ところもまで追いつめた。最近は寝技の実力も付け、アブダビ欧州予選を優勝。195cm、92.4kg

インリン様がM字ビターンでプロレスとの"異種格闘技戦"に挑む!!

いつ何時、誰の挑戦でも受けるわ!!

インリン様vs"平成の大屋政子"実現!!

5・10『ハッスル9』新潟ド速報

①インリン様は左右に切り込みが入ったチャイナ服で登場。スカートの部分は取り外すができる「優れものだな」（高田総統風）！　対するEricaさんは、ナイスバディが浮き上がるコスチュームで勝負&イメージカラーのピンクが全身を包みこむ。観客の目に優しい出で立ちです　②見てみ、インリン様の真剣なまなざし！　一方、Ericaさんは不安定なM字台にうまく腰を据えられず四苦八苦。あわれドラム缶のように転げ落ちてしまった！　③インリン様が作成したM字ビターンオフィシャルルールに則り、ジャッジ3名＋なぜかリングドクターも着席！　M字ビターンマッチは立派な競技なのだ！　勝負は2-1の判定でインリン様が見事、勝利した

Ericaさんの大屋政子ルックと

インリン様のM字にプロ魂が見えた!!

「せ～の、インリンさま～!!」

新潟初上陸となった『ハッスル9』でも大声援を受け抜群の存在感を発揮したインリン様！

〃美獣〃Ericaさんとの「M字ビターンマッチ」に至る流れは別欄を参照して頂きたいが、このM字ビターンマッチ、とにかく非常に馬鹿馬鹿しかった。いや、だからこそ、『ハッスル』の真髄のひとつである〃馬鹿馬鹿しいことを真剣にやる〃インリン様のお姿は、まさにプロ中のプロなんですよ！

見てみぃ、以前の勝負服からさらに布面積が少なくなったコスチューム！　そして「体重の軽いインリン様がM字台の使用を……認めたため！」という『PRIDE』パロディや、ジャッジ陣となぜか登場したM字ビターン・ドクター（←いい響き！）や観客が見守る中、M字台に乗ってクルリと一回転！（M字ビターンマッチは1R一回転制）。ズバリ言って良識派のプロレスファンからは「プロレスじゃない！」というお叱りの声を受けそうだが、これはもう〃異種格闘技戦〃の範疇だと思って頂きたい、無理矢理にでも。インリン様は〃M字ビターン〃というスタイルでプロレスというスタイルにシュートを仕掛け、リング上で存在の奪い合いをしている。これぞ〃異種格闘技戦〃だ！　そういう意味では、2－1で判定負けを喫したが、恍惚な表情のインリン様に対して、硬骨な表情と骨太な肉体で己の存在を証明したEricaさんもプロだ！

最後にインリン様は「いつ何時でも、誰のM字ビターンマッチを受けるわ!!」という〃ストロング・M字・スタイル〃発言をブチ挙げた。こんなM字をやっていたら10年もつ身体が1年しかもたないわ！　というセクシーさ全開の闘いを見せていくのだろう。どうやら今後は川田利明との「K字開脚（試合前の足の屈伸）vsM字開脚」の流れになりそうだが、相手が誰であろうと、我々はインリン様のプロの姿に注目していればいいんです。ダー！（違った意味でヨダレ）。

桜庭vsホイス戦以来の大紛糾!?

M字ビターンマッチルール問題

●インリン様vsEricaの「M字ビターンマッチ」が電撃決定!

27日、都内で行われた『ハッスルMAGAZINE』発売会見にアン・ジョー司令長官、島田二等兵が登場。その後から勝負服に身を包んだインリン様が降臨。そこへ、『ハッスル8』でのM字ビターンコンテストの結果に納得いかないEricaが乱入！　これに気分を害したインリン様は5・10『ハッスル9』での「M字ビターンコンテスト」の中止を宣告。代わりに"ケモノ女"ことEricaとの「M字ビターンマッチ」を要求、インリン様初のシングルマッチが電撃決定!

●Ericaがインリン様にハードコアマッチを逆要求!

6日、一方的に「M字ビターンマッチ」を突きつけてきたインリン様に怒り心頭のEricaは、「金網、電流爆破、一斗缶」のいずれかを使ったハードコアマッチを逆要求!　調子に乗ったEricaはアン・ジョー・司令長官からの『ハッスルハウスvol.7』での対戦要求に「タッグなら」と受諾。「この坊やがいいわね」と近くにいた石狩と強引に腕を組んだEricaは満面の笑みでVサイン!　そのまま石狩をお持ち帰りに。

●インリン様はEricaからのハードコアマッチ要求を一蹴!

前日、『ハッスル9』でのハードコアマッチを要求されたインリン様は7日、書面で回答。Ericaを「ドブスデブ（略してDBD）」「見苦しい、暑苦しい、むさ苦しい……三重苦の上に頭の悪さも全開」と酷評。Ericaから選択を迫られた試合形式も「使い古された形式や、聞いたこともない貧乏くさいデスマッチ」とアッサリ却下。「正直に言うわ。アナタの醜くて思想も哲学もないボディーにタッチすることが怖いの。だからM字ビターンしかありえないの。ケモノ女には指一本触れたくないのよ」と、あくまでも「M字ビターンマッチ」にこだわってみせた。

●『ハッスル9』でのインリン様vsErica戦はM字ビターンマッチに正式決定!

8日、都内で会見を開いた笹原GMが5・10『ハッスル9』で行われるインリン様vsEricaの試合形式を「M字ビターンマッチにすることを正式発表。しかし、肝心の「M字ビターンマッチ」のオフィシャルルールはインリン様しか所有していないとのことで、結局、詳細は当日まで未定だという。唯一わかっているのはラウンド制となることぐらい。笹原GMは「桜庭vsホイス戦のように当日まで決まらない状況もありえる」とカメラ目線で語った

●Ericaのハッスル軍入り志願に中村カントクは「私の中ではカット!」

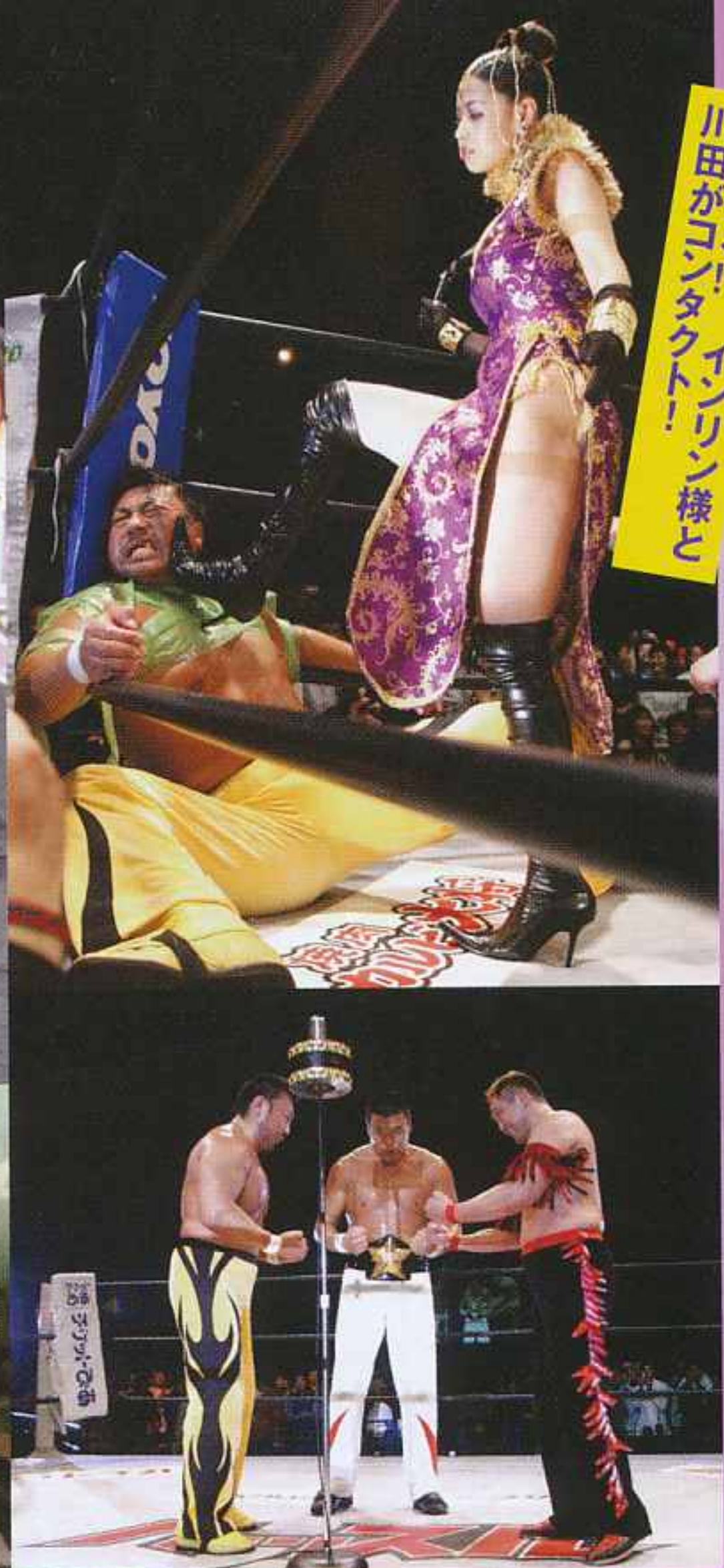
6日の会見で「ハッスル軍に入れるよう（インリン戦は）頑張る」と突如、ハッスル軍へのラブコールを送り出したErica。『ハッスルハウスvol.7』でタッグを組む石狩にも「川田さんによろしくね」と上目遣いでアピール。このEricaのラブコールに対し、8日、中村カントクは苦渋の表情を浮かべ「しばし時間をください。私の中ではカット!」とカチンコを激しく鳴らしながらコメント。

幸せのM字開脚！　観音様の微笑み!!　恍惚の表情のインリン様！　このM字開脚中に願い事を心の中で3回唱えるとご利益があるそうだ。さっそく祈願すべし！

髙田総統、魔性のアクセル全開!!

髙田総統が小川に強烈な復帰祝い!

どうなる!? インリン様と川田がコンタクト!

誰よりも熱い大谷には水をぶっかけ、誰よりもプロレスに誇りを持つ川田にはインリン様のムチ打ち刑＆ヒールでの顔面踏み潰しという屈辱的な方法で手を下している。

3月18日の両国国技館で、小川直也の心には大きな穴が空いた。あの「観客ジャッジシステム」で心が折られたと言ってもいいだろう。〝銭ゲバ〟〝チキン〟と呼ばれながらも、自分のため、そしてファンのために、己の道を貫いてきた男が、初めて突きつけられた「NO」。挫折を知らぬプロレス人生を歩んできた小川のトラウマになったのは間違いない。その後、キャプテンは『東京スポーツ』紙上で報じられたよう山篭りで精神修行に取り組み、より大きく強い心で帰ってきた。観客もこの日最も大きな声で「オガワ」コール!! キャプテンを後押しした。

折れた骨がさらに強くなってくっつくように、一度心が折れた小川はたくましくなって帰ってきた。身体も厚みを増し、攻撃にも重さが出てきたようだ。髙田総統が髙田モンスター軍へ勧誘したが、それには目もくれずハッスル軍のため、仲間のため、そして新潟のファンのために帰ってきた。

川田の師匠・ジャイアント馬場譲りな川津落しと小川のSTOの合体攻撃が炸裂し、小川のジャンピング・ネックブリーカー・ドロップでフィニッシュ!!

帰ってきた小川はもう誰にも止められない。そんな展開だった。

「オレ、熱いキャラなのにヒヤヒヤしたじゃねえか!! オレはな……おかえりなさい!」と大谷がキャプテンを温かく迎え、川田も「お客さんの声援聞いたか? 迷ってるヒマはねえんだよ!」と背中を押した。最高のお膳立ての中、「ありがとーっ! 新潟、ハッスルしてるか! これからも新潟に負けないようキャプテンとして復興する! オレはハッスルするぞー!」と小川も感極まって絶叫!「3、2、1、ハッスル! ハッスル!」と新潟の観客と共に腰を振ったキャプテンが完全復活した……かと思われた矢先、さらなる衝撃がハッスルを襲う。なんと、モンスター軍が総動員でリング上のキャプテン、ハッスルK、あちちをボコボコにしてコーナーにくくりつけてしまったのだ。

「これは私からの復帰祝い。遠慮なく受け取ってくれたまえ(ニヤリ)」

小川を叩き潰すために、髙田総統は自らリングに上がった。いままで決して自らの手を汚さなかった総統が5発もの往復ビンタを見舞い、杖でノドをひと突き。あまりの残忍さ、あまりの鮮やかさに観客はブーイングすら忘れて見とれていた。

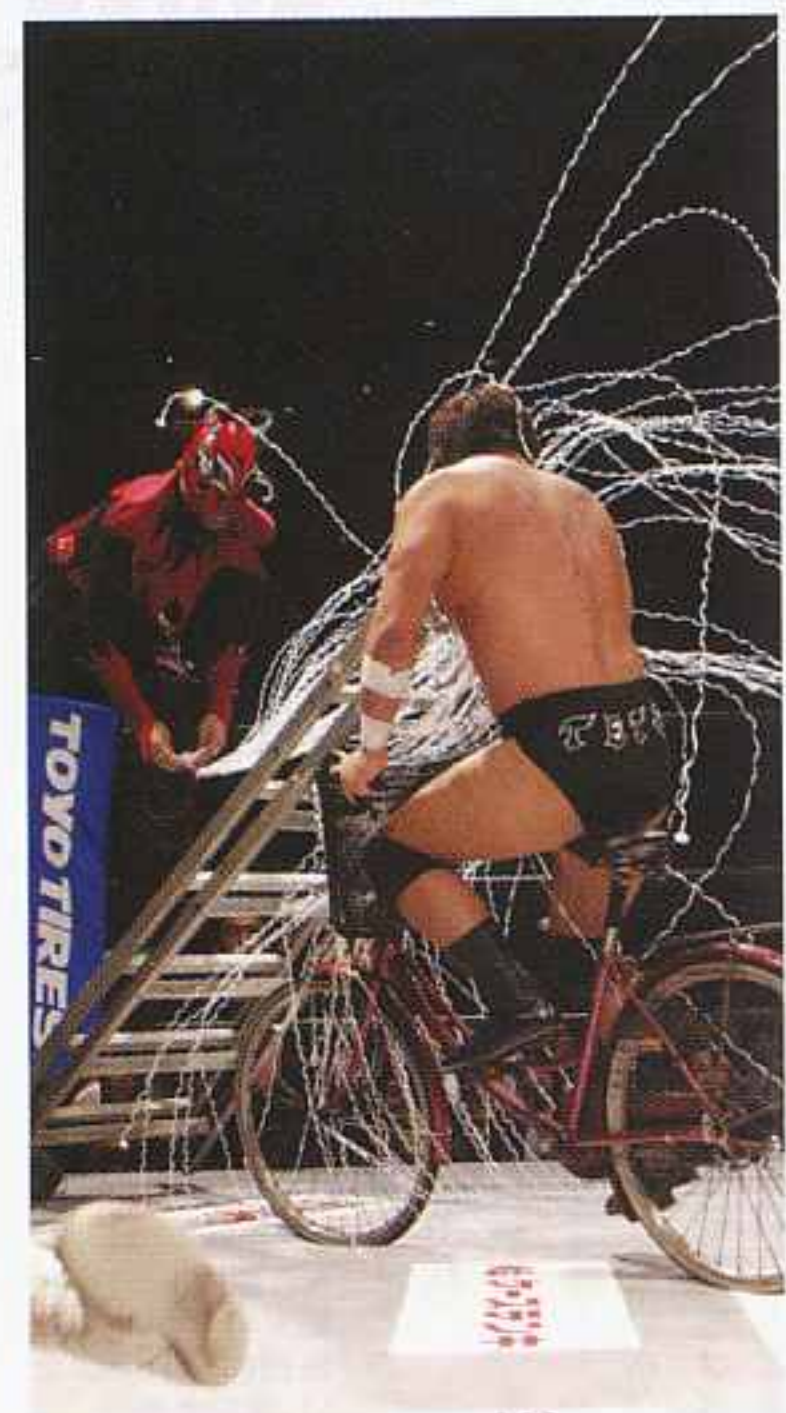
言葉を失った観客が「オガワー!」と徐々に声援を送り始めると、髙田総統は「黙れ!! 下々の諸君!!」と一喝。「私が直接、手を下してやったんだ、ありがたく思いたまえ。見るがいい、この無様な姿を!」とニヤリ。「今日のところはトドメは刺さん! なぜなら復帰祝いだからだ」と捨てゼリフを残し、髙田総統は引き上げていった。

ダメージの大きいハッスル軍、特に小川は肩を担がれて退場するのが精一杯だった。この大会の冒頭で、髙田総統は「私は一気にハッスル軍と日本のプロレス界を叩き潰す」と宣言している。髙田総統の視野にはすでに今秋の『ハッスルマニア』が視野に入っている。そこで試合出場、あるいはそれ以外の方法で髙田総統が野望を完成させるつもりなのだ! ハッスル軍が髙田総統の試合出場を執拗に狙う一方で、髙田総統は試合出場はおろかハッスル軍もろとも叩き潰す決意を固めている。決して小川に花を持たせない、厳しく激しい髙田総統が最終闘争への火蓋を切って落としたのだ!

髙田総統が詩集より「ビターン道」朗読ダーッ!

モンスター軍に復帰したコールマンの決意を確かめるため、詩のボクシング宇宙王者の髙田総統が「総統詩集」より「ビターン道」を朗読! あまりの素晴らしい出来映えのためここに紹介しよう!

「このビターンを受ければどうなるものか　危ぶむなかれ　危ぶめばビターンはなし　指差せば　その人差し指がビターンとなる　迷わず受けよ　受ければわかるさ　ありがとー!!」

新潟大会、5・14&15札幌大会の模様は次号特別企画で徹底特集! M字開脚をしながら待て!

被害の実態を徹底レポート!!

『坂田亘・被害者の会』とは何か?

構成/坂田亘・被害調査委員会

designed by matsu (TwoThree)

©DSE

世の中には食い合わせの悪い食べ物と呼ばれるものがある。

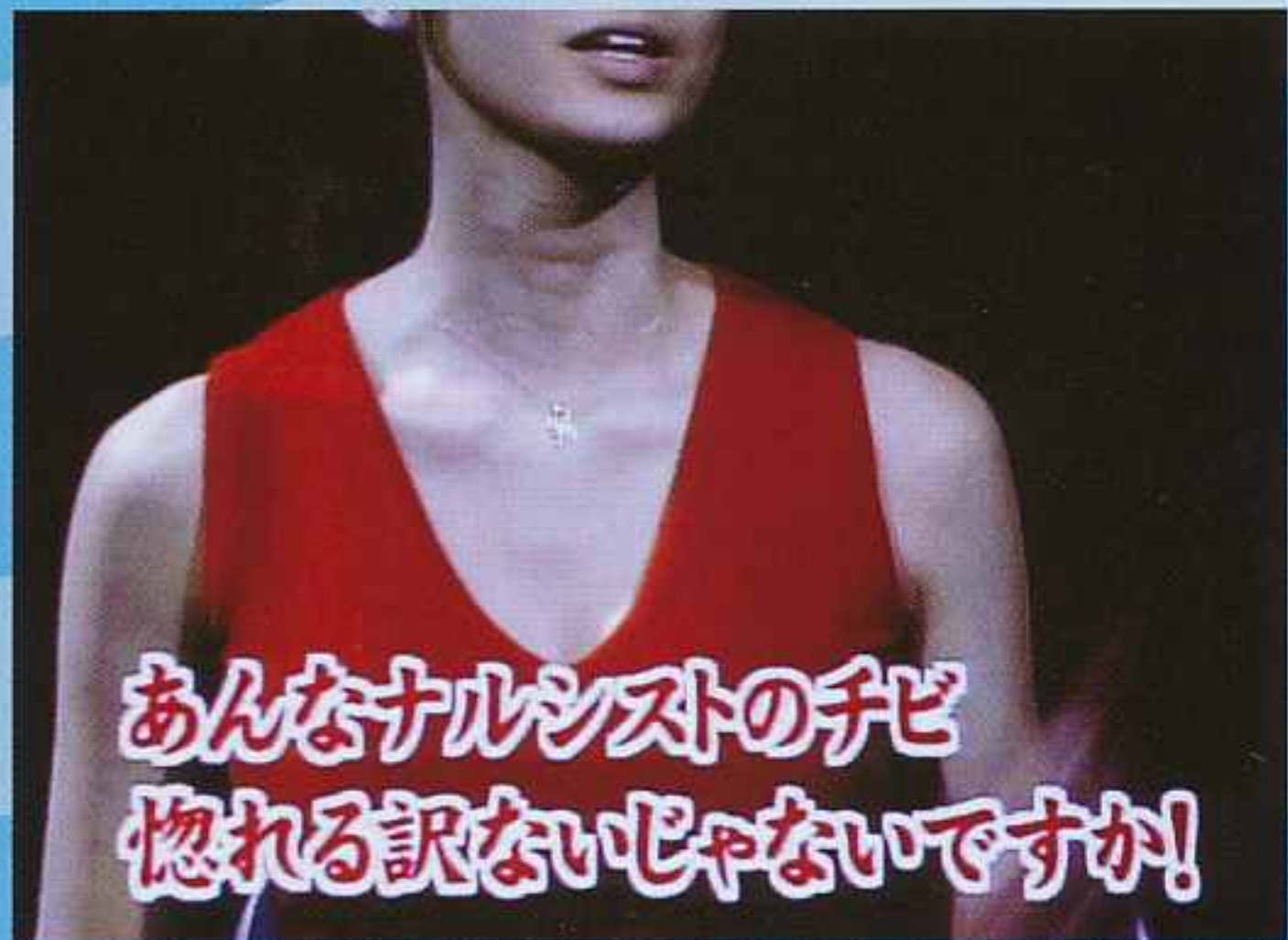
「てんぷらとスイカ」

「ウナギと梅干」

「ハッスル王子と坂田亘」

あ、最後は食べ物じゃない! けど、坂田亘の素顔をよく知っている人間にとっては、この組み合わせは本当に悪かった。それは坂田亘の普段の他人に対する言動が、王子様のイメージからは遠くかけ離れていたからだ。

そもそも、なぜ坂田亘に"ハッスル王子"というネーミングが付いてしまったのか? 被害調査委員会の独自の調べによれば、初めにそう記されたのは、『ハッスル3』パンフレットの選手紹介ページ。どうして"ハッスル王子"に落ち着いたのかをパンフ製作者に問いただしたところ、とんでもない答えが返ってきた!

「いや~、正直スマンかったです。あのときは締切りギリギリで、しかも徹夜明け。思考能力が低下していた状態で坂田選手のキャッチフレーズがどうしても思いつかなかった。"ハッスル・シューター"という案もあったんですけど、坂田選手は顔もカッコイイし、もうこれで決めちゃえ! ってかんじで(笑)」

パンフ製作者の単なる怠慢!! いや、逆に"ハッスル王子"という肩書きに誰もが違和感があったからこそ、いまの"リアル・ジャイアン"的な方向に針が振れたともいえるだろう。

現在、坂田亘はハッスル軍を離脱し、『ハッスル』で結成された『坂田亘・被害者の会』から次々に常軌を逸したエピソードを暴露されている。髙田総統に「無駄な大物感」と言わしめたその個性は、いましっかりと『ハッスル』のリングに落とし込まれているのだが、たまらないのは『坂田亘・被害者の会』の面々だ。このままでは坂田の凶暴キャラが認知されて、残酷な仕打ちが常識になってしまう!!

タバコの火を押しつける、リング上からのナンパ、携帯を叩き割って焼酎グラスに落とす、縄跳びで思いきり叩く!

『坂田亘・被害者の会』は、『ハッスル』ワールドだけの話ではない。事実であり本当の話だ。いまからご紹介する『坂田亘・被害者の会』会員の声を聞くことで、坂田亘という凄みあるプロレスラーにビビってたじろいでもらいたい!

あんなナルシストのチビ
惚れる訳ないじゃないですか!

被害証言
001

被害者

Y笠Z"信介
坂田の"東京の付き人"が語る被害の真相

絶対匿名を条件に登場してくれたZERO-1MAXの某若手レスラー。坂田の"側近中の側近"を自称する。現在負傷欠場中。ちなみに坂田のせいではない。念のため。

——坂田さんの"東京の付き人"であるY笠Z"信介(仮名)さんは、『坂田亘・被害者の会』の存在はご存じですか?

ジェット 知ってはいますけど、正直、どうしてそんな会が設立されたのかまったくボクには理解できませんね。

——といいますと?

ジェット 坂田さんがなさっている行為は"愛のムチ"であって、決して『被害者の会』が設立されるようなヒドイ行動じゃないですよ。Dっこい浪口の縄跳び強打事件だって、真っ白なキャンバスに絵を描くようなイメージだったんじゃないかと思うんです。ボクの眉毛を全部剃ったことにしても、前衛芸術のような気持ちでやられていたんですよ(無表情で)。

——言い方を変えるとずいぶん美しく聞こえますね(笑)

ジェット いやいや、別に驚くべきことじゃないんですよ。浪口の話にしても「あぁ、キミもそこを通ったのか」「そこで驚いているのか、キミ」と、なつかしい気持ちになりますねぇ(しみじみと)。

——そんな時代もあったなあと(笑)。

ジェット なつかしい気持ちというのに加えて、ボクはいまでもタバコを投げられていますしね。投げられた灰皿が額に当たって大流血したこともありました(キッパリ)。まぁ、それは飲みに連れて行っていただいた場所で、ボクがはしゃぎすぎたのがいけないんだと思うんですけど(自分に言い聞かせるように)。あと急にボディパンチをしてくることもありますけど、それはボクらの腹筋を鍛えようとしてくれてるんですよ……きっと。

——悲痛なポジティブ・シンキングですね(笑)。

ジェット あと靴下の件でも坂田さんにはご迷惑を掛けてしまったんですよ。ボクが洗濯で坂田さんの靴下を片方だけなくしちゃって。それで坂田さんが「新しいのを買ってこい」と。坂田さんは同じようなものじゃないと絶対に納得しないのはわかっていたんで、似たような靴下を探して買ってきたんです。そうしたら、坂田さんはオシャレな方なので「ナイキじゃないと履かない」と。だったら最初から言ってくれよ! と言いたくなるし、それに坂田さんは靴下のナイキのマーク部分を折り曲げて履くんですよね。

——ワハハハハ! 意味ないですね、それは(笑)。

ジェット メーカーにこだわらないボクみたいな人間からすると、それならナイキじゃなくたっていいじゃないか!……とは思うんですけど、やっぱり坂田さんはオシャレな方だからしょうがないですね(淡々と)。

——買い物の話が出たのでお伺いしますけど、坂田さんは「ジュース買ってこい!」と命令しても、買ってくる銘柄を教えてくれないんですよね?

ジェット はい。「ウェンディーズ買ってこい」と言われたら、チキンフィレサンドのセットとチキンナゲットですね。ソースはマスタードで、ドリンクはアイスティーもしくはペプシです。

——さすが完璧ですね(笑)。アイスティーかペプシというのはどう判断するんですか?

ジェット そこはさすがに判断つかないんですよ。だからペプシとアイスティーを両方買ってきて、坂田さんが選ばなかったほうを自分が飲むと。

——なるほど! よくデキた付き人ですね(笑)。

ジェット いえいえ。ナミ(浪口)はそこで「ドリンクはなんですか?」って聞いちゃうんですよね。そうするとそこで「あ~?」と怒鳴られるわけですよ。

——怒る方が絶対におかしいと思いますけど(笑)。浪口さんは「ボクのことを馬鹿だって認識されちゃったから、もう話もできない」と言ってたんですけど、ジェットさんとはまだ会話が成立してるんですね。

ジェット あぁ、坂田さんは「話しても無駄」って判断すると、もうその相手と口をきかなくなるんです。まぁ家畜に接するようなかんじになります。

——かつては"ハッスル王子"を名乗っていたけど、下の選手は奴隷感覚なのかもしれないですね(笑)。

ジェット そうですねえ。もはや坂田さんは"ハッスル王子"じゃなくて、"ハッスルや●ざ"ですから……と浪口が言っていました。

——ありがとうございました(笑)。

恐るべき被害の実態!!

『坂田亘・被害者の会』とは何か？

被害証言002

被害者

Dっこい浪口

鬼畜坂田から家畜扱い！悲痛な心境を告白!!

絶対匿名を条件に登場してくれたZERO-1MAXの某若手レスラー。男色ディーノに敗れて天下一Jr.リーグ出場ならず。『坂田亘の被害者会』の正式会員である

――今日は『坂田亘・被害者の会』の第一期会員であるDっこい浪口（仮名）さんに〝坂田亘の真実〟についてうかがいたいと思います。いきなり結論を聞きますが、やっぱり坂田さんはヒドイんでしょうか？

浪口　ヒドイですねぇ。火のついたタバコを投げてくるのは日常茶飯事ですね。

――日常茶飯事！（笑）。

浪口　あとよくあるのが「練習で道場へ○時に行くから」って言われたら、こっちはその30分前から先に準備して待ってるじゃないですか。でも、あの人は余裕で2時間は遅刻してきます。

――せっかく準備しているのに（笑）。

浪口　で、来たら来たで「なんでいんの？」とか言われたりしますね。

――ワハハハ！

浪口　他にもヒドイことはいろいろされているんですけど、日々日常的に暴力を受けていると想像してください……。

――挨拶がてらに暴力を振るわれるかんじですか？

浪口　昔はそうでしたけど、いまはないですね。話もできないです。なんか言ったら殴られるか、縄跳びでおもいきり叩かれるので。で、よけたら「オマエよけたな！」ってことで思いきりパンチです。

――ヒドイ目に遭うことに変わりはないんですね（笑）。

浪口　あの人は典型的な「S」なんじゃないかなって思うんですけどね。

――彼女は『ワンナイ』で『ごくSせん』をやってたけど坂田亘はサディズム（笑）

浪口　ただ、ボクにも非はあるんだとは思いますけどね。あの人との会話の中で、あの人がボクを「バカ」だと理解してしまったために、バカと会話してもしょうがないと思われてしまって、もう人じゃなくてモノとして見始めたんだと思うんです。

――モノなら殴っても構わないと判断したんですね（笑）。

浪口　完全にモノ扱いです。だから本当に理不尽な話ですけど、巡業で夜の12時に道場から出発するときに、あの人は10時まで練習して、それでたった2時間で「洗濯しろ！」って命令するんです。いくらなんでもそれは無理じゃないですか？

――巡業バスに洗濯機が置いてあるわけじゃないし、道場に残って洗濯していたら巡業に行けなくなりますよね。

浪口　でも、次の日、洗濯物ができてないことがわかってヒドイ目に遭いました……。あと『ハッスル6』で坂田さんのコスチュームを持ってくるのを忘れて、髪の毛と眉毛を剃られたこともあります。あのときはボクのミスだと思ったんですけど、いまはそんな気持ちも枯れ果ててしまいましたねぇ……。

――もう不信感しかない（笑）。え～、フォローするわけじゃないですけど、坂田さんのハードヒットな試合は凄いなって思ったりすることはないですか？

浪口　……もっとやってもいいんじゃないのって。

――あ、イジメるときはもっと凄い（笑）。

浪口　そろそろ『ハッスル』でも猫をかぶるのはやめて、いつもの本性を現してほしいですね。本性を出したらやっぱりスゴイですから。身体付きだってカッコイイし、そういうところでは尊敬してますけど、ボクをモノとして見出した段階から、もうなんて言うんですかね……。あの人のことは「鬼」にしか見えないです。

――坂田さんの姿を見たら「鬼がきた！」と思うわけですね（笑）。

浪口　もちろんいいところもありました。

――「ありました」って、過去形になってますけど。

浪口　いまは電話の着信ですら怖いんですよ。あぁ、坂田さんからじゃないよなあって……。

――ありがとうございました（笑）。

被害証言003

被害者

MIY●WAKI

なぜボクまでもが……？他団体の若手にも魔の手

絶対匿名を条件に登場してくれたアパッチプロレス軍の某若手レスラー。『ハッスル』に出場したことはないが、ハードコアの武器配達要員として顔を出している

――アパッチプロレス軍のMIYAW●KIさんもだいぶ坂田さんの被害に遭われてるようですね。

MIY●WAKI（以下MIY●）　……はい。

――坂田さんは以前からZERO-ONE道場で練習しているので浪口さんやジェットさんが被害に遭うのはわかるんですけど、他団体のMIY●WAKIさんがなぜ標的になるんですかね？

MIY●　控え室でよく一緒になることが多いんですよ。まず会場入りして挨拶すると、坂田さんの気分が悪ければ殴られますね。

――それはMIY●WAKIさんの挨拶に問題があったわけとか？

MIY●　いやいや、普通に「おはようございます！」ってしっかり挨拶しても、機嫌が悪いと「あぁぁ？」とか凄まれて壁際に追い込まれて、先の尖った革靴で思いっきりスネを蹴られたり、タバコの火を押し付けられたり。

――タバコの火はみんな被害に遭われてますが、坂田さんは何がやりたいんですかね？

MIY●　何なんですかねぇ。坂田さんの中で〝いじめられっ子オーラ〟を感じた人間に、そういったことをやるんじゃないですかね。

――自分ではそのオーラが出ている自覚があるんですか？

MIY●　いえ、自分ではそんなことないと思うんですけど……。

――周りにいる人たちは見て見ぬ振りなんですか？

MIY●　ああ、みんなニコニコして眺めていますね。特にナミ（浪口）やジェットは「ああ、俺に来なくてよかった」っていう安堵の表情でボクの方を見てます。逆にナミやジェットが坂田さんにやられてるときはボクが「しめしめ」って思ってますけど。

――なるほど（笑）。一番印象的な残酷なエピソードって何になります？

MIY●　『ハッスル8』のときに、ハッスル・レンジャーのイエローが大きなスプーンとフォークを持ってたじゃないですか。坂田さんがそれを控室で見つけた途端に目の色がガラリと変わって、柄の固い部分で小一時間、頭やスネを殴られ続けましたねぇ。気付いたら田中（将斗）さんや金村（キンタロー）さんまで一緒になって……。

――ボスの金村さんも守ってはくれないわけですか（笑）。

MIY●　笑って加担するタイプの人間ですね。

――MIYAW●KIさんはいろんな団体に出てると思うんですけど、坂田さんみたいなタイプっていますか？

MIY●　自分の中では、他団体の選手の中で坂田さんが一番の恐怖です。……ホント怖いです。坂田さんの半径3メートル以内に入ると嫌な視線を感じるんですよ。たぶんライオンが自分の縄張りに入った獲物に対して襲いかかるとの一緒ですね。後楽園ホールは控室の通路が狭いじゃないですか。どうしても前を通らざるを得ないので縄張りに入っちゃうんですよ……。

――逃げることはできないんですか？

MIY●　逃げたら逃げたで、次に坂田さんの縄張りに入ったときに倍返しを喰らうんですよ。これは坂田さんにとって狩りみたいなもんなんです。

――MIY●WAKIさんがマット界にいる限り、坂田亘のジャイアン・ハンティングは続くと（笑）。

MIY●　なるべく目を合わせないようにしてるんですけど、どうしても視線を感じるとチラッと見てしまうじゃないですか。そしたらもう狩りの始まりですよ。「オマエ、なに見てんだよ!?」って怒鳴られて。

――坂田さんが見てるから見るのに（笑）。いつか逆襲は狙ってるんですか？

MIY●　そんなことしたらかならず倍返し以上のことをされるのが目に見えてるので、そんなハイリスク・ローリターンなことはやるべきではないですね。それだったら自分が多少辛くて痛い思いをしても、それを耐えてれば被害を最小限にとどめることができるのではないかと分析しているので。

――では、これからも頑張って耐え続けてください（笑）。

MIY●　はい。被害を最小限に食い止めるように精一杯頑張ります！

被害証言004

被害者

木村N生

坂田の愛弟子が語る驚ガクの師弟関係!!

絶対匿名を条件に登場してくれた名古屋在住の若手格闘家にして坂田の弟子。『DEEP HERO1』で元シューティング第2代ウェルター級王者・大原友則を破る

――見るからに怖そうな木村さんですが、そんな木村さんから見ても師匠の坂田さんは怖い人なんですか？

木村　ホント怖いですねぇ。いまのキャラが素の状態に一番近いですよ。ジム生に突然「面白いこと言え！」とか命令して、つまんなかったらタバコを投げたりしてるんで。

――面白いことを言えば大丈夫なんですか？

木村　いや、面白いこと言っても投げられます。ただ単にタバコを投げたいだけというか、投げられた方のリアクションが見たいだけというか。

――逃げ道がないですね（笑）。木村さんにとって一番印象的な残酷エピソードってなんですか？

木村　まだボクがジムに入門したての頃は、坂田さんに毎日しごかれて両耳がわいてた時期があったんですよ。

――いわゆるカリフラワーの状態ですね。ちなみに木村さんのバックボーンで何でしたっけ？

木村　ボクはストリートです。

――ストリートですか（笑）。では、続きをお願いします。

木村　パンパンに耳がわいてる状態で立ち技のスパーリングをやったんですよ。そしたら坂田さんの強烈なフックで、耳が「パァンッ！」って破裂したんです。耳からもの凄い量の血が出て、病院へ直行して4針も縫うはめになったんですけど、耳が破裂した瞬間、坂田さんは「オマエ、耳ハジけてるよ！」って大笑いしてるんですよ……。

――アハハハ！　ケガの容態を気にすることなく（笑）。

木村　おまけに道場中が血まみれになって、「オマエのせいで道場が汚れちまったじゃねえか！」って笑いながらバンバン蹴ってくるんですよ。ボク、倒れたままなのに。

――そんな仕打ちを受けてよく辞めませんでしたよね（笑）。

木村　あと「○時に出かけたいから12時に起こせ」って言うので、12時にちゃんと電話したんですよ。でも全然坂田さんは電話に出なくて、2時ぐらいにやっとつながったと思ったら、「あと30分したらかけてくれ」とか言われて。結局4時間ぐらい起きないんです。で、最後は「なんで電話かけてこねえんだよ！」って怒鳴られるんです。

――意味がわかりません（笑）。

木村　待ち合わせに3時間ぐらい何の連絡もなしに遅れて来るのなんて当たり前ですからね。で、やっと来たと思ったら「今日はいいや。オマエ帰っていいよ」って言われたり。

――凄いですねぇ（笑）。カチンと頭にこないんですか？

木村　カチンとはこないですけど、夜中の12時に「ウェイトやる」ってことで呼び出されて、3時まで付き合わされたりするときは「早く帰らせてくれ」とは思いますね。

――飲みの席で無理矢理もの凄い量を飲まされることはないんですか？

木村　普通にあります。ダブルのウイスキーを「オマエ、これ2秒以内に飲めなかったらプラス3杯な」みたいなかんじで。それで気持ち悪くなっちゃって吐くと「汚ねえなあ！」って笑いながらバンバン蹴られたりとかします。

――何やっても最後には蹴られちゃうんですね（笑）。

木村　そこら辺にある物で殴られたりとか。向こうは冗談のつもりでも、こっちは凄く痛いですからね。殴るときのあの笑顔が本当に本当に怖いんですよ……。

――そこまでいくと、行動パターンはもう読めてくるんじゃないですか？

木村　そうですね。坂田さんがタバコを吸いたがってる仕草があるんですけど、その瞬間パッと渡すとかはできますね。

――キャバクラ嬢みたいですねぇ（笑）。では、最後に弟子として坂田さんの尊敬できるとこを挙げるとしたらどういった部分ですか？

木村　え、尊敬できるところですか……？

――ダハハハ！　そこで考えこまないでくださいよ（笑）。

木村　う～ん。やっぱり、強いところですかねえ（笑）。

――笑いながら言わないでください（笑）。

木村　いや、一回U-STYLEでやって全然敵う気がしませんでしたから。残念ながら、これも事実なんです。

【加害者(?)証言】

坂田亘

「昔なら、浪口なんて口の利き方ひとつでとっくに死んでるって」

最後にご登場してもらうのは、加害者(?)である坂田亘本人だ。あまりの威圧感のためカメラのピンが合わず掲載できるような写真は撮れず! なので坊主時代の写真を使用します。企画にピッタリな絵ですね【本文構成／真下義之】

坂田 (ぶっきらぼうに)で、今日は何なの?

――いや、静岡の『ハッスル・ハウス vol.16』で勃発した『坂田亘・被害者の会』が現在、日増しに人数が増えているみたいで、編集部にも被害者からのハガキやメールが続々と到着してるんですよ。で、これってどこまで本当なんだろう? と今日は真相に迫りたいと思ってるんですけども。

坂田 あ、そう(興味なさそうに)。

――で、御本人的にはどうですか? "ハッスル王子"から一転、いまや一部では"暴力大将"とまで言われてますが……。

坂田 ……暴力大将ォ? いや、心当たりがない!(キッパリ)。

――こ、心当たりがない!?(笑)。でも"ハッスル王子"時代と比べて、最近はリング上でもあきらかに活き活きしてると思いますけど。

坂田 ふ〜ん……よくわからん。まぁやりやすいって言えばやりやすいな(と言いながらタバコを取り出して、火をつける)。

――う、うわ!

坂田 ああん? なにビビってるんだよ!

――いや、坂田さんの被害者が共通して訴えているのが、坂田さんは「タバコの火を押し付ける」という話なんですが……。そのあたりのご自覚は?

坂田 うん? まぁ、ほんの「イタズラ心」やな(笑)。

――は、はあ。「イタズラ心」……。

坂田 人によってリアクションが違うから、それ見るのが楽しいんだよなぁ。

――あと坂田さんの愛弟子の木村N生さんや、ZERO・1MAXのDっこい浪口さん曰く、待ち合わせに2、3時間遅れるとかは当たり前だとか。

坂田 だって俺は、「俺中心」で動いてるんだからいいじゃん! それにいいんだよ。どうせアイツら、やることねえんだから。

――ワハハハハ! 新弟子なりに雑用とかいっぱいあると思いますけど(笑)。浪口さんは夜10時まで坂田さんの練習につきあわされて、その2時間後に巡業に出発するのに「洗濯しとけ」って言われたりとか。

坂田 そんなの、当たり前だろ! 余裕で間に合うって!

――どう考えても間に合わないと思うんですけど(笑)。あと木村さんなんかも坂田さんに「昼の12時に起こせ」って言われて、何度も何度も電話してるのに出てくれなくて、やっとつながったと思ったら「電話しろって言ったやろ!」って怒鳴られるそうですね。

坂田 だってさ、寝てたら(携帯)聞こえねえもん!

――当たり前ですよ!(笑)。

坂田 だからよぉ、(携帯の)鳴らし方が甘いんだよ、アイツらは。

――恐ろしくジャイアン的な論理ですね(笑)。それから、Dっこい浪口さんは日常的に「縄跳びで叩かれてる」らしいですけど、それは愛の縄跳び(ムチ)的な意味なんでしょうか?

坂田 いや遊びだよ、遊び! でもさ、そういうのってけっこう普通にやらない?

――やらないと思います(笑)。

坂田 いや縄跳びは面白いんだって! この前も、ジェットと浪口を交互に縄跳びで叩いてたら、ジェットが真剣な顔で「ムチ打ちで人は死ぬんです!」とか言い出してさ〜。昔の刑罰ってムチ打ちの痛みで、本当に死んでたらしいね。それわかる! だってさ、たまに「肉が切れる音」とかするもん(本当に嬉しそうに)。

――……叩きながら「これってヤバいかなぁ」とか思わないんですか?

坂田 まぁ10発くらいだからさ、死ぬことはないだろ。でも肉が切れたりすると「おおホントに切れるもんだなあ!」って感動するよ。いや、本当にやってみ! 絶っっ対、面白いよ!

――機会があればぜひ!ってないと思いますけど(笑)。

坂田 というかさぁ、アイツらがヘマすんだもん。たとえばウエイトの補助の仕方が甘くて甘くて。ベンチプレスとか140キロが首に落ちたら大変だろ? ま、ジェットとかは上手いんだけど、浪口は何回言ってもダメだから!

――それからY笠さんは、坂田さんの試合用の靴下をなくしてしまって、自腹で同じような靴下を買い直したら、「ナイキじゃないから嫌だ!」って言われたと。でも、坂田さんはナイキのマークの部分は折り曲げて履いてるから、なんだっていいじゃないか? と思ったりもするみたいですが。

坂田 くるぶしまでしかない靴下ってあるだろ。俺は練習のときは足首までちゃんと被れるヤツじゃないと嫌なの。ナイキの靴下をくるぶしまで折って履くんだよ。

――たとえ折って見えなくてもナイキというこだわりはあると(笑)。

坂田 なんかさアスリートっぽいだろ? でもさ、そういうの当たり前やん。後輩は常に先輩の先を読むんだよ。

――逆に坂田さんは、リングス時代は前田

ハッスル軍vsモンスター軍の流れからひとり外れるマイウェイ坂田亘。対戦相手を虫けらのように扱うイジメマッチが続いているが、「まだ本領発揮してない」という声が挙がっているから恐ろしい限りだ!

（日明）さんとかの常に先を読んでいたと。

坂田　そうそう。俺だってさ、読みを間違ったら怒られたりしたよ。

――前田さんの鉄拳制裁は有名ですけど、坂田さんのようにタバコを押し付けたり、縄跳びで殴ったりしてたんですか？

坂田　ん？　いやまぁそういうのはなかったけどな……前田さんは。

――最近はプロレスラーに関わらず、一般的に親や先生とかも「怒れない人」が多いので、そういう意味で嫌われ役を買って出てるってところもあるんですか？

坂田　「そういう局面」のときは意識してやってるよ。でも最近はレスラーになる基準みたいなものがどんどん下がって崩れてきてるじゃん。

――それは基本的な礼儀であったり、しつけであったりとかも含めてですか？

坂田　そういうの全部や！　俺らのときなんて先輩への返事ひとつでも「そうです」に「ね」を付けるだけでマズイの。友だちじゃないんだから、上下関係で「ね」とか言えないわけ。それでひっぱたかれるしさ。でもいまのヤツにそれ言ってもムダだから、そういうことでは怒らないよ。だから昔なら浪口なんて、口の聞き方ひとつでとっくに死んでるって。

――生きているだけで感謝しろ！　と（笑）。でも、いろんな証言を聞いてみると、とにかく坂田さんのイメージは「怖い」という声が多いですね。

坂田　ま、でも最近はレスラー全体が普通すぎ！　なんかみんな自信なさそうにしてるよな。そういうのがヤだ。お前ら、誇りを持ってるもんとかないの？って思うよ。もちろん『ハッスル』でもゼロワンでも選手の中には、プロ意識の高さとかを持った人は何人かいるよ。でも「それ以外のヤツ」が多すぎるんだよ。

©DSE

――坂田さんからみて、そういった「プロ意識が高い選手」を具体的に挙げるとすると誰になるんですか？

坂田　プライベートで付き合いがあるから言うわけじゃないけど、やっぱ、魔裟斗選手は凄いと思うよ。彼は感覚的にプロボクサーみたいな印象があるよね。試合に挑む姿勢とか、発言すべてにストイックな感覚を受ける。本当にプロ意識が高いよね。やっぱり小比類巻選手とかとはちょっと違う……それがいい悪いじゃなくて、考えてることのレベルが他の選手とは格段に違うかんじがするよ。

――それはなんとなくわかりますね。

坂田　あとレスラーでは川田（利明）さんも相当にプロ意識高いと思うよ。練習もキッチリやってるしな。

――話をまとめると、坂田さんは無闇やたらにひどいことをしてるというわけではなく、業界の活性化やプロレスラーのプライド的な部分での「意味ある行動」として動いているわけですよね？　非常に好意的に解釈しすぎているような気がしますが（笑）。

坂田　もぐもぐ……（と焼きおにぎりを食べている）。　は？　何が？

――いや、何でもないです（笑）。で、最後にひとつだけ。ある飲み会の席で、坂田さんがDSE社員の携帯を真っ二つに割ったという話を聞いたんですけど。そして、そのままグラスにボチャっと入れたと（笑）。

坂田　うん。「焼酎漬け」にしてあげた（あっさりと）。

――携帯を壊すだけでもヒドイのに、さらに焼酎漬け！　ちなみに、どんな理由でそんなことをしたんですか？

坂田　そいつは英語がペラペラなんだよ。で、英語ペラペラなのが腹が立ったの。わかるだろ？

――わかりかねますね（笑）。

坂田　だってそいつ、そのくらいしか仕事できねーぜ。そういうの嫌だもん、なんか。ま、俺はあのとき酔ってたんだけどな。あとから会社で持たされている携帯って聞いたからさ、榊原社長に怒られるんじゃないかと思ってヒヤヒヤしたよ。でも、それくらいのことは、一般人にもやったことあるよ。

――ダハハハ！　いいんですか、そんなこととして（笑）。

坂田　俺が『FRIDAY』に出たときくらいの話だけどな。

――『坂田亘・被害者の会』のO池B子さんならぬ小池栄子さんと撮られたぐらいの時期。

坂田　新幹線で寝ていたら、カシャカシャ音がするからさ、起きたら知らない男が携帯のカメラを向けてあきらかに写真撮ってんの。で、「お前、何撮ってんだ？」って言ったら「いや、撮ってない」って言うから、携帯奪ってみたら、やっぱり撮ってるからさぁ……その場で折ってやったよ（さらりと）。当たり前だろ？

――は、はい。え～、ボクも坂田さんの被害者の人の気持ちがだいぶわかったんで、携帯を叩き割られないうちに、この辺でとっとと失礼させてもらいます。

坂田　あ？　なんだよこんなんで終わりかよ。俺たいしたことしてね～じゃん。

――いやもう十二分に衝撃的でしたから。失礼させていただきます！

坂田　……どいつもこいつも、いちいち大袈裟なんだよ!!

【05年5月／都内某所にて収録】

凄すぎる内容に各方面から大反響!!

男の中の男も必読

ハッスル MAGAZINEで 髙田総統が示した新たなるプロレスの方向性

全国1000万のハッスルマニアが、いま最も注目する存在は間違いなく髙田総統だ。

全知全能! 唯一無二!

その存在は単なるキャラクターなどでなく、ハッスルという空間を支配する〝神〟に最も近い存在といえる。雑誌をまるまる一冊乗っ取って編集するなど、赤子の手をひねるようなものだ。髙田モンスター軍はこの『ハッスルMAGAZINE Vol.1』の巻頭カラーをすべて乗っ取って、髙田総統およびモンスター軍の全貌を紹介している。まず目を引くのは、すでに先月号の本誌でもお知らせした髙田総統×髙田本部長による奇跡の対談だ。ちなみにワインを飲みながら対談を行ったのだが、上の写真はある程度お酒がすすみ、2人のテンションがグッと上がってきたところで撮影された「男だ!」と「ビターン!」の歴史的競演! このカットは全世界初公開となる。

この他にも髙田総統は氣志團團長・綾小路翔と対談を行っている。「なぜ翔やんと対談?」と思う方もいるだろうが、この2人のしゃべりの天才同士が繰り広げた言葉のタイマンは爆笑確実、いまだかつて見たことがない髙田総統がここにはいる。

また、髙田総統が別荘やリゾート地で過ごす休日の模様を初公開したグラビアは高貴さ溢れる超ド級のスケール。インリン様のM字ビターン洗脳グラビアと共に見る者を至福の極致へと誘ってくれるはずだ。

さらに謎のベールに包まれていた髙田モンスター軍の組織構成も明らかになっている。髙田モンスター軍が無軌道なテロ集団などではなく、髙田総統が打ち出した確固たる理念のもとに組織された戦闘集団であることがわかるはずだ。

ざっと挙げただけでも髙田総統率いるモンスター軍の巻頭特集は高い密度と強烈なインパクトを持っていることがお分かり頂けるだろう。読者が何を望み、何をどう見せればいいのかを完全に把握している髙田総統が制作総指揮を行ったため、誰もがビビッてたじろぐ内容となった。並の編集センスではない。髙田総統がプロデュースした『ハッスル8』も試合時間が短いながらも強烈なインパクトを与えたが、あの大会にも通じる編集センスがキラリと光っている。髙田総統が創造するという「新しいプロレス」のヒントは、間違いなくこの中にある。ちなみに巻頭カラーの中に試合の写真は1枚も使われていないという事実、さらに〝チキン〟こと小川直也のインタビューは掲載されていないという事実が示唆するものは何なのか!? ぜひ、その目で確かめてもらいたい。

文/坂井ノブ

ヴィレッジ・ヴァンガード横浜店（横浜ワールドポーターズ内）では髙田総統のありがたい直筆POPも拝める!

川田と石狩の対談、大谷のインタビュー、総統の洗脳CD、M字ポスター、須田信太郎さんのマンガ豆本など充実の出来! 選手名鑑や年表などデータも豊富です。全国の書店で絶賛発売中!（1600円・税込 エンターブレイン刊）

新日本プロレス

蘇れ!! プロレス学校 伝説

〜多摩川青春物語〜

〝早すぎた闘龍門〟
プロレス学校の真実パート2

Vale Tudo Fighting Man

池田大輔×金原弘光

80年代末、プロレスラーを志す若者が夢を抱いて通い詰めた〝闘いの学び舎〟があった。その名も「プロレス学校」。数々の伝説と逸話を持つ新日本、上野毛道場を一般に開放したこの学校は、わずか2年あまりしか続かなかったものの、多くのプロレスラーを排出している。今回はその〝卒業生〟である金ちゃんと大ちゃんが、当時の思い出と真実を語ります!

聞き手／堀江ガンツ 撮影／丸山剛史 designed by Shiraki(TwoThree)

——今日は、かつて新日本プロレス道場で開校されていた伝説の『プロレス学校』出身者である金原選手と池田選手に、当時のお話をたっぷり聞かせていただこうと思います!

金原 この企画、前にサスケさんとやったじゃん。

——ま、ご指摘のとおり二番煎じなんですけど、もう前回やったのは3年近く前なんで、読んでない読者も多いだろうということで、ちゃっかりまたやらせていただきます(笑)。

金原 『紙プロ』もネタ切れなんじゃないの?(笑)。それにしても池田さんと会うのも久しぶりだよね。(突然)池田さんって離婚したんだよね?

池田 ちょ、ちょっと待って! 離婚してないよ!

金原 ウソー。前に離婚したって聞いたけど。

池田 してないしてない。もう、この人記憶がいい加減だから、今日は昔の話をするのが心配ですよ(笑)。

金原 たしか離婚したって聞いたけどな~。

池田 してないって!

——ま、離婚の真偽はともかく(笑)。金原さんと池田さんはプロレス学校では同期になるんですか?

金原 いや、池田さんのほうが先輩だね。俺はプロレス学校開校2年目に同じ愛知県出身のヤツといっしょに入ってつるんでたんだけど、そのときに「俺がお前らの先輩だ」みたいな感じで威張って、俺ら2人を子分のように従えてたのが池田さんなんだよ(笑)。

池田 ちょっと待って、それ絶対話作ってるよ!

金原 作ってないよ。だってそうじゃん。俺の相棒が当時よく言ってたよ。「なんだあの人」「いきなり俺らの先輩面しやがって」って(笑)。

——金原さんは2年目からで、池田さんはその前の一期生だったんですか?

金原 池田さんはプロレス学校できてすぐ入ったんだよね?

池田 いや、できてすぐじゃないよ。一番最初に入ったのはオサムちゃん。

——「オサムちゃん」というと、西村修選手ですね。

池田 俺はオサムちゃんよりずいぶん後だから、(金原の)ちょっと前くらいだよ。

金原 ちょっと前? それなのにあんなに先輩面してたの!?

池田 だから先輩面してないって(笑)。普通ですよ、俺は。

金原 普通なわけないじゃん。凄かったよ。プロレス学校の〝主〟みたいに威張ってたのがこの人だからね。

池田 それ中島さんでしょ?

金原 また~。中島「さん」なんて言って。普段は「中島、中島」って呼び捨てにしてるくせにさ(笑)。

——ダハハハハ! その「中島さん」がのちの中島半蔵なんですよね。

金原 そうそう。あの人はプロレス学校のインストラクターみたいな感じで、新日本プロレスから給料もらって仕切ってたんだけど、プロレス学校生の中の首領(ドン)と言えば池田さんだよ。

池田 だから首領じゃないって!

金原 この人はね、自分は熊本出身なのにね、名古屋から出て来た俺たちのことを「田舎モン、田舎モン」って、いっつも馬鹿にしてたんだよね。「この田舎モンが~」って何度言われたかわからないよ。

池田 言ってません!

金原 で、ある日さ、池田さんと俺たちでサプリメント買いに行こうって話になってさ。その店が青山にあるから、青山で待ち合わせしたのよ。で、俺ら普通にいつも着てるジャージかなんかで行ったら、この人、ひとりだけスーツで現れてさ、「ここをどこだと思ってるんだ。青山だぞ! お前らみたいな田舎モンとは歩きたくない!」とか言うんだよ(笑)。

——ダハハハハ!

池田 サプリメント買うのに、俺、スーツなんか着た?

金原 着てた。その印象だけは忘れもしないよ。「周り見てみろよ、みんなスーツだろ!」って怒られたんだから(笑)。

池田 それは、絶対違うと思うな。絶対、違う。

金原 もう池田さんはプロレス学校の首領だから。練習中にかける音楽の選曲権も池田さんが持ってたからね(笑)。

——練習中の選曲権ってまた地味な権力ですね(笑)。

金原 やっぱりさプロレス学校ってプロレスオタクが集まってるからさ、道場のラジカセでプロレスのテーマ曲流しながらウエイトとかやってるヤツがいっぱいいたのよ。でも、池田さんが来ると、そのテープをバーンとどけてね、必ず長

絶対、話作ってるよ! もしやってたとしてもそれは全部ネタだから!

プロレス学校の〝主〟みたいだったのが池田さんだからね(笑)

池田大輔×金原弘光

プロレス学校とは何か?

80年代末に新日本プロレスが、巡業中に空いた道場を有効利用するために始めた、早すぎたP'sLAB、闘龍門構想とも言うべき、プロレス学校。この画期的なシステムにより全国からプロレスラー志望者プロレスファンが入学したが、その授業内容は“自習”中心だったことが、卒業生から証言されている。それでも、天山、西村、サスケ、金原、池田など蒼々たるメンバーを排出した功績は大きい!

「何

波紋を
日本一

これがプロレス学校パンフレットだ!!

あなたの健康増進に！シェイプアップに!!

新日本プロレスが16年のノウハウを駆使してお手伝いいたします。

「プロレス学校」は、次の5つを重点的にご指導、アドバイスします。

①体力増強
②シェイプアップ
③特訓コース
④健康相談
⑤人生相談

■入会資格　13歳以上の男・女、入会随時

■入会金　20,000円

■会費　月額15,000円（但し3カ月前納の場合は40,000円）

■受講日　月～金曜 15時より20時まで（好きな曜日・時間を選んでください。週何回でも可）

■コース　初級、中級、上級、プロ養成コース

■特典　キャラクター商品等の割引きあり

■申込方法　別紙に必要事項を記入の上、新日本プロレス「プロレス学校」係までお送り下さい。

僕達と一緒にがんばろう!!

Let's Enjoy Building Your Body!

新日本プロレス
プロレス学校

生徒募集中

『紙プロ』43号の金原×サスケ対談の際も掲載したが、「プロレス学校」の貴重なパンフレットをここに公開！ なんとプロレスラー養成だけでなく、シェイプアップ、健康相談、さらには人生相談まで応じてくれるというから至れりつくせりだ！ なお、我らがグレート・サスケはこの金髪モデルに惹かれて入学を決意したというもっぱらの噂。

新日本プロレス
プロレス学校

渕に変えられるの（笑）。

――完全に自分の趣味で（笑）。

池田　確かにそれはやってたかもしれない（笑）。で、しまいにはプロレス学校のみんなで横浜アリーナまで長渕のコンサート行ってんのね。

――プロレス学校の〝課外授業〟は長渕剛のコンサートでしたか（笑）。

金原　いっつも練習中、長渕の曲がかかってるから、みんな洗脳されて長渕ファンになっちゃったんだよね。あの『JEEP』のCD何十回聞いたかわかんないよ（笑）。

――みんな長渕の曲を口ずさみながら練習してたんですか？

金原　いや、曲に合わせて歌うとさ、池田さんが「オマエは横で歌うな、長渕の歌が聞こえないじゃないか！」って怒るんだよ（笑）。

――ダハハハハ！

池田　言ってません！　また絶対作ってるよ！

金原　作ってないよー。ま、楽しかったよね。

――その頃いたメンバーでプロレスラーになったのって誰なんですか？

金原　古い人だとオサムちゃんと、引退した大利さん、三澤威さん。あとは天山（広吉）、サスケさん、臼田（勝美）君。

池田　〝ガスパー君〟もそうだよね。

金原　そうそう、ガスパー君。FMWに行った新山勝利ね。誰がガスパー君なんて言い出したんだっけ？

池田　あれは、なんだっけな？　ちょうどその時に、新日本で海賊男ガスパーっていうやつがいて、そいつがよく乱入してきて暴れてたんですよ。そしたらそいつが「俺たちも海賊男ガスパーのマスク被って乱入しようぜ」とか言い出して。その日からそいつのあだ名はガスパー君（笑）。

――ダハハハ！　プロレス学校生がマスク被って新日マットに乱入しようとしてましたか（笑）。

金原　変な人多いよね。サスケさんも凄いでしょ？

池田　あの人もすごい！　俺、プロレス学校がスタートしてから第1回の新日本入門テストをサスケさんと一緒に受けてるんですよ。

金原　それで一緒にスパーリングしてるんだよね。

池田　そうそう。そしたらあの人、入門テストのスパーリングのときにいきなりロープに走るんですよ（笑）。

――ダハハハハ！　さすがグレート（笑）。

金原　それは驚くよね。こっちは極めっこのスパーリングのつもりなのに、いきなりロープに走られるんだから（笑）。

池田　他には、全日本に入った浅子（覚）さんもいたんですよ。

金原　浅子「さん」って呼んでるの？

池田　そりゃあ、先輩だから。で、当時『浅子事件』っていうのがあったんですよ。

――浅子事件ってなんですか？

池田　浅子さんって、毎日オレンジジュースをガブ飲みしてたんですよ。そしたら、あるときから日に日に身体が黄色くなってきて、医者に行ったら診断結

これが「プロレス学校」の実態を初めて告発した金原×サスケ対談。これによると、当時プロレス界に入るために必要なことは、コネと身長であるとグレート・サスケ議員は結論づけている。

果が「オレンジジュースの飲み過ぎ！」だって（笑）。

――そのまんまですね（笑）。

池田　「こいつバカだな」と思いましたよね（笑）。あとプロレス学校生で、ある有名な宗教団体に入ってるのが2人いて、俺、よく誘われたんですよ。名前が名前なんで（笑）。

――え!?　どういうことですか？

池田　名前の上から三文字目まで一緒ということで（笑）。

――ダハハハハ！　ああ、なるほど。

池田　「あなたには何かある」とか言われてね（笑）。で、ある日その人と遊びに行ったんですよ。そしたらスーツ着た人が突然現れて、なんとか部長ですとか紹介されて。

――ダハハハハ！

池田　で、ラーメン屋に行って、腹一杯食べさせてもらったら、そういう誘いだったんですよ。それからもう一人のヤツとも遊びに行ったら、またなんとか部長が現れてね（笑）。今度はうな重ごちそうになったんですけど、「ごちそうさまでしたー！」ってそのまま帰ってきました。

金原　当時、みんな金がなかったから、メシの誘いなんかあったらすぐ、どんな誘いでも行くよね（笑）。

――当時は新日本プロレスの現役選手との練習での交流はなかったんですか？

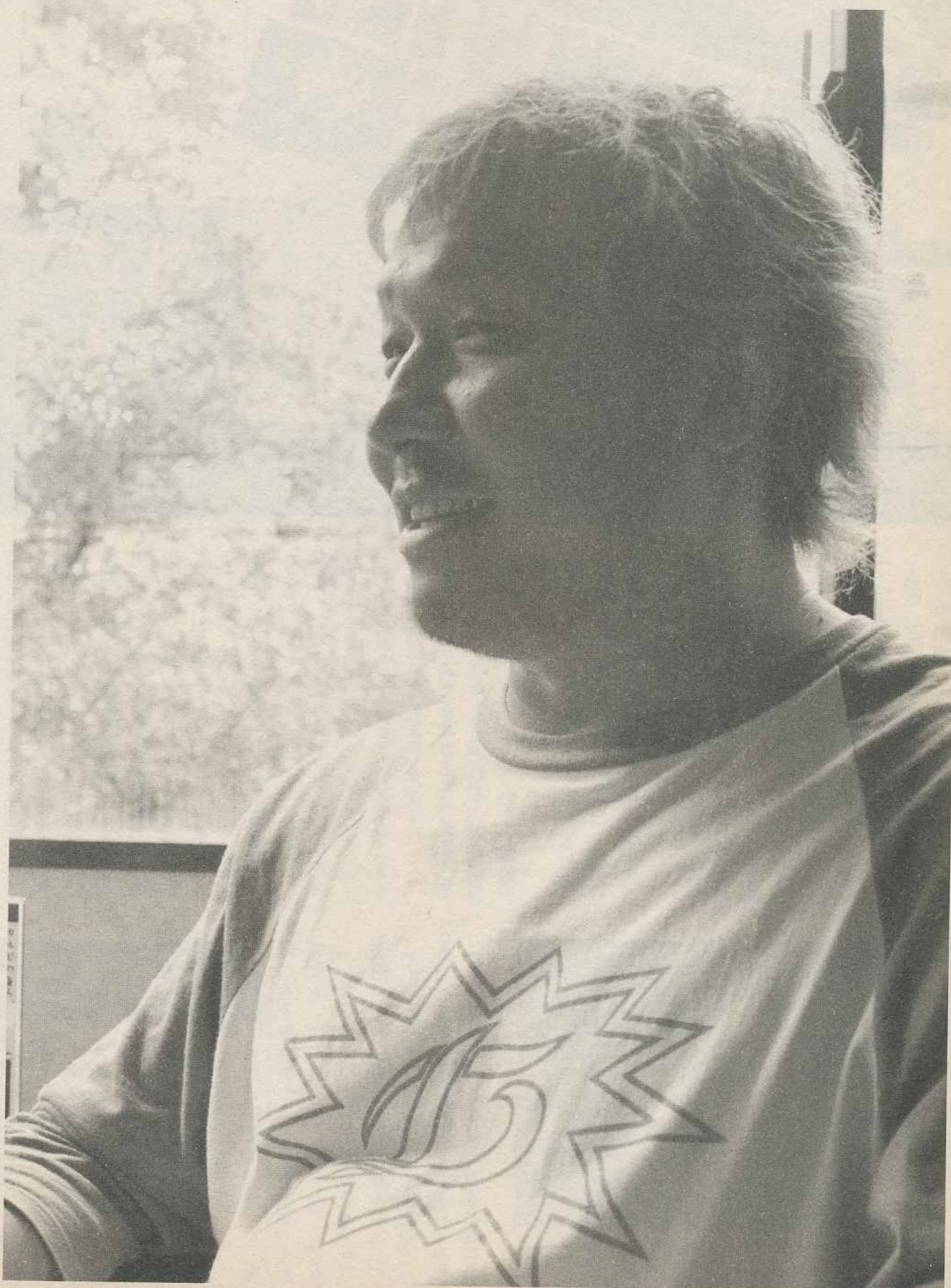
池田　ほとんどなかったですね。

金原　俺が入ったころは、校長のはずの小鉄さんも月に1回ぐらいしか来なかったからね（笑）。

池田　俺なんか、最初にプロレス学校のパンフレットもらって、（藤原）組長の写真も載ってたから、「あ、組長に練習つけてもらえるんだ」と思って入ったんですよ。でも、結局1回も会いませんでしたからね（笑）。

――ダハハハハ！

池田　まぁ、しばらくしたら新生ＵＷＦに行っちゃったからなんですけど。あと最初のころはよく片山（明＝引退）さんが来てて「あーだ、こーだ」と言ってたんですけど。そのあとは鈴木みのるさんがいて。鈴木さんはプロレス学校生を一人ずつ指名してスパーリングやるんだけど「次はオマエだ」と俺が指名されて、「よし！　やっと声が掛かった。明日やれる」と思ったら、次の日、「ＵＷＦに入る」って出て行っちゃったんですよね。

パンフに組長が載ってたから入ったんですけど一度も会えませんでした

いけだ・だいすけ■本名・池田大助。1968年2月13日、熊本県牛深市。88年プロレス学校に入学。その後、藤原組でプロデビュー。バトラーツ、ノアを経て、現在は「フーテン・プロモーション」を主宰。今年4月にバチバチスタイルのプロレスイベント『ＢＡＴＩ－ＢＡＴＩ』を開催。好物はカレー。180cm、105kg。

金原　あー、その話聞いた。

池田　「よーし、やるぞ！」と思ってたのに。

金原　俺たちと交流はないけど、練習に来てた選手はけっこういたよね。

池田　長州・佐々木健介組が来たり。マサさんが来て、がんがんベンチプレスやってたりはしましたよね。

金原　シリーズがオフのとき、選手は来るんだけど、同じ道場にいても俺たちとは一線引いてる感じだからね。でも、いま思えば、選手も「あいつらいるから」って時間をずらしているはずだよね。俺らいる時間に（生徒が）いたら、うっとうしいじゃん、今思えば、絶対。

――プロレス学校生って練習生というより半分ファンですもんね。

金原　でさ、プロの選手だけじゃなく、プロレス学校生だった人でも入門テストに受かって新日入りすると、俺たちに対する接し方が変わるんだよね。

――「気安く声かけるんじゃねぇ」みたいになるんですか？

金原　そうそう（笑）。先輩の三澤さんとかオサムちゃんとか変わっちゃってさ、俺とか池田さんは「ああはなりたくねーな」とか言ってるタイプだったのよ。それなのに第3回入門テストを一緒に受けて、池田さんは受かって、俺らは落ちたのよ。そしたらこの人、「もうお前らとは口きかない」って言い出したからね！（笑）。

池田　本気で言ってるわけじゃないですよ。すべてはネタですから！

金原　ホント受かった瞬間に態度がガラリと変わったからね。「合格通知来た？」と聞かれて、「俺はまだだよ」と言ったら「俺はもう来たよ。もうお前とも口きけなくなるな」って（笑）。

池田　そういうのがあってのネタじゃないですか！

金原　そのあと池田さんが丸坊主にして、道場で新弟子生活してるときに、1回だけすれ違ったけど、そのときも完全無視だったからね（笑）。

池田　だからネタだって！

金原　でさ、こっちは「いいなぁ、差が開いちゃったな」とか思って、今後どうしようかって悩んでたんだけど、池田さんが入門してから一週間たったある日、夜中にコンコンって俺のアパートのドアをノックされたんだよ。それでパッと開けたら池田さんが立っててさ、「腰痛めて新日逃げて来た～」って（笑）。

新日を夜逃げしてきた池田さんが夜中に俺のアパート訪ねてきたよね

かねはら・ひろみつ■1970年10月5日、愛知県尾張旭市出身。88年にプロレス学校2期生として入学。91年にUインター入門。その後、キングダム、リングスと団体の崩壊を次々と経験。2002年より『PRIDE』に参戦。シウバ、ミルコ、アリスター、ショーグンととんでもない相手とばかり闘い、いまだ未勝利。復活が期待される。178cm、93kg

4・24横浜・赤レンガ倉庫で行われたフーテン・プロモーション主催の『BATI－BATI』はそのタイトル通り、顔面を腫らすどころじゃないバチバチ・プロレスをこれでもかと展開。特にメインの池田大輔vs石川雄規は情念こめまくりの〝これぞバチバチ〟という闘いをみせた。次回大会では、この輪がさらに広がるか？

Photo:吉田みちこ

池田　でも、短期間にバーッと入った

れなのになんでノア辞めたの？　急に高

上井さんが「プロレス学校同窓会」を企画してたんだよ（金原）

—合宿所を夜逃げしてきたわけですか（笑）。

池田 いや、夜逃げじゃなくて、ちゃんと馳さんにあいさつして出てきたんですよ。

金原 でも、夜中に来たじゃん。

池田 別に辞めてその足で行ったわけじゃないよ（笑）。

金原 「新日入ったら、お前とは口きかない」とか大見得切ってた男がさ、一週間後に「腰壊して逃げてきた。ちょっと泊めてくれへん」だからね（笑）。

—また嬉しそうに（笑）。

池田 だからすべてはネタですよ。

金原 それで2、3日泊まっていったんだけど、「新日の●●にいじめられてよー」って悪口ばっか言ってね。池田さん、元々腰が悪かったんだけど、それをプッシュアップボードでバンバン殴られたらしくて。「あの野郎、●●だけは絶対許さない！」って言ってたよ（笑）。

池田 言ってないって！　でも、実際にイジメられて半狂乱になって、「ウワァー」って走って逃げたヤツもいたんですよ。Nですけどね。

金原 で、池田さんが新日辞めて来たちょうど何日後かに俺がUインター受けて、俺が受かったらさ、この人「ケッ」って顔してたよ。「受かりやがって」って顔（笑）。

池田 してないよ！　また話作ってますから、この男。

金原 そんとき「もうプロレスはやらん」とか言って、池田さんは1回田舎に帰るんだよね。でも、何年かして雑誌読んだら、いつのまにか藤原組入門してて、「この人もしぶといな」と思ったよね。でさ、そのあと何年かあとにお互い選手として、たまたまなんかの機会に会ったのよ。そしたら「あ、お疲れ様です、金原さん！」だって。急に（笑）。

—ダハハハハ！　いつの間にか「さん」づけになってましたか（笑）。

池田 一応、業界では先輩なんで。だから、ノアでは「浅子さん」って呼んでるもんね。

—その辺はちゃんとしなきゃいけないですよね。

金原 でもさ、それ聞いた時は吹き出したよ（笑）。「何いってんだ池田さん〜！」っとかって。

池田 こうやって、しゃべってると、普通にしゃべちゃうんですけどね。

金原 そのあと、1回リングスの道場に高山（善廣）君と一緒に練習に来たことあったよね。

池田 で、そのときも腰痛めたんですよ。

金原 そうそう。1回練習来て。その次の日に「すいません、腰が痛いんでもうやめときます」と挨拶に来て（笑）。

池田 あの時は大変でしたよ。多分最初のタックルの練習でやっちゃったんですけど、あと数日でノアのシリーズだったんですよ。もう腰が痛くて、こりゃヤバイなと。それがなかったら、良かったんですけど。

金原 でも、藤原組では大丈夫だったの？　スクワットいっぱいヤラされて壊れなかった？

池田 なんとか整体とか行きながら。

金原 藤原組って当時誰いたの？

池田 パンクラス勢がみんな抜けたあとだから、石川さんだけ。

金原 先輩一人しかいなかったら、楽だね。

池田大輔×金原弘光

池田 でも、短期間にバーッと入ったから俺は6番目ぐらい。船木さん、小野さん、田中さん、小坪さん、臼田さん、で次に俺なんすよ。

—ちょっとだけ先輩っていうのがたくさんいるんですね（笑）。

金原 へ〜、臼田さんの方が早いんだ。

池田 だって、俺、入門するときに臼田さんに「藤原組ってどうやって行ったらいいんですか？」と電話して行ったんだもん。「竹の塚の駅で降りて」とか聞いてさ。

金原 藤原組は寮とかあるの？

池田 ないない。

金原 通いなの？　じゃあ、チャンコとかあるわけじゃないんでしょ？

池田 チャンコは自分たちでお金を出し合って。そのうち帰るのが面倒くさくなって、住みたいヤツは道場に住みだして。藤原さんにお願いして。リング下に住んでたのよ。

金原 うっそ！　池田さんにも歴史があるんだね。

池田 いや、お互い様ですよ。

金原 アレクはいつ入ったの？

池田 アレクは後輩。だから後輩は（モハメド）ヨネとアレクだけ。俺の後は、入っては辞め、入っては辞めで。

金原 それじゃ、残ってるだけすごいじゃん。

池田 だからヨネが入ってくるまで俺がずーっとチャンコ番で、俺だけ、いつも練習途中で終わって、チャンコの買い出しッスよ。

金原 その金もみんなが出し合うんでしょ。みんな他に仕事とかやってんの？

池田 弁当配達とかやってましたよ。

金原 凄いね。苦労してたんだね。それなのになんでノア辞めたの？　急に高山くんから、「大ちゃんがノア辞めた」って聞いて、ビックリしたよ。この前、ディファで会ったんだよね？

池田 そう。

金原 たしか『佐伯祭り』だったかな？

—また、凄いところで会いましたね（笑）。

金原 俺は大江（慎）さんの引退試合だったから、花渡しに行ったの。そしたら、ちょうどいてさ。

池田 俺は、お宮の松とか知ってるから、試合観にに行っただけなんですけどね。

金原 そのときに「ノア辞めたって聞いたけど、どうしてんの？」って聞いたんだけど、ちょうど忙しくて、しゃべれなかったんだよね。で、なんで辞めたの？

池田 え、ここで言うの？

金原 ここでは言えないことなの？

池田 いやいや。自分のやりたいことがあったから。そういうことです！

—なんか違う理由もありそうですけど（笑）。

金原 自分で団体やりたかったの？　この前、団体旗揚げしたんでしょ？

池田 そう。

金原 『サムライ』を見る機会があって、そのときたまたま「バチバチが横浜の赤レンガで旗揚げです」とかやってたんだよね。それで見てたらウチ（元リングス）の伊藤博之が出てて、そのあと池田大輔vs石川雄規ってやってて。この人マイク使って何かしゃべってるからさ。何かやったんだって。

池田 そりゃ明らかになんかやってるでしょ、マイク使ってしゃべってれば（笑）。

それより『WRESTLE-1』ってホントにやるんですか（池田）

池田大輔×金原弘光

『BATI－BATI』でオファーしてよ。せっかくフリーなんだから

金原　興行打ちたかったんだ？

池田　興行打ちたいというか。

金原　大変だね～。だって興行って博打打つようなもんでしょ？

池田　博打だね。

金原　それも、ずっとやっていくの？

池田　やれる限りは。

金原　団体名は何？

池田　団体名っていうか興行名は『BATI－BATI』。

金原　バチバチなの？

――一応欧文表記で。

金原　それ、自分で考えたの？

池田　ウケる？

金原　たいしたモンだよ！　ぜひ、俺にも『BATI－BATI』でオファー掛けて下さいよ。せっかくフリーなんだから。

池田　マジで？

金原　交渉して下さいよ。

池田　でも、ギャラ高そうだからな～。試合後は『叙々苑』で打ち上げやんないと怒りそうだし（笑）。

金原　打ち上げは別にやんなくていいよ。終わったらスッと帰るから。

池田　じゃ、会場で残ったビールとかで。

金原　そういえばちょっと前まで、上井（文彦＝ビッグマウス社長）さんから「プロレス学校同窓会やろう」ってずっと言われてたけど、その上井さんももう新日いないからできないもんね。

池田　プロレス学校同窓会！　凄いね、どっからそんな夢が出てくるの？

金原　上井さんと会ったときね、何回かそういう話は聞いてたのよ。「絶対、それだけはやりますから！」と言ってたんだけどなぁ～。

――なんで上井さんが「プロレス学校」に、そんなに思い入れがあるんだかわからないですけどね（笑）。

池田　なにが「絶対やります」の原動力なんですかね（笑）。ところで『WRESTLE－1』ってやるんですか？

――延期って言ってますけどね。一説によると、6月12日にUFCがキャンセルした横浜アリーナでやるって話もあるみたいですけど。やりたがってるのは上井さんだけって噂もあります（笑）。

金原　じゃあ、横浜アリーナ空いてるなら『BATI－BATI』で使えばいいじゃん。

池田　なに言ってんの。赤レンガからいきなり横浜アリーナにいくわけないじゃない！

金原　いいじゃん。それか、そこで『プロレス学校同窓会』なんかどう？　みんなで長渕のライブに行った、思い出の横浜アリーナで（笑）。

――いいですね～（笑）。では、誌面を通じて上井さんに伝えておきましょう！　では、この辺でお開きにさせていただきます。ありがとうございました！

【05年5月2日／叙々苑　等々力店にて収録】

でも、ギャラ高そうだからな～ 打ち上げは会場で残ったビールで

波紋を呼んだ前田発言に
日本一のプロレス職人が出した答えとは!?

ディック東郷

DICK TOGO

「何を言われようと自分のプロレスをするだけ」

4・16 RIKIPRO後楽園大会の第五試合終了後、リングサイドで試合を観戦していた前田日明がリング上で言い放った言葉、「このリングには意地も誇りもない」!!――好勝負が展開される中、終始観客をどよめかせ、今大会のベストマッチを創り上げた男・ディック東郷。"レスリング・マスター"と呼ばれ、日本が世界に誇るプロレス職人は、この前田発言に対しどう思ったのか? その胸の内と、昨今のマット界事情、そしてそのプロレス哲学をたっぷりと語ってもらった。

聞き手/斎野もみじ
撮影/福島勝儀
design by さおとめの事務所

打ち上げは会場で残ったビールで

ディック東郷

プロレスには完成もゴールもない。満足したらそこで終わりですから。

——今日は〝レスリング・マスター〟と呼ばれるディック東郷さんのプロレス哲学をたっぷり聞かせて下さい！

東郷　よろしくお願いします。

——まずお聞きしたいのは、東郷さんも出場された4月16日のリキプロ興行で、リングにあがった前田日明さんが言った「このリングには意地も誇りもない」という言葉について意見を聞かせてもらいたいと思ったんですよ。

東郷　はい。

——さらに前田さんは東郷さんの試合を差して「沸いてる試合もあったが、ルチャで受けを取ってるだけ」って言ってるんですけど、これについてどう思いますか?。

東郷　あの試合でルチャはやってないんですけどねえ。でも、まあ俺個人としては前田さんには全然興味がなかったんで、何を言われようが気にならなかったです。実際、何言ったかは知らなかったし、知りたくもないし。プロレスを批判されても、それをそれとして聞き流すだけで、普段から耳に入れないようにしてるんですよ。だから他の団体のプロレスもあまり見ないですね。

——プロレスの雑誌とか放送とかも見ないんですか?

東郷　オフはプロレスからかけ離れた生活ですね。基本的に昔の古いアメプロを引っ張り出してきて、それを参考にしてるんで。あとはいままで10何年間やってきた経験。それをスクール（※スーパー・クルー。P101参照）で教えてるんですよ。だから、いまのプロレスから新しく何かを取り入れようというのはないですし、周りがプロレスを批判しようが全然悔しくも何ともない。否定する人って結局は何しても言いますからね（苦笑）。

——そういう意味では、自分のプロレスに対して自信があると。

東郷　そうですね。自分はいままで培ってきたことを全力で見せるだけなんで、外野が何を言おうが何とも思わないですし、批判されたことに対しても、反論したいとも思わないですね。すいません、期待ハズレな答えで（苦笑）。

——武藤（敬司）さんもそうですけど、格闘技全盛の時代でも、自分のプロレスに誇り持ってますもんね。その武藤さんが「プロレスにゴールはない」とよく言ってますが、東郷さんも同じ考えですか?

東郷　武藤さんとは考え方が似てますね。自分もプロレスにゴールはないと思いますよ。一生かかってもリング上でプロレスというものを100％表現できないんじゃないかなって思うぐらい奥が深いですね。だから残されたプロレス生活を、どのぐらい充実したものにしていけるかが今後の課題です。

——個人的に言えば東郷さんの〝プロレス〟は、かなり完成したものだと感じるんですけど。

東郷　いや、まだまだ。完成とかゴールはないですから。満足したらレスラーは終わりですし、どんどん新しいものをみつけていかないと。

——カール・ゴッチさんが「古いものは新しい」って言ってますけど、東郷さんの言う〝新しいもの〟に通じてるような気がするんですけども。

東郷　そうですね。WWF（現・WWE）にいたとき、アメリカのプロレスにカルチャーショックを受けたんですよ。いまのWWEも相当面白いですよね。自分はスカパーとか入ってないんで、たまにビデオ借りて見る程度なんですけど（笑）。

——WWEだけには興味があると。WWEはストーリーとか試合とか、様々な角度から見ることができますけど、特にどういった面が好きなんですか?

東郷　すべて含めてですね。WWEはやっぱり演出とストーリー、プロレスの技術、タレント性、身体作りを全部引っくるめてひとつですから。

——エンターテインメントという点から見ると、日本でWWEに一番近い存在なのが『ハッスル』だと思うんですけど、その『ハッスル』についてはどう思いますか?

東郷　『ハッスル』はまだ見たことないですねえ。

——高田総統もご存じないと?

東郷　チラッとしか見たことないですねえ。

——東郷さんが葉巻を吸ってる様は、馬場さんか、前田日明か、高田総統かというぐらいお似合いなんですよ（笑）。

東郷　へえ。前田さんとか高田（延彦）さんも葉巻吸うんですか?

——高田さんが吸うというか、高田さんと高田総統は古いお友達で、まったくの別人なんです（笑）。

東郷　ああ、そうなんだ。全然知らなかった（笑）。

——『ハッスル』には（ザ・グレート）サスケさんも出てるんですよ。

東郷　それはなんとなく知ってます。

——ケッパレ先生とか、カンフー・ハッスルというキャラで、だいぶハッスルしてますからね。

東郷　あの人はそういうの好きですからね、きっと（笑）。

——ホントいまのプロレス界のことはご存知ないんですねえ（笑）。では東郷さんがプロレス界の流れを把握してるのは、ご自分が出てる団体だけということですか?

東郷　それもどうかなあ。出たときに自分の試合をこなしてるだけなんで。最近ずっと出てるDDTの流れは把握してるかな。他の団体の情報は全然わかんないですねえ。

——聞いた話によるとメキシコのビデオは見てるとのことですけど。

東郷　それもスクールの教材として使ってるだけですね。

——そうでしたか。メキシコといえば東郷さんのスタイルに大きく影響を与えてると思うんですけど、レスラーになって初めての遠征はユニバーサル（グラン浜田、浅井嘉浩をエースとした日本初のルチャ団体）時代ですか?

東郷　そうですね。もう消滅しましたけどUWAっていう団体があって、結構上の方で使われてたんですよ。でも一時期あんまり練習に行かなくてホサれたりしてましたけど。

——それは環境が合わなかったとか?

東郷　いや、寝坊で（笑）。

——そんな理由でしたか（笑）。

東郷　毎週水曜日の朝から練習なんですけど、毎週火曜日の夜にケレタロっていうとこで試合があるんですよ。メキシコシティから3～4時間のとこなんで、戻ってくるともう真夜中なんですよね。

東郷が参戦しているDDTには、ゴージャス松野や現役ホスト、ハードゲイ、やっちゃん（ホンモノのニホンザル）、ヨシヒコ（ダッチワイフ）など様々な選手が登場する。リング上での硬質なキャラから「プロレスをなめるな」と怒りの声でも出そうだが、意外にも「あまり気にならない」とのこと。“自分の仕事のみを忠実にこなす” という職人らしい感覚だ。（※写真：5・4DDT後楽園大会で、王者・東郷が高木三四郎に敗退しKO-D無差別級王座陥落！ 残念!!）

師匠は邪道さんと外道さん。この二人以外に考えられない。

4・16 RIKIPRO後楽園大会で、WWE参戦が決定したスペル・クレイジーとタッグで対戦した東郷（パートナーは日高郁人）。日米のプロレス職人対決は、息をも付かせぬ目まぐるしい展開で大歓声を集めた。この日、何十年かぶりにプロレスを見たという前田日明は、第5試合終了後リングに登場すると「このリングには意地も誇りもない」と辛口コメント。バックステージでも東郷らの試合を「ルチャで沸いてるだけ」とバッサリ切り捨てた。延期が決まり開催が未定の『WRESTLE-1』（仮）だが、果たして前田は、そのリングでどのような「意地と誇り」を見せてくれるのか?

――それは起きるのが辛いなあ。

東郷 何回かサボってたら試合がなくなって、これはヤバいと。でも逆に試合がなくなったんで、練習には出れるようになったんですよ（笑）。

――皮肉ですねえ（笑）。

東郷 そしたら、また試合が増えて、上の方で使われるようになりましたね。

――東郷さんのブログによると、テレビ番組で秋田県民が怠け者ランキングで1位だったということですが、同じ秋田出身の桜庭さん同様、そういう意味では典型だったと（笑）。

東郷 そうかもしれないですね（笑）。

――で、メキシコでトップクラスで活躍して、いざユニバに凱旋したら、途端に団体が崩壊したんですよね。

東郷 戻ってワンシリーズで終っちゃったんですけど、もう自分が戻ってきた時点で、オフィス側と選手側がギクシャクしてましたから。

――サスケさん派と新間ジュニア派が対立してたんですよね。

東郷 揉めてるし、ギャラは出ないし、バカらしくなって、またメキシコに戻っちゃったんですよ。そしたらサスケさんから、みちプロ旗揚げしたから戻ってこないかって誘われて。

――なるほど。ところで、東郷さんが練習生だった時代はどんな練習内容だったんですか?

東郷 ユニバはSUN族（全日本女子プロレスが経営していた喫茶店）の下にある全女の道場を借りてたんですけど、あそこのリングは直接床の上にマットが敷いてあって、もの凄く固かったんですよ。邪道さんと外道さんに週一回の練習を見てもらって、有無を言わさず受け身を取り続けてましたね。

――外道さんも一時FEC（東郷率いるヒール軍団）に入ってましたけど、そのつながりで東郷さんが新日本のCTU（ライガー、邪道、外道、稔らが所属する新日本のヒール軍団）に力を貸したりしてましたよね。

東郷 CTUが乱闘になったとき加勢したんですけど、仲間のはずのスコット・ノートンにラリアット喰らったんですよ（笑）。

――見境なしですねえ（笑）。

東郷 まだ仲間だってわかってなかったみたいで、いきなり太い腕が飛んできてビックリしましたよ（笑）。

――恐竜ということで、仲間と認知するのに時間がかかったと（笑）。邪道さんと外道さん以外に師匠と呼べる方というと誰になるんですか?

東郷 ん～……。やっぱり邪道さんと外道さん以外考えられないですね。この二人の影響は大きいです。あと自分のプロレスに大きな影響を与えたのは、メキシコ遠征とかWWEですね。メキシコでルチャを覚えて、WWEでアメプロ覚えて、そのいい部分が上手くミックスしてるのが自分のスタイルだと思うんですよ。

――東郷さんのスタイルは、特に新しいことをやってるわけではないのに、マニア連中をはじめ評価がもの凄く高いのは、古くから伝わるものをしっかり身に付けてるからなんでしょうね。

東郷 新しいものにすぐ飛び付いたり、技をたくさん出すってのは、そんなに好きじゃないんですよ。みんなが新しいモノに走るんだったら、じゃあ俺は古いものを引っ張り出そうかなと。だからいまは一生懸命古い映像を見てますね。

――その古い映像って、どうやって入手してるんですか?

東郷 いろいろ方法はあるんですけど、資料の一つに、外道さんから借りて、しばらく返してないビデオがあるんですよ。それっていうのは、クリス・ジェリコが自分の好きなプロレスばかりを集めたビデオを外道さんが借りて、それを又借りしてるんですけど。

――元ライオン道が編集したマイ・ベストを借りてると（笑）。

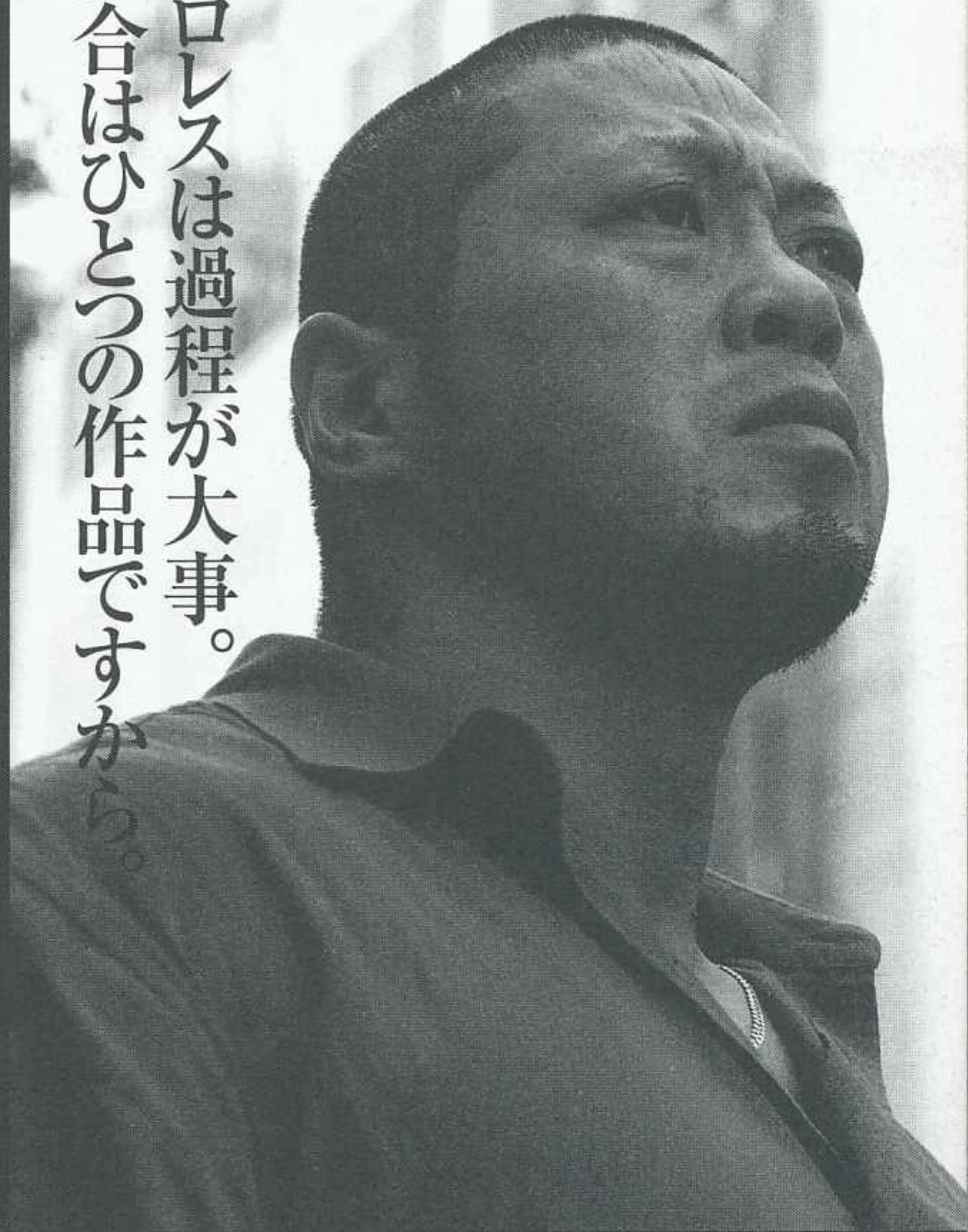
東郷 それを「今度返します」って言って、ずーっと返してないんですよ。ハッキリ言って返したくないです（笑）。

――ちなみにどういう内容ですか?

東郷 リッキー・スティムボードとか、リック・フレアー、ランディ・サベージ、ブレット・ハート、テリー・ファンク、ショーン・マイケルズとかが、少ない技でうま～い試合をやるんですよ。同じ技の繰り返しで試合を組み立てて、客を飽きさせないですからね。

――現在のスタイルに辿り着くまでは、具体的にどういった選手のスタイルを目指してたんですか?

東郷 自分はそれほどプロレスに熱心な子供じゃなかったし、せいぜい深夜の新日本、全日本を録画したのを見るぐらいだったんですよ。田舎だから情報もそんなにないし、技術的な部分は子供だからわかんなかったし、だからただ漠然とプロレスラーになりたいなっていう意識だけで見てましたね。で、デビューして技術の大切さがわかってきて、そこからメキシコとかアメリカに影響されて、いまの自分のスタ

プロレスは過程が大事。試合はひとつの作品ですから。

イルが形成されたんだと思います。

——前田さんが第一次UWFを経て、新日本に戻ってきたときとかも影響は受けなかったと。

東郷　それはそれで凄く興奮して見てたんですけど、結果としてはそっちに行かなかったですね。

——前田さんは「顔面が腫れるプロレス」とか「総合格闘技でも通用するプロレスラー」いう〝強さ〟の部分を強調してますけども、プロレスラーが示さなきゃいけない〝強さ〟についてはどう考えますか？

東郷　それも大事なことなんですけど、何て言うか、〝強さ〟だけにはこだわってないですね。「プロレスラーは最強」みたいなのは口に出したくないし。もちろん闘いですから、最終的には勝った負けたの世界なんですけど、自分の中では過程が大事だし、試合をひとつの作品だと捉えてるんで。純粋に勝ち負けだけを競うんだったら『アルティメット』みたいな、ホント殴る蹴るだけで誰が強いかを競えばいいって考えてるんですよ。誰が一番強いのか決めるだけだったら、プロレス、『PRIDE』、K—1なんていうジャンルはいらないじゃないですか。

——プロレスはただ単純に強さのみを競うものじゃないですからね。

東郷　プロレスにはいろんな部分があって、お客さんが闘ってるレスラーと照らし合わせて共感したりして、そういった中身の部分の面白さがもの凄く大事だ思うんですよ。

——昔の新日本プロレスって、前田さんが言う相手の顔面を腫らすような喧嘩スタイルがストロングスタイルって呼ばれてましたけど、世界的にはケガさせるプロレスラーは一流じゃないというい見方がありますよね。

東郷　顔面を腫らすのがいいかどうかは別として、ケガをさせるのは誉められることじゃないと思いますね。まあ、いろんなスタイルがあって、その中で自分は昔のレスリングスタイル、オールドスクールっていうものをやってみたいんですよ。いまは技がどんどん危険になってきてて、昔のレスラーはまだ現役でやれてる人もいますけど、いまのレスラーって20～30年はやっていけないと思うんですよ。デビューして1年ぐらいで身体がボロボロの選手とかいますからね。

——いまは垂直落下系の技が当たり前になってますからね。

東郷　でも何が面白いか決めるのはお客さんなんで、一概に押し付ける気はないんですけど、自分が見て面白いものをやってみたいんですよね。

——それで評価してもらえれば最高ですよね。

東郷　面白くないって言われればそれまでですけど、自分の持ってるもので敢えて勝負してみたいっていうのがありますね。だからいま生徒たちにはクラシックなスタイルを教えてるんですよ。派手な技って度胸とセンスがあればできますけど、地味な攻防をやれる選手って、いまそんなにいないですからね。まあ、流行ってるものに飛び付きたくなるものが現状ですよ。

——その点、東郷さんはペティグリーとダイビング・セントーンぐらいですもんね。

東郷　セントーンはSATO時代から使ってるんで、もうかれこれ10年ぐらい（笑）。やっぱりフィニッシュって大事にしていきたいですから。

——なるほど。技ひとつひとつを大事にされてる東郷さんですけど、スーパーIクルーIでも、やっぱりそういう指導をしてるんですか？

東郷　やっぱり〝間〟っていうものを重視して、少ない技で見せられるレスラーになってもらいたいですね。

——さらにブログでは、ハートの強いレスラーになるよりは、世渡り上手になってもらいたいとありました。

東郷　自分はそう思いますね。まあ、腕の立つ選手になれば、黙ってても声が掛かってくるし、そこで自分で選択できるわけですから。

——一流のプロレス職人になれば問題はないと。ではハートの強さとは具体的にどのようなことですか？

東郷　ん～…プロレス界っていろんなことがあるじゃないですか。団体のゴタゴタとか、生活が不安定だったりとか。

——ギャラが払われなかったりとか（笑）。ここ10年ぐらいでインディー団体が乱立して、そのせいか、プロレスラーの選手名鑑には何百人という数の選手がいますけど、その中には「これとは同じプロレスラーだとは思われたくないな」っていう選手もいるんじゃないですか？

東郷　いやあ、自分はインディー中心に回ってるんで、いろんなレスラー見ましたけど、あまり気にならないんですよ。

——DJニラさんとの一騎打ちもありましたからね（笑）。

東郷　そうですね（笑）。でもニラはニラで、また他の選手とは違うセンスがありますから。

——昔、アントニオ猪木はホウキが相手でも名勝負をするって言われてましたけど、東郷さんもそんな感じがするんですよね。

東郷　そこまではいかないですけど、団体のカラーによってスタイルを変えるように努力はしてますね。DDTとかK—DOJOとかリキプロとか、それぞれに色がありますから。

——DDTにはヨシヒコ（※ダッチワイフ。選手として活躍）なんてのもいますからね（笑）。

東郷　まあ、なんでもかんでもってわけじゃないですけど、俺もプロですから、自分の許せる範囲内で一生懸命やってますよ。でもやるからには自分も楽しんでるんで。

——いろんな団体に参戦してますが、東郷さんの目から見て〝巧い〟って感

2003・10・13新日本プロレス東京ドーム大会。東郷はIWGPジュニア王者決定バトルロイヤルに邪道&外道の秘密兵器として登場した。「自分のスタイルに大きな影響を与えたのは、ルチャとアメプロ、そして邪道さんと外道さん」と語る東郷。ユニバーサル時代に一から練習を見てもらい、プロレスについて語り合った邪外は、東郷にとっていつまで経っても師匠なのだという。

じたレスラーはいますか？
東郷　昔からそうですけど、やっぱり外道さんですね。
――スクールの生徒には、外道さんのプロレスはいいお手本だと。
東郷　そうですね。あの受け身とか、〝間〟を盗んでくれれば。あと常にコンディションもいいんで、そういう部分も見習って欲しいですね。
――受け身、間、コンディションの維持が大事だと。
東郷　はい。場外に凄いことやりながら飛べとか、グルグル回って落ちろとか、そういうのは要求しないんで。受け身でも間でも、レスラーとして本来できなきゃいけないことを、しっかり学んで欲しいですね。でも線の細い選手が何人かいるんですよ。プロのリングに上がる以上はある程度の肉を付けてもらわないとレスラーとは呼べないですから、その辺はウェイトトレーニングをガッチリしてもらわないと。
――やっぱりWWEを見ると身体の管理がしっかりしてるのがわかりますけど、日本のレスラーには見るからに練習してない選手もかなり多いですよね。
東郷　まあ、WWEはすべてにおいて完璧ですからね。喋りも上手いし、身体もできてるし、ベビーにしろヒールにしろ表情がいいですから。
――もう、あの団体には突っ込むところがないですもんね（笑）。
東郷　エースが落ちても、また次のエースを作るじゃないですか。ジョン・シナだってそんなにプロレスが上手いとは思わないですけど、あれだけの人気者になったし。
――スクールがあるんで難しいでしょうけど、またWWEに上がれる機会があったら出たいですか？
東郷　ん～…俺は英語がしゃべれないんで、どんだけ頑張ってもある程度のポジションにしか行けないことがわかったんですよね。まあ、声もかからないと思うし、かかったとしても今はスクールが大事なんで多分行かないと思います。
――過去には自ら辞めてきたわけですからね（笑）。
東郷　もともと2年契約だったんですけど、〝大阪のある人物〟に泣きつかれて、WWEに頭下げて1年で契約を解除して日本に戻ってきたんですから。あそこで辞めてなかったら、また違う人生に進んでたと思うんですけどねえ（苦笑）。
――基本的にリング以外では人の悪口言わない東郷さんですけど、その〝大阪のある人物〟に関してはいろいろあるみたいですね（笑）。
東郷　正直言って、いろいろありますね。でもこれ以上は勘弁して下さい（笑）。
――まあ、ウチも訴えられたりしたら困りますからね（笑）。東郷さんにしてみれば、今回の大阪プロレスの大量離脱もうなづける話だと。
東郷　むしろ、なぜもっと早く気付かなかったのかが不思議ですよ。
――なるほど。では、これからの目標を聞かせて下さい。
東郷　いまは与えられた仕事を、ひとつひとつ自分の満足いく形で全うしたいですね。生徒たちの見本にならなきゃいけないんで、試合するからには生徒たちに「この先生に教わってよかった」って思われるようなものを見せていきたいんですよ。
――東郷さんは自分で興行をプロデュースしようとか、自分好みの大会をしようという欲はないんですか？
東郷　これだけみんな自主興行やってる中、一回もやってないんですよね。多分チケット売ったりとか営業したりとかが面倒なんだと思います（笑）。
――ここでも秋田県民の血が出てくるんですね（笑）。
東郷　あと、実際やってお客さん入んなかったら虚しいし。やるからには儲けないと。
――好きなプロレスをして、それを教えてというのが一番居心地がいいと。
東郷　それプラス旅ができれば。自分のライフスタイルがプロレスと旅行になってて、今年はインドでしたけど、毎年2月ぐらいにフラッとどこかに行くんですよ。旅先でさらなるパワーをもらって、またプロレスに戻ると。だからいまは凄く充実してますね。
――プロレス界一のインド通と言えば西村修さんですけど、西村さんもクラシックなプロレスを目指してますよね。
東郷　話は合うかもしれないですねえ。
――メキシコ、WWFと渡り歩いた東郷さんですが、日本に呼んだら活躍しそうな外人選手っていますか？
東郷　15年前にメキシコでスペル・クレイジーと知り合ったんですけど、当時からもの凄かったんで、みちプロに呼んだ方がいいってサスケさんに話したんですけど、ウヤムヤになっちゃって。
――住み込みでレッスル夢ファクトリーに出てましたよね（笑）。
東郷　最近の選手ってホント知らないですから。いまは古いビデオばっかり見てるんで、その選手たちって今頃60歳ぐらいのおじいちゃんですよ（笑）。
――確かに（笑）。試合してみたい選手はいませんか？
東郷　やれるんだったらカート・アングルとショーン・マイケルズとは闘ってみたいですねえ。
――それは見たいなあ！
東郷　その2人となら、絶対いい作品になる自信はありますよ。
――可能性は少ないのかもしれませんが、〝プロレス職人〟同士の対決を期待してます！

【2005／4／28　高田馬場駅近くの喫茶店にて収録】

2003/11/2みちプロ10周年記念・有明コロシアム大会。東郷、MEN'Sテイオー、獅龍、TAKAみちのく、中島半蔵が一堂に介し、懐かしの海援隊☆DXが復活した（WWE在籍の船木勝一は不在）。東郷を中心としたこのチームが、サスケやデルフィンのライバルとしてみちプロの全盛期を支え、そして彼らのWWFでの活躍により、みちプロが世界に通用する団体であることを証明した。

でぃっく・とうごう■本名 佐藤茂樹。1969年8月17日、秋田県大館市生まれ。91年6月5日、ユニバーサルプロレス後楽園大会のvsMASAみちのく戦でデビュー。ユニバ崩壊後、みちプロに9年間在籍し、WWFに移籍。その名を世界に轟かせる。離脱後、大阪プロに参戦し、2000年にフリー宣言。04年12月、プロレス学校『スーパー・クルー』を開校し、講師のはやてと共にプロレスラー育成にあたる。170cm、90kg。
★東郷日記■ http://blog.livedoor.jp/dicktogo/
★ディック東郷の世界紀行■ http://www.briskcrew.com/togo/top/top.htm

SUPER CREW（スーパー・クルー）とは？
ディック東郷とはやてが講師を務めるプロレス学校。身体の大小・性別を問わず、精神論にこだわらないプロレスを理論的・科学的に指導する。プロレスラーになりたい方、プロレスをより深く知りたい方、第二のディック東郷を目指す方は下記HPにレッツ・アクセス!!
★スーパー・クルーHP
http://hayate275.hp.infoseek.co.jp/supercrew/

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

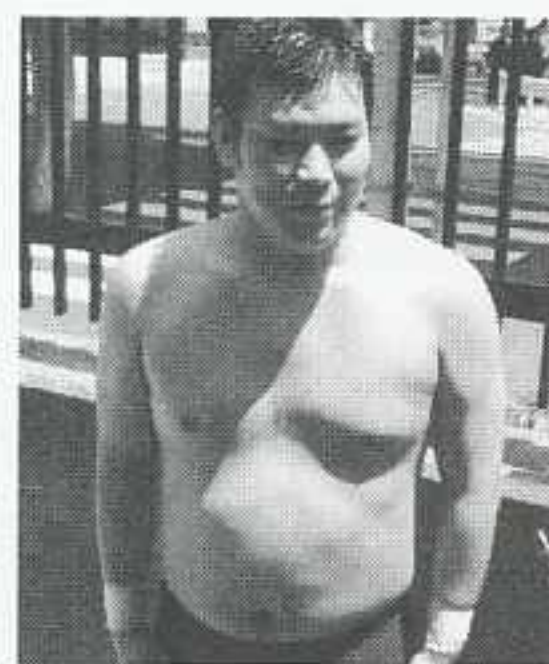
GWが終っても気が抜けない興行がてんこ盛り!!

行ってきました、5·2WAP後楽園大会！ メインは剛、越中、ターザン後藤、栗栖、浜さん、嵐、維新力ら昭和レスラー10人がリング狭しと大暴れ！ しかも3本勝負！ 男度数は濃縮還元120%を優に越え、多少の胸焼けが…ゲッフゥ。情報ページ担当／斎野

Fight & Ticket / Topic / Book　試合・大会情報／最新情報

01MAXジュニアの祭典開催! 村浜、Gamma、そして男色ディーノ参戦!!

Fight&Ticket

ZERO-1 MAXジュニアの祭典『天下一Jrリーグ』開催決定! 出場選手10名が決勝戦の静岡大会を目指し、過酷なリーグ戦に挑む。今回も出場者全員の持つ水晶をすべて集めれば、どんな願い（お金以外）も叶うというステキなシステムだ。「背が高くなりたい」という願いを胸に優勝を目指していた浪口くんを、道場マッチで秒殺した男色ディーノが出場権をもぎ取り、大阪プロを離脱した村浜武洋、Gamma、K-DOJOのPHYCHOとバラエティーに富んだメンバーが集結！ 天下一のジュニア戦士は一体誰だ!?

男色殺法を封印したディーノ。しかしその欲情はいつ爆発するかわからない。

第3回『天下一ジュニアリーグ』

■大会概要　◎5月20日大阪～27日長崎…リーグ戦／29日静岡大会…決勝戦
◎5人1リーグの2リーグ制　◎あらゆる勝ち2点、あらゆる負け0点、あらゆる引き分け1点

■参戦選手　日高郁人、高岩竜一、藤田ミノル、佐々木義人、村浜武洋、男色ディーノ、Gamma、PSYCHO、アレックス、シェリー、サンジェイ・ダット

■スケジュール
5月
20日（金）大阪・大阪府立体育会館 第2競技場（19:00）
21日（土）和歌山・和歌山県立体育館（18:30）
22日（日）岡山・卸センター展示場オレンジホール（15:00）
24日（火）鹿児島・大口市体育センター（18:30）※価格破壊シリーズ第2弾
25日（水）熊本・興南会館（18:30）
26日（木）福岡・博多スターレーン（19:00）
27日（金）長崎・ncc&スタジオ（18:30）
29日（日）静岡・ツインメッセ静岡（16:00）※決勝戦

■HP　http://www.zero-one-max.com/　■問　ファースト オン ステージ　03-5730-3966

6·5リキプロ後楽園大会 長州&エンセンが電撃タッグ!!

Fight&Ticket

『ALLERGY』■日時　6月5日（日）試合開始12:00（開場11:00）　■会場　東京・後楽園ホール
■チケット　S席 6000円、A席 5000円、B席 3000円
■決定対戦カード　長州力 & エンセン井上 vs 村上和成 & X
■問　RIKIPRO事務所 03-3754-6340　■HP　http://www.rikipro.com/

池田大輔が参戦! 6·5バトラーツ越谷大会!!

Fight&Ticket

『June Bright～6月の輝き～2005』■日時　6月5日（日）試合開始17:00（開場16:00）
■会場　埼玉・桂スタジオ　■チケット　SRS 5000円、自由席 4000円、小中生 1000円（当日のみ）
■参加予定選手　石川雄規、池田大輔、チョコボール向井、原　学、竜司ウォルターズ、関本大介、伊藤博之　他
■問　バトラーツ　048-963-7515　■HP　http://www.battlarts.jp/

掟ポルシェ・プロデュース 赤まむし限定ユニットX/T/Cデビュー!!

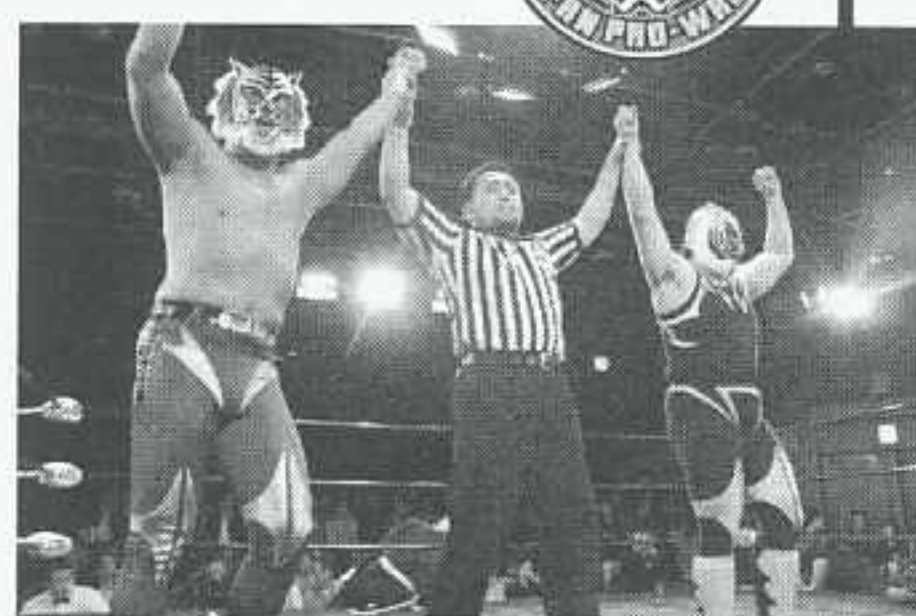
Topic

4月23日、佐藤奏（写真中央）、高橋樹里（中央・左）、村上友美（中央・右）の赤まむし興行限定ユニットX／T／C（Xtreme Cute Tesoros）が登場! 掟ポルシェ作詞・作曲の赤まむし興行のテーマソング『ハードコアにキスして』を熱唱した。この模様はスカパーで6月にOA予定!!

■佐藤奏ブログ『Kanade' s Diary』　http://blog.livedoor.jp/satoh_kanade/
■高橋樹里ブログ『Jyuri Style』　http://blog.livedoor.jp/takahashi_jyuri/
■村上友美ブログ『Tomomi' s Room』　http://blog.livedoor.jp/murakami_tomomi/

“紫の虎”が復活!? 初代タイガー vs 大谷が決定!!

Fight&Ticket

初代タイガーマスクが旗揚げする新団体『リアルジャパンプロレス』（真日本プロレス）。メインで初代タイガーと大谷晋二郎の一騎打ちが決定した！ 4月16日のプレ旗揚げ戦で、2代目ザ・タイガーが、初代タイガーに“スーパー・タイガー”の復活を要請。スーパーといえば第1次UWFで前田日明や藤原喜明と激闘を繰り広げた“紫の虎”だ。試合直後だったせいか、うっかり承諾してしまった初代タイガーは、さっそく涙のシュークリーム絶ちを宣言!! 佐山皇帝はダイエットを成功させ、20年前のあの動きを取り戻すことができるか?

『リアルジャパンプロレス』旗揚げ戦

■日時　6月9日（木）試合開始18:30（開場17:30）　■会場　東京・後楽園ホール
■チケット　RS席 8000円、A席 6000円、B席 5000円、C席 4000円
■決定対戦カード　初代タイガーマスク vs 大谷晋二郎（※掣圏真陰流トーナメントの同時開催決定!!）
■出場選手　二代目ザ・タイガー　他
■問　KIAI PROJECT　03-5778-4995　■HP　http://www.seiken-do.com/

アマによるネタ発表会をアレクが総合プロデュース!!

Fight&Ticket

アレクサンダー大塚が総合プロデューサーを務める、アマチュアのためのイベントが開催される。コンセプトは、あくまでプロではなく、「○○が好き」という気持ちが高じてやり始め、発表する場を求めている人たちに場所を提供するというもの。学生 or 社会人プロレス、大道芸、ミュージシャン、お笑い、水着着用可能なモデル or ラウンドガール（一般による撮影会あり）、リングアナ or 全体進行MCなどステージ参加希望者、撮影会希望者を下記アドレスにて募集中。レスラーに関してはプロ・アマを問わない。

『Shall We Entertainment!～みんなで○○ごっこ～』

■日時　7月17日（日）開始時間13:00　■会場　東京・バトルスフィア東京
■チケット　一般観覧料 2500円、撮影会 5000円、観覧&撮影会 6000円
■応募締切　6月15日（水）　■Eメール　swe2005@hotmail.co.jp

『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍』僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった（白夜書房・刊）

Book

これは『私、プロレスの味方です』以来の衝撃の一冊だ！ ミュージシャン・文筆家の菊地成孔氏が、初めてプロレス&格闘技の単行本を書いた。いま最も注目を集める当代随一の書き手である菊地氏が生まれてから30年以上熱狂してきたプロレス&格闘技の観戦を5年前にパッタリとやめ、昨年の大みそかから観戦を再開（そして取材と執筆をスタート）し、批評、短編小説、対談に取り組み、一冊の本になった。鋭く危険な批評眼と愛憎渦巻く感情で、あらゆる角度からプロレスと格闘技（と『紙プロ』も！）を丸裸にしていく。必読！

■価格　2000円（税込）■発売日 5月20日（金）■白夜書房HP　http://www.byakuya-shobo.co.jp/

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

Game 最新情報

145名の実在レスラーが登場！『BATTLE CLIMAXX 2 プロレス頂上決戦』!!

■稼働日
5月末日より全国アミューズメント施設にて稼働開始
■HP http://www.konamityo.co.jp/rumbleroses/
■問 コナミホットライン
0570-086-573
（平日9:00～19:00）

全国アミューズメント施設で絶賛稼働中の『BATTLE CLIMAXX』が、さらなる進化を遂げた！ カード化した実在のプロレスラーを駆使し、スキルカードで勝負するオンラインゲーム『BATTLE CLIMAXX』。前回に引き続き新日本プロレス、NOAH、ZERO-1 MAX、多くのフリー選手が参戦し、新たに武藤敬司率いる全日本プロレス、そして我らがアントニオ猪木が登場！ しかもタッグマッチや場外乱闘など、プレイ内容もグレードアップ!! 夢の対決を実現させろ！

And Others その他情報

故・中島らも原作 感動のプロレス映画が遂にDVD化！

『お父さんのバックドロップ』
■価格 5040円（税込） ■監督 李闘士男
■収録時間 153分（本編98分）
■原作 中島らも『お父さんのバックドロップ』（集英社文庫刊）
■キャスト 宇梶剛士、神木隆之介、南方英二、南果歩、生瀬勝久、AKIRA、大日本プロレス
■販売元 アミューズソフトエンタテインメント株式会社
■HP http://www.amuse-s-e.co.jp/

本格プロレスアクション映画！ 船木タイガー、狂気のゴング!!

『真説タイガーマスク』
■価格 4935円（税込） ■監督 那須博之
■収録時間 94分
（特典映像として初代から4代目まで揃ったタイガー夢の対決が収録!!）
■キャスト 哀川翔、船木誠勝、佐山聡、夏生ゆうな、真樹日佐夫、木村浩一郎、ジョニー大倉
■販売元 GPミュージアムソフト
■HP http://www.gp-museum.com/

柔術、VT、キックが学べる グレイシーバッハが千葉&茨城に進出!!

柔術、VT、キックなどの総合ジム・グレイシーバッハ東京が、グレイシーバッハ千葉およびグレイシーバッハ茨城を開設する。プロ志望の方はもちろん、女性や初心者も大歓迎！ 詳細は下記アドレスにて。

■入会費 10000円 ■月会費 一般5000円、中学生以下4000円
■場所 ◎グレイシーバッハ千葉／千葉県銚子市銚子コミュニティーセンター武道場
◎グレイシーバッハ茨城／茨城県鹿島郡神栖町 神栖町武道館
■問 080-3429-7951 ■HP http://www.graciebarratokyo.com/

ヒクソンを投げた男 木村浩一郎が熱血指導！

総合格闘技ジム『S-KEEP』では現在ジム生を募集中。SAW全日本王者、宇宙パワー、ライオンマンと様々な顔を持つナイスガイ・木村浩一郎が熱血指導！ ヒクソン・グレイシーを投げたテクニックを盗もう!!

『真説タイガーマスク』の敵役ライオンマン。浩一郎は俳優としても活躍中なのだ!!

■入会金 なし!!
■月会費 ワークアウトワールド会員 2100円、ビジター 5250円
■回数券（一回分）ワークアウトワールド会員 840円、ビジター 1155円
■場所 東京都大田区東雪谷1-27-5 ワークアウトワールド洗足池
■問 03-5754-8900 ■HP http://www.s-keep.net/

PRIDE公認 ボディデザイナー養成塾、開講

島田裕二PRIDEルールディレクターが学科長を務める『ボディデザイナー養成塾』が4月11日に入塾式を行い、翌日12日より授業を開始した。ボディデザイナーとはフィットネス、パーソナルトレーニング、マッサージ、フード&サプリメント、メンタルケアなど、時代にニーズに合わせたトータルケアのできるトレーナー。1年間のカリキュラムでPRIDE公認のボディデザイナーを育成する。

■期間 2005年4月より1年間
■場所 東京商科学院専門学校 本校舎 および千代田区西神田 山田ビル1F
■問 有限会社シマダエンタープライズ 03-3560-7911（担当 中野）
■HP http://www.bcgizm.com/

紙プロHand 更新・最新情報

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスHand』では、GWの大会速報を連日連夜速報！ 試合経過・コメントに加え、大会全体の総評が携帯で読めるのはこのサイトだけ!! コラムは毎日配信、着メロ・待画は毎月１日更新!! 中川画伯カレンダー待画のほか、『紙プロ』でしか手に入らない伝説の津谷章嘉待画も配信中！ なっ！ 『ＰＲＩＤＥ』ミドル級準決勝チケットの特典付き先行予約も実施、コラムも毎日更新、メルマガも毎日配信中です!!

キャリア					
Docomo	I Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲	紙プロHand
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技	紙プロHand
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技	紙プロHand

紙プロ元気大学

ゴールデンウィークもプロレスを見に行くだけの、ヒマでモテないプロレスファンの皆さん、こんにちは。読者ページ担当、本業は電気部のささきぃです。一応注意してほしいのは、高田総統風に言ってみたんであって、本当はこんなに高飛車じゃないということです。私のGWはZERO・1 MAX後楽園、キックボクシング55kg級トーナメント『MACH55』、ディファカップと毎日大会ざんまい。どれも面白く、『紙プロHand』の速報も気合いが入りましたが、気が付けばもう雑誌の〆切はとっくに過ぎていました。さて、今月もはじまりはじまり。

（石川県・シーザー武志）「ランペイジ戦が見たかった…」↓残念でしたね近藤有己選手。年間計画がいきなり狂ってしまいましたが、次の試合も期待しています。なぜだか似顔絵が描きづらい選手のひとりなんですが、これはかわいらしくかつ似ていると思いました。

内回校巡

『紙プロ』86号 面白かった記事

【船木誠勝×田村潔司対談】
★11ページもとられていて嬉しいのと同時に驚いた。かつての『SRS・DX』でのターザン山本、パリの旅のブチ抜きを思い起こさせるボリュームと衝撃（個人的に）。
（北海道・塚本拓也・34歳・会社員）

↓喜んでいいんだか悪いんだかわかんない例えをありがとうございます。前号の面白かった記事ナンバーワンは顔合わせ、「2人ともけっこうおちゃめ」（東京都・最上正光）な内容とともに高評価のU系〝再会〟対談！　以下、順不同でお送りします。

【将軍KYワカマツインタビュー】
★長年のどに引っかかっていた魚の小骨がとれたように、SWSという骨が僕ののどから取れました。
（大阪府・山内義久・36歳・おもちゃ問屋経営）

↓よかったよかった。小骨はお守りのように大切にしておいてください。あれ、飲んじゃった？

【喫茶店トークスペシャル・嵐山哀歌】
★嵐のようなトーク、山のようなトーク。歩きしゃべりは総合健康技か!?
（青森県・山口一也・49歳・地方公務員）

↓70歳にして、携帯サイトに毎週コラムを連載している井上さん。……他にいない70歳ですよね。頼むほうも頼むほうです。あ、ウチか。

【ヒカルド・モラエスインタビュー】
★頭突きを仕掛けておいて泉田の石頭に痛がる馬場さんみたいなインタビューで面白かった。
（埼玉県・稲葉聡・25歳・無職）

↓言いたいことはわかるつもりですが、違う言い方で表現しろと言われると悩みます。「プロレスと格闘技、どちらが好きですか？」の問いに対し、稲葉さんの「プロレス。好きだから」という答えに添えられた「いけませんか？」の言葉と大谷晋二郎のイラストが私は好きです。

【『PRIDE GP 2005』パーフェクトガイド】
★『PRIDE』がかなり好きなので。絵が面白かった。
（茨城県・住谷淳・28歳・フリーター）

↓中川画伯のイラストを見て喜んだディーン・リスター選手は『紙プロ』を10冊購入。さらにアメリカで売りたいとまで申し出てくださいました。ありがとう画伯、ありがとうリスター！

『紙プロ』86号 つまらなかった記事

【ターザン山本！×山口日昇×堀江ガンツ対談】
★『PRIDE』も山本氏も山口氏もガンツ氏も嫌いなので、スミマセン。
（長野県・小川太志・40歳・会社員）

↓いえいえ、そんなに嫌いなのが載ってたり作ってたりする雑誌なのに、買って頂いてかえって申し訳ないような思いです。スミマセン。

『PRIDE GP』優勝者予想

★近藤有己。でもさっき負けてしまいました（地上波観戦後に書いてます）。ランペイジだな、と思ったのも束の間、彼も負けました。私には予想の才能がありません。
（新潟県・斎藤貴樹・31歳・会社員）

↓みんなきっと同じ道を歩んでいるから大丈夫。当てにいってる予想はつまらなかったりしますしね。

プロレスと格闘技、どっちが好きですか？

★自分は、プロレスのほうが好きです。理由を書くと長くなると思いますが、できるだけ短く書きます。プロレスは投げ技もあるし打撃もあるし固めたり寝技もある。受け身もマスターできるし、全てをマスターするとプロレスこそ最強だと自分は思います。
（青森県・菅原豪浩・18歳・フリーター）

↓かっこいいな。18歳のまっすぐな言葉を守りたいと私は思います。

★格闘技。はっきり、さっぱりする。
（大阪府・井口登・31歳・会社員）

↓こういう言葉もこれはこれではっきり、さっぱりしていて非常にいいと思います。

★格闘技の方が好きです。プロレスは少しやりすぎだと思うところがあるし痛々しいです。
（京都府・永井里枝・13歳・学生）

↓里枝ちゃんの面白かった記事は「ヒョードル選手のインタビュー」。理由は「ヒョードル選手が大好きだからです」。私から見ると、ヒョードル選手の試合も「少しやりすぎだと思うところ」はあるんですが、そうでもないですか？　そういう意味ではないですか？

★プロレス。プロレスには、人生に必要なものがすべて詰まっているから。
（兵庫県・春名義行・38歳・会社員）

↓真正面から常連投稿者にそう言われると、この38歳児め、とつぶやいてしまう私です。ごめんね素直じゃないの。あ、金本浩二選手と同い年だ。

その他のおたより

★すんげぇ久しぶりに『紙プロ』買った。いつの間にか引っ越してたんだなぁ。ささきぃはまだいたんだ。とっくに辞めたか入院したかと思ってた。
（東京都・島本直也・35歳・自由業）

↓おかげさまで入院もせず元気バリバリです。まだまだ気分はヤングライオンです。そのくせ新人は大人げなく逆エビでつぶしたいと思います。

紙プロ86号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 船木誠勝×田村潔司対談
2位 全女沈没特集・ダンプ松本インタビュー
3位 将軍KYワカマツインタビュー
4位 『PRIDE GP2005』出場選手パーフェクトガイド
5位 渕正信×ジミー鈴木対談

1位はブッチギリでU系大物・再会対談！　船木誠勝対談シリーズ（『誠勝の部屋』スタート希望お便りアリ）は今月も登場です！　2位は超ド級のインパクト、ダンプ松本インタビュー。しかし、あのページの写真は……。詳細は次ページのお詫びコーナーをチェック！　続いて「KY」のナゾがようやく解けた将軍KYワカマツインタビュー。4位は『PRIDE GP』出場選手パーフェクトガイド、30代以上の男性から絶大な支持を得ていた、ジャンボ鶴田を熱く語る渕×ジミー対談、ヒカルドンインタビュー、山口日昇×ターザン座談会と続きました。

今月のステキな一枚

ZERO・1 MAXで開催される『第3回天下一ジュニア決定戦』へ、DDTから男色ディーノ選手が参戦を表明。写真は5月9日の道場マッチで勝利し出場権を勝ち取ったディーノが、高岩竜一選手とガッチリ握手をかわした瞬間です。

「天下一（てんしもいち）っていう大会で、一番スゴい“ジュニア”を決めるんでしょ？　アタシは出るわよ！　絶ッ対に出て、出たからには出すわよ!!」と、熱く名乗りをあげたディーノは、5月7日行われた出場メンバー発表会見に乱入。浪口修に対し「この子なんかより、アタシのほうがよっぽどスゴい“ジュニア”だって証明すればいいんでしょ！」と挑発、道場マッチを行う約束をとりつけてしまう。結果は、普段の姿とは違った七三分けに黒のショートタイツで登場、男色殺法を封印したディーノが秒殺勝利した。

さわやか好青年に変身したディーノは「どの方もみんな強敵ぞろいなんで、自分は胸をしゃぶる…いや、胸をかりるつもりで頑張るだけッス！　リングの上では、取るか取られるか、やるかやられるか、入れるか入れられるかの勝負だけッス」と語ったディーノ。写真のように固い握手をかわした高岩は「思っていたよりキレがあった。好青年だよね」とディーノを評価！　はたしてディーノの思惑は、そしてそれに対する前年度王者&ゼロワンジュニアの超竜、高岩の反応は……!?　ZERO・1 MAX天下一ジュニアシリーズの日程は、情報ページをチェーック！

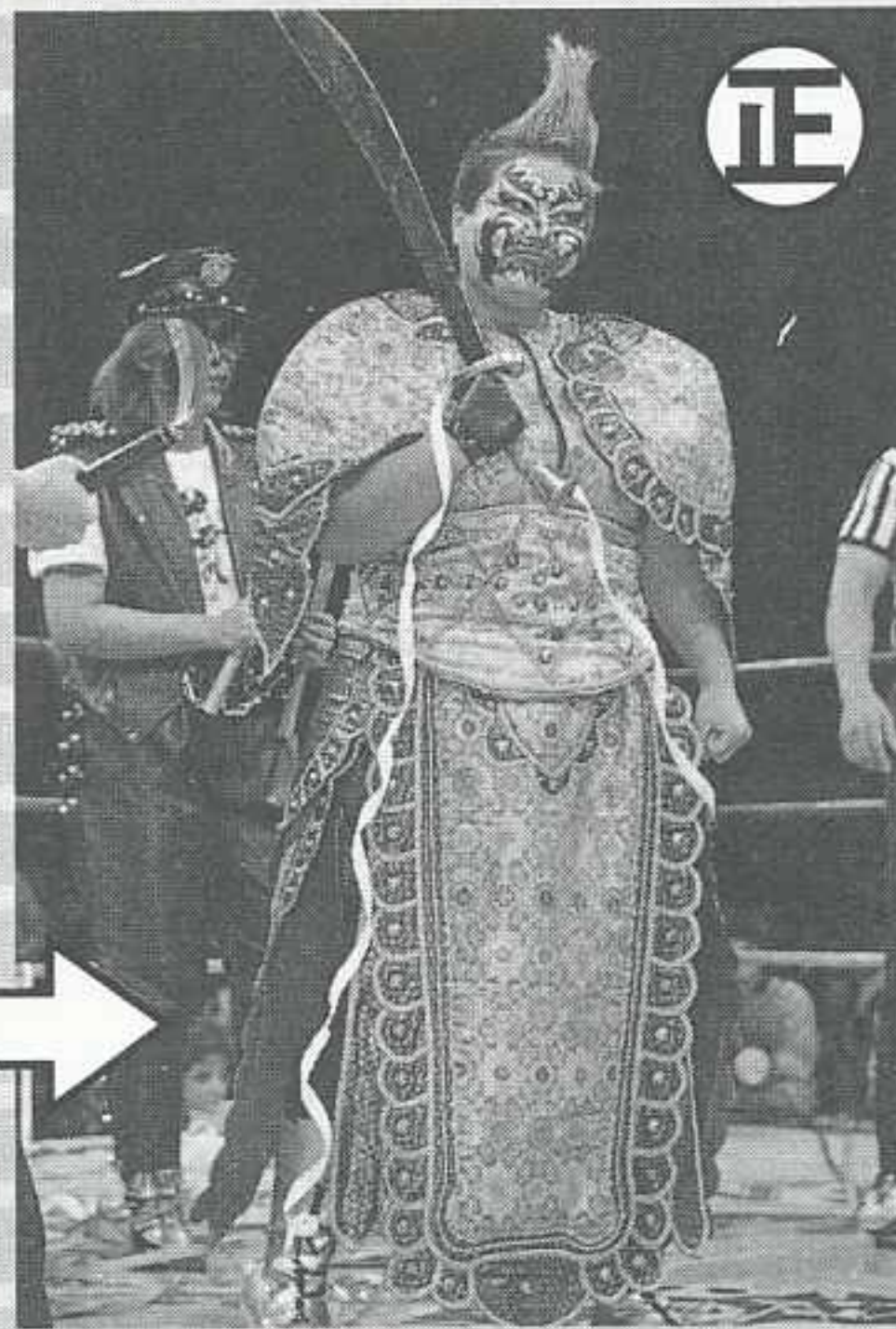
（埼玉県・小川徹）↓デンジャラスK！　全日本プロレス愛　（北海道・アカツキ）↓オールバック、赤いジャケットのア

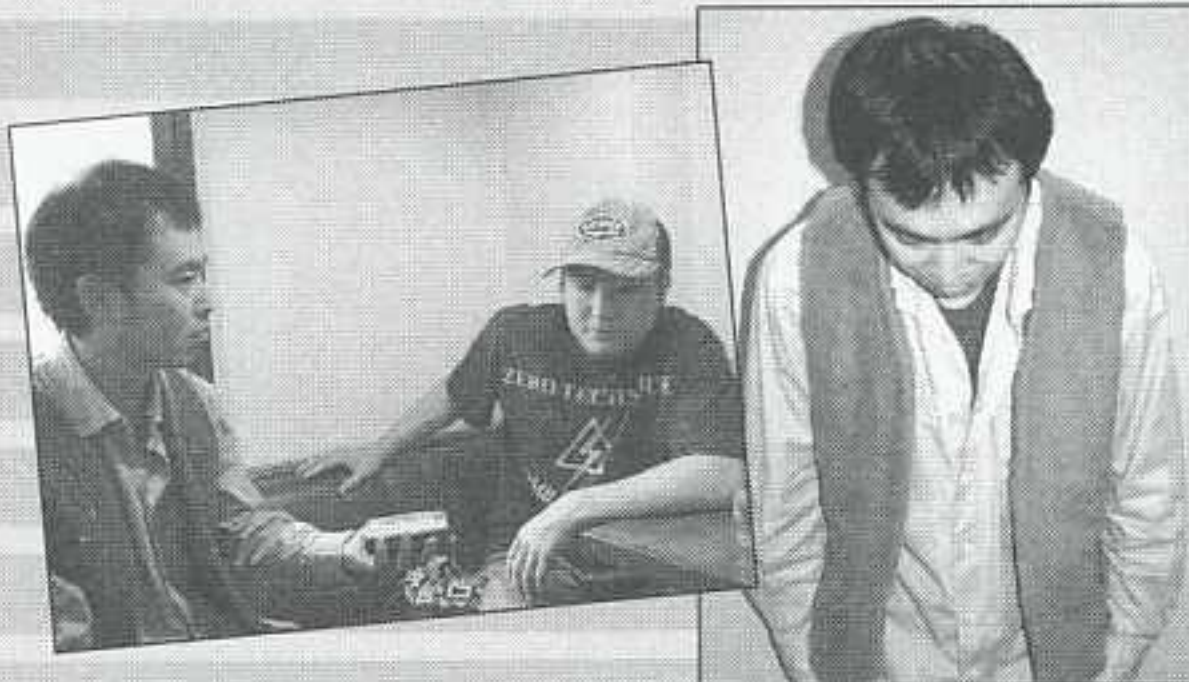
今月のおわびコーナー

お詫び その1

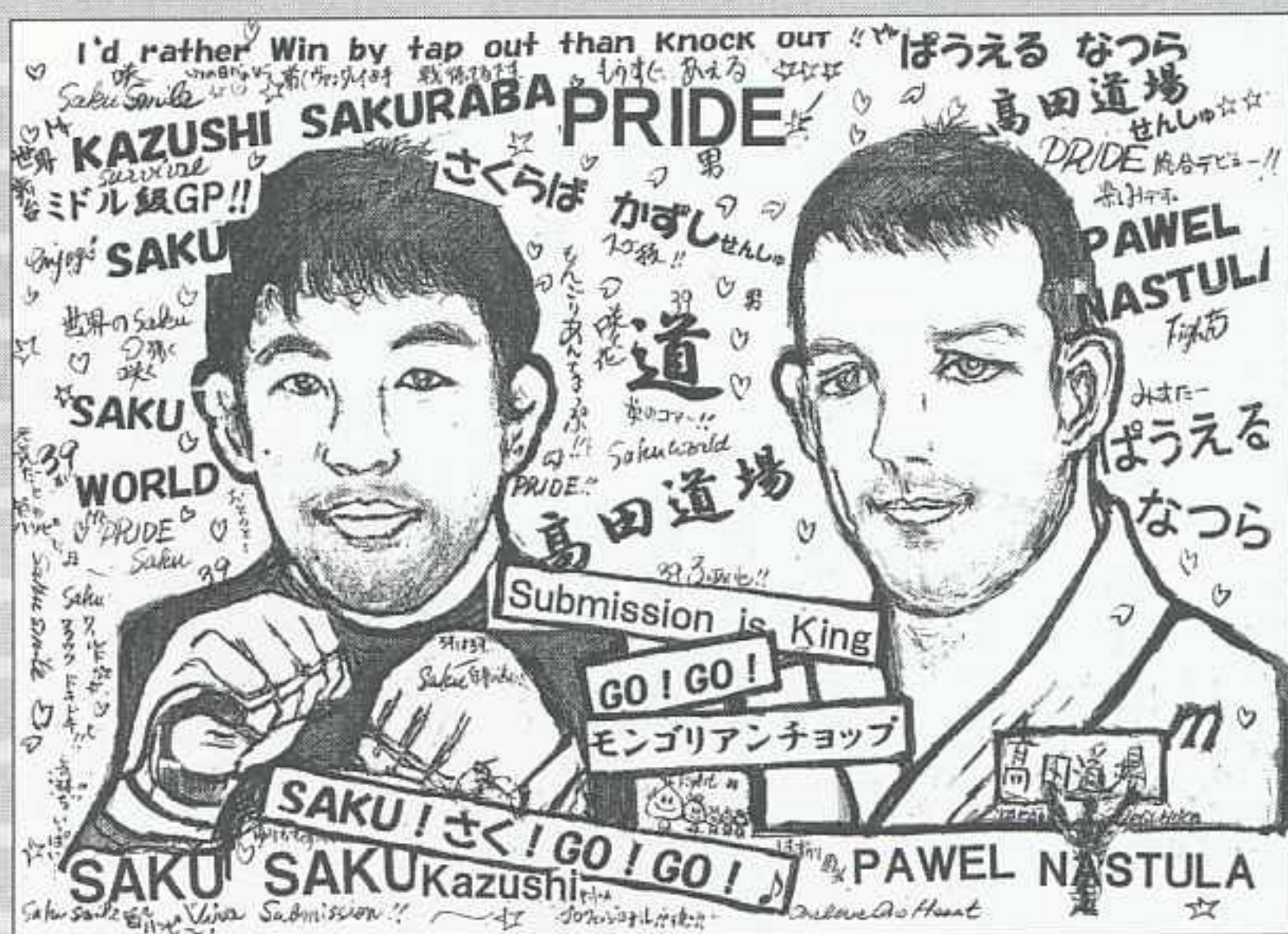
尊敬する先輩2人が前号で大きなミスを犯してらっしゃったので、読者ページのスペースを提供させていただきます。まずは松澤チョロさん。前号で大好評だったダンプ松本インタビューですが、なんとP84の写真が別人、影かほる選手だったことが発覚！　しかもダンプさん本人のブログ上で発覚！　本当に申し訳ありませんでした。また、ブログ上で「山口」を名乗る方からの書き込みがありましたが、これは山口日昇のカキコミではありませんです。左が影かほるさん、正しいダンプさんは右です。また別人だったらチョロさんを極悪入りさせますので、鍛え直してやってください。なんなら今からでもいいです。宜しくお願いします。

『紙プロ』読者必読！
ダンプ松本ブログ「127kgの成長日記」
http://blog.livedoor.jp/gokuaku2/

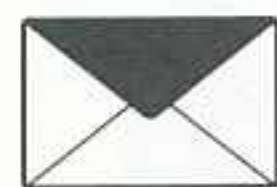
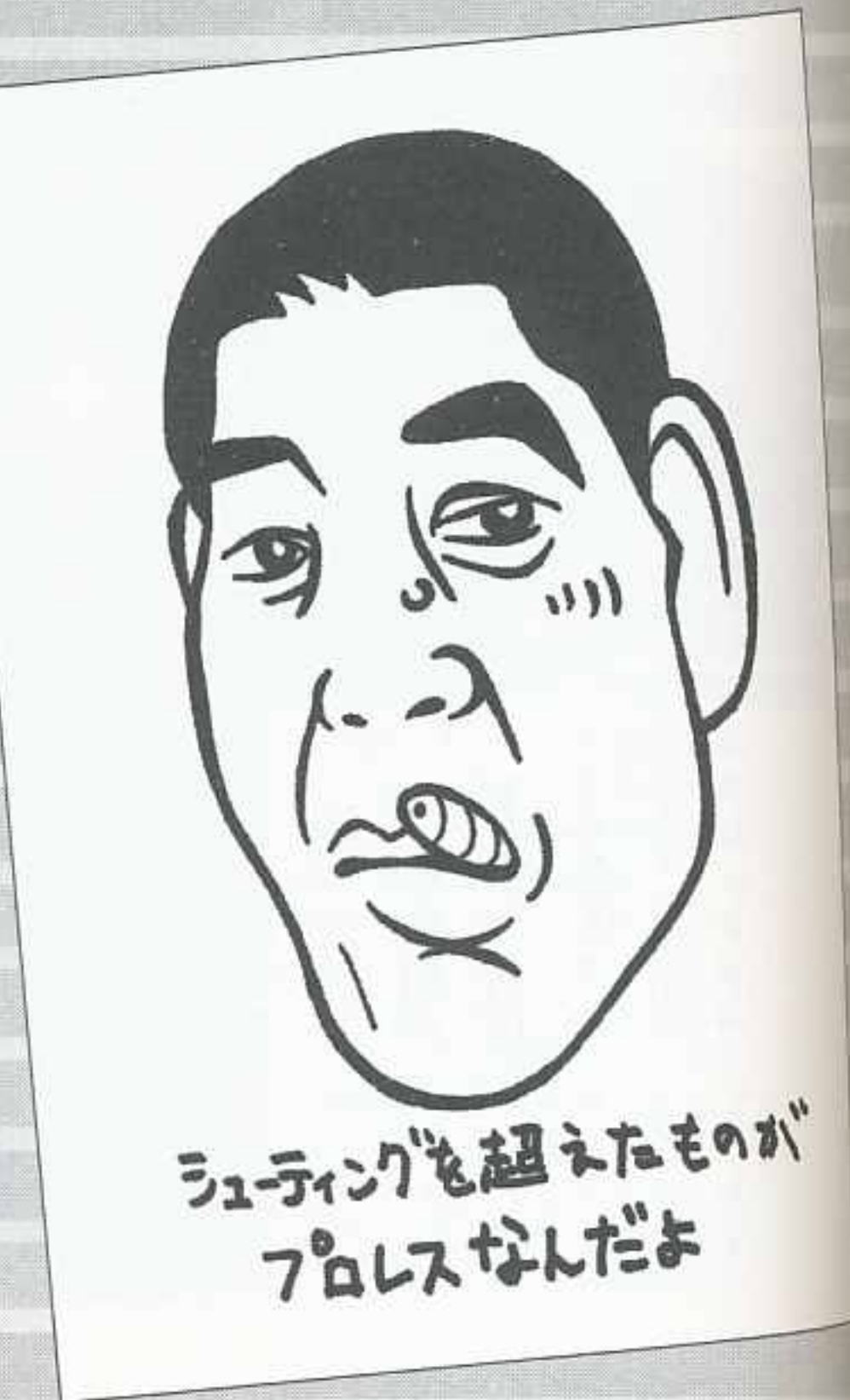
誤　正

お詫び その2

P41『PRIDEひかり道』レポートにおいて『格闘技通信』三次敏之編集長のお名前を紹介させていただいたのですが、読み仮名を「みつぐ」と間違えて表記してしまいました。正しくは「みつぎ」さんです。大変失礼いたしました。写真はページを担当したジャン斎藤です。お詫びのため、偉大な編集長に近づくためにチョッキを着たいと都内を探し回った斎藤ですが、ユニクロで「そんなのありません」と、チョッキなだけに袖にされてしまったため（うまい）新人・上杉所有のマタギ風チョッキを着用して五味隆典選手取材へ直行！　別に選手と仲がいいことを自慢したいわけではありません。今度、ぜひ斎藤に素敵なチョッキを売っているお店を教えてやってください。

（埼玉県・小川徹）➡デンジャラスK！　全日本プロレス愛あふれるイラストを今月も投稿ありがとうです。

（北海道・アカツキ）➡オールバック、赤いジャケットのアキラ兄さん。私は昔から前髪をおろしてらっしゃる時のほうが好きなんですが、みなさんはいかがですか？

（京都府・絶叫ハネムーン）➡たぶん『紙プロ』は、かなり矢野卓見選手を扱ってきた雑誌だと思うんですが……そうか、こういう読者さんも出てきたんだな、と、ちょっとビックリしたので掲載します。「現在大活躍中の須藤元気の師匠」って、バックナンバー45号ではこの2人の対談もやってるんですよ。スゴイと思ったら是非注文してください。今読んでも面白いよ。

（東京都・ヤー）➡パウエル・ナツラ高田道場入り記念にいただいたイラストですが、桜庭和志のミドル級GP初戦突破記念にもなりましたね。中村和裕選手との対談、楽しんでください！

（東京都・小技）「じゃあ、プロレスとは？　プロレスはプロレスだよ。～無限ループ～」➡ジャイアント馬場さんの名言。今聞くとまた意味深いですね。小技さんも毎月投稿ありがとう。

（広島県・山田彰）➡ちゃん付けするのは恐れ多い井上さん。でも、詠人という呼び方はふさわしいですね。ゴルフの宮里藍ちゃんはパジョンスック・SVKジム選手に似ているな、と思います。多分藍ちゃんもムエタイ裏番長になれる〝殺し〟の持ち主のはず。誉め言葉です。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

紙プロ読者ページ『紙プロ元気大学』では、みなさまのお便りをお待ちしています。新人も入ってきた昨今、私が読者ページを引退する日も近いので、愛の告白とかプロポーズとかは今のうちにお願いします。いや、別に終わってからでもいいです。その他、雑誌『紙プロ』へのご意見、大会の感想、イラスト、ダジャレ、インタビューしてほしい選手のリクエストなど、どしどし送ってきてください。

以上、すべてのお便り・イラストのあて先は

メールはradical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6　パレ・ジュノ2F
(株) ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部
「ディファカップの夢、あと数センチ届かず」係まで。
携帯サイト『紙のプロレスHand』からの投稿もできます!

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！
プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によってはこちらに載ってしまいます。
匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです

大日本製麿道帝国皇帝が真の武士道を求めて全国行脚
佐山サトルの

日本右流々ン（ウルルン）探訪記

第6回

特別企画

『佐山の部屋』

ゲスト・文／中村カタブツ君（42歳）

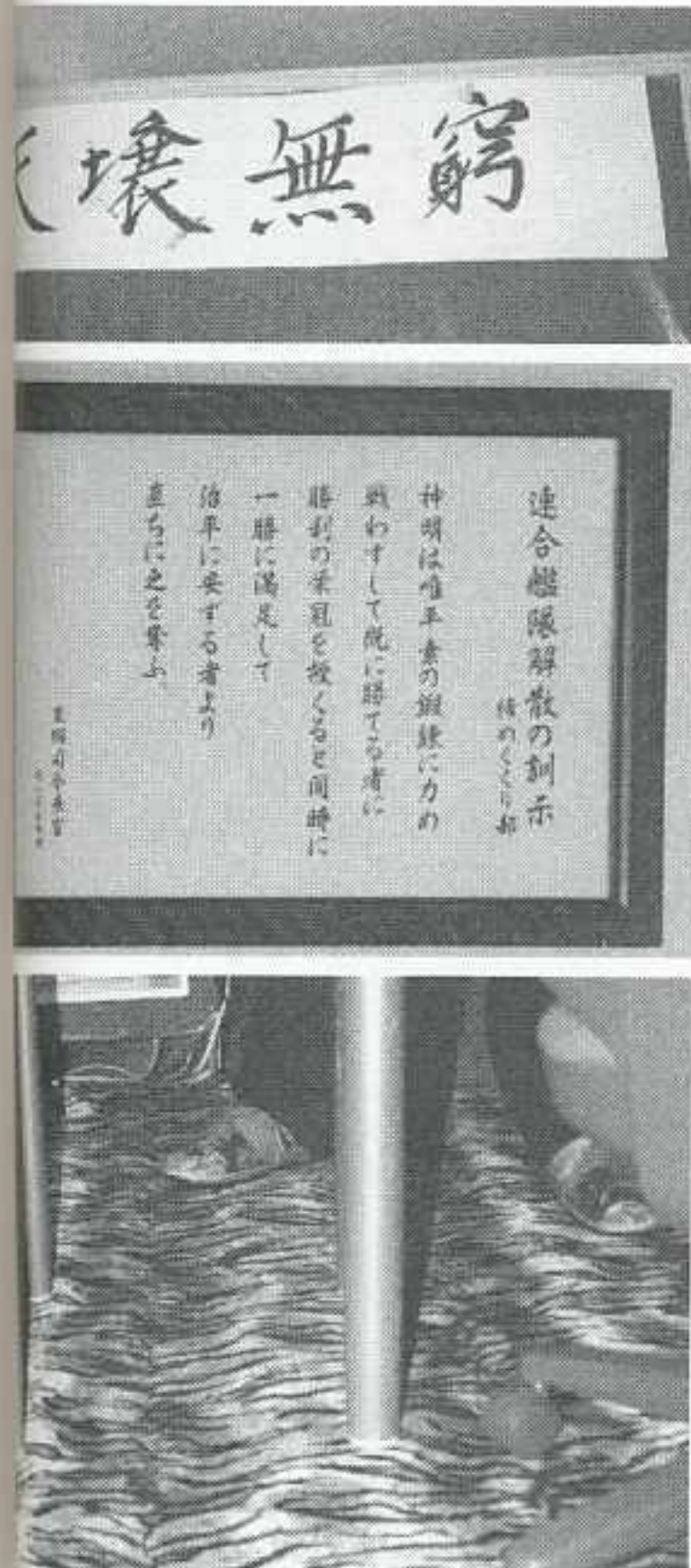
ここは武士道研究所か？　はたまた右翼の巣窟か？
佐山皇帝の秘密基地・天壌無窮事務所に潜入成功!!

「次の取材は私の事務所に来る？　若いモンがいっぱいいるけど。うっふふ」

前回の『右流々ン』で、こんなお言葉を佐山皇帝からいただいた取材班。嬉しいお誘いだ。ただ、どうしたわけか身体は自然に拒否反応（胃の辺りが重くなる）を示すから実に不思議。編集担当の斎野クンなんか「事務所は最後に残してほかにどこかないですかねぇ……」と散々ゴネまくっていたものである。

しかし、皇帝のお招きである以上、ボクらが二の足を踏んでどうするってことで迎えた当日、斎野クンは待ち合わせの場所に一向にやって来ない。携帯に電話してみると「腹が痛いんですぅ。でも、あとから行きますんで……」と、情けない声を出す。え、俺1人で行くのか？　ホントに勘弁してほしい。

ということで、たった1人。赤坂にある天壌無窮の事務所を訪れることになったわけだが、事務所のあるマンションは嫌になるくらい駅から近い。5分もしないうちに到着したボクはついに天壌無窮、いや極右の事務所へと足を踏み入れることになったわけなのだ。

最上階でエレベーターを降り、部屋の前でチャイムを鳴らすとドアは静かに開き、目の前にはよく日焼けした短髪の男が立っていた。黒いシャツのボタンを一番上までキッチリと留め、

連載開始から8ヶ月、遂に天壌無窮事務所に潜入成功！　壁には日露戦争の英雄・東郷元帥による『連合艦隊解散の訓示』。床には恐らく皇帝が素手で狩り殺したと思われる虎の敷物が。自作のテーブルや、独自の工夫をこらした配線など、レスラーとは思えぬマメな一面を持つ皇帝。ホントは『ドン・キホーテ』や『東急ハンズ』が大好きなのだが、ちょっと極右っぽくないので内緒である。

これまた黒いパンツを太いアーミーベルトで締めている彼。ヤバイ！

「佐山さんはいらっしゃるでしょうか？」

「押忍！　塾長はいま執務をしております。終わるまでこちらでお待ちくださいとのことです」と、応接室に通されたのだが、その途中の部屋のドアが少し開いている。見るとそこにはモニターが3台並び、ドアの前やら廊下の様子がバッチリ映し出されているのだ。ヤバイ！

帰りたい。すぐに帰りたい。けど、もう帰れない。「斎野の野郎！」とか思いながら待つこと5分。やっと皇帝が顔を出した。

「モニター見た？　ビビッたでしょ？　昨日配線するの大変だったんだよォ」と笑ってる。はぁ？　どういうことですか？

「だから、全部冗談。うっふふ」

冗談!?　あのモニターも短髪の彼も全部冗談なんですか？

「そうですよ。彼は友達で、もう帰っちゃったしね（笑）。えっ、本気にしてたのォ。あのね、私は右翼じゃないんだから、あんなモニターとか若いモンなんか必要ないんですよ。でも、期待してるみたいだったから、いろいろやってあげようかなって思ってね。うっふふ」と、こうだ。チクショー、完全にからかわれてる。

とはいえ、若いモンが常日頃出入りしてるような気配（玄関には店屋物の丼が洗って積んであるとか）がそこかしこにあって、どこまでが本当の話なのか分からないわけではあるが…。

まあ、そんなこんなで皇帝に導かれ、書斎に入ってみると、やはり目立つのが本棚だ。2・26事件の思想的指導者であったとされる伝説的国士・北一輝や、東亜連盟の石原莞爾に関する著作が数十冊あり、その横には『ユング心理学』に『脳の力』『DNAとRNA』、そして『心が強くなるクスリ』と、精神分析学から怪しげなクスリに至る本が30冊ほど。また武士道

及び歴史について書かれた物は軽く50冊を超し、その中には『図説・日本の歴史』『早わかり世界史』といったものまである。ハッキリ言って、ちょっと偏った受験生みたいになっているわけなのだ。しかも、なんか見たことある背表紙だと思ったら、それは『脳内革命』だったりするから、多岐に渡って読み過ぎな感じ！

「うふふふ。面白いでしょう。でも、これはごく一部で危ない本は全部隠してるあるから（笑）。危ない本っていうのはね、●●●（ドイツ的な本というか）に関するものだけどね」とのこと。書棚は人を表すというが、まさにこの本棚は硬軟入り交じった皇帝自身をズバリ表現しているだろう。

そんな中、斎野クンがやっと到着。オートロックを開鍵してもらい、しばらくすると部屋のベルがなる。バカが！　皇帝がせっかくボクらを楽しませようといろいろ画策してくれたのに遅れてくるとは何事だ。するとおもむろに、皇帝は書斎の40インチの液晶テレビの電源を入れる。なんと、そこに映し出されたのはドアの前で緊張し、情けない表情で腹を押さえている斎野クンの姿だったのだ。

「ホラ、誰が来たか、これですぐにわかるでしょ」…さっきモニターは冗談だと言ってたはずなのに…。う〜ん、本当によく分からない。

ともかく斎野クンを部屋に入れ、やっと本格的取材が始まるわけだが、実のところメインイベントはすっかり終わってる感じ。すると、佐山皇帝は「じゃあ、彼に催眠術をかけてあげようか」と提案してくれたのだ。

それは素晴らしい。ただ、本当にできるのだろうか？　若干の不安が襲ったのだが、斎野クンは興味津々でその申し出を快諾。本邦初の皇帝による催眠術がここに開始されたのである。

「じゃあ、目をつぶって両手を前で結んで。そして人差し指を離した形で伸ばして」。皇帝の言葉に素直に従う斎野クン。「君の人差し指は自分の意志に反して、しぜ〜んにくっついてくるよ」と、皇帝が言うと斎野クンの指は確かにくっつき始めてくる。これは催眠術の常套手段で、離していた指がくっつくのは自然な身体の反応。あとで聞いたら斎野クン自身もそれを知っていたようで、この辺ではちょっと甘く見ていたようなのだ。

続いて皇帝は身体が後ろに倒れていく暗示をかけていく。ところが斎野クンはなかなか後ろに倒れようとしないのだ。彼の横で見ているこっちは「なぜ素直に倒れないんだ、こいつ！」と思ってハラハラしてくる。

しばらくして、やっと倒れた彼はその後、両手を前に伸ばした形で「自然に腕がくっつく」という暗示をかけられて腕をくっつけ、再度「後ろに倒れて」と言われるとそれも倒れ込む。そう、それでいいの。そして、「10数えたら目が醒める」という皇帝の言葉で彼は目を醒ましたのであった。ああ、ホッとした。取材である以上、ちゃんとかかって見せるのが礼儀なのである。ところがなのだ。目を醒ました斎野クンは鼻水を垂らしているのだ！　オマエ、ホントにかかっていたのかよ！

「いや、腕がくっつくと言われた辺りぐらいから完全にボーっとして…。意識はあるんですけど、佐山さんの声しか聞こえないんですよぉぉ」と語る斎野クン。

「今回は浅くかけただけだけど、もっと深くもできますよ」と、満足げな皇帝。「でも、これを利用してなんかしようって言うんじゃなくて意識と無意識、普遍的無意識の世界の研究として私は催眠を実践しているだけなんですね」。凄いなァ！　精神分析&武士道、歴史の本を読み尽くし、催眠術まで会得している佐山皇帝。どんなレスラーなんだろう、この人。

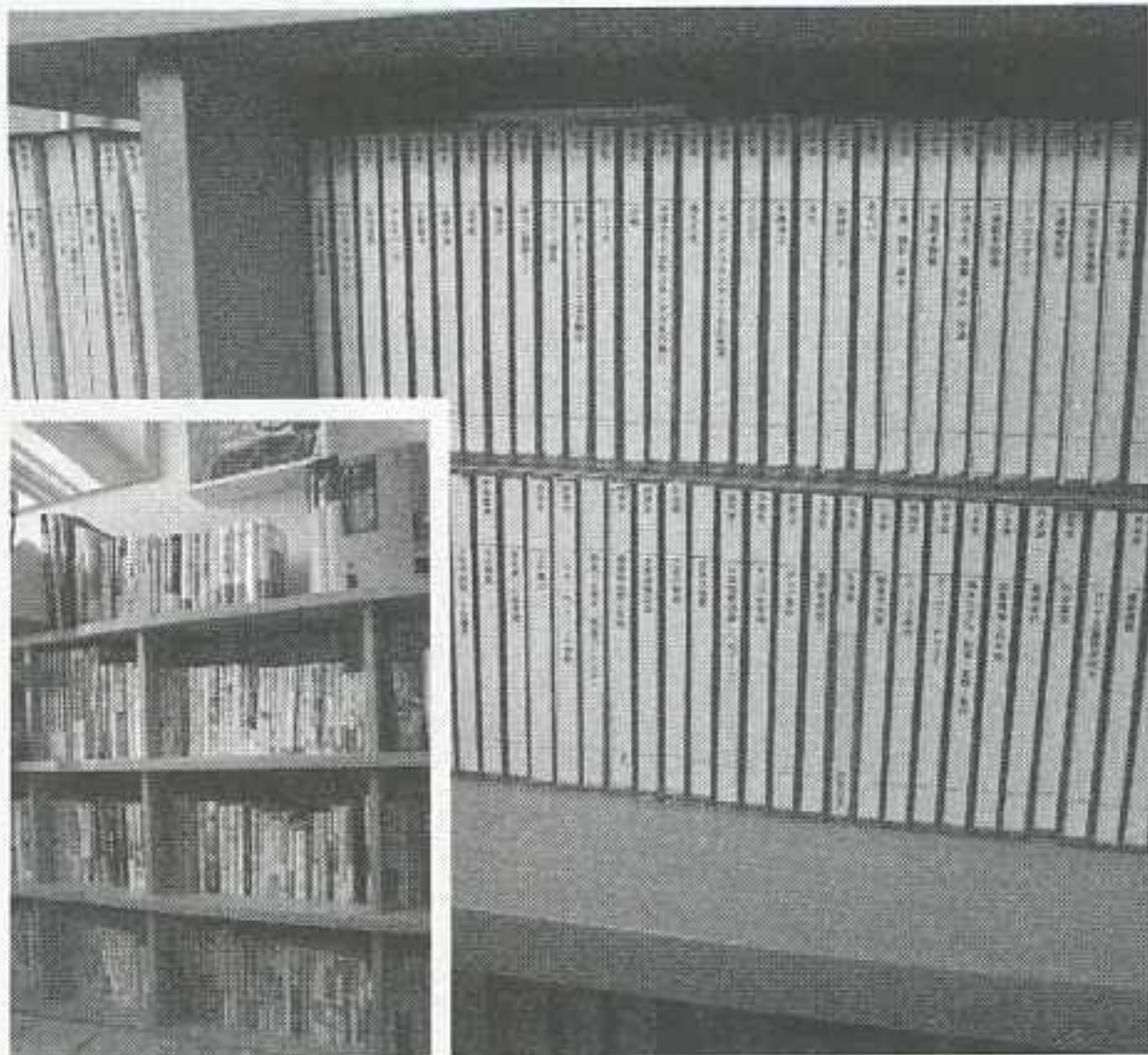
さて、今回の天壌無窮事務所訪問。分かりやすい右翼事務所かと思っていたら、実際は皇帝の知の源であり、ここから新たな思想を発信していく場であったことがわかったのである。

「本当に右翼の事務所だと思っていたんだ（笑）。私は右翼じゃないって言ってるでしょ」と、語る皇帝。そんな時、突然携帯が鳴り始め、電話に出た皇帝は第一声こう言ったのだ。

「はい。極右です！」

う〜ん、実に分からない人である。

"天壌無窮"とは、「天地と共に永遠に続くこと」を意味する。皇帝はこの研究所で、昼夜を問わず日本に根付く永久の真理・思想を追究しているのだ。写真は皇帝使用済みの激レアなタイガーマスクと、清酒・天壌無窮。この日本酒は普通に市販されているとのこと。「私は下戸だから、お酒より甘い物がいいなあ。"天壌無窮シュークリーム"とか。この前ねえ、一日でまんじゅう一箱食べちゃった。ヤバいよねえ、ウフフ」(by皇帝)。世界一"お菓子の家"が似合うレスラーである。

（写真上）単純な精神構造の斎野の内部に、やすやすと入り込む催眠術師マーチン・セント・サヤマ。「天壌無窮」のキーワード聞くと自動的に皇帝のロボットと化す暗示を、深層意識に植え付けられた模様。これで命知らずの兵隊が皇帝の下にまた一人…。（写真下）本棚には手に取るのも億劫な感じの難しい書物と、マメに留守録したNHK『その時歴史が動いた』のDVDがギッシリ！　いずれ番組のゲストとして出て欲しいものだ。

建物の正確な位置を悟られぬよう、目隠しをした状態で移動させられるカタブツ君（42歳）。事務所に入る直前には皇帝自らが入念なボディチェック。怪しさ120点満点である。取材後、我々は目隠しのまま車から放り出され、「100数えたら目隠し取っていいから」と皇帝に告げられると、わずか10秒で100を数える。すかさず目隠しを取ったが、やはり皇帝の姿はどこにも見当たらず、気付けばそこは渋谷のド真ん中。通行人の冷たい視線が痛かった。

★6月9日、初代タイガーの新団体『リアルジャパンプロレス』が遂に旗揚げ！ P104情報ページへGO! GO! タイガー!!
★タイガーファン垂涎のアイテムを皇帝がプレゼント！　P142の読プレページへ、もいっちょGO! GO! タイガー!!

映画『ドッジボール』おもしろすぎ

花くまゆうさく

リングの汁 ミゼット

いちど太陽の塔を生で見たいなと夢見てたので、『PRIDE GP』開幕にかこつけ大阪に行ってきた。チャンプア・ゲッソンリットvsアンディ・フグが見たくて行った以来かな、大阪は。あと、なんの大会だったが忘れたが、大阪府立のロビーで内田裕也さん一派が歌ってた大会も見に行ったなあ。あれはSBだったかしら?

まあ、そんで今さらですが初めて見た太陽の塔は、そのデカさとルックスに感動したなあ。遠くからだと公園から顔出してるように見えて、その姿の異様な風景は最高。『PRIDE』も一回戦で中村カズとショーグンを当ててくれれば最高だったのになあ、と思いながら大阪ドームへ。ディーン・リスターはよかったなあ。ちょいと前までは、アメリカってレスリング&パンチだけの単純スタイルばかりで、繊細なサブミッションはできないイメージだったけど、今じゃアメリカでも柔術が広まり、サブミッション・レスリング大会もひんぱんに行われてて、試合を見てもルミナばりにガンガン関節取りにいく選手がフツーにゾロゾロいるもんね。コールマンやランデルマンなどオールドタイプでない、ニュータイプアメリカ人・リスターの闘いを楽しんで見てたが、きっとターザンは寝てるんだろうな。

ユン・ドンシクの寝技がどんなもんなのか見たかったなあ、と思う今日この頃、いよいよもうすぐ『アブダビ・コンバット』。もうひとりの足関十段・花井選手の出場はうれしいね。ホイラーが出ないので、〝オレ様〟エディ・ブラボーとの再戦が見れないのは残念。そして一回戦でウワサされてるジャンジャックvsガルシアは実現するのかしら? もうこれがスーパーファイトだよね。同階級に宇野選手がいるので、ガルシアとの試合も見たいな。バック取ったらほぼ百発百中でチョークを極めてしまうガルシアと、バック取られてもほぼ〝宇野逃げ〟してしまう宇野。ガルシアがバック取ったらどうなるのか? 前田と永田のカミングアウトスレスレの舌戦とともに気になる。

K-1は思い出づくり

KID

オレもあなたと試合したこと一生の思い出だよ

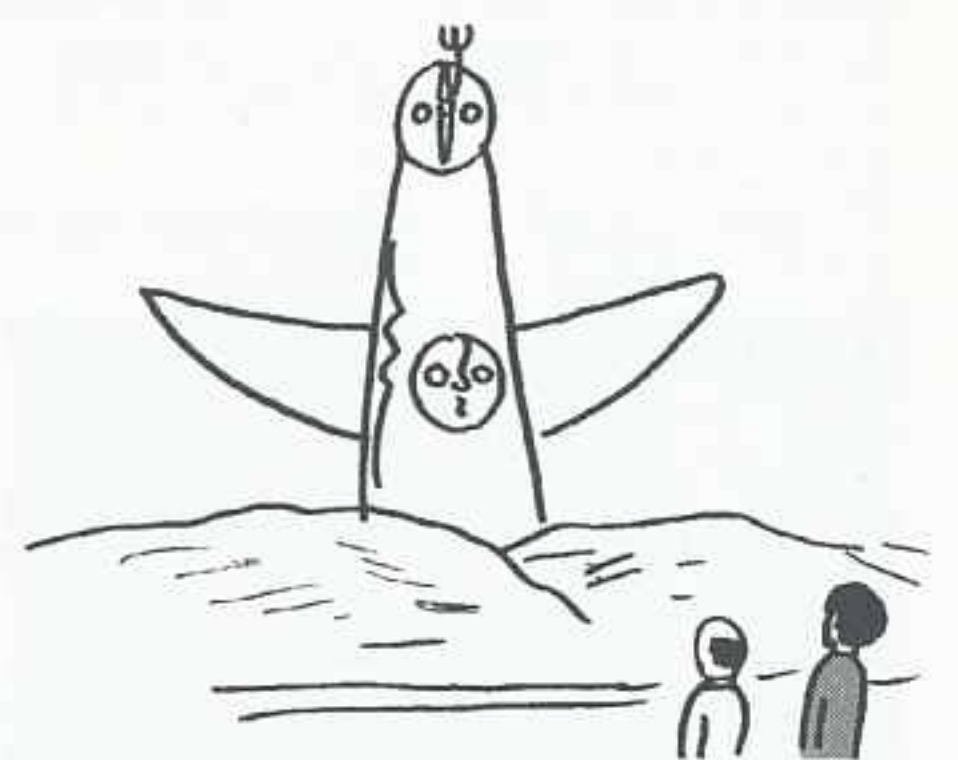
トニー・バレント

Hanakuma Yusaku

今回の『武士道』おもしろそーね。

中川画伯の絵日記

犬とTVの日々

http://chu-kichi.jp/

第9回

今、ゴールデン・ウィークど真ん中。自由業には関係無いけど…。

月に1回だと半ページはチョッピリせまいなぁ…。（謎のアピール）

4月16日 愛知のハンサム犬、ブルーノくんのお母様こと真下純子様に手づくり犬用虫除けスプレー、手づくり石けん、手づくり肩コリ用マッサージ油を頂きました。ありがとうございます！ 大感謝。

ブルくん

4月16日 後楽園ホールで『リキプロ』観戦。前田前田前田ーっ！ 前田日明は、やっぱり格好良いねぇ。前田最高。会場でユリオカ超特Qさんに御会いしたよ。優しかったよ。ユリQ最高。

4月23日 テレビ東京で『UFC52』観たよ。フィニッシュばっかり放送されても…。やっぱりWOWOWの中継は良いねぇ。TKの解説は解り易くて良いねぇ。

CHUCK LIDDELL

4月23日 フジテレビ『PRIDE GP』観たよ。桜庭和志が勝ってハッピー。桜庭選手が「宇宙戦争ですよ！」って言ってたから、今回は宇宙人の格好して入場するハズ！ とか思って絵を描いたのに…予想大ハズレ。桜庭選手の息子さん、もう小学生なのかな？

ICS

PRIDE GP '05

4月24日 GAORAで『REALRHYTHM（リアルリズム）』を見たよ。辻結花選手は、やっぱりステキ！

TSUJI Yuka ANGURA

4月29日 北沢タウンホールで『スマックガールF祭り』を観たよ。楽しかったよ。夢心地。

4月30日 MIYAWAKI選手にTシャツ&サイン入トレカを頂いちゃいました。ありがとうございます！ 大感謝。

MIYAWAKI

5月14日 ホクトさん&立石さん、御結婚おめでとうございます。御二人（+1）でパワーホール全開でド真ん中を突っ走ってください。お幸せに。末永く幸、多かれ！

HOKUTO♥FUMI 20050514

何を書いて良いのか解らず暴走気味。ブレーキの壊れた自転車です。御指導御鞭撻願います。紙のプロレス「中川画伯絵日記係」まで。抽選で1名様にステッカー・プレゼント。

ザ・検証 REBORN

ツッコまれる前に担当の私・チョロから一言申し上げておきます。今回の『ザ・検証』は字が小さくて見えづらいかと思います。それはわかっているのですが、椎名さんの「好きな技」への思いがヒシヒシ感じられたので強引に詰め込んだ次第。読めばわかる！

【今月の検証　椎名基樹】ボクの好きなプロレス技

ＰＲＩＤＥミドル級ＧＰ、Ｋ－１と、試合内容もハイレベルで、ショーアップもされた素晴らしい興行があったワケであるが、もう満点、素晴らしすぎて、「言うことなし」「他の人と同じ意見！」なので、今回は呑気に「プロレスのボクの好きな技」について、つらつらとお話させてもらいます。

唐突ですが、プロレスとは技である。前田がプロレスのプロデュースを手がけ、そのコンセプトは「最低でも顔が腫れるプロレス」「殺気あるリング」だという。それはそれで見てみたい。が、しかし、プロレスの魅力はやっぱカッコいい技なのではないだろうか。ＷＷＥの試合の間に挟まれる「決して家ではやらないでください」と、子供たちに「家では技禁止！」を呼びかけるＰＲクリップが、逆に表すことは、プロレスファンが、とにかく技が好きで好きでたまらないってことだ。中学生なら、昼休みに体育館に忍び込んで、マットでプロレスごっこをしたり、先生にどやされるのが、プロレスファンなのである。

そもそも前田にしても、総合格闘技の祖としての経歴だけがクローズアップされがちだが、最初に前田がプロレスファンのハートを掴んだ理由は、プロレス時代のその美しい技であろう。前田のフロントスープレックス（スロイダー）ほど、きれいでスピードがあるフロントスープレックスは見たことがない。そして、なんと言っても当たり前田のニールキック！　ニールキックを使う選手数あれど、前田のニールキックは、タイガーマスクのローリングソバットがそうであるように、まったく他の人とは違うものだ。そして、ニールキックのように、海を越えアメリカまで伝わった技を考案した選手を、プロレスファンはいつまでも尊敬するのである。

そんな技好きなプロレスファンが特に好きで好きで仕方がないのが、ジャーマンである。フルネーム、ジャーマン・スープレックス・ホールド。しかし、プロレスファンは親しみを込めて、ジャーマンとファーストネームで呼ぶ。プロレスファンはジャーマンができるかできないかで選手を区別しているところがある。いまは多くの選手がジャーマンを使うから少し事情が違うかもしれないが、昔はジャーマンの使い手も少なかったので、その傾向はもっと強かった。

今でも覚えているのが、視聴率20％を超えていた、古き良き新日全盛期、スペシャル番組で、猪木、藤波、タイガーマスクをスタジオに呼んで、ファンからの質問を受け付けた。その時一人が「アニマル浜口に見舞ったのは、あれはジャーマンですか？」と猪木本人に訊いたことだ。猪木は直前のアニマル浜口戦でバックドロップの体勢からの、本当に何年ぶりかのジャーマンスープレックスで勝っていた。「あれはジャーマンですか？」と訊いて、なんと答えようがあるだろう？　しかし、中学生の当時の筆者はその質問者の気持ちはよく理解できた。それほどジャーマンについての思い入れが強かったのである。そして、その後の長州戦できっちりとジャーマンを決めてみせた猪木は、さらに株を上げたのであった。

いまではたくさんのジャーマンの使い手がいる。しかし、スゲー、ジャーマンをする男が注目されるのは変わっていない気がする。ちょっと前だとアレクと故・福田選手。サムライＴＶでジャーマン対談をして、二人が共に「タイガーマスクのジャーマンを意識している」と意見を同じくさせていたなあ。最近では、関本大介選手、それと諏訪間選手だろうか。諏訪間選手はチャンピオンカーニバルで武藤を《ジャーマン葬》（↑照）したのが最近話題となった。

しかし、筆者個人として、抱えてから少しためてのジャーマンは好みではなく、最近のベストジャーマニストはＺＥＲＯ・１ＭＡＸの佐藤耕平選手に差し上げたいと思う。あと、１回目の天山vs小島で天山が出したジャーマンはすごく良かった。１回失敗して、痛い腰でもう１回やって成功させたところに、なんかすごい執念感じました。

暴言すれば、総合の試合は何がつまらないって、ジャーマンが出ないところだ（これまでのジャーマン成功者は筆者確認によると、ダン・スバーンとケビン・ランデルマン）。プロレスの火が消えることは、ジャーマンが見られなくなるということでもある。それはとても悲しいじゃないか。やはり、そういところにプロレスに価値や素晴らしさを見い出すべきだと思う。

しかし、プロレスの難しいところは、そういう「技志向」が高じて、最近の頭から真っ逆さまなデンジャラス・オリジナル技プロレスになり、それはそれで考えてしまうところがある。筆者の感覚ではパワーボム以降のプロレスが、オリジナル技全勢になった気がする。その頃、パワーボム、ダイヤモンド・カッター（スタナー）、ＤＤＴが次々と発明され、その勢いに乗ってか、オリジナルドライバー、オリジナルボムが次々と発明されたような気がする（まったく時代検証とかしてないけどね。めんご）。そんなパワーボム以降の投げつけ技で、筆者が「コレは新しい」「いい技だ」と思うのは、三田英津子嬢が発明した「デスバレーボム」くらいだ。「古り～！」と言われちゃうかもしれないが、後はフィッシャーマンズ・バスターと通天閣スペシャル（オレはこのネーミングを断固支持！）がなかなかいいなと感じるくらいだろうか。デスバレーボムは、いまいち鈍くさかった三田選手を一気に垢抜けさせた。それにアメリカでも使う選手がいて、解説者がいい発音で「デスバレーボム」などと叫んでいる。やっぱ、いい技にいい名前が付いて、世界でも認められるよななどと、一人納得してしまったりする。

それとは逆に、「なんだこの技は！　ダセ～！」と思ってしまう技もある。例えば小橋選手のバーニング・ハンマー。個人的にはこの技は好きじゃない。これはデスバレーとは正に逆で、飛行機投げで抱えるところを、アルゼンチン・バックブリーカーで抱えて落とすワケである。デスバレーボムはナイスアイディアと感じるのに、バーニング・ハンマーは、ただ危ないだけの技に思え、デンジャラス技プロレスの悪い例のように感じる。アルゼンチンの時点で技が完成しているのになぜ落とすと思ってしまう。技に合理性がないのだ。新しい技は、これは「思いつかなかった、ナイスアイディア」つまり大げさだが「クリエイティブ」と思える部分が必要なのだ。この合理性はクリエイティブと感じる重要な「ミソ」である。

最近の投げ系の技だと、ペディグリーがなかなかいいなと思うのだが、日本の選手でペディグリーを高角度でやったり、ＳＵＷＡ選手はこの高角度ペディグリーを名前を変えて使っている。ペディグリーは、高角度じゃないところが、残酷にマットに顔面を打ち付けているように見える「ミソ」だと思うのだ。だから、ディッグ東郷の方がペディグリーの「ミソ」を理解していると感じる。

「クリエイティブ」と思わず嬉しくなってしまう技がある。まずはなんと言っても、ミステリオの６１９！　よくよく見れば、なんのことはない、タイガーマスクの「プランチャー回避」を蹴りにしただけなのだが、誰が見ても「なるほど～おもしろい」と思うだろう。やはりユニークな技は会場を沸かせる。田尻のタランチュラも初めて見た時、膝を打った。もう一つは武藤のシャイニング・ウィザードだ。これは実は武藤初めてのオリジナル技じゃないだろうか？

この３つの技はどれも、技をかける前にロープに引っかかったり、片足を着かせたりで、ワンパーターンのムーブがあり、闘いのリアリティーから離れてしまうところがあるのだが、前のムーブが前フリになって、「待ってました」と技が炸裂した時、快感があるのがプロレス的でいい。でも、蝶野のシャイニング・ケンカキックは最低！　でも、最低過ぎて出ると逆に笑ってしまう。

固め技を持つことは実は非常に重要だ。猪木の卍固め、長州のサソリ固め、蝶野のＳＴＦなど、スーパースターは固め技のフィニッシュを持っている。しかし、だ。無理矢理取ってつけたような、どこがどう痛いんだかわからない固め技は気に入らない。小島が天山戦のために作ったという、あの変な固め技はなんだ！　ただ形が新しいというか、見たことないだけじゃないか。「プロレスだから」で済まされてしまいそうなサブミッションを出すことは一番罪深いと思う。天山のアナコンダバイスもなんだかわからねえ。プロレスだからこそ、総合では出せないだろうけど、もし極まれば「超痛て～！」となる、もっと言えば中学生が試しにやったら「超痛て～！」となる、例えば４の字のような納得できる固め技をやらなくちゃダメだ。

そういう意味では、健介のストラングルホールドは効き目も、思わずやってみたくなる技への入り方も素晴らしいのだが、いまいちフィニッシュと認められないのはなぜだろう？　あと、健介で言えば、筆者は逆一本背負いが大好きなのだが、今一歩人気がないのが不思議であり不満である。さらに、健介ついでに言わせてもらうと、前にも書いたが健介のノーザンライトボムはノーザンライトボムじゃない！　あれでは、ただ股を抱えた垂直落下式ブレーンバスターだよ。もっと、倒れる時に半身にならなきゃ。ノーザンライトボムもデスバレーと並び大好きだったので、非常に不満である。北斗、教えてあげて！　さらに、ノーザンライトついでに言わせてもらうと、最近のノーザンライト・スープレックス、間違ってないか？　ノーザンライト・スープレックスは、相手の脇に頭を突っ込んで、空いている方の腕もいっぺんに抱えて投げるのが、ノーザンライト・スープレックスです！　両腕をクラッチされているから、ダメージがさほどなくても、逆さ押さえ込みのように返せないってところが、この技の「ミソ」なのに、両腕クラッチしない選手がほとんどです。直してください！

さて、もう本当、40歳目前とは思えない、前記した自分の発言に自分で驚いているところであるが、バカついでに、ランキング形式で発表します。まず第３位！　ドラゴン・キッドのドラゴン・ラナ。これはド肝を抜かれた。第２位！　石森太二選手のスーパースター・エルボー！　これは痛い！　そして第一位は、ウルティモ・ゲレーロがミスティコに見舞った、ブロックバスターの体勢で、相手を抱えてトップロープに立ち、抱えたままムーンサルト・プレス！　いわばムーンサルト・アバランシュ・ホールドとでも言えばわかってもらえるか？　これには本当驚いた。以上。

ＰＳ　Ｋ－１ＭＡＸ日本予選でコヒが新田をＫＯした前蹴り、Ｋ－１のグラウベの縦蹴りもすごかった。前蹴りで倒せるなら、前蹴りが打撃で一番有効では？と思っていた筆者だからちょっと感動。総合でも有効では。

脱水症状を起こしながらも執念のジャーマンで小島を放り投げた天山。本文に出てきた以外のジャーマニストでパッと思い浮かんだのはK-DOJOの火野裕士！

ネタバレ情報密売団F・B・Iプレゼンツ

ネタバレ通信 Vol.23

WWEが2年ぶりのドラフトを実施！

何時男 今回、WWEが実施するドラフトは1年ぶりになるんですが、もうメンバーの移動は決まってるんですか？

叙似位 カート・アングルとアンダーテイカーが『RAW』に、ランディ・オートンとクリスチャンが『SMACKDOWN！』に移籍する噂がありますね。HBKも『SMACKDOWN！』に移籍するんじゃないかという噂はあるんですけど、これは消えそうですね。なにしろPPV『BACKLASH』でハルク・ホーガンとタッグを組んだのは評判が良かったので、移籍後はヒール転向を打診されそうですけど、本人はヘビーでの活動しか呑まないそうで。

派乱暴 ドラフトは5月中にはやるんですよね？

何時男 私生活に問題がある人が『SMACKDOWN！』に移籍させられるんじゃないかという見方もありますよね？（笑）。オートンは、こないだ辞めたDIVAのエイミーのカバンの中にウンコしたとかいう噂もあるし。

叙似位 チャーター機の中の宴会部長らしいですね。寝てるDIVAを起こしたり、大声で歌ったりしてるとか。

何時男 じつに三代目レスラーらしいというか、ボンボンならではというか（笑）。ダメ人間ですねぇ。

叙似位 『WRESTLEMANIA21』翌日の『RAW』で新王者・バティスタに負けて、肩の治療のために欠場してるんですけど、復帰の舞台が『SMACKDOWN！』でテンション上がるのかなぁ？

派乱暴 一度はベルト巻いてるのに、ちょっと都落ちっぽい感じはしますよね。まあ、若いからいくらでも取り戻せるんでしょうね。

何時男 あとで詳しく触れますがマット・ハーディーと別れてエッジとくっついたことで大ヒートを買ってるリタも『SMACKDOWN！』移籍と言われてる。別の意味で凄いことになりそうですね（笑）。

叙似位 『SMACKDOWN！』は戦力不足って言われますけど、どう思いますか？

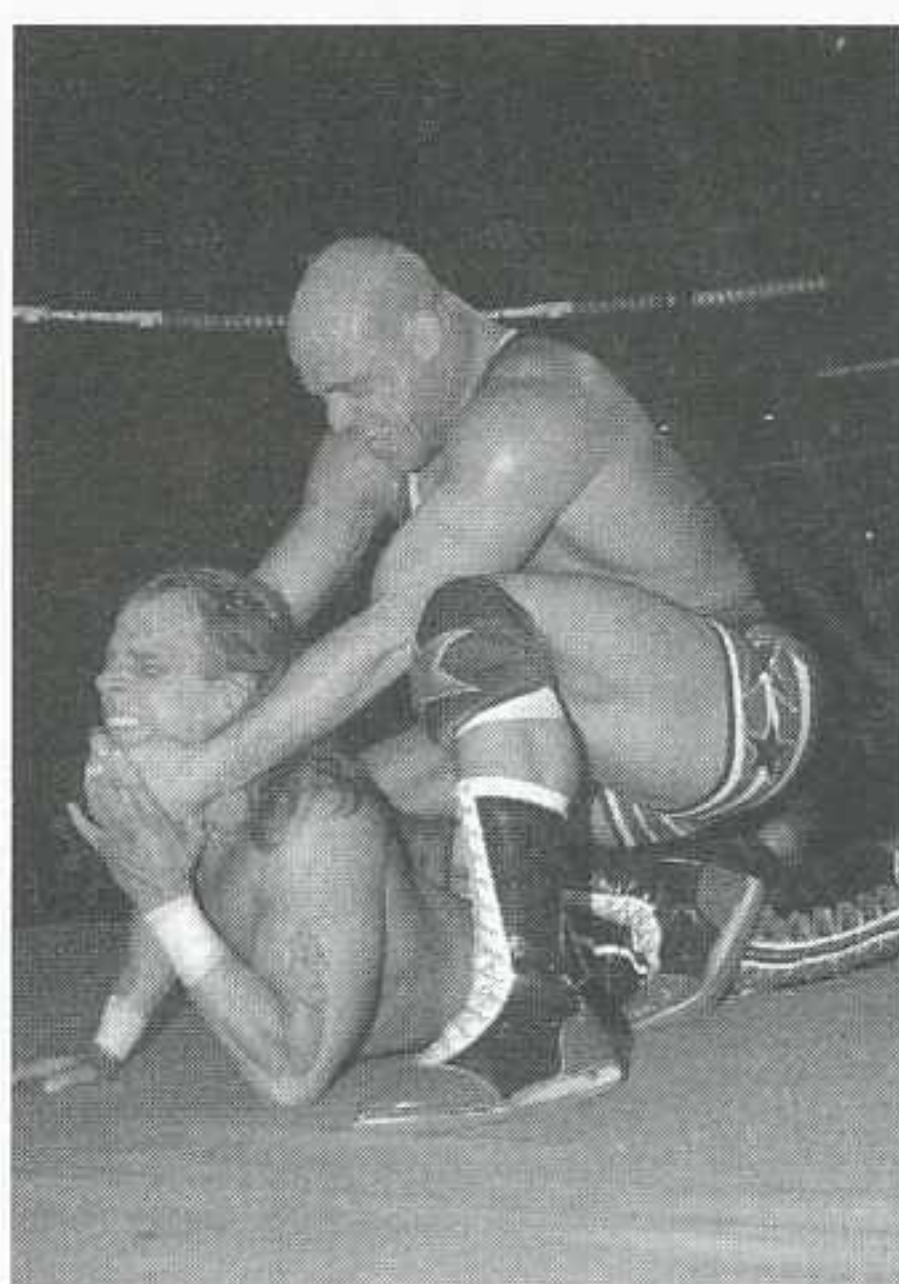
何時男 若くて勢いはあるけど知名度の低い選手が多いからそう見られるんですよ。でも、今度出てきた『SMACKDOWN！』の新タッグ王者・MNMは格好いいじゃないですか！

叙似位 ジョニー・ナイトロ、いいギミック・チェンジですね。『東スポ』はメリーナのパンチラばっかり載せてますけど（笑）。

日本大会のカード発表！果たしてその本気度は？

派乱暴 MNMは今度の日本ツアーにも名前が入ってるんですけど（左ページの囲み参照）、まだ今月のPPV『JUDGEMENT DAY』でタイトル戦をやるはずなんだけど、なぜか（王者）って入ってますね（笑）。

叙似位 いいのかなぁ（笑）。性懲りもなくブッカーTが来日メンバーに入ってますから、まだまだ変更になる可能性は大ありでしょう。ちなみに今回は『RAW』と『SMACKDOWN！』が初の同日の別会場開催なんですけど、30日はどちらに行きますか？

何時男 悩むなぁ。手分けしましょうか？

叙似位 カリート・カリビアン・クールが日本で初めてレスリングをやるんですよね。タッグ・パートナーはエディで。それにカート対アンダーテイカーですよ!? 個人的には『SMACKDOWN！』が気になるなぁ。

派乱暴 まだ、すべてのカードが出てるわけじゃないので、どうなるか分からないですよ。

叙似位 初来日の選手が多いのもいいですね。ビセラなんか何気なく初来日ですからね。いつクビになるか分からないんで、いま見ておかないと（笑）。

派乱暴 『ROAD TO SUMMERSLAM』というツアー・タイトルですから、きっと8月の『SUMMERSLAM』に向けて因縁を作っていくんでしょうね。

何時男 じゃあ、またリングサイドに曙を呼ばないと（笑）。

叙似位 また因縁を吹っかけられて、『SUMMERSLAM』で相撲マッチ（笑）。

何時男 個人的には〝マスターピース〟クリス・マスターズに体型のことを言われて立ち上がる曙が見たいなぁ。

叙似位 マスターロック（単なる羽がい絞め）を仕掛けようとしても、曙の肉が邪魔で手が回らないとか（笑）。

何時男 真面目な話、曙はかなりWWEがお気に入りだったみたいです。

叙似位 あと「ビンス・マクマホンが来日」と言われてますね。

何時男 2月のTVショーで来れなかったから？ ホントですか？ だいたい30日の同日興行はどっちに行くんだ？って話になるじゃないですか。

今月の最新DVD 各1本ずつ読プレ 今月も凄いぞ！

まず、この時期に最高のDVDがリリースされることをここで紹介できることを嬉しく思う。夏といえば海、海といえば水着、水着といえばD－VA！ そう、今年もWWE美女軍団の新作DVD『ビバ・ラ・ディーバ』が発売される。ステイシー、トーリー・ウィルソン、ドーン・マリー、リタ、ジャッキー、クリスティ・ヘミ、ジョイ、リリアン・ガルシアらが究極のセクシーさを競う！ 特にPLAYBOY誌の表紙を飾り、ヌードを披露したクリスティは必見。さらに注目はリングアナのリリアンが初のセクシー・ショットに挑戦すること！ 歌声同様、肉体も美しいのだろうか？ 熱狂と興奮のすべてが詰まった鼻血も噴き出すホットなDVDだ。

あと一本は『ロイヤルランブル2005』。毎年恒例の30人参加のランブル戦でビンス・マクマホンが負傷する衝撃シーンも収録している。さらにアンダーテイカー対ハイデンライクの棺桶戦、トリプルH対ランディ・オートン、JBL対カート・アングル対ビッグ・ショーの両ブランド・タイトル戦も必見だ！

提供■ユークス

1名様に読プレ

『ロイヤルランブル2005』（¥3990・税込 本編176分 特典14分）特典のプロモ映像は『ウェストサイド・ストーリー』風。

1名様に読プレ

『ビバ・ラ・ディーバ』（¥4935・税込 本編74分 DVD特典82分）特典のリンボーダンスコンテスト最高！

※このページのプレゼント応募方法はP143を参照!!

今年は6月30日から上陸開始となる夏恒例のWWE日本ツアー。2月は初のTVショー開催ということで盛り上がったが、今回は普通のハウスショーとなった。しかも同日開催で、マニア以外には少しハードルの設定が高めになっている。しかし、本誌はそんな諸問題にはめげずに、日本ツアーを盛り上げていく所存であります。

■F.B.I.とは「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも！）」の略。何時男（なんじお）はプロレス業界の末端に潜伏中、叙似位（じょにー）は桁外れのパワーで圧倒的な情報量を誇り、派乱暴（ぱらんぼ）は裏方さんとしてWWEに携わる、WWEとアメリカンプロレスを愛してやまないズッコケ3人組だ。

叙似位　埼玉の両日だけ来るのかもしれないですよ。

派乱暴　ストーンコールドとかハルク・ホーガンが来るとか発表すればチケットの売れ行きも変わるのになぁ。じつは、今回のチケット先行発売は出足があまり良くないみたいですね。埼玉の両日はそこそこの数字なんですけど、名古屋と神戸はちょっと怖い数字ですね。

叙似位　2004年2月の広島大会の再来ですか（笑）。

何時男　でも、あの会場はせいぜい2000人規模でしたからね。レインボーホールは1万人規模の会場ですよ。

派乱暴　まあ、GWにかぶってしまったということもあるんですけど、今回はあまりにもプロモーション不足ですよ。記者会見もなければ、地上波放送もなくなっちゃいましたから。

叙似位　『マニアツアー』のときみたいな客席にならないといいんですけどね。こないだ同じ日に放送された『WRESTLEMANIA21』のPPV（初回放送）を購入した世帯数は、『PRIDE　GP開幕戦』のPPV（初回放送）の世帯数に肉薄してたという噂もありますね。

何時男　え〜っ!?

叙似位　曙効果は大きいと思いますよ。スポーツ新聞が連日めちゃくちゃ煽ってましたからね。リピート放送の食いつきは『PRIDE』の方が断然いいみたいですけど。

何時男　今回のツアーをやることを知らない人も多いんじゃないかな？　チケット情報以外は特に発表もないし。

叙似位　カードはwwe.comで発表されてるだけですからね。可能なら6月27日のアナハイム大会『RAW&SMACKDOWN!　SUPER SHOW』から追い掛けたかったなぁ。1日で『RAW』と『SMACKDOWN!』を収録するゼイタクな公演ですからね。

リタとマットの泥沼劇はアングルになり得るのか？

叙似位　前回のこの連載でリタがマットと別れて、離婚したエッジと付き合い始めたって噂を載せたんですけど、あれからもの凄いことになっちゃいましたね！

何時男　「これはアングルだと思うんです」と叙似位も言ってました（笑）。

派乱暴　「YOU　SCREWD　MATT」ってチャントが『WRESTLEMANIA21』では凄かったみたいですね。

叙似位　このことについてインターネット上で文句を言いまくったマットが解雇されてしまったんですよ。ファンもかなり同情してて、特にリタにはブーイングが凄いみたいですから。プロモ映像で画面に出てきただけで、大ブーイングを浴びて、それがあまりに大きいんでいきなり映像をカットしたらしいです。

何時男　この三角関係においてマットは完全に被害者でしょう。思い切ったことしますね、WWEも。

派乱暴　最終的には選手の商品価値という部分が結果を左右したと思いますけど……。それにしてもひどい。

叙似位　でも、これってアングルじゃないかと思うんですよ！

何時男　まだ言いますか！（笑）。実際に解雇されてるのに。

叙似位　いやいや、だってそうでしょう？　WWEは何が起こるか分からないですから。マットが復帰すれば、この抗争は絶対にヒートしますよ。WWEがこんなビジネスチャンスを見逃すはずはないし。絶対に〝マッチョマン〟ランディ・サベージとエリザベスみたいな感動の結婚ストーリーが出来るはずですから。

何時男　マジでもめてるのを結婚までもっていくのは、かなり難しいですけど（笑）。

叙似位　だからこそ感動するんじゃないですか。いまから楽しみだなぁ。

ROAD TO SUMMERSLAM JAPAN TOUR 大会スケジュール&カード

【RAW】
6月30日（木）愛知・名古屋レインボーホール
（開場18：00　開演19：00）
▼“HBK”ショーン・マイケルズ&バティスタvsトリプルH&リック・フレアー
▼クリス・ベノワvsモハメド・ハッサン
▼インターコンチネンタル選手権
（王者）シェルトン・ベンジャミンvsエッジ（挑戦者）
▼世界タッグ選手権
※対戦カード未定
▼ケインvsビセラ
▼WWE女子選手権
（王者）トリッシュ・ストラータスvsクリスティ・ヘミ（挑戦者）
▼ハリケーンvsクリス・マスターズ
●チケット料金
SS−￥20000　S−￥15000　A−￥10000
B−￥5000　C−￥2000　（税込）
●問い合わせ先
キョードー東海　TEL.052-972-7466

【SMACKDOWN!】
6月30日（木）兵庫・神戸ワールド記念ホール
（開場18：00　開演19：00）
▼ジョン・シナvsJBL&オーランド・ジョーダン
▼ジ・アンダーテイカーvsカート・アングル
▼ビッグ・ショー&レイ・ミステリオvsエディ・ゲレロ&カリート・カリビアン・クール
▼＜世界タッグ選手権＞
（王者）ジョニー・ナイトロ&ジョーイ・マーキュリーvsハードコア・ホーリー&チャーリー・ハース（挑戦者）
▼ブッカーTvsマット・モーガン
▼＜WWEクルーザー級選手権4WAYマッチ＞
ポール・ロンドンvsチャボ・ゲレロvsフナキvsスパイク・ダッドリー
●チケット料金
SS−￥20000　S−￥15000　A−￥10000
B−￥5000　C−￥2000　（税込）
●問い合わせ先
キョードー大阪　TEL.06-6233-8888

【RAW】
7月1日（金）埼玉・さいたまスーパーアリーナ
（開場17：00　開演19：00）
▼バティスタvsトリプルH&リック・フレアー
▼“HBK”ショーン・マイケルズvsモハメド・ハッサン
▼シェルトン・ベンジャミンvsクリスチャン
▼クリス・ベノワvsエッジ
▼世界タッグ選手権
※対戦カード未定
▼ケインvsビセラ
▼＜WWE女子選手権3WAYマッチ＞
トリッシュ・ストラータスvsヴィクトリアvsクリスティ・ヘミ
▼クリス・ジェリコvsクリス・マスターズ
▼ハリケーン&ロージーvsシルバン・グルニエ&ロブ・コンウェイ
●チケット料金
SS−￥20000　S−￥15000　A−￥10000
B−￥5000　C−￥2000　（税込）
●問い合わせ先
キョードー東京　TEL.03-3498-9999

【SMACKDOWN!】
7月2日（土）埼玉・さいたまスーパーアリーナ
（開場16：00　開演18：00）
▼ジョン・シナvsJBL&オーランド・ジョーダン
▼ジ・アンダーテイカーvsカート・アングル
▼エディ・ゲレロvsレイ・ミステリオ
▼ビッグ・ショーvsカリート・カリビアン・クール
▼＜WWEタッグ選手権＞
ジョニー・ナイトロ&ジョーイ・マーキュリーvsハードコア・ホーリー&チャーリー・ハース
▼ブッカーTvsマット・モーガン
▼＜WWEクルーザー選手権＞
ポール・ロンドンvsチャボ・ゲレロ
▼フナキvsスパイク・ダッドリー
●チケット料金
SS−￥20000　S−￥15000　A−￥10000
B−￥5000　C−￥2000　（税込）
●問い合わせ先
キョードー東京　TEL.03-3498-9999

※今回はTVショーではなく純然たるハウスショーとなる。大がかりなセットやプロモ映像はないものの、試合をじっくり堪能できる！

ビンス・マクマホン徹底考察 第12回

ついにケガから復帰したビンスの超珍品がオークションにかけられた!?

今日は『RAW』放送（日本放送5月9日分）で久しぶりにビンスご本尊の姿が見られて大満足。何せ1月PPV『ROYAL RUMBLE』での、あの大事故からの復帰である。2月の来日公演時のスクリーンにも流れていたが、最後に残ったジョン・シナとバティスタの裁定に憤り、ビンスが花道を闊歩してリングイン。エッジ並みの滑り込みリングインをヤングな足取りで決めてみせるはずだった。

しかし両足の太股を思い切りエプロンサイドにぶつけてしまう。何でも両太股の筋肉が断裂する大事故だったらしい。それでも意地でもリングに上がりエプロンサイドに座ったビンス。まるでジョン・ライドンのように瞳孔が開いていたものだが、あれは演技ではなく素の驚きだったのだろう。

「オー、マイ・リンダ!?」

ビンスがそう叫んだか否かは定かではない。2月の来日公演はビンス来日が筆者の最大の楽しみだったのに（某誌取材も申請中だった）、あれだけの痛いハプニングを見せつけられては諦めるしかない。とはいえドジを踏むにしてもスケールがでかい。客に分かりやすい。それもまたアメプロ、それもまたビンス、と妙に唸ってしまったのだった。

『WRESTLEMANIA21』（以下、『WM21』）前の「ホール・オブ・フェイム」授賞式では、ステージ上ではなく会場出口にてハルク・ホーガンとシルベスタ・スタローンの2人を出迎えたビンス。衣服で言えば裏地に気を遣うかのようなお洒落な演出である。そして『WM21』2週後のMSG大会のこの日、突然、姿を現したのだった。〝ガーデン・イズ・ザ・ガーデン〟・マクマホン家がMSGをそう呼んで最重要視する姿勢に嘘はない。

ショーの中盤、タイソン・トムコを連れたクリスチャンがマイクで語り始めたところに鳴り響いたビンスのテーマ。会場が騒然とする中を、いつもの社長ウォークで闊歩してきたご本尊（現地ではパワーウォークと評されたりする、グッド！）。久しぶりの〝大股加減〟には多少の無理を感じたものの、スーツで決めた世界の社長は、誰よりも明快に聞こえるスピーチを披露してみせた。

「私が我慢ならないのは下らぬことをへラへラ喋る脳のない奴じゃ（クリスチャン）。何故、今を選んだと思う？『ROYAL RUMBLE』以来、初の登場だぞ！『RAW』と『SMACKDOWN!』の全てのレスラー、世界中のWWEファンもここMSGのファンも今まさに歴史的な瞬間を迎えておる。WWEはここ1カ月の内にドラフト抽選を行う。誰一人として例外は認めんからな！」

久方ぶりに両番組の所属選手をシャッフルするという通達だった。両ブランド及び団体の新陳代謝の策である。

その後WWEのオークションのWEBを見ていたら思いがけぬ珍品に出くわした。この3カ月間、ビンスのリハビリ期間を支えた脚ギブス（レッグ・ブレース）が出品されている。血と汗の染みこんだ、いわばビンス・マクマホンゆかりの大リーグ・ファイト養成ギブスのようなもの。しかも金色サインペンの本人のサイン付き。オークションの締切は5月18日だが、現在の最高値は500ドル。ステーシーの使用済みキャミソールだって確か720ドルだったから、まあまあの高額と思う。金属もしくはゴム製のかなりガッチリとしたギブスである。一瞬欲しいと感じたが、よくよく考えると何に使っていいのか分からない。落札者の幸運を陰ながら祈りつつWEBを閉じることにした。

7月の来日ツアーはハウスショー。ということはビンスの来日もありえないだろう。「マニア」以降の新たな王者＝バティスタ（RAW）とシナ（SMACKDOWN!）のお披露目ツアーという性格が濃いのかも。先日ジョン・シナ&トレードマーク名義の初CD『ユー・キャント・シー・ミー』の日本盤解説文を書いたのだが（日本盤は6月15日発売）、『WM21』直後に本国から送られてきたアルバム・ジャケットは早速シナが巻く新ベルトになっていた。このあたりが世界的なマーケティング戦略を施し、タイミングを見据えた上でのタレント活動なのだと知らされるのだった。

写真は『WM21』後、打ち上げ会場で密談するビンスとザ・ロックのスクープ写真！　現在、ロックはWWEとの契約が切れているものの、両者は文字通りヒザを交えて交渉している。こうしてビンスが交渉している姿は非常に貴重だ。

一方バティスタの略歴を調べていくと日本人の琴線に触れそうなエピソードに出くわす。バティスタはギリシャ人とフィリピン人のハーフだが、奥さんは沖縄生まれのハーフ・ジャパニーズ。こうしてオーバーする数年前、奥さんはガンと闘っていた。しかしその苦労を夫にはけっして見せようとしなかった。バティスタは義理の母から日本語の「天使」という言葉を知り、妻へのエールを込めて二の腕に彫り込んだという。なんとも感動的な逸話である。WWEスーパースターと日本のファンとの温度差が激しいのは変わらぬ事実だが、日本ツアー招聘元のキョードー東京さんは、こういう話を上手く紹介して距離を縮めていくといいのに、なんて考えたりもする。

リング復帰を果たしたビンス。リハビリに精を出していたせいか、この数ヶ月間のマスコミ露出は実に少なかった。手元にあるのは3月12日付けの「アトランタ・ジャーナル」紙の短い記事くらいのもの。その一部を紹介してみたい。どうしたら一レスラーはWWEスーパースターになれるのか、という記者の問いにビンスは答える。

「オーディエンスはじつにスマートだ。彼らに何も強制はできないし、見透かす力を持っている。私達があるレスラーの能力を拡大して見せたとしても、彼は彼自身でいなければ意味がないし、お金で名パフォーマーが作れるわけじゃない。レスラーはリングでボコられ、傷つき、でも最後に笑わなくちゃいけない。エアに乗り、知らない世界を訪ね、試合を見せるのが仕事だ。選手に必要なのは強靭なパッションだ。例えばブロック・レスナーという選手が過去にいて、その運動神経は凄いものだった。しかし彼にはパッションが欠けていて、オーディエンスもそれを知っていたのだ」

ストーンコールドの映画出演が決まり、ホーガンは5月PPV『BACKLASH』で〝ワン・モア・マッチ！〟を宣言して闘い、今年後半にはザ・ロックのリング復帰も検討中というWWE。しかしレスナーとの係争は未だ片づいていない。かの〈ビンス〉の「脚ギブス」を買い取った主が米ミネソタ州在住のブロック・レスナーさんだったらいいのに、なんてふと思ってしまうが、そんなオチは望めそうにない。

文／長谷川博一

73キロ以下級の"支配者"、5カ月ぶりの出陣!

『武士道』のリニューアルに
"原始的闘争心"が燃えあがる!!

五味隆典

[木口道場レスリング教室]

リニューアル第一戦は
"小さなヴァンダレイ"
ルイス・アゼレード!

聞き手/ジャン斉藤
撮影/平工幸雄
試合写真/乾晋也
designed by matsu (TwoThree)

中・軽量級
怒濤の大特化
PRIDE 5・22 BUSHIDO 武士道

『PRIDE』の1試合1試合が自分にとって大きな〝作品〟になりますね

―五味さん！　いきなり『武士道』とは関係のない質問になりますけど、ザ・デストロイヤーという覆面レスラーをご存じですか？

五味　あ〜、知ってます、知ってますよ。デストロイヤーさんは、木口（宣昭）先生の知り合いだから会ったことあります。（木口）道場にもよく来ますし、デストロイヤーさんは覆面被ったまま近くのマック（＝マクドナルド）に行ってましたからね。道場の子どもたちをたくさん連れて。

―そんな光景も目撃してましたか（笑）。

五味　ボクは「ゴミサ〜ン！」って大きな声で呼ばれてましたけど（笑）。

―それが先日デストロイヤーの取材をしたときに五味さんのことを聞いたらまったく覚えてなかったんですよ（笑）。

五味　それをいま俺も言おうとしたのよ！「いま覚えてるかどうかは知らないけど」って。

―それはすいません（笑）。で、そのデストロイヤーさんに話を聞いたときに、プロというのは「どんな大会場でも一番遠くから観ているお客さんにもわかる動きやアピールをしなければならない」って言ってたんですよ。

五味　あ〜、それは素晴らしい考えですね。

―プロレスと総合格闘技では求められることは違ってきますけど、五味さんの中にはそういったプロ意識はありますか？

五味　うん。ありますよ。やっぱり一番うしろの席に座っている人の反応が一番大事なんじゃないですかね。うしろのお客さんまで興奮して立ち上がってくれれば凄く嬉しい。

―そのプロ意識を持ったのはいつぐらいからですか？

五味　ボクは昔からそういうエネルギーを持ってやってきましたよ。ただ一概に全部が全部、お客さんが騒ぐ試合をすればいいってもんじゃないですけどね。修斗みたいに〝通〟を唸らせる試合もあれば、いろんな試合があっていいと思いますよ。

―そういう意味でいうと、いまの五味さんの意識の対象というのは、どこに向いてるんですか？

五味　一番意識している部分？　う〜ん。なんだろうな。やっぱり激しく楽しい試合をしたいから、自分自身がいいコンディションでリングに上がることかな。『PRIDE』ぐらいの大舞台になると、1試合1試合が自分の大きな〝作品〟になるし。やっぱり良い〝作品〟をつくりたいから。

―試合＝〝作品〟という認識になるんですね。

五味　言い方を変えれば〝財産〟ですよ。ひとつひとつの〝財産〟を大事にしていきたい気持ちはありますね。あと自分が引退すれば昔の試合を観るでしょ。酒を飲みながら「お父さん、この頃は強かったんだよ〜」って子どもに見せるわけですよ（笑）。

―そういう自慢のタネもつくりたいと（笑）。で、次の〝作品〟や〝財産〟をつく

五味隆典

る舞台は5・22『PRIDE武士道』になりますが、五味さんは大晦日『男祭り』以降、格闘技からは距離を置いていたみたいですね。

五味　何も考えずに遊んでましたよ。酒ばっか飲んでました。毎日毎日、酒。

——起きたら飲んで寝る前に飲むみたいな生活（笑）。

五味　自分が格闘技やってなかったら、きっとこんな生活だったんだろうなって。そこら辺のトッポイ兄ちゃんが送るような生活にすっかりハマってたんですよねぇ。

昨年の大晦日『PRIDE男祭り』以来の試合となる五味。前回は"殴打者"ジェンス・パルヴァーを圧倒的な強さでKOに追い込んだ。同大会では『武士道』組の美濃輪、長南も快勝。中・軽量級特化への契機となるイベントになった。

——『武士道』のエースがトッポイ兄ちゃんになってましたか（笑）。

五味　でも、酒を飲むときはカッコ悪い飲み方してますよ、俺。

——酔っぱらうと絡むとか？

五味　いや〜、そうはならないんだよな。暴れたり周りに絡んだりはしないんだけど。友だちとグチュグチュ飲んでますよね。

——不満やストレスをすべて吐き出すかんじですか？

五味　そのために飲んでるんだもん。緊張を和らげるためというか、何だろうなあ。飲んで馬鹿になりたいのかなあ……。

——猪木さんじゃないけど、馬鹿になりたい（笑）。

五味　そうかもしれない（笑）。ホント驚きますよ。オフのときは「本当にコイツ、格闘技やってるのか？」というぐらいに思いっきり遊びますから。

——まるでアスリートの生活じゃないわけですか？

五味　いままでは家族がサポートしてくれていたんですけど、いまは自分ひとりで生活してるんですよ。だからとてもアスリートの生活じゃないんです。食事、睡眠、サプリメント、そういうものを完璧にこなしたら、まだまだ強くなりますよ、俺。

——逆に管理されていない野性の闘争心があるのかもしれないですね。

五味　ま、プロレスラーや格闘家というのは酒好きなんですよ。そうですよね？

——いや、残念ながら最近のマット界に酒豪は減ってきているんですよ。『武士道』にはピラニアのように酒を食い尽くすというか、ガブガブ飲み干す某選手がいるみたいですけど（笑）。

五味　らしいですねえ。ボクの場合は毎日毎日毎日毎日、ダラダラダラダラ飲んでますね。だから、こういう生活を送ってみると、試合のスケジュールが入ってないと俺はダメなんだなってことを再確認できました（笑）。

——そんな状態から"戦闘モード"に気持ちを入れ直したのはいつぐらいからなんですか？

五味　試合の日程が決まったり、対戦相手が決まったりとか、いろいろと段階があるなかで徐々にエンジンがかかってきましたよ。ただ、試合勘という部分ではだいぶ鈍っているでしょうね。

——試合勘が鈍っていることへの危機感はありますか？　相手のルイス・アゼレードはかなりの強敵ですけど。

五味　うん。ただ試合がどっちに転んでも、おもいきった試合をやろうとは思いますね。半年のあいだ、こういう生活を続けて、自分がどうなってるのか楽しみではありますよ。

——今回から『武士道』が中・軽量級中心のカード構成になりますが、五味さんにかかる期待も大きいですよね。

五味　そうですねえ。個人的にはいま言ったようなことしか考えてないんですけど、『武士道』にとっては大きなターニング・ポイントになりますよね、じつは。

——やっぱりリニューアル一発目ですから、今後の命運が懸かってると言っても大袈裟じゃないですよね。そういう空気は肌で感じてるわけですか？

五味　だからこそ本人は楽に構えて、思い切った試合をやろうと考えていますね。逆にね、「ここでコケちゃったら『武士道』が波に乗れないな……」なんてネガティブに考えたら、こぢんまりとした試合になっちゃいそうなんで。

——これまで『武士道』はミルコやヒョードルというヘビー級の大物が特別参戦してきました。それが今回からはすべて中・軽量級の選手たちに任せられるということで、『武士道』を背負わなければならないプレッシャーみたいなものはあるんですか？

五味　いや、それは修斗のときも同じでしたから。ボクは下積みも長いですし、とくに意識することはないですね。

——意識という意味では、K-1グループの総合格闘技イベント『HERO'S』は視界に入ってますか？『HERO'S』も中・軽量級がメインのイベント構成になるそうですけど。

五味　う〜ん。どうなんだろう。

——五味さんは『HERO'S』の旗揚げイベントはご覧になられましたか？

五味　本当は（須藤）元気君の応援に行く予定だったんですけど、ちょっと行けなくて。テレビで見ましたけどね。

——何か感想はありますか？

五味　う〜ん。『HERO'S』は大会自体が急に決まったところもあるし、まだ『PRIDE』みたいに歴史もありませんからね。まだとくに強い印象はないですよね。それに元気君以外の中・軽量級の日本人選手は勝てなかったし。元気君はUFCやパンクラスとか下積みの時代が長かったから、その部分で一歩差を付けたところもあるんじゃないですか。

——では、元気選手以外でとくに刺激になったりすることはなかったと？

五味　う〜ん。まぁ前回に限っていえば、大会自体のテーマが掴めなかったことはたしかですねえ。

——『武士道』との"中・軽量級戦争"の色が浮き出てくるのはこれからでしょうね。大会感想つながりで聞くと、『PRIDE・GP開幕戦』はいかがでしたか？

五味隆典

殴り合いは人間が生きていく上で一番原始的な部分だと思うから

五味　面白かったですよ。（マウリシオ・）ショーグン選手や桜庭（和志）選手、吉田（秀彦）選手の試合は凄く面白かったです。

――一部では「今回のグランプリはレベルは高いが競技的な方向になっている」という声も挙がっていますけど。

五味　でも、それはグランプリだからしょうがないでしょ。トーナメントを勝ち上がらないといけないから、どうしても手堅い試合になってしまいますよね。それでもボクは面白かったですけど。

――『武士道』も今秋にグランプリ開催が予定されてますけど、五味さんの中には、勝ち上がることが優先条件になるトーナメントの場でもあっても、爆発的な勝ち方をしたい気持ちや姿勢はあるんですか？

五味　いや、グランプリは手堅くいくよ。押さえ込んで勝ちにいくんじゃないかな。でも、それが面白くない内容だとは限らないと思うんですよね

――存在感やオーラがある選手の試合は、たとえ競技的な試合になってもファンが緊張感を持って見れるのはたしかですね。

五味　まぁ、実際にやってみないとわかんない。難しいね。それに全部が全部、パッパラパーな試合をすればいいってもんじゃないし（笑）。

――パッパラパーな試合ですか（笑）。

五味　大事に勝たなきゃいけない試合も出てくるでしょうし。そのときは、今日は手堅く勝ったんだなと思ってくれればいいんじゃないかな。いろんな選手の色、闘い方の色はあったほうがいいですよね。

――いろんな選手の色というと、今回の『武士道』には初参戦の選手が多いですが、その中でも現・修斗ウエルター級王者の川尻（達也）選手の参戦は話題になってますよね。

五味　川尻選手は運がいい。

――運がいい？

五味　ボクが（修斗ウエルター級）チャンピオンだったときは、外に『武士道』みたいなプロモーションはなかったですから。注目されるためには、総合（格闘技）じゃないK-1MAXや、UFCとか海外に目を向けるしかなかったから。そういう意味ではタイミングはいいですよね。

――その川尻選手は五味さんとの対戦を希望してますけど。

五味　う～ん。どうなんですかね～。

――対戦相手として、あまり興味は沸かないんですか？

五味　というかね、俺も修斗でチャンピオンになって2年近く苦しい思いをしてきたんですよ。そう考えたら……（対戦要求は）美味しすぎだろって（笑）。

――五味さんとの道のり比較すると、美味し過ぎる展開だと（笑）。

五味　まぁ男として、やらなきゃいけないときはやらなきゃいけないんだろうし。逃げるわけにもいかないですけどね。やっぱり闘うことが自分の仕事ですから。ただ、対戦相手が（ルイス・）アゼレードと決したあとに「闘いたい」と言われてもな。

――まずは目の前の敵に集中したいと。

五味　よそ見してると足下をすくわれますからね。

――川尻さんの対戦要求について、五味さんは格闘技専門誌で川尻戦が実現しても「爆発的な注目度はないでしょう」と返答してますよね。

五味　それはありますよね。ファンの注目度がなくても闘わないといけないときはありますけど、俺はそういうことは、悪いけど修斗で散々やってきたからね。

――〝そういうこと〟というと？

五味　ランキングを維持したり、ベルトを狙ったり守ったりする闘いですよね。

――その延長線上の闘いとして、〝修斗ウエルター級王者の新旧対決〟をコアなファンや格闘技専門誌は期待しているところはありますよね。

五味　う～ん。ボクがチャンピオンだったとき三島（☆ド根性ノ助）選手も川尻選手のように、俺と「やりたい」「闘いたい」とずっと言ってましたよね。マスコミもそういう風に言っていた。だから「いい加減うるせえな～！」と思って闘いましたけど、やるときはやりますよ。でも、やりたくねえことはやらないよ。

――またストレートですね（笑）。

五味　（山本〝KID〟）徳郁選手とは闘ってみたいですけどね。これこそがドリームマッチだと思うので。

――たとえば、五味選手と川尻選手の試合にファンや関係者も盛り上がって、『PRIDE』全体を引っ張るような期待感が沸くことになったとしたら……。

五味　（遮って）それだったら期待に応えたいとは思いますよね。

――となると、五味さんは誰かに勝ちたいという競技者的な欲求よりも、『武士道』という舞台自体のグレードを高めていきたい志のほうがいまは強いわけですか？

五味　そうですね。『武士道』がK-1MAXみたいに一般的に認知されてほしいですよね。みんなが爆発的な試合をすれば、もっと大きくなると思いますけど。

――まずは〝場〟自体を熱く沸騰させたいと。逆に五味選手はこの『PRIDE』という〝場〟に出ることで、選手として磨かれている実感はありますか？

五味　うん。ありますね。『PRIDE』のお客さんは、基本的に先入観なく、その場その場で楽しもうとしてくれているので、

五味の対戦相手になるルイス・アゼレードは、ガドイ・マカコ柔術で寝技を学び、現在はシュートボクセで打撃習得する寝てよし立ってよしの曲者。『武士道・其の六』では五味のライバル的存在と目されていたルイス・ブスカペを好試合の末、判定で破った。

ノリとしては最高のオーディエンスでもありますから。せっかくの休日に高いチケット買って来てくれてるんだから、楽しい激しい試合が観たいというニーズに応えないといけないわけじゃないですか。俺、基本的に何でも楽しむことが凄く好きなんですよね。毎日楽しく生きていたい。『武士道』で何かを感じて帰ってくれればいいですし、「あ〜、俺も明日から会社でもっとムチャしてやろう！」とか、そういう気分になってくれれば一番ですね。

――ときに格闘技というものは、残酷な結末になってしまうこともありますよね。そこはどう思われますか？

五味　そのシンプルなところも面白いんでしょう。殴り合いや取っ組み合いとかは人間が生きていく上で一番原始的な部分だから。それに男の子だったら闘争心は誰でも持っている部分だと思うし。それを一番わかりやすいかたちで出しているスポーツだと思うんですよね。

――人間の原始的な闘争心が鮮やかに浮かび上がるのが総合格闘技。

五味　闘いというのは、どの時代にもあったんですよね。そうですねぇ〜、俺がやってることは、さしずめ"現代版パンクラチオン"ですよ。うん。7月にも『武士道』があるし、この闘争心を燃やし続けていたいですね。とにかくリングに上がって汗かきたいですよ。

――しばらく休んだことで闘争心を燃やしたい欲求にかられてるのかもしれませんね。

五味　やっぱり長い間、お客さんの前に立たないとモヤモヤ感が出るからね。リングに上がって浄化されたいとでもいうんですかね〜。あれだけのお客さんの前でスポットライトを浴びて汗をかけるというのは、ごくごく限られた人間で、しかも一生で何十試合しかできないわけですよ。素晴らしい職業ですよね。だからといって、「サラリーマンなんかやってらんねよ〜」ってことはなくて、そういうナルシストな勘違いはないですよ。こんなことというと『PRIDE』の関係者は怒るかもしれませんけど、自分の職業にコンプレックスみたいなのもありますし。

――コンプレックスですか？

五味　たとえば、自分がやってることって、いい高校や大学に入って就職してとか、そういう世界じゃないですよね。ボクは自分で自分のことを"俺はこんなに凄いんだ！"って言えないんですけど、それは他にやることなかったから格闘技をやったんです。自分には格闘技しかなかったから。つぶしが効かなかったんだよ。

――胸を張りたいけど、胸を張れない部分があったわけですか？

五味　いや、そんなこともないけど……うん。俺、有明（コロシアム）で『武士道』のメインを張ることは誇りに思っているから。選ばれた人間しかできないからね。

――実際、五味さんの存在があったからこそ、『武士道』が今回からリニューアルすることに繋がってると思うんですよ。

五味　だから最近では周りがいろいろ言うわけじゃないですか。たとえば、サラリーマンの人たちと飲むと、「どれくらいお金貰ってんの？」ってなるわけですよ。

――世間からすれば"異端"な職業であるから、きっと好奇の目で見られるんでしょうね。

五味　こっちは「ご想像にお任せします」とは言うんですけどね、かならず。ですから、なんて言うんだろうな〜。こっちは選手寿命が短いし、普通に仕事した場合と比較ができないんですけどね。

――安定した職業じゃないですよね。

五味　そういった点でボクもプロとして羨ましがられる存在になりたいし、ファンに夢を与えるという部分ではまだまだ難しいところはありますよね。そういうことをオフのあいだにいろいろ考えていたんですよ。でも、ゴチャゴチャ考えてもしょうがないなと。リングに上がってブッ飛ばしゃいいや！と。そういう感性を取り戻しつつあるんですよ。俺は好きで総合やってるんだからどうでもいいや！って。小さい頃の夢で「パイロットになりたい」「プロ野球選手になりたい」「ボクサーになりたい」とか、みんな言うわけですけど、現実的に難しい場合もありますよね。でも俺は好きなことをやってるんだ。リングの中を裸で暴れて、試合が終わったらカラオケ行って永ちゃん（矢沢永吉）歌って、とにかく楽しいことをやりたいんだ！　ということですね。

――いろいろ悩むことで闘争心やモチベーションが逆に燃え上がったかんじなんですね。次の試合で勝って、永ちゃんを気持ちよく歌える五味さんを期待しています！（笑）。最後にファンへ何かメッセージはありますか？

五味　「やっぱり五味が『武士道』にいないとダメだな」と言われるような面白い試合をやりたいですね。あとは、そうですねえ……。『PRIDE』のファンだと思うんだけど、あきらかに年下なのに、呼び捨てはヤメてほしいなあ。街でよく「あ、五味だよ！」とか言われるんで（笑）。

――「五味選手だ！」と言ってほしいと（笑）。

五味　そう言ってくれると嬉しいかな〜。

――大きな志からマナーの話まで（笑）、今日はありがとうございました！

【05年5月6日／「あ、五味だよ！」と指を差しそうな学生がウジャウジャいる玉川学園駅前の喫茶店で収録】

中•軽量級
怒濤の大特化
PRIDE 5・22 BUSHIDO 武士道

五味隆典
【ごみ・たかのり】1978年9月22日、神奈川県出身。173センチ、73キロ。プロ修斗でデビュー以来13連勝を記録。『武士道』では現在5連勝中。すべて1Rで勝負を付けている。元修斗ウエルター級チャンピオン。

ナメられたら、それを指くわえて見てたりしねぇぞって

朗

[パンクラス稲垣組]

中・軽量級怒濤の大特化

PRIDE 5・22 BUSHIDO 武士道

日本軽量級屈指の"殴り者"が満を持して『PRIDE武士道』出陣!!

前田吉朗

5・22『PRIDE武士道』でクレイジーホース・ベネットと激突！

聞き手／橋本宗洋
構成／堀江ガンツ
撮影／乾晋也
designed by matsu（TwoThree）

4・23『PRIDEミドル級GP』一回戦では近藤有己が敗北を喫したが、パンクラスにはもう一人、とんでもないツワモノが存在する。5・22『PRIDE武士道』でチャールズ〝クレイジーホース〟ベネット戦が決定した前田吉朗だ。

高校を卒業後、大阪にジムを構えるパンクラス稲垣組（旧ピーズラボ大阪）に一般会員として入門、デビュー以来シングルで14戦して13勝1分という破格の戦績（パンクラス最高記録）を持つこの男。バレット・ヨシダをパウンドでKO、アレッシャンドリ・ソッカ（アブダビ優勝）を飛びヒザ蹴りで倒し、フレジソン・パイシャオン（柔術世界大会優勝）にも判定勝ちと名だたるグラップラーをことごとく撃破した鋭い打撃、反応の早さは日本でも間違いなくトップクラスといえる。

だが、前田はいわゆる格闘エリートではなく〝パンクラシスト〟という感じでもない。「格闘家になってなかったらプータロー」だったという男が、いかにして軽量級屈指のストライカーになったのか。その生き様と独特の個性を感じてもらいたい。

――『紙プロ』では前田選手のインタビューは初めてということで、いろいろ基本的なことからお聞きしていきたいと思います。まず格闘技を始めたきっかけが、船木vsヒクソン戦を見たことだったんですよね。どういう部分に惹かれたわけですか。

前田　なんていうんですかね……ナレーションですかね。

――ナレーション（笑）。試合じゃなくて？

前田　〝日本最後のサムライ〟とか〝最終兵器〟とかいうじゃないですか。それで〝コイツ凄いんやろなぁ〟ってなったんですよ。

――スポーツは何かやられてたんですか？

前田　小学校のときに野球と水泳をやってて、中学は卓球部ですね。で、高校が帰宅部です。

――高校時代に帰宅部の格闘家って珍しいですよね（笑）。

前田　何もしたくなかったんですよねぇ。遊びたくて。

――帰宅部から格闘技のプロを目指すって、相当な思い切りですよね。

前田　他にやりたいことがなかったんで、逆にスッといけたんでしょうね。「することないし、一丁やってみるか」みたいな。

――他に趣味とかもなかったんですか？

前田　ですねぇ。そのときに好きなことが趣味って程度で。

――で、地元の香川を出てピーズラボ大阪に入ったのは、やっぱり船木さんのいるパンクラスということで。

前田　いや、他の道場も考えましたね。パ

中・軽量級
怒濤の大特化
PRIDE 5・22 BUSHIDO 武士道

前田はこれまでの実績も充分。バレット・ヨシダにはKO勝ち。“足関十段”今成正和とはDEEPでスリリングな攻防を演じている（ドロー）。チャンスの匂いを嗅ぎ取る勝負勘、一瞬の攻撃で相手を仕留める“当て勘”ともに抜群だ。

中学は卓球部で高校は帰宅部 他にやりたいことないから、格闘技でも一丁やってやるかって

ンクラスが一般会員を募集してるのも知らなくて「パンクラスに入るとなると練習生からになるよな」とか思ったんで。

―新弟子生活はキツいなと（笑）。で、最終的にピーズラボ大阪にしたのはどういう理由からだったんですか？

前田　東京も考えたんですけどね、ジムもいっぱいあるし。でも東京には友達もいたんで、遊んじゃうだろうからやめとこうと。誘惑に弱いもんで（笑）。

―心境として「プロになるまで田舎には帰れねえ！」みたいな覚悟はあったんですか？

前田　いや、そんなふうではなかったですね。「とりあえずここで練習しとったら強くなるやろ」っていう。大阪に来たばっかで他に行くとこもないんで、ジムにいないと暇で仕方ないっていうのもあって。

―体力的には問題なかったですか？

前田　そうですね。高校を出てから入会するまで1年弱ぐらいあって、その間に半年くらいウェイトもやってたんで。

―あ、じゃあしっかり準備してたと。

前田　いや、そういうつもりでもなかったんですけどね。遊んだりもしてたし。

―じゃあ船木vsヒクソン戦に大衝撃を受けて「もうこれしかない！」って感じでもなかったんですね（笑）。

前田　そういうんでは全然ないです（笑）。

―以前の記事で「格闘家になってなかったらプータローだった」って言ってるんですけど、ホントにそんな感じだったんですか？

前田　まあ、食えなかったら何かやるんでしょうけど、食うに困らん限りは。

―じゃあ実家にいたらヤバかったですね（笑）。

前田　まあ定職には就いてないと思いますね。あんまりなんか、働くのが嫌いなんですよ。楽しみながら、そのついでにお金がもらえればって感じなんで。

―何をやるにしてもガッといくタイプじゃないんですかね（笑）。

前田　好きなことじゃないとダメなんですよね。興味がないことにはまったく興味がないっていう。

―いや～、ホント格闘技っていう道が見つかってよかったですよね（笑）。でも2003年2月のプロデビュー後は、『ネオブラッド・トーナメント』も優勝して、連勝記録も作ってと順調そのものですよね。

前田　ま、そこそこ勝つやろとは思ってたんですけどね。基本的に何でも「なんとかなるやろ」でここまできてるんで（笑）。

―前田さんの試合を見ていて思うのは、瞬間的なスピードなんですよ。デビュー戦はチョークで一本勝ちだったんですけど、そのときのバックに回って首を取る感じとか、もちろん打撃もそうですし。昔から運動神経はよかったんですよね？

前田　足が速いっていうのはあったと思うんですけど、どうでしょうねぇ……。

―例えば野球では一番バッターだったとかいうのは……。

前田　そういうのはなかったですね。競技でどうこうっていうより、鬼ごっことか（笑）。

―そういう場面で（笑）。

前田　変なすばしっこさはあったんですよ。

―本格的に〝大阪の前田は凄い〟ってなってきたきっかけはバレット・ヨシダ戦、アレッシャンドリ・ソッカ戦の連勝だったと思うんですけども。そのときも相手のことを全然知らなかったらしいですね。

前田　ですね。

―あんまり他の選手には興味がないんですか？

前田　興味はない……ですねぇ（笑）。北岡（悟）さんに聞いて「そんなに強いんや」って。研究とかもしなかったですし。

―そこも「なんとかなるやろ」と（笑）。

前田　ソッカに関しては、最初っから負ける気しなかったんですよね。

―なんにも知らないけど、自信だけはあったと（笑）。

前田　知らないだけに自信があったって感じですかね（笑）。

―それで実際に勝ってますからね。打撃

6月5日（日）パンクラス
ゴールドジム　サウス東京アネックス大会

『ネオブラッド・トーナメント～ライト級～』準決勝 5分2ラウンド
中條実（和術慧舟會 東京本部）vs北田俊亮（TEAM JUNKIE）
山田崇太郎（TEAM JUNKIE）vs吉村直記（K.I.B.A.）

『ネオブラッド・トーナメント～フェザー級～』準決勝 5分2ラウンド
城間貴文（HYBRID WRESTLING 武∞限）vs柳澤雅樹（PPT）
藤本直治（パンクラス稲垣組）vs井上学（U.W.F.スネークピットジャパン）

島田賢二（パンクラスP'sLAB 東京）vsDJ.taiki（K.I.B.A.）
築城実（パンクラスP'sLAB 東京）vs村田卓実（和術慧舟會 A-3）

パンクラス女子チームvs他団体女子　3vs3対抗戦
［出場予定選手］
・WINDY智美（パンクラスism）　・伊藤あすか（パンクラス稲垣組）
・奥田初代（パンクラスP'sLAB 横浜）

【お問い合わせ】03-5792-0815

のイメージが強い前田さんですけど、前回の村田卓実戦は腕十字で一本勝ちでしたよね。本人としては「打撃だけじゃないぞ」みたいな意識はあるんですか？

前田　打撃で倒す方がいいなっていうのはありますけどね。インパクトがあるし、自分も気持ちいいんで。狙って倒せるようになってきたのは最近で、ソッカ戦ぐらいからなんですけど、そこから欲が出てきた感じですね。

——確かにその辺からKO率が上がってますよね。コツを覚えた感じですか。

前田　なんか「あ、倒せるな」と（笑）。ミット打ちもやるようになりましたし。

——え⁉　それまでやってなかったんですか？

前田　前は気が向いたときとか、稲垣さんに「やった方がいいよ」って言われたときにやるって感じだったんですよ。最近はそれ（打撃）が自分の武器やって思うようになったんで、ある程度時間を割いてやるようにしてるんですけど。

——じゃあ意識的に打撃をやるようになったのはここ1年くらいだと。それで勝ってきてるんだから凄いですけどね（笑）。ところで、いまピーズラボ大阪はパンクラス稲垣組に改称してるんですけど、それを言い出したのも前田さんなんですよね。

前田　ピーズラボって東京、横浜にもあるじゃないですか。それと一緒に見られるのは多少イヤでしたね。

——それは何か理由があったんですか？

前田　東京、横浜に対する敵対心は前から持ってたんですよ。ジムに東京、横浜を渡り歩いてきた人がいて「東京の志田（幹）は強い」だとか「佐藤伸哉はお前より強い」とか言うんですよ。

——はいはい。同じ時期にデビューした軽量級ですから比べられますよね。

前田　そういうのを聞くと「絶対アイツらには負けん！」って思うんですよね。

——まして同系列のチーム名なんて名乗れるかと。

前田　向こうはそうは思ってないんでしょうけど、やっぱり東京、横浜の方が先にジムができたっていう先輩感があるじゃないですか。

——大阪はどうしても〝第3のジム〟になっちゃいますよね。

前田　そんなねぇ、ちょっとぐらい前からあるってだけで先輩面すんなって。まあ向こうは先輩面なんてしてないんですけど、自分の中で勝手に（笑）。

——じゃあ〝パンクラスの前田〟っていうより〝稲垣組の前田〟っていう意識の方が強い感じですか。

前田　それはありますね。稲垣組を名乗ることによって力が沸いてくる感じもありますし。

——尊敬する人にも稲垣さんを挙げてますけど、特にどういう部分が尊敬できる感じですか？

前田　なんでも頭ごなしには言わないんですよ。怒ったところで、その場は頭を下げても本当には理解してないことってあるじゃないですか。だけど稲垣さんは怒らずに、ちゃんと分かる方向に持っていってくれるんですよ。

ちっちゃくても強い奴は強いし でっかくても弱い奴は弱い 体重なんていろんな要素の一つ

——今回『PRIDE武士道』参戦が決まりましたが、前から『PRIDE』には出たいという気持ちがあったんですか？

前田　ありましたね。やっぱり選ばれた人間しか出られない舞台なんで。

——相手はクレイジーホース・ベネットになりました。普段は65kgでやってる前田さんですけど、今回は70kg契約なんですよね。

前田　体重は絶対的なもんだとは思ってないですね。背が高いとかパンチが強いとか筋肉があるとか、そういう要素の中の一つでしかないなと。ちっさくても強いヤツは強いし、でっかくても弱いヤツは弱いし。

——ベネットは前回の五味隆典戦で開始直後にコーナーポストに昇ったりしてましたよね。で、前田さんは会見で「それをやったらドロップキックで撃ち落とす」と。

前田　結局、そういうことをやるってのは自分をナメてるってことじゃないですか。それを指くわえて見てたりはしねえぞって。

——前田選手って、話をしてるとあんまりこだわりがないように見えるんですけど、ピーズラボの件にしても今回にしても、いざ対抗意識っていうか〝ナメられてる〟って感じると燃えるタイプなんでしょうね。

前田　噛み付きがちなタイプなんですよ。

——気に入らないことには敏感というか。

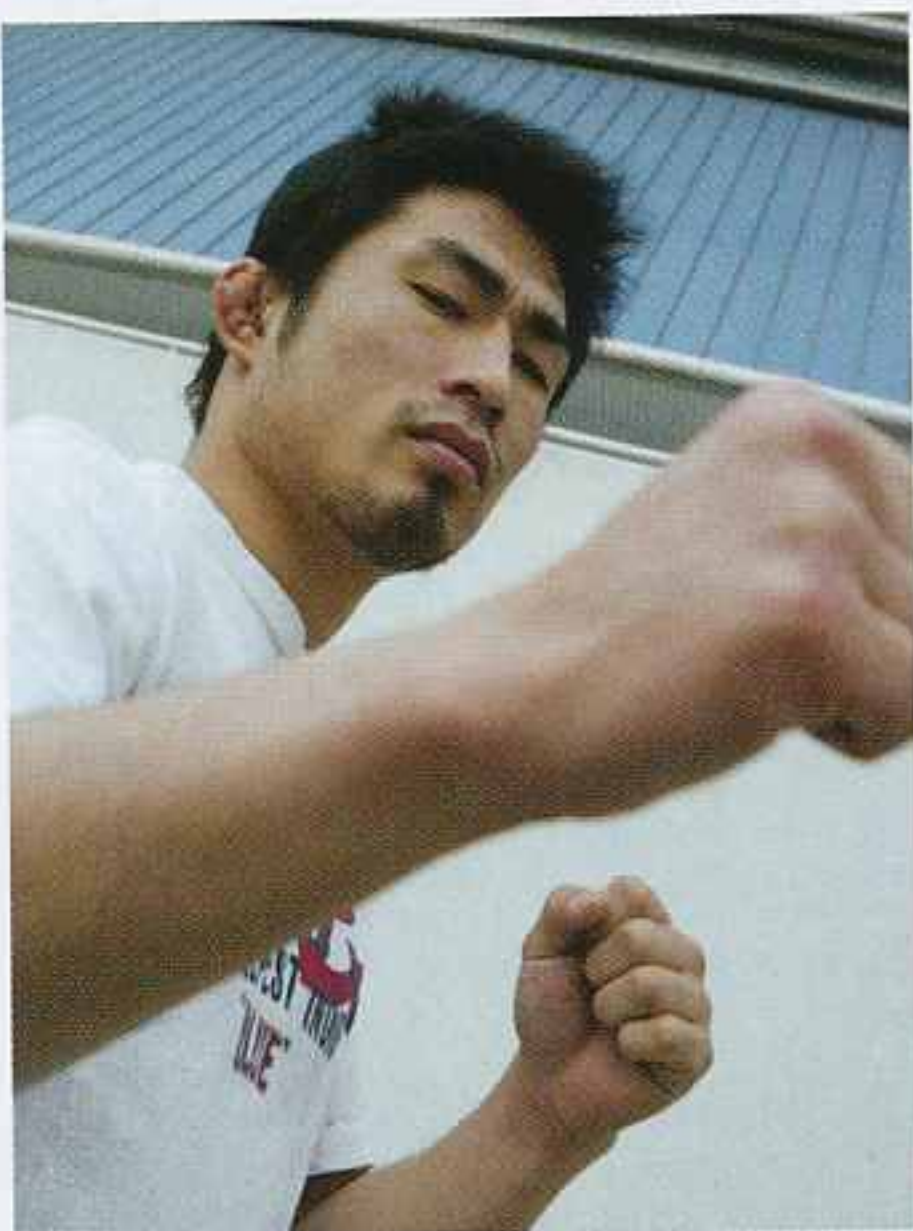
前田　そうですね、はい（笑）。

——秋に開催予定の『武士道GP』も意識はしてますか？

前田　いや、まだそこまでは。とりあえず今回ですね。後はやりがいのある相手とやりたいっていうのと、大阪でやる大会には出たいなっていう。自分の庭ですからね。

——じゃあ今回は『PRIDE』という大舞台、会場も東京ということで存分に噛み付きまくってください（笑）。期待してます！

【05年4月23日／大阪・大阪ドームにて収録】

前田と対戦するベネットは、セコンドとともにマスクを被って入場、ゴング直後にコーナーに座り込むなどショーマン系の選手。これが前田の“噛み付きグセ”に火をつけるか⁉

前田吉朗【まえだ・よしろう】1981年10月31日、香川県出身。03年2月にプロデビュー以降、破竹の13連勝中（引き分け1試合を挟む）。軽量級屈指のハードパンチャーで、バレット・ヨシダやアレッシャンドリ・ソッカなどの難敵からもKO勝利を収めている。170cm、64kg。

五味選手とやりたい

〝孤高の格闘王国〟修斗より

川尻達也参戦!!

中・軽量級特化に相応しい〝日本人・最後の大物〟!!

〝孤高の格闘王国〟プロフェッショナル修斗より、〝中・軽量級・日本人最後の大物〟が『PRIDE武士道』に初登場!!

第8代修斗ウエルター王者・川尻達也が、中軽量級に特化する5・22『武士道・其の七』に参戦することになった!

本誌読者にはズバリなじみが薄いと思われるが、この川尻は、00年4月にプロ修斗デビュー。〝クラッシャー〟の異名を誇るテイクダウン&パウンドのスタイルで白星の山を築き、02年プロ修斗新人王に輝いた。そして現在は、中井祐樹が第3代王者に就き、宇野薫と佐藤ルミナが争奪戦を繰り広げ、五味隆典が一時代を誇った修斗ウエルター級王座を保持している27歳だ。

川尻は昨年末より他団体出撃を匂わせる発言を繰り返しており、その動向が注目されていた。『武士道』と同じく中・軽量級を柱にしようとしている『HERO'S』登場の噂も挙がっていたが、川尻は『武士道』参戦を選択。榊原DSE代表と髙田本部長が出席した参戦発表記者会見で川尻は「自分が目指しているものはリアル。これまで本当の強さを追い求めてきました。『武士道』のリングは、たとえば五味選手や長南選手のように、本当の強さを追求している選手たちが闘う場だと思うんで参戦を決めました」と力強くその胸の内を語った。今後は修斗と両立しながらの『武士道』参戦になる川尻は、将来的には五味隆典との対戦を熱望。『武士道』が制定する73kg以下級戦線に突風が巻き起こす気配十分だ。現役修斗王者の登場のみならず、パンクラス、GRABAKA、UFC、DEEPと様々な団体・ジムから実力派ファイターが集うことになった『武士道』は、「特化」宣言偽りなしの中・軽量級ステージとなった。興奮した佐伯DSE広報の鼻息がフガフガ聞こえてくるというものだ!

リニューアル一発目は〝日本vs世界〟の構図になるが、いずれは〝日本人対決〟の実現もありえるだろう。布陣を整った。あとは〝武士〟たちの出陣を待つのみだ!

川尻達也プロ修斗戦績

年	日付	結果	対戦相手	内容
'00	4.12	●	vs中山巧	1R2分44秒/スリーパーホールド
'01	4.8	△	vs鈴木洋平	2R判定/1-0
	5.22	○	vs鈴木洋平	1R2分42秒/スリーパーホールド
	9.27	○	vs高田和道	1R3分3秒/腕ひしぎ三角固め
'02	3.13	○	vs滝田J太郎	2R1分22秒/TKO
	4.21	○	vs山崎剛	2R判定/3-0
	5.28	○	vs杉江"アマゾン"大輔	2R4分19秒/TKO
	7.19	○	vs椎木努	1R4分42秒/スリーパーホールド
	10.27	○	vs尾松賢	1R4分40秒/腕ひしぎ十字固め
	12.14	●	vsヴィトー"シャオリン"ヒベイロ	3R判定/0-3
'03	5.30	○	vsタクミ	1R3分44秒/TKO
	8.10	○	vsイーブス・エドワーズ	3R判定/3-0
	12.14	○	vs雷暗暴	1R4分21秒/TKO
'04	3.22	△	vs宇野薫	3R/判定1-0
	9.26	○	vsミンダウガス・ラウリナイティス	2R2分/TKO
	12.14	○	vsヴィトー"シャオリン"ヒベイロ	2R3分11秒/TKO
'05	4.23	○	vsヤニ・ラックス	1R4分42秒/TKO

※第8代修斗ウエルター級王者に就く

郷野聡寛 VS クラウスレイ・グレイシー

"独立"GRABAKA早くも出撃!

ヘンゾ、ハウフ、ハイアンを従兄弟に持つクラウスレイ。マッハを初めてタップアウトに追い込んだ極めの実力だけではなく、"新世代グレイシー"だけであって打撃でも勝負ができる。パンクラスから"独立"したばかりの郷野にとっては是が非でも勝利がほしいところ

桜井"マッハ"速人 VS ルイス・ブスカペ

マッハが73kg級戦線で再起を懸ける!

『武士道』でいまだ本領発揮に至っていないマッハが体重を本来の70kg台に下げてリボーン! かつての輝きを新生『武士道』に放つ。対するブラジリアン・トップチームのブスカペは、『武士道・其の六』でアゼレードに判定で敗れたが、その実力は誰もが認める一級品の強者だ

長南亮 VS ニーノ"エルビス"シェンブリ

ヒクソンの再来か? ピラニアの殺戮か?

ピラニアvsエルビス! 83kg級のエース候補の長南は、"ヒクソンの再来"と呼ばれるほどの柔術テクニックを持つニーノと対決。ニーノは本来の階級での登場で、シュートボクセで打撃のスキルアップにも余念がないことから、長南にとっては厄介な相手になりそうだ

5・22『武士道・其の七』

"日本vs世界"中・軽量級大戦、勃発!!

前田吉朗 VS チャールズ"クレイジー・ホース"ベネット

"軽量級の殴り者"が金歯の狂馬狩りへ!

いまだ総合無敗、デビュー以来の12連勝を誇る前田吉朗(パンクラス稲垣組)も『武士道』初参戦! 『DEEP』における"足関十段"今成との息詰まる攻防戦は記憶に新しい。奇抜な入場パフォーマンス、奇想天外な動きを披露する"暴れ馬"ベネットをうまく乗りこなせるか!?

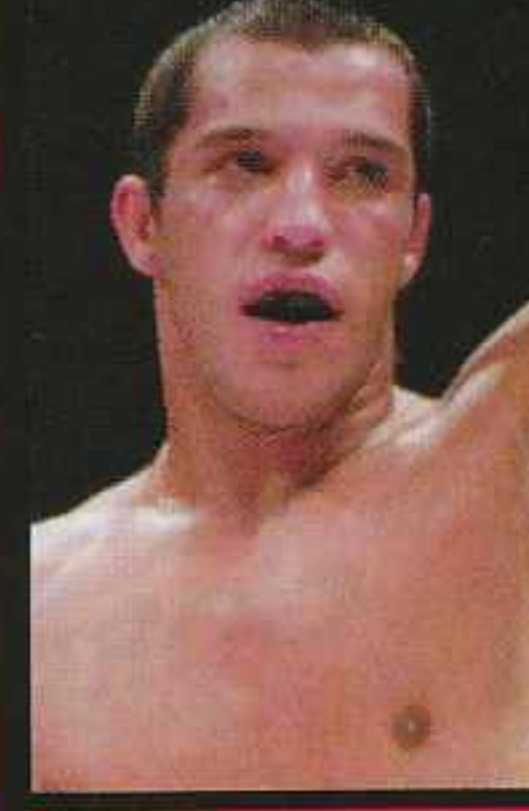
【日時】
5月22日(日)16:00開始

【会場】
有明コロシアム

【対戦カード〈順不同〉】
五味隆典 vs ルイス・アゼレード
長南亮 vs ニーノ・"エルビス"・シェンブリ
桜井"マッハ"速人 vs ルイス・ブスカペ
美濃輪育久 vs フェル・バローニ
川尻達也 vs キム・インソク
郷野聡寛 vs クラウスレイ・グレイシー
前田吉朗 vs チャールズ・"クレイジー・ホース"・ベネット
三島☆ド根性ノ助 vs イーブス・エドワーズ
TAISHO vs ジェンス・パルヴァー
上山龍紀 vs ミルトン・ヴェエイラ
小見川道大 vs X

【チケット情報】

VIP(ビップ)【専用入場ゲートグッズ付き】	¥50,000
RRS(ロイヤルリングサイド)	¥23,000
スタンドS席	¥13,000
スタンドA席	¥6,000

【お問い合わせ】
ドリームステージエンターテインメント
TEL:03-5464-1531

五味隆典 VS ルイス・アゼレード

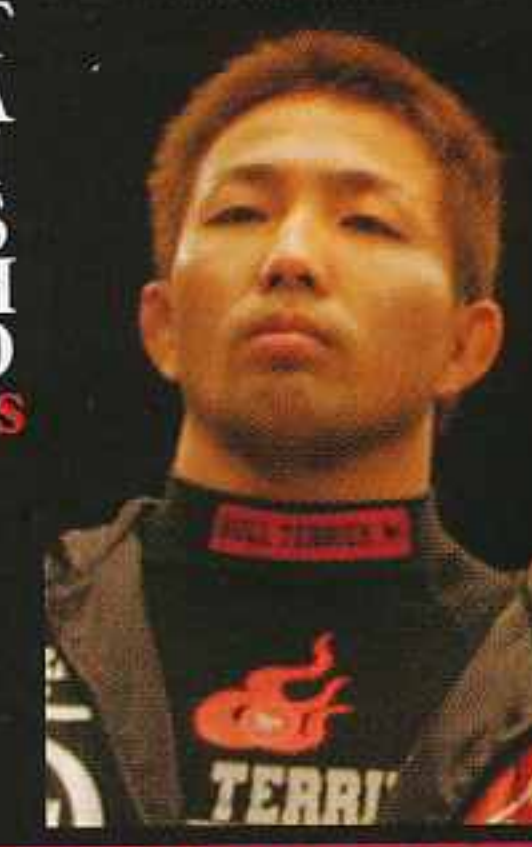
シュートボクセの刺客が五味を襲う!

ブスカペを破り五味への挑戦権を手に入れたアゼレードは、シュートボクセ所属の柔術家。ブスカペ戦のスピーディーな動きに驚いた観客も多いことだろう。5ヶ月ぶりの試合となる五味の試合勘が気になるところだが……。五味は連勝記録を伸ばせるか? 阻まれるのか!?

川尻達也 VS キム・インソク

現役修斗王者の神髄爆発か!?

"中・軽量級日本人最後の大物"修斗ウエルター級王者・川尻達也は、初代 韓国KPW軽量級チャンピオンのキム・インソクと対戦。五味戦を狙う川尻にとってはつまづくことは許されない。『武士道』にどのようなファーストインパクトを与えるのかも問われるところだ

TAISHO VS ジェンス・パルヴァー

『PRIDE』に日本人の柔術黒帯が初登場!

ブラジル柔術修行で黒帯を取得、MMAではDEEPを主戦場をするTAISHOが『武士道』初参戦。朝日昇やZST GPで所英男をKOした打撃、そして柔術テクニックで初代UFCライト級チャンピオンにしてB.J.ペンを破ったこともあるジェンス・パルヴァーに挑む!

小見川道大 VS X

吉田道場の新鋭が"柔"の凄みを見せつける!

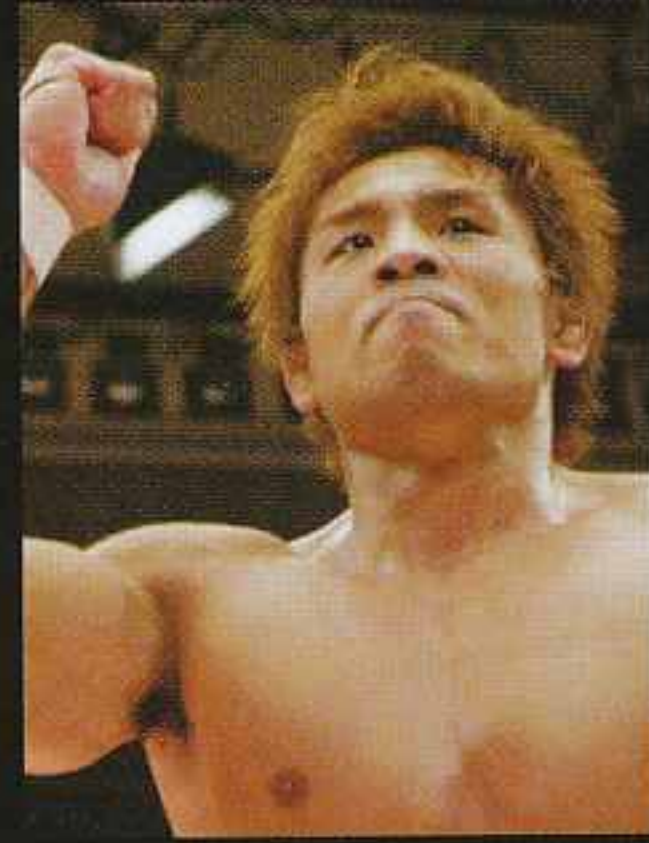
吉田道場から柔道の猛者が『武士道』に! 締切直前の10日現在、小見川の対戦相手は発表されていないが、20ページからのインタビューを読めばその揺るぎない"柔"の自信を感じられるだろう。このアスリートは、『PRIDE』の生態系にどんな影響を及ぼすのか──?

三島☆ド根性ノ助 VS イーブス・エドワーズ

UFCライト級の超実力者が来襲!

UFCからの刺客が『武士道』にも登場! UFCライト級のトップファイター、イーブス・エドワーズは36戦27勝8敗1分の経歴を誇る百戦錬磨。三島にとってはZST GP王者マーカス・アウレリオに続き難敵だが、勝って連勝を伸ばしたい。シュールな三島な入場にも注目!?

上山龍紀 VS ミルトン・ヴィエイラ

Uの回転体vsBTTの柔術蟻地獄!

U-FILE CAMP.COMの上山龍紀が適正体重の73kg以下級戦線へ。対戦相手のミルトン・ヴィエイラはロシアの総合格闘技大会M-1や、ブラジルのメッカ・ヴァーリ・トゥードで活躍し、ブラジリアン・トップチームに所属。それだけに寝技の実力はいわずもがだ

美濃輪育久 VS フェル・バローニ

"美濃輪ワールド"が猛烈に見たい!!

oi! oi! oi! 『武士道・其の六』で観客を総立ちさせる"美濃輪ワールド"に誘った"リアル・プロレスラー"が連続参戦! レスリング&ボディービルダー出身でUFCで活躍したフィル・バローニと対戦。両者ともにアグレッシブなスタイルだけに好試合は必至だ! oi! oi! oi!

菊田早苗 × 郷野聡寛

SANAE KIKUTA × AKIHIRO GONO

パンクラスから独立の真相を激白!!

5・1パンクラス横浜大会の翌日、都内P's LAB東京にて、尾崎社長と菊田率いるGRABAKA勢が会見を行い、尾崎社長の口から、パンクラスGRABAKAがGRABAKAとして独立することが発表された。『紙プロ』では会見翌日にグラバカ2トップの菊田と郷野をキャッチ、独立の真相を語ってもらった。GRABAKAはどうなるの？

聞き手／チョロ&ささきぃ
撮影／菊地茂夫
designed by matsu (TwoThree)

――この度、グラバカがパンクラスから円満独立されたということで、お話をうかがえればと思っているんですが、先ほどの写真撮影では郷野さん、ガッツポーズをしてましたけど、あれはいまの心境を現しているんでしょうか？

郷野　それは、そういう写真があるとマスコミ的に喜ぶだろうな、と。

――あ、そういうことでしたか（笑）。

郷野　あれはサービスショットとしか言いようがないです（笑）。

――ありがとうございます（笑）。一方の菊田さんは、ちょっと渋い表情でしたけど。

菊田　やっぱりですね、今回、独立するにあたって、いろいろあったんでね。ただ、会見が終わって、やっと一段落したって感じで。まあ独立という形で、心機一転、すがすがしいと言えばすがすがしい気分ですね。

――ここ最近は、すがすがしい気分ではなかったと？

菊田　う～ん……やっぱりね、記者会見が終わるまではなんとなくモヤモヤはしてましたね。4月いっぱいは契約も残ってたんで。「試合ないの？」って言われても、動くにも動けないし。「なんで横浜大会は会場来なかったの？」とか聞かれても、答えられない部分もいっぱいあったんで。まあ、やっとというかなんというか（苦笑）。

――会見での話を聞くと、独立を考えてたのは、もう3～4年前からなんですよね？

菊田　まあ、そんな感じで。

――でも3～4年前っていうと、パンクラスに入って、まだそんなに経ってないですよね（笑）。

菊田　そうなんですけども、まあ僕らはｉｓｍと違って、いろんなとこから集まって、どっちかっていうと外から入りこんできたっていうのがあったんで。

――最初は外敵のような感じでしたからね。

菊田　そうです、そうです。だから自然な形に戻ったってことですよね。僕らはね、そんなにパンクラスを背負うとか……あ、郷やんは「背負う」って言ってたな、そういえば（笑）。

――最近まで言ってましたよね（笑）。

菊田　まあ僕は背負うとかはなかったんで。そういう感じじゃなくて、スポーツセンターのときと同じような気分でやってたんだけど、やっぱりなんとなく出稽古とかも、いつの間にかパンクラスって看板的なものがいろいろあったのかなっていうか。わかんないですけどね。これからはスポーツセンターのときのように、バンバンみんなごちゃ混ぜでやろうかなって。

――ＧＲＡＢＡＫＡ自体は出稽古とか制約とかは特にないんですよね？

菊田　何にもないんですけど……なんだかんだ言ってね、ＧＲＡＢＡＫＡはパンクラスって見る人も多いじゃないですか。ウチのファンの人はＧＲＡＢＡＫＡは独立した組織みたいに思ってる人は結構いたみたいなんで、ウチのファンにとっては望む形になったんだと思いますけど。

――先ほど菊田さんも言ってましたけど、郷野さんは「パンクラスを背負う」って発言されてた時期もありましたよね。

郷野　僕は基本的には、ナメられることが一番嫌なんで。だからこそ自分が主戦場にしてるパンクラスのリングで、そのとき俺の所属はパンクラスって肩書きがついてたから、同じパンクラスって名前のついてる他の選手がアマチュア臭いヤツに負けたりすると、やっぱりそれは、こっちにも害が及ぶから、そんなことしないでくれって感じでしたね。でもいまは独立して、パンク

ラスもあくまでも選択肢の1つになったんで、そこまで思い入れはないですけど。

菊田　それはね、わかりやすく言うとプロ野球とまったく一緒で。たとえばロッテに1年間いたらロッテのために頑張るわけで。いままで僕たちはパンクラスのために頑張ってきたわけですよ。

―プロ野球と同じように吸収合併する可能性もあるでしょうしね。

菊田　そうなれば、またそこのチームで頑張るわけだし。どっか評価してくれるところがあれば、そこに行ってそこのために頑張ると思うし。基本的にはだけど、格闘家って個人ですからね。

―まあ、そうですよね。

郷野　感情的には、俺の大好きなロイ・ジョーンズがヘビー級獲ったときに、観客席に座ってたWBCのチャンピオンだったレノックス・ルイスはジョーンズに負けた選手に対して「軽いヤツにやられやがって。しっかりしてくれよ」みたいな感じだったらしいんですよね。同じヘビー級というカテゴリーで下から来たヤツに獲られたらヘビー級自体がナメられる。それが我慢できないっていう。そんな感じですね。

―逆にGRABAKAのメンバーでやっていくにあたって、ナメられない自信があるんでしょね。

菊田　そうですね。

郷野　まあ、勝ち負けっていうのは、やればやるほどわかんない部分あるんで。まあ、そこだけで考えると、ときには難しいこともあると思うし、やっぱり属してるとね、そこはもうどうしようもないですからね。「アイツよぉ……」って思っても、しょうがないかなっていうのもあるんで（笑）。まあ、これからは自分たちの責任の下でできるっていうのは、やっぱり良かったと思いますけどね。

独立した理由は、ホントに自由に動けたらいいなっていうのが一番ですね

パンクラスの選手がショボい試合しても、なんとも思わなくて済むのがメリットかな

AKIHIRO GONO　　SANAE KIKUTA

―尾崎社長は会見で「今回の独立はスキャンダルでもないし、今後も関係は変わらない」と言ってましたけど、じゃあ、どんなメリットがあって独立するんだって質問も出てたじゃないですか？　やっぱり独立するからには、野望であったり、何かしらのメリットがなければ行動に移さないと思うんですよ。

郷野　俺個人で言えば、これでパンクラスの選手がいくらショボい試合しようが、もうなんとも思わなくて済むっていう、そういうメリットがありますね。

―私個人で言えば、ここ1～2年ぐらいの流れで見ると、一番パンクラスを背負うとか、パンクラス全体を盛り上げるっていうのを意識してたのは郷野と近藤さんじゃないかと思って見てたんですよ。で、ここ最近は解説席に座ってるときの発言とかを聞いてると、ｉｓｍ勢に対するイライラみたいのがかなり頂点に達してきてるようにも見えてたんですね。

郷野　見えましたか（笑）。

―はい（笑）。で、郷野さんは全日本でベルトを取ってきたりとか、パンクラスの強さを世間に見せるっていうことについては積極的に活動してる感じは見えてたんですよ。それに対してｉｓｍの選手は近藤選手の他は正直言ってそれほど目立った活躍とか戦績は残せなかったわけで。それに対してのイライラっていうのはかなりありました？

郷野　それは俺が解説で言ってたそのままですよね。ありましたよ。

―では、菊田さんが考える独立のメリットは何でしょうか？　ボスとしてと選手としての考えは違うのかもしれませんけど。

菊田　これはいい質問ですよ、かなり。

―あ、そうですか（笑）。

菊田　う～ん……やっぱりね、ひとつはですね、「自立心が強い」って社長も言ってましたけど、マネージメントを任せることが大変なのかっていうと、自分でやる方がある意味楽なんですよ。やっぱりね、自分の人生なんで、ホントに自分で決めたいんですよ、単純に。それでマネージメントが面倒くさいとか、そういうふうには実は思ってないんですよ。パンクラスが悪いとかじゃないんですけど、間に人が入ると、やっぱりうまくいかないっていうか。いいマッチメイクができないってなったときに、もっとちゃんとやってよって。それに僕らは試合をやるだけで、試合を持ってくるのがパンクラスだったら、どうしても自分の中にも言い訳しちゃうわけですよ、甘えちゃうというか。それを作りたくないっていうのはありますよね。パンクラスのせいにしたくないっていうのもあるし。

―これからは、すべて自分たちの責任でやっていきたいと。

菊田　そうですね。ホントに自由に動けたらいいなっていうのが一番で。あとは選手に関して言えば、選手の一番いいような、クッションどっかがマネージメントをやってあげるよりも、やっぱり身近にいつも接してるのが自分だから、やりたいようにやってもらえばいいなっていうのがダイレクトにできるんで。一番シンプルになったって感じですかね。もともとそういう時代の方が長かったですから、僕ら。

―理想として、一時期のブラジリアントップチームを挙げてましたよね。

菊田　一時期は、いろんなとこ出てましたからね。

郷野聡寛

やまみや・けいいちろう
Keiichiro Yamamiya
1972年7月12日、神奈川県茅ヶ崎市出身。180cm、90kg。97年ネオブラッド優勝、初代ライトヘビー級王者。03年11月、グラバカへ移籍。グスタボ・シム、ニルソン・デ・カストロ戦と2連敗中。絶倫王としても有名。

ささき・ゆうき
Yuki Sasaki
1976年9月12日、北海道釧路市出身。182cm、85kg。98年に修斗でデビューし、01年2月からパンクラスに主戦場を移す。02年12月には『PRIDE.24』に参戦しホドリゴ・グレイシーと対決、判定で敗れている。

きくた・さなえ
Sanae Kikuta
1971年9月10日、東京都練馬区出身。176cm、89kg。01年4月アブダビ・コンバット88kg未満級王者に輝く。同年9月には第2代パンクラスライトヘビー級王者となる。今後の動向が注目を集めるグラバカの大将。

いしかわ・えいじ
Eiji Ishikawa
1979年10月12日、千葉県千葉市出身。178cm、85kg。97年関東高校グレコ81kg級優勝、99年度アマ修斗ライトヘビー級準優勝。03年以降は8勝1敗2分と確かな実力を発揮している。グラバカでは末っ子的存在。

ごうの・あきひろ
Akihiro Gono
1974年10月7日、東京都東久留米市出身。176cm、87.8kg。96年、修斗でプロデビュー。01年パンクラスに主戦場を移し、グラバカながら打撃でも才能を発揮、現在は全日本キックヘビー級王者に君臨するグラバカNo2。

やまざき・たけし
Takeshi Yamazaki
1977年5月25日、千葉県鎌ヶ谷市出身。174cm、74kg。柔術紫帯。テイクダウンとグラウンドコントロールに長け、"アマのルミナ"の異名をとっていた。修斗のウェルター級戦線で活躍し、DEEPにも出場経験あり。

みさき・かずお
Kazuo Misaki
1976年4月25日、千葉県小見川町出身。178cm、82kg。01年ネオブラッド優勝。昨年5月、『PRIDE武士道-其の参-』でシュートボクセのジョルジ・パチーユ・マカコに判定勝ちを収めた。通称・グラバカの狙撃手。

さとう・みつよし
Mitsuyoshi Sato
1977年10月28日、東京都足立区出身。180cm、89kg。95年関東大会88kg級優勝、99年全日本学生選手権4位入賞の実績を残すアマレスの実力者。2・4後楽園大会で、士道館のアルボーシャスに残り1秒でKO負け。

菊田早苗

——なんだかんだいってもこの業界、いろんなしがらみとかあって、どこの大会に出たら違う大会には出れないとか、面倒臭いことも多いじゃないですか？

菊田　そうなんですよね。その辺は……自分たちは駆け引きとかやるつもりはまったくないんで。ただ、どうしても格闘技だけじゃなくて会社同士の駆け引きって出てくると思うんですけど、そういうのはね、僕らはただの町道場ですから、できないですよ（笑）。まあ、ホントの意味での全方位外交っていうのは難しいとは思うんですけど……頑張ります。

——いまの話聞いていても、菊田さん自身が自分でGRABAKAの選手をここに出した方が、こういう試合をやらせた方が光るみたいに考えてるように見えるんですけど、すごい世話好きって言ったらあれですけど……。

菊田　いやいや、そんなことはないんですけどね。基本的には、やっぱね、独立した、抜けたっていうと、どうしてもいろいろ言われちゃうんですよ、お金がどうこうとか言われちゃうんですけど、それは全然関係ないことで。

郷野　下の者としても、僕なんかも菊田さんと一緒に練習して10年ですからね。やっぱり裏表なく話せるし。そういう人に任せるのが僕としても一番安心できますからね。たとえばなんかうまくいかなかったときに、仮にパンクラスに何も落ち度がなくても「なんかあったんじゃないか？」とか勘ぐったりする可能性はあるんだけど、菊田さんにやってもらってたら、そういうことは絶対ないし、うまくいかなかったときも前向きに気持ちよく受け入れることができるっていう、そういう精神的な安心、安定はありますよね。状況が悪かろうが良かろうが。菊田さんだったら全部そのまま受け入れられるっていうのがありますね。

菊田　その代わり厳しいですけど、みんな自分の責任だと思って欲しいんですね。勝ちも負けもそうだけど、選ぶのも出たいも全部自分の責任。で、試合が決まらないのも自分の責任。それほどクリーンにやっちゃおうと思ってるんで。

——パンクラスっていうところに所属してたら、結果はともかく試合のチャンスはフリーの選手より多く巡ってきたりするんじゃないかとは思うんですよ。でもこれからはやっぱり1試合1試合の結果であったり、選手のキャラクターであったりが重要になってきますよね。

菊田　そうですね。まあ、やっぱり結果が出なくて試合があるっていうのもね、あんまり良くないですからね。

——ボスとしてはどうですか、具体的に言うとアイスマン戦からずっと試合からは遠ざかってるわけですけど、名前はちょくちょく出てきてましたよね。『Dynamite!!』でのプレデター戦であったり、ホドリゴ戦やBJペン戦とかも名前が挙がってましたし。

菊田　挙がってましたね（苦笑）。アイスマンとやった後、12月、1月、2月は1試合ぐらい決まっててもおかしくなかったと思うんですけど、残りの後半に関しては、やっぱり今回の独立っていうことも含めてずっと考えてた時期だったんで、正直、動けなかったっていうのもありますね。だからホント、いまからやっとすべてが始まるっていう感じで。

——まだ何も決まってないのかもしれないですけど、大会であったり、対戦相手で具体的に、どこか狙っているところはあるんですか？

菊田　いや～、それは全部ですよ。逆にどこが一番いい評価してくれるのかなっていうのもあるし。

——ホイスとやりたいっていうのは、だいぶ前から言ってますけど、その気持ちはいまでも変わらないわけですよね？

菊田　やりたいのはやりたいですけど、やっぱ難しいですからね、ホイスは。だからあんまり考えてないです。でも難しいですねぇ……まあ、やりたい相手はいますけどね。でも難しいですね、口に出すのも。

——私は基本的にプロレスファンなんで、GRABAKAとi s mがやり合ってた頃のGRABAKAが基本的には一番好きだったんですよ。あのときはハッキリ言ってGRABAKAがヒールの状況だったじゃないですか。

菊田　まあ、そんな感じでしたよね。

——結果を出したっていうのもあったと思うんですけど、その後、GRABAKAが正規軍入りしてパンクラスを支えてきてたように見えたんですよ。それが、ここにきて、GRABAKAがフリーになってくれるっていうのは個人的には凄く嬉しくて。またあの頃の盛り上がりみたいのが見れるのかなって。

菊田　そうですね、ホントに。

——ヒール軍団だったGRABAKAが逆に正規軍化して不自然な正規軍を強いられてるように見えてたんで、またここでフリーになってくれるっていうのは、ある意味、パンクラスにとっても良かったんじゃないかと思って。

菊田　やっぱりね、アウトロー的な感じで頑張ってたんですけど、そういうつもりはないんだけど、知らない間に染まってたんでしょうね。知らない間にそうなってたんだと思いますね。そういう意味でもやっと本来の姿に戻ったのかもしれないですね。

5vs5の団体対抗戦とかできたら燃えますね。相手がどこだろうとやります!

——郷野さんは桜木選手に敗れて、しばらくへコんでた時期が続いてたっていうことなんですけど、先日はニューヨークに旅行に行かれてたみたいですね。

郷野　傷心旅行じゃないですけど、野球見にいったりしてましたね。

——今日着ているヤンキースTシャツは、そのときのお土産になるんですか？

郷野　まあ、自分で自分に買ったお土産っていうか。まあ3ヶ月連続で試合したんで、それ終わったらどっか行こうとは思ってたんですけど。まあ、勝って行ってれば楽しい遊びで、負けちゃえば傷心旅行になっちゃうんですよ（苦笑）。

——じゃあいまは独立云々もありましたけど、そういうのも含めて1回リセットというか、まだ戦闘モードではないんですね。

郷野　そうですね。リセットするにはいいきっかけというか、いい時期に独立出来たと思うし、僕的には良かったです。ここからまた頑張りますよ。

——近藤（有己）さんがPRIDE GPでボブチャンチンに負けてしまったっていうのもあって、7月の横浜大会は郷野さんとのタイトルマッチという話もチラッと出てましたけど、郷野さんは「それはあり得ない」って会見で話をしてましたよね。

郷野　そうですね。負けた者同士のタイトルマッチっていうのは権威がなくなっちゃいますからね。それはやりたくないです。

——いま、具体的にどっちモードなんですか？　キックボクシング？　それとも総合をやりたい？

郷野　正直なんも考えてないですね。ホント、ここまで堕落したのも久し振りなんで。たまには緩めることも必要だっていうけど、緩みきっちゃうとこれまた戻すのが大変ですね。それぐらい緩みきってるんで（笑）。

——具体的に次の試合はいつとかってイメージはまだできない？

郷野　そうですね。ホントにいまのままだと、仮に試合のオファーがあったとして、それを聞いてやる気が出るのかって、そんな感じですね。やる気が出ればやるだろうし、出なけりゃいいやって、それぐらいにしか考えてないです、いまは。

——本人が望むか望まないかは別として、キックの防衛戦もいずれはしなければいけないでしょうし、さっきのパンクラスのタイトルマッチの話もそうですし、『武士道』でも参戦候補として郷野さん、三崎（和雄）さんの名前も挙がってましたけど、具体的に試合をするのは、もうちょっと時間かかりそうだと？

郷野　そうですね。っていうか、いま毎日つまんないですから。退屈な毎日からの脱却を考えなきゃダメですね。

菊田　でも『武士道』からオファーは来るとは思うんで、話し合い次第でどうなるかじゃないですかね。

——出場の可能性もあると？

郷野　あるかもしれないし、ないかもしれない（笑）。

——リング外の話でいえば、渡邊久江さんとはその後、何か進展はあったんですか？

郷野　なんかあればもうちょっと元気に戻りますけどね。

——あの手紙とか見る限り、まんざらでもない感じは出てたと思うんですけど。

郷野　こっちは期待してたけどね。やっぱ負けちゃダメですね。

——ああ、すべてにおいて（笑）。

郷野　負けちゃダメですね、すべてが負け

郷野聡寛

取材後5・22『武士道－其の七－』でクラウスレイ・グレイシー戦が決定した郷野。『武士道』にはショーグンに敗れて以来2度目の参戦となる郷野。打撃も得意な万能型のクラウスレイ相手にグレイシー狩りを果たせるか？

グラバカで特訓を積み4・29スマック北沢大会で茂木康子相手に総合デビュー戦を行ったタレントの深谷愛ちゃん。愛ちゃんは大健闘したものの最後は腕十字で敗戦。試合後も「タップしてない」とレフェリーに涙ながらにアピールするなど負けず嫌いぶりを発揮。郷野いわく「愛ちゃんはいい子だけど、俺は『男としてあり得ない』って言われた」と苦笑い

につながりましたね……そんなこともあったなあ……（しみじみと）。遠い昔の話のようだ（笑）。

――つい2ヶ月前の話なんですけどね（笑）。たまたま独立会見の前日に吉田道場で2人の新入団会見があって、対抗戦もやってみたいってことを吉田さんが言ってたんですけど、GRABAKAはそれこそ5人以上いるわけですし、そういう形でやれたら面白いですよね。

菊田 それは面白いですね。

郷野 僕は団体戦大好きですからね。相手がどこだろうとやりますよ。

菊田 それにいま5人以上揃うとこってあんまりないですよね、日本では。

――シュートボクセとかトップチームはいますけど、日本ではなかなか揃わないですからね。

郷野 5vs5とかだったら俺すげえやる気出るなあ。それはやる気出ますね。

――団体戦大好きっていうのは、やっぱりGRABAKAっていうチームに自信があるっていうのもあるんでしょうね。

郷野 それもありますけど、僕はもともと野球出身ですからね（笑）。

――ああ、そういう意味ですか（笑）。

郷野 それに格闘技って個人競技でありながら団体競技の一体感も味わえるっていうのが対抗戦の魅力でもあるし。それを昔、パンクラスとやったときに感じたんで。あれ以来やってないですからね、5対5とか。それができれば燃えますね。ちょっとやる気出てきました。

――でも総合だと柔道とかと違って勝ち抜き戦って形は難しいんですかね？ 先鋒は、かなりキツイでしょうけど。

郷野 いや、そしたら俺、先鋒やりたいなあ。

近藤選手には借りを返したいんで、いつかはやりたいって思ってますけど……

――5人抜きしてやるぞ、みたいな（笑）。

郷野 ……いや、3人ぐらいで（笑）。

――あとの2人は菊田さんに任せると？

菊田 いやいやいや（苦笑）。でも、郷やんは「ナメられたくない」って言ってたけど、そういう意味ではね、凄く感情とか愛情を持ってやってるんだと思うんですよ。パンクラスに対してもそうだし、グラバカに対しても。俺はそういうのは全然ないから（笑）。

――え、愛情はないんですか？（笑）。

菊田 いやいや、それはあるんでしょうけど、やっぱり自分は団体スポーツができなかったから柔道やったんで。そういう意味では郷やんとは真逆だからな。でも何かが一緒なんだと思います、きっと（笑）。

――何かが一緒だからこそ、10年も一緒にやってこれてるんでしょうし。

菊田 それはあると思いますよ。

昨年11月NKホールでのアイスマン戦以降は「Dynamite!!」等で、度々名前が挙がるも決定までは至らず、試合からは遠ざかっている菊田。次なる戦場はどこだ？ そして近藤有己へのリベンジのいつになる？

菊田早苗

――会見でも言ってましたけど、パンクラスにはこれからも上がっていくっていうスタンスなんですよね。

菊田 そうですね。ただ比重に関しては昨日も聞かれましたけど、別に僕自身もいままで比重とかあんまり考えてやってなかったんで。だからいままでと変わりなく。出るかもしれないけど出ないかもしれないし、違うところに出るかもしれないし、その辺はまだわかんないですね。

郷野 パンクラスも、あくまで選択肢のひとつですね。

菊田 ただひとつ近藤選手には僕も借り返したいんで、いつかはやりたいっていうのはありますけど。ただ……さっきの話じゃないけど、負けてるときにやっても盛り上がらないらしいんで（笑）。

――「らしいんで」って（笑）。

菊田 自分の中ではあんまりそれは関係ないんだけど、この世界、勝ってる者しか光らない世界なんで、特に最近そう思うんですよ。だからなんとか近藤選手を越えるように光って、やろうってときが来ればいいなと思うんですけどね。僕もこうしたい、ああしたいっていうのはホントはあるんですけど、それはちょっといまは抑えて。

――抑える必要はないんじゃないですか？

菊田 まあ、そうなんですけどね（苦笑）。

郷野 じゃあ、やりなさいよ（笑）。

菊田 やりたいって気持ちもあるんですけどね。とにかく、いまは頑張って、また巡り会えればと。絶対いつかはやりたいです。

――一応聞いておきますが、以前お二人も上がっていた修斗への参戦っていう可能性はあるんでしょうか？

菊田 いやぁ、それはないんじゃないかなあ。出るのは構わないんですけどね。そこはどうでもいいですね。ただ、山崎（剛）とかはね、いままで通り出させてもらうと思いますし。僕らに関して言えば、思いっきり評価して上げてくれるんなら可能性はあると思いますけど、ただ、修斗とは根本的に考えてることが、多分まったく違うと思うんで、難しいでしょうね。

郷野 自分もそこはないと思います。

――そうですか。では、菊田さん、郷野さんをはじめ、今後のグラバカの活躍を期待してます！

【5月3日／グラバカジム近くのファミレスにて収録】

※取材時は「やる気ナシオ男」（by郷野）モードだった郷野だが、5日後の会見で5・22『武士道－其の七－』でのクラウスレイ・グレイシー戦が電撃決定！

会見で郷野は「やっぱりグレイシーと名の付く選手とやる機会はそうそうないと思ったし、勲章にもなると思って、やることにしました」と、オファーを受けた理由を語ると、「今回の試合はグラバカ独立の一発目ということで、注目されると思うんで、その中で負けるわけにはいかない。凄いプレッシャーもあります。でも余裕こいてるときよりもプレッシャーが強いときの方が僕はいい結果出してるんで、今回もそうなると思ってます」と意気込みを語った。

対戦相手のクラウスレイについては「寝技は間違いなく僕よりも強いと思う。ただ、立ってる状態だったら向こうは僕のパンチは見えないと思うんで。相手は打撃も得意っていうけど、ある程度出来る選手の方がフェイントとか引っかかってくれるんで。僕にとっては一番やりやすいレベルだと思います」と自信をうかがわせた郷野。

独立初戦にしてグレイシー狩りのビッグチャンスを手にした郷野とともに、菊田＆GRABAKA勢の動向から目を離すな！

チョロの女子バーネットSPECIAL

今年のアブダビは 女もやります!

ADCC
4th Submission Wrestling World Championship
Abu Dhabi 2001

ADCC 2005

5.28〜29
米国カリフォルニア州
ロングビーチ

&ジョシュ 日本代表はこの3人!!

今回の女子バーネットはアブダビ直前特集!「アブダビって女子もあったけ?」なんて言ってるキミ、特集やるからにはあるんですよ。しかも日本から3名も出るんです。女子格ファンならお馴染みの藪下めぐみ、藤井恵、近藤有希。残念ながらフジメグは渡米中だったため話は聞けませんでしたが、藪下と近藤に大会への意気込みを聞いてきました! そうそう、今年のアブダビは米国開催ですよ!

構成/松澤チョロ designed by nogu (Two three)

賞金が欲しいんで、頑張ってきま〜す！

藪下めぐみ

女子初のアブダビコンバット、60キロ以上級へエントリーされた女子総合の第一人者・藪下。常に「大きい選手とやりた〜い！」「勝つ自信はないで〜す！」と、呑気な発言を繰り返しながらも、いざ試合になると、好勝負を連発するのが藪下流。果たして、藪下のアブダビ出場の狙いは何なのか？　わかっちゃいるけど聞いてみた！

——今回、アブダビに出場が決まった藪下さんですけど、ズバリ狙いは？

藪下　（即座に）賞金！（笑）。

——あ、やっぱり（笑）。

藪下　ホント、出るんですよね？

——額はわからないですけど、出るは出るみたいです。

藪下　出るんだったらいいです、何でも。アタシは金で動く女なんで（笑）。

——金で動く女（笑）。そんなこと言いながら、アブダビの国内予選をしっかり見に行ってたみたいじゃないですか？

藪下　いや、予選を見に行ったっていうか、関係者の川崎さんでしたっけ？

——はい。〝ブッカーK〟でお馴染みの川崎さんですね。

藪下　川崎さんにお願いしに行ったんです。「アブダビ出たい！」って。

——アハハハハ！　そうだったんですか？

藪下　だって、フジメグ（藤井恵）とか、（近藤）有希ちゃんはジョシュ・バーネットの推薦で出ることになったと思うんですよ。

——そうみたいですね。

藪下　でも、アタシはジョシュ・バーネットの彼女と闘ったじゃないですか？

——そうですね。しかも、ケガさせちゃったみたいなんで、推薦はしてくれないでしょうね（笑）。

藪下　そうなんですよ。なので、スマックの関係者に川崎さんのことを聞いて、男子の予選に来るみたいって言ってたんで無理矢理会いに行ったんです。

——アブダビのルールとかを確認しに行ったんじゃなくて、ホントに出場を直訴しに行ったわけですね。

藪下　はい。で、お願いしたら、出れることになりました。

——今回のアブダビには日本人が3人出るんですけど、2人はジョシュ推薦なんで、ホントの日本代表は藪下さん1人だけですよ（笑）。

藪下　ヤッター！　……よくわかんないけど（笑）。

——よくわかんないですけど、頑張ってください。

藪下　はい。アタシ、階級はどっちでもいいって言ったんです。体重的には大丈夫だったんで。

——そしたら60キロ以上になったんですね。昔から、総合とかでもデカイ選手と闘いたいってよく言ってましたけど、賞金狙いで行くんだったら、60キロ以下の方が良かったんじゃないですか？

藪下　どっちでもいいです、出れれば。

——ぶっちゃけ、自信はあるんですか？

藪下　ないです！（キッパリ）

——じゃあ、賞金もらえないじゃないですか？

藪下　自信はないんですけど、賞金は欲しいんで頑張りま〜す！

——同じ階級にどんな選手が出るかは知ってます？

藪下　有希ちゃん。それとマーロス・クーネン。あとはアメリカとかブラジルから柔術の人たちが何人か出ますよね？

——そうですね。一番意識してる相手って誰になります？

藪下　いません。誰とやっても我が道を行くだけです。

——あ、そうですか。ちなみにアブダビにはどんな格好で出るんですか？

藪下　多分、プロレスのフリフリ水着は着れないと思うんで、総合のときに着てる水着で出ます。あと、入場もガウン着たり、わけわかんない格好で行こうかと思ってます（笑）。

——藪下さんは柔道出身ですけど、寝技には自信がありますよね？

藪下　ないです（キッパリ）。

——あら、ないんですか？

藪下　アタシ、寝技はスッゴイ下手くそなんですよぉ。ただ、総合やってる人で、柔道やってた選手は寝技は上手だと思うんですよ。フジメグにしても有希ちゃんにしても、ある程度は出来ると思うし。

——謙遜してるだけで、藪下さんも寝技はうまいと思いますよ。

藪下　アタシは全然出来ないですよ。柔道時代から有名でしたもん。寝技出来ないとか、練習しないとか言われて。

——逆に投げとかの方が得意だったんですか？

藪下　投げも得意じゃないですよ。

——この間の試合は一本背負いでＫＯしちゃいましたけど、得意ではない？

藪下　あれはホント、ビックリしました。あんなになると思わなかったんで。

——じゃあ、藪下めぐみの得意技って何になるんですか？

藪下　多分、アタシの昔の柔道の試合を見たらわかると思うんですけど、凄いずるいんですよ。

——金で動くだけでなく、〝ずるい女〟でもあると？

藪下　はい。たまたま、フランスから帰ってきた先生に柔道をずっと習ってたんですけど、その先生が教えてくれた柔道が凄い自分に合ったんですよ。で、アタシの柔道ってキレイな柔道ではなくて、ホントに、ずるい柔道なんです。

——逆に今回のアブダビみたいに賞金狙いで行くんだったら、ずるいぐらいの方がいいんでしょうけどね。

藪下　ずる賢く頑張ります。もし賞金もらえたら、そのままラスベガスに直行してギャンブルしてきます！

——そんな計画も立ててるんですか？

藪下　はい。あと、ラスベガスに行きたい理由はもう一個あって、ラスベガスのビルの上に遊園地みたいなのがあるじゃないですか？　あそこに新しい乗り物が増えたんですよ。フリー・フォールと、あとビルの方に飛び出るコースターみたいなのが出来たみたいで。

——それは怖そうですね。

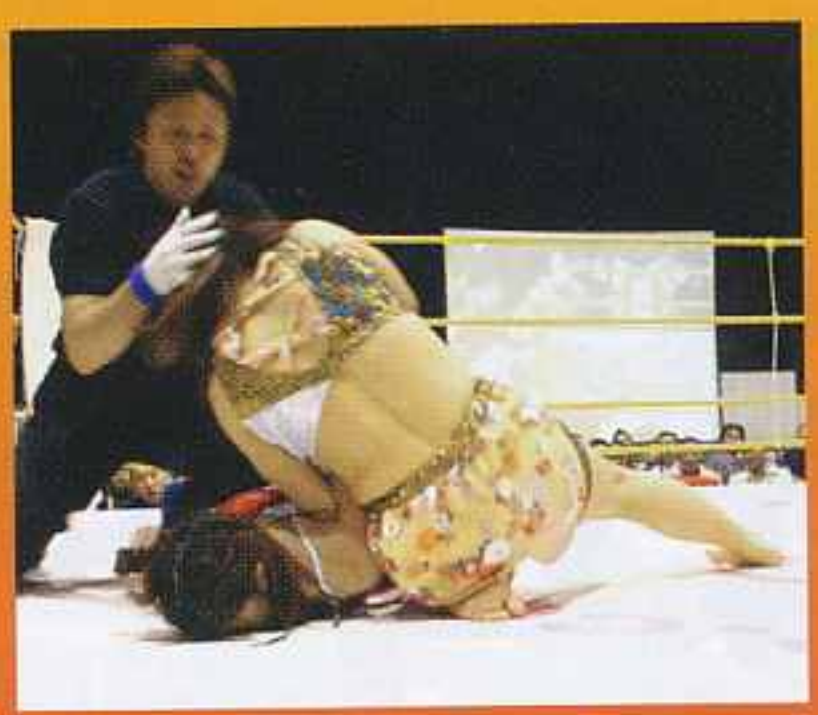
藪下　知り合いが、それに乗ったんですけど、「凄かった」って興奮して言ってたんで、アタシも行きたくて。そのためにも頑張らないと。

——そんな呑気なことを言いながら、実際試合になったら、いい試合を見せてくれるのが藪下さんの魅力ですから、期待してますよ！

藪下　いえいえ、今度こそはホント、自分のために楽しんできます！

——わかりました。適当に頑張ってきてください！（笑）。

4・30 スマックガール沼津大会 VS キム・ヒョンソン

4・30沼津大会。スマックガール初代ミドル級王座決定トーナメント、藪下めぐみvs韓国のキック王者キム・ヒョンソン戦。試合は、なんと開始からわずか29秒、藪下の一本背負いで頭から落ちたキムが失神KO!!

藪下の超高速一本背負いで頭からマットに突き刺さったキムに対し、脇固めで追撃した藪下。ここで、キムの失神に気付いたレフェリーが慌てて割って入り、試合をストップさせた。場内は一瞬にして凍り付く！

キムのセコンドに付いた“リアルプロレスラー”美濃輪や、招聘したCMA諸岡代表らが慌ててリングに駆け上がり心配そうに介抱する。しかし、キムは、なかなか意識が回復せず、担架で病院に直行となった

ミドル級トーナメントへ向け、過去には「絶対しない」と言っていた減量をし、2階級制覇を狙っていた藪下だったが、まさかの結末に表情も曇りがち。しかし数時間後、意識が回復したと聞きホッと一安心

ジョシュ・バーネット推薦として頑張ってきます！

近藤有希

4・30地元・沼津でマーロス・クーネン相手に総合引退試合を行った近藤有希。最後の総合マッチは残念ながら壮絶なKO負けとなってしまったが、近藤に休む暇はない。なぜなら、近藤はアブダビへの出場が決まっているからだ。しかも同じ階級には因縁の相手クーネンも出場する。果たして、近藤に3度目のチャンスは訪れるのか?

——4月30日の地元・沼津での引退試合お疲れ様でした！

近藤 ありがとうございます。

——残念ながらマーロス・クーネンに見事なKO負けを喫したわけですけど、試合的には、凄くいい試合でしたね。

近藤 そう言ってくれると嬉しいです。やっぱり負けたのは悔しいですけど、前回（※近藤は総合デビュー戦でクーネンと対戦。わずか2分37秒、腕十字で敗れている）と違ったところは、打撃がちゃんと見えていたので、それだけでも良かったかなと思います。

——開始早々、近藤さんの強烈なパンチがヒットして、クーネンも「一発目のパンチをもらってビビッてたじろいだ」みたいなことを言ってましたし。

近藤 逆に最後は、いいパンチをもらってしまって（笑）。でも気持ちいい負け方というか。

——試合後はフィニッシュは「よく覚えてない」って言ってましたけど。

近藤 ダウンしたんですけど、5カウントぐらいで気づいたんですよ。

——立ち上がって、ファイティングポーズを取ろうとしてましたよね。

近藤 はい。ヤバイなと思いながら、立ってファイティングポーズ取ろうとしたんですけど、レフェリーがストップかけて、「ダメかな～」と思いながら、また倒れてしまったんですよね。その辺からまたわからなくなって。

——その後、感動的な引退セレモニーも行われたわけですが、早速、5月の末には、また大一番が控えてるんですよね。

近藤 はい。アブダビコンバットに出ることが決まってます。

——クーネンとの引退試合の前からアブダビへの出場は決まってましたが、KO負けのダメージは大丈夫なんですか?

近藤 あ、私の方は全然ないので。

——腫れとかも特にないんですか?

近藤 クーネンのパンチで目の下を擦って、黒くなってるところはあるんですけど。あと、打撃で自分が殴った時に手にヒビが入ったのか、折れてるのかわかんないんですけど……。

——エッ！ 折れてるかも知れないんですか!?

近藤 わかんないんですよ、病院行ってないから（笑）。

——早く行った方がいいですよ（笑）。

近藤 いや、ちょっと様子を見ようと思ってたら、昨日ぐらいから凄い腫れてきてしまって。右手なんですけど。

——エ～、それって、もしかしてヤバイんじゃないですか?

近藤 大丈夫だと思うんですけど。

——でも、さすがに骨折だったら痛みでわかるような気もしますが。

近藤 わかりますね。全然動かせないので、「ヤバイかも」って思っているんですけど（笑）。

——下手したら、アブダビは最悪、欠場なんてこともあり得るんでしょうか?

近藤 あ、でも、全然大丈夫です。できます。

——影響はないと?

近藤 たぶん（笑）。

——ならいいんですけど。で、今回のアブダビ出場の話があったのは、いつ頃なんですか?

近藤 去年、静岡のスマック（12・19）があったときにジョシュ（・バーネット）と会って話をしたんですよ。その時「ボクはアブダビの推薦権を持っている」って言うんですよ。

——エッ、ジョシュって推薦権を持ってるんですか?

近藤 そうみたいです。出場する意思があるなら、藤井（恵）さんと私をぜひ推薦したいということを言ってくれて。

——じゃあ、近藤さんは日本代表じゃなくて、ジョシュ・バーネット推薦枠って感じなんですか（笑）。

近藤 私もよくわかんないですけど、そうだと思います（笑）。なんかジョシュが凄い推してくれたみたいなんですよね。

——それも面白い話ですね。でも、引退試合も決まってましたし、近藤さんのことですから、即答じゃなくて、出るかでないかは、かなり考えたんじゃないですか?

近藤 そうですね。一応、クーネンとの試合があったので1回考えて、しばらくして出る方向で伝えたんですよ。

——他の出場メンバーを知ったのはその後ですか?

近藤 その後ですね。

——近藤さんは、あまり他の選手のことは詳しくない方ですけど、結構知ってる名前が多いんじゃないですか?

近藤 知ってる選手ばっかりですね。クーネンとアマンダ・ブキャナーはやってるし、あと藪下さんも同じ階級なんで。

——アメリカ代表のデビ・パーセルも一度、スマックに来るって話もありましたし。

近藤 前は、よく出てきた名前ですよね。あとの方は、よくわかんないですけど（笑）。

——それだけわかれば十分だと思います（笑）。でもどうですか、ぶっちゃけ自信のほどは?

近藤 もう、いまからの練習しても日数もないから技術は伸びないと思うので、あとは気持ちの問題。引退試合が終わってホッとしている部分もあるので、精神的にもうちょっと盛り上げていかないとなあと思うんですけど。

——グラップリング系の試合は、最近は出てないですよね?

近藤 最近は全然出てないですね。キャプチャー辞めた後、1回出たくらいで。でも、こないだクーネンと試合をして分かったのは、あまり自分を追いつめないで楽しく試合をした方が自分を出せるのかなぁって。

——それはあるのかもしれませんね。クーネンも「近藤の寝技に付き合うのは怖かった」みたいなことを試合後に言ってましたから。

近藤 1回、クーネンがアキレス狙ってきたんですけど、全然決まってなかったんで、寝技に付き合う気はないんだなと。

4・30 スマックガール沼津大会 近藤有希ラスト・ファイト

4・30沼津大会。引退試合でデビュー戦で苦杯を喫したクーネンと対戦した近藤。セコンドにエンセン井上、ダンナさんの近藤哲也を従え入場した近藤には地元沼津の応援団から真っ赤な紙テープが投げ込まれた

開始早々、先手を取ったのは近藤有希。打撃が得意なクーネンに対し強烈なパンチをヒットさせクーネンをビビらせた近藤。その後、グラウンド状態でバックからチョークを狙われた近藤だったが、冷静に防御。

スタンドに戻りパンチを打ち合う両者。途中、近藤が足関節を仕掛けるも極めまでは至らず。そしてフィニッシュは突然訪れた。2R開始50秒、クーネンの鋭いパンチが近藤をとらえ、壮絶なKO決着となった！

試合後、マイクを取った近藤は「スマックガールが『PRIDE』やK-1に負けないような大会になってくれたら嬉しいです」と挨拶、5年間の現役生活に終止符を打った。最後は選手＆関係者みんなで記念撮影

――バックからチョークを狙われたりという場面もありましたけど、特に怖さはなかったんですね。

近藤　あ、それも全然大丈夫でしたね。多分、クーネンも極めるつもりはなくてバランス取ってるぐらいの感じだったんで。

――クーネンとは階級は一緒ですし、3度目の正直じゃないですけど、やっぱり一度は勝ちたいですよね。

近藤　そうですね。2度あることは……

とならないように（笑）。

――あと、組み合わせ次第では藪下さんと当たる可能性もありますよね？

近藤　総合でやるのはちょっとイヤだったんですけど、グラップリングだけでしたら、やってみたいというのはありますね。

――同じ柔道出身ですけど、どういう印象があります？

近藤　藪下さんは柔道をやってたときから見てきているので、身体能力が高いのは知ってますし、あと私が一つずつ動きを決めていくタイプなのに対して、藪下さんは動きが速いので、自分の動きで闘えたらいいなと思いますね。

――もし闘ったら自信はあります？

近藤　そうですね。やるからには勝ちたいですね。

――その藪下さんは、今回のアブダビ出場を決めたのは、ズバリ賞金狙いということです（笑）。

近藤　藪下さんらしいですよね（笑）。でも、スマックのときみたいに、またクーネンが賞金持っていく可能性もあるんじゃないですか（笑）。

――あ、そうか。スマックのときは藪下さんに勝ったクーネンが一千万もらったんですよね。近藤さん的には賞金は意識します？　いくらぐらい出るのか具体的にはわかんないですけど。

近藤　私は、お金というよりかは楽しく格闘技をしたいですね。

――総合の方は引退されたわけですけど、今後はグラップリングとかの試合はやっていきたいって感じなんですか？

近藤　試合をするかどうかはわからないですけど、太らない程度にはやりたいですよね（笑）。

――体調維持のためには続けていく、と（笑）。ところで、アブダビのルールって把握してます？

近藤　昔から結構変わったルールということは聞いていたのですけど。初めの何分かはポイントが入らなかったりとか。

――そうなんですよね。いつの間にかポイントを取られていて、気付いたら負けてたってこともあるみたいですし。

近藤　私もルールはいつもよくわかってないんですけど。

――いつもわからないで試合をしていると？（笑）。

近藤　はい（笑）。なので1回はルールに目を通しておきます。

――海外での試合って、柔道時代も含めて何回かあると思うんですけど、いかがですか？

近藤　私、海外だと食べ物とか衛生的な面でやられてしまうんですよ。

――敵は衛生面ですか（笑）。

近藤　柔道時代に海外に行って、8キロだったかな？　試合前に体重が減ってしまって。

――8キロ!?　別に減量したわけじゃないんですよね？

近藤　それは関係なく（笑）。お皿が凄い汚くって食べられなかったり、あと水もサビが出てきたりとか。私、精神的にやられると体重が減るんですよ。で、試合のときも体重が軽すぎてヤバかったです。

――では衛生面には十分気をつけて、アブダビ頑張ってください！

近藤　ありがとうございます。頑張ってきます！

マーロス・クーネン

得意の打撃で総合引退となる近藤有希を下したクーネン。彼女も初の女子アブダビ出場が決定している。60キロ以上級へエントリーしているクーネンが、組み技でも、その強さを発揮できるのか？　本人を直撃すると「近藤は寝技が強いから、スタンドで勝負したんだけど、実は寝技も自信があるの（笑）。それに初の女子大会に出られるのも嬉しいわ」とニッコリ。頑張ってください！

ADCC 2005

～第6回サブミッション・レスリング・ワールド・チャンピオンシップ～

5月28日～29日
アメリカ・カリフォルニア州ロングビーチ

【ADCC女子部門出場予定選手】

★－60kg級

藤井恵（日本）
キーラ・グレイシー（ブラジル）
レカ・ヴィエイラ（ブラジル）
レティシア・ヒベイロ（ブラジル）
ギャジー・パーマン（アメリカ）
レオノア・ココ（アメリカ）
ロクサン・モダフェリ（アメリカ）
タラ・ラローサ（アメリカ）
エリカ・モントーヤ（アメリカ）
サリ・レツェボスキー（オーストラリア）

★＋60.01kg級

藪下めぐみ（日本）
近藤有希（日本）
ジュリアナ・ボルゲス（ブラジル）
アネッチ・エスタック（ブラジル）
デビ・パーセル（アメリカ）
ジェシカ・ロス（アメリカ）
アマンダ・ブキャナー（アメリカ）
カミラ・グェルステン（ノルウェー）
マーロス・クーネン（オランダ）
ステイシー・カートライト（オーストラリア）

※ 次号の『紙のプロレスRADICAL.NO88』で、アブダビ出場の女子はもちろん、注目の男子選手にも直撃取材を敢行！（予定）
イチかバチかのアブダビ特集をお楽しみに!!

チョロの
女子バーネット
SPECIAL

フジメグ、セコンドでハッスル!?
4・29&30スマックガールダイジェスト

4・29北沢大会の第１部ではグラップリング1Dayトーナメントが開催された。アブダビ出場が決まっている藤井恵は自身が所属するAACC勢のセコンドとして大活躍。しかし、期待のSAYAKAは一回戦敗退

4・29北沢大会【第２部】シンデレラトーナメントに出場したフジメグ率いるガールファイトAACCの赤野仁美。赤野はSODのせりの打撃に苦しみながら、得意の寝技に持ち込み一本勝ち。２回戦進出を決めた

4・29北沢大会【第１部】-48キロ級決勝で激突したのはガールファイトAACCの玉田とTEAM TOPSの尚美。試合は１Ｒ３分８秒、スリーパーを極めた玉田が勝利。プレゼンテーターは柔術王・ビビアーノだ！

4・30沼津大会。初代ミドル級王座決定トーナメント1回戦Aブロック“フランスの弾丸娘”テビ・サイと“爆発娘”菊川夏子が対戦。試合はテビがフルマークの判定で勝利。8月の代々木大会へコマを進めた

東京・北沢タウンホール　静岡・キラメッセ沼津

4・29&4・30 スマックガールアラカルト

4・30沼津大会。6月の後楽園大会で行われる辻結花vsＸの初代ライト級王者決定戦の勝者への挑戦権を賭けたトーナメントがこの日より開幕。１回戦第１試合は、正体不明のマスクマン15が吉田正子を判定3-0で下し2回戦進出を決めた

4・29北沢大会【第２部】ネクストシンデレラトーナメント1回戦、端貴代（和術慧舟會東京本部）vsバッカス羽鳥（BBdoll）の一戦は、長身を活かしたバッカスの打撃に手こずりながらも、これを冷静に対処した端が判定3-0で勝利！

4・29北沢大会【第２部】ネクストシンデレラトーナメント1回戦、YUKARI（パレストラ千葉）vs横瀬いつか（チーム南部）戦。南部虎弾をバックに、同門の篠原光、石川美津穂と揃いの特攻服で入場の横瀬は現役レースクィーンでもある。

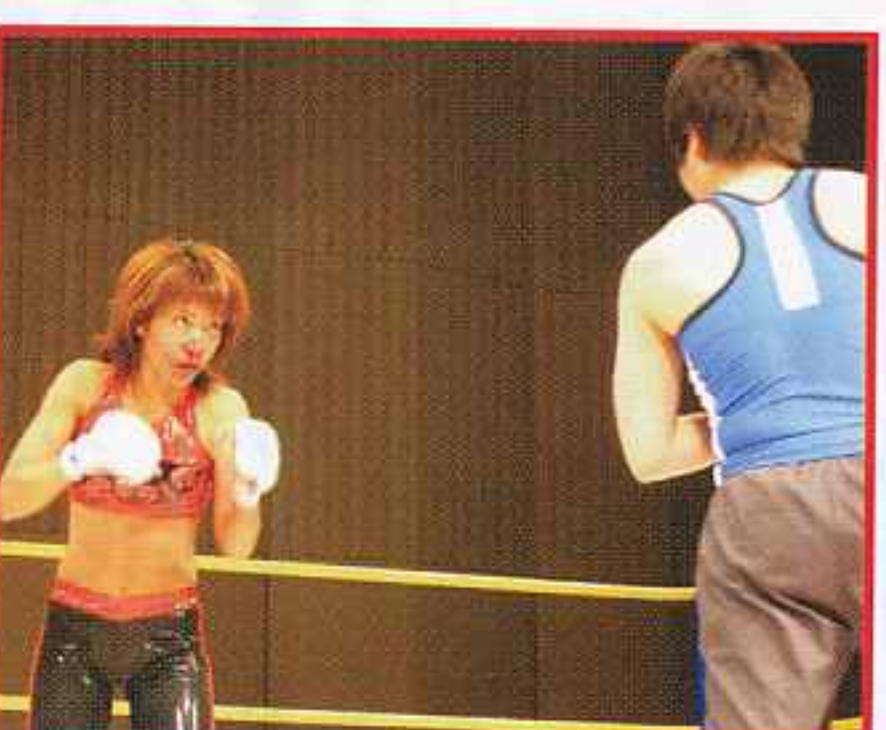
4・30沼津大会。ライト級王座次期挑戦者決定トーナメント、おっさんvs舞の一戦。試合は舞がシャープな打撃の連打で攻め立てるも、おっさんのタックルに何度もテイクダウンを許し判定1-2で敗退。おっさんが2回戦進出を決めた

4・29北沢大会【第２部】休憩明けに、篠代表から呼び込まれリングインしたのは、写真集が好評発売中の羽柴まゆみと、大森ゴールドジムでプロレス教室をスタートさせる伊藤薫（絶賛開講中）。２人は５月の韓国大会への出場が決定している。

"篠原の妹分"横瀬いつかは特攻服を脱ぐと、なんとＴバック丸見えコスチューム。ゴングと同時に突進した横瀬だったが、"房総の暴れ馬"YUKARIがグラウンドに持ち込み腕十字で勝利し2回戦進出決定。悔し涙を浮かべた横瀬の次戦にも期待！

すっかり名物となった、スマックガールラウンドガール・のぞみちゃん（一応、辻ちゃんと同じ闇愚羅所属）。試合が進むにつれ、徐々に露出度がアップしていくのもお馴染みに。29日の北沢大会では思わず乳●がポロリする場面も。ドキッ！

4・30沼津大会。ライト級王座次期挑戦者決定トーナメント、松本裕美vsジェット・イズミの一戦は、このところ2連勝と調子に乗る松本が、キックでも活躍するジェットに打撃をヒットさせ、僅差の判定ながら勝利を収め2回戦進出！

4・29北沢大会【第２部】この日のメインを飾ったのはタレントの深谷愛vs茂木康子の一戦。セコンドに三崎を付けた愛ちゃんが、得意の打撃で健闘するも、最後は柔術女王・茂木の腕十字で一本負け。愛ちゃんの「もう一丁！」が聞きたい！

4・29北沢大会【第２部】ネクストシンデレラトーナメント1回戦、永易加代（パレストラ東京）vs渡邉浩財子（SOD女子格闘技道場）戦は"素敵な二児のママ"渡邉が鼻血まみれで奮戦するも判定3-0で永易が勝利、2回戦進出を決めた

4・29北沢大会【第２部】ネクストシンデレラトーナメント1回戦、佐々木絹加（暗愚羅）vs森藤美樹（TEAM TOPS）戦は、セコンドに辻ちゃんを付けた佐々木が、渋谷スマック旗揚げ戦で八木淳子と闘った森藤を判定で下して嬉し涙！

4・30沼津大会。休憩明け篠代表から6・28後楽園で行われるミドル級王座決定トーナメント出場が決まった大向美智子が紹介されリングイン。大向は「総合は初挑戦になりますがプロレスラーらしい華麗さを見せたい」とアピール。

4・30沼津大会。元アストレスの石川美津穂が地元沼津で総合ﾌﾟﾛﾃﾞﾋﾞｭｰを果たすも、パレストラ小岩の斎藤"edge"あゆみの強烈な打撃でTKO負けを喫した。試合後、石川は「凄い悔しいんで、たくさん練習して次は勝ちます！」と宣言！

韓日国交正常化40周年記念大会
SMACKGIRL～KOREA FIGHT 2005～
■日程:2005年5月21日（土）
■場所:韓国　ドリームタワーナイトクラブ
■参戦予定選手:
伊藤薫（BBdoll）/たま☆ちゃん（SOD女子格闘技道場）/羽柴まゆみ（BBdoll）/せり（SOD女子格闘技道場）/横瀬いつか（電撃ネットワーク・チーム南部）/HARI（フリー）/エミリー・クワーク（パレストラ小岩）/イ・ヨンジュ（韓国）/チョン・ヘンスク（韓国）/ハム・リヒ（韓国）/キム・ハナ（韓国）/イ・スヨン（韓国）
※ 韓国VS日本5対5対抗戦 他を予定

SMACKGIRL2005 ～Road toDynamic!!～
■開催日時:2005年6月28日（火）
開始時間未定
■開催場所:後楽園ホール

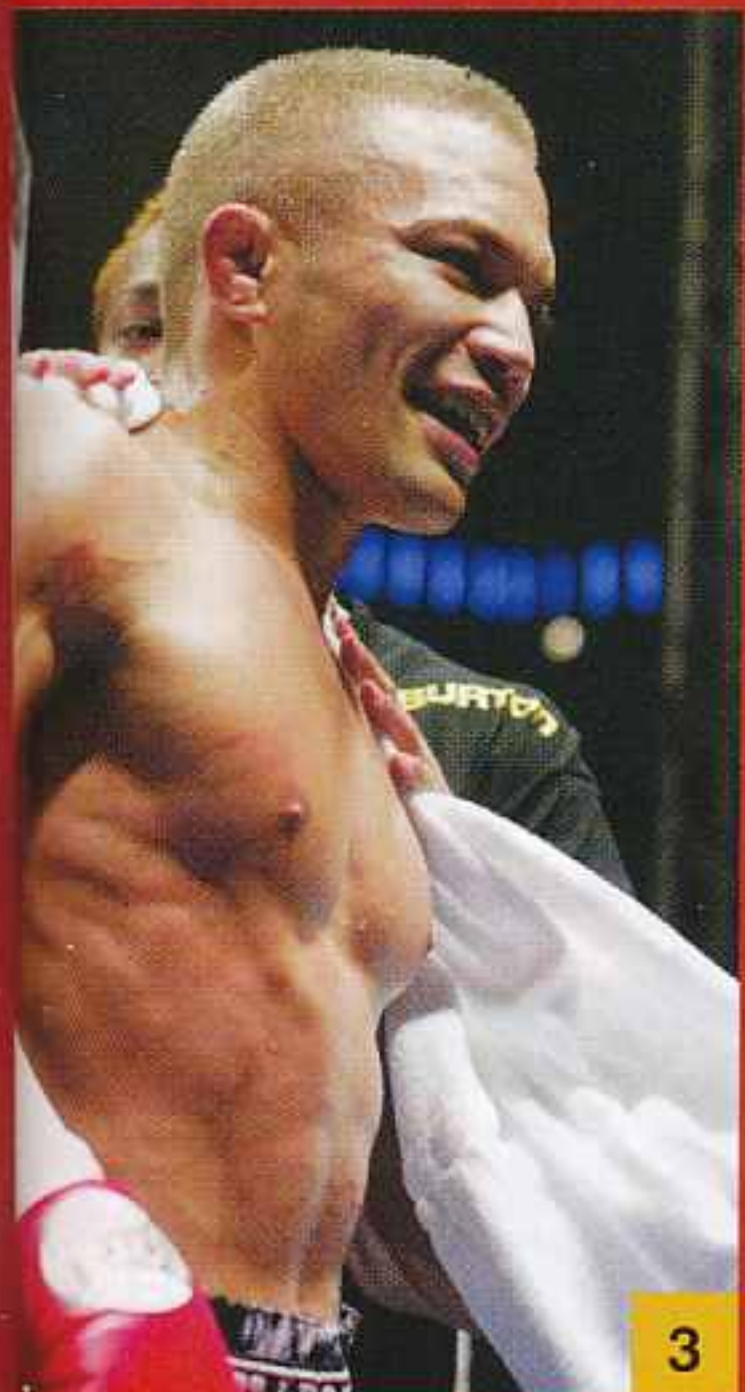
■予定対戦カード:
□スマックガール初代ライト級王座決定戦
SGS公式ルール
辻結花（総合格闘技闇愚羅）vsX
□スマックガール初代ミドル級王座決定トーナメント
□1回戦Bブロック　SGS公式ルール　5分2R
エリカ・モントーヤ（米国/ネクスト・ジェネレーション）vs真武和恵（和術慧舟會東京本部）
□1回戦Bブロック　SGS公式ルール　5分2R
大向美智子（M's STYLE）vsX
□スマックガールライト級王座次期挑戦者決定トーナメント準決勝進出選手
15（所属不明）/おっさん（総合格闘技闇愚羅）/松本裕美（PUREBRED京都）
X（シード選手・調整中）
□準決勝　第1試合・第2試合　□決勝戦

【お問い合わせ】スマックガール実行委員会
TEL.03-3324-8790

"カッコイイ"とはこういうことだ!!

「K-1 MAX」の勢いと"ミスター・ストイック"から目を離すな!!

有明コロシアム史上最高の観客を集め、TBS系列で放送されたTV中継も平均視聴率20%を突破した5・4『K-1 WORLD MAX 2005開幕戦』。ささきぃの立ち技格闘技応援ページ『STAND BY ME』は、拡大版で『K-1 MAX』の面白さを語ります! それでは橋本さん、今月もよろしくお願いします! スリー、トゥー、ワン、うぅ〜、マックス!(マックス違い)

構成/ささきぃ　リトアニア格闘技評論家/橋本宗洋
試合写真/乾晋也　designed by bun-chan (Two Three)

いまの「K-1MAX」はミーハーファンと日陰者の格闘技マニア両方が楽しめる大会になったと思うよ（橋本）

ささきい 今回は5・4の『K-1MAX』があまりに面白かったんで、コヒ語録つきの特別バージョンでお送りする「STAND BY ME」です。まず橋本さんの感想はいかがでしたか？

橋本 ホント面白い大会だったし、お客さんもたくさん入ったし、『MAX』はあらためて勢いがあるなって感じだね。

ささきい まぁ、前号で積極的にプッシュしたダリウス・スクリアウディスは、まさかの結果になっちゃいましたけど……。

橋本 途中まではいけると思ったんだけどなぁ。

ささきい 正直、リングス勢が持って生まれた運の弱さを感じましたね（笑）。

橋本 逆にコヒは、何か大きな運みたいなのがついてきてるのかなぁって思うね。闘わずして相手を壊す、これこそが武道の極意だよ（笑）。

ささきい 自分のスネを鍛えて勝つと。

橋本 そう本人が言ってるんだからそうなんだよ（笑）。あと大会全体について言えば、俺は本流の選手じゃなくて、いつもジョン・ウェインとかアンディ・サワーとかダリウスとか言ってるけど、そういう選手を随時導入していく『MAX』っていうのはエライなと思うな。谷川さんには「ハッシーが好きそうなカードばっかりでしょ」って言われたし（笑）。

ささきい ミーハーなファンの心も掴みながら『MAX』の世界をひっくり返してくれって望んでるようなマニアの琴線に触れる選手を随時導入して新陳代謝を行なっているわけですよね。

橋本 そうそう。そういう意味でいまの『MAX』は本当に凄いんだけど、『紙プロ』読者の大部分は「しゃらくせえ」って思ってんのかね。

ささきい しゃらくせえでしょうね（笑）。

橋本 「小比類巻～？ 何がミスターストイックだよ、けっ」って思っちゃうかもしれないけど、そこで立ち止まらないでほしいね。アンチ・コヒ派よ聞いてくれと。面白いぞコヒは、と。今回のガッツポーズとかもねぇ、ホントしびれたね（笑）。

ささきい 度肝ぬかれましたよね（笑）。

橋本 "若者に圧倒的人気の『MAX』"とか言われると背を向けたくなるような、日陰者根性を持った格闘技マニアがいるわけじゃない？ ま

現在進行形のドラマ、"ミスター・ストイック"の魅力を追う!

小比類巻貴之語録

日本トーナメントV2を果たした小比類巻貴之。谷川プロデューサーも認める神懸かり的な運の強さと実力を持ち合わせた男は、前蹴りだけではなく言葉の破壊力もモノ凄い。ここではその発言のごく一部を抜粋した。貴方はまだ、コヒの本当の魅力を知らない!

復活だー!!

【2003年11月18日　トニー・バレントに勝利して】
『MAX』内でも屈指のキャラ立ち外人、トニー・バレント初登場。スランプと言われていたコヒ、見事3RでKOして自ら復活を宣言! その後、本当に復活してしまったところがコヒの凄さである。

今日はオレの日でした

【2004年4月7日　日本トーナメントを制して】
日本人王者となったコヒはこの日カメラに向かって左フック、ウィンク! 映像は永久保存版。ちなみにこの年の優勝賞金は全額母親へ渡したという。

毎日牛乳を1リットル飲んでたって書いてありましたけど、ホントは3リットルなんですよね……。

【1999年9月、ファンクラブ会報上で】
ファンクラブ会報で「背を伸ばすため、牛乳を毎日1リットル飲んでいた」と書かれたことに対して抗議(?)。極真空手の稽古帰りなど、コンビニに立ち寄って1リットル牛乳を買い、レジの前で飲み干すこともしばしばだったという。

相手が先に来ちゃったんだからしょうがないよ 俺にはあれが精一杯だったんだ

【2004年7月7日　ブアカーオ・ポー、プラムックに敗北】
世界トーナメント、苦手と言われるムエタイの前にKO負け。試合後「先に行くって言ったじゃない」とダメ出しする母親に対し、やや逆ギレ気味に一言。翌日は旅に出た。

好きな女性…。君かな?(ファンの男の子を指さして)

【K-1 PREMIUM FAN CLUB上で行われた、ファンによるインタビューにて。おそらく2005年2月25日】
「好きな女性のタイプを教えてください!」という質問に対し、コヒギャグ炸裂。相手の男の子の「ボクですか!?」という返しも可愛い。

レベルの高い人なら、オレの近くに簡単に入ったら危険だという信号を察知できる

【K-1オフィシャルHPインタビュー。おそらく2005年5月5日】
もはや剣豪の域に達したコヒ。ダリウス戦で入場曲を昔のものに戻した理由を「夢に見たんですよ。その方が盛り上がるって」と語っているなど、コヒファンもコヒマニアも必読のインタビューである。

自分、スネの固さには自信があるんで。

【2005年5月4日　ダリウス・スクリアウディスに勝利】
このまま行けばダリウスの勝ちか、と思われた瞬間、ダリウスが左足甲を負傷。スネを鍛えていたコヒは写真のガッツポーズ! 日陰者格闘技マニアの思い届かずの瞬間だった。

タンクトップは好きです

【2005年2月25日　一夜明け会見にて】
2月なのにタンクトップで登場したコヒを見て驚いた記者が「好きなんですか?」と質問。少しテレ笑いしながら答えてくれた。

次は……ブッ殺します!

【2002年2月11日　リング上にて】
魔裟斗に判定で敗れた直後、悔しさに固まりながら一言。この発言だけでも十分魅力的なファイターなのに、これだけで終わらなかったところがコヒの素晴らしいところなのだ。

1 王者・魔裟斗に対していいところを見せられなかったイム・チビン。ライト級時代のバランスの良さが崩れていたことが惜しまれる。魔裟斗は左足のじん帯を伸ばしていた状態だったがケガを押して強行出場 2 "勝ち方"を覚えた感のあるアルバート・クラウス。入場の甲冑は本人の好みだが、判定勝利で四方へガッツポーズすることについては首をかしげたい 3 初のKO負けを喫しながらも話題をかっさらっていった山本KID徳郁。負けっぷりも良ければ「負けるならコレだな。目覚めちった。このテンションでもう1回やりたい!」というコメントも抜群 4 リングサイドに座った前田日明軍団。柴田勝頼、村上和成、山本宜久、前田日明。となりに居るのは秋山成勲か? 村上和成のスキのない若頭っぷりは完璧である 5 スーパーファイトで登場した"日本人最後の大物"佐藤嘉洋。完全に試合ペースを握って圧倒したが、解説の畑山隆則は「地味でいやらしい選手ですね」とコメント。本人は「100点満点中10点」と猛反省 6 全日本キック・山本優弥がオープニングファイトで史上最年少のK-1デビュー、3Rでダウンを奪い判定勝利。谷川プロデューサーは「若くてイキがよくて、表情もいいですね」と対戦相手の城戸康裕とともに高評価 7 安廣一哉が初の開幕戦出場。勝利への執念ムキ出しでパンチを振り回すジャダンバと好ファイトを繰り広げたが、判定で涙を飲んだ

を持った格闘技マニアがいるわけじゃない? まあオレもそういう気質はあるし。そういう人たちはジョン・ウェインだったりアンディ・サワーだったりに感情移入してもいいわけだし、クラウスの衣装も面白いし。

ささきぃ　魔裟斗は見ていて本当に感動できるところもあるんですけど、コヒは運の強さも重なって、見てるだけでもう、楽しみでしょうがないですからね(笑)。

橋本　積極的にコヒを楽しもうよというのは、声を大にして言いたいね。コヒモデルのサングラスを買うぐらいの勢いでいけど(笑)。

われると背を向けたくなるような、日陰者根性

“前田日明の小さな恋人”

レミギウス・モリカビチュス

「キッド・ヤマモトの瞳の中に
炎が燃えている
そこに共感を覚えますね」

Morkevicius Remigivivs

ダリウスがK-1 MAXで“自爆”してもリトアニアにはこの男がいる!

前田日明の活動再開によって注目度が急上昇中の『ZST』。5.3Zepp Tokyo大会には前田に加えK-1の谷川Pも来場した。K-1 MAXではダリウス・スクリアウディスが敗れたが、やはりリトアニアの最終兵器は『HERO'S』参戦も噂されるレミギウス・モリカビュチス。総合タッグ戦史上に残る激闘を終えたばかりの“前田日明の小さな恋人”を控室で直撃した!

聞き手／橋本宗洋　撮影／乾晋也　designed by bun-chan (Two Three)

前田日明も熱視線!

前田さんには日本刀の本と『五輪書』をもらいました。でも、英語の本なので読めなくて……（苦笑）

――今日の試合（エリカス・ペトライディスと組んで所英男&勝村周一朗組と対戦。勝村に三角絞めでタップを奪われ敗戦）は非常に残念でしたね。

レミギウス　打撃で押しまくってはいたんですけど。今日の負けを悔やんではいないです。現在の自分の力を全部出し切ったつもりでいますから。ただコンディション的にちょっと問題があったんですよ。ある出来事があって、それから2カ月は体調を維持する程度の練習しかできていなかったんです。

――それはケガか何かですか、それともプライベートでの問題？

レミギウス　プライベートのことです。だから申し訳ないんですけど、こういう場ではあまり話したくなくて……。

――分かりました。

レミギウス　だから、調子が悪いなりにやることはやったという気持ちはあるんですけど、お客さんには申し訳ないことをしたと思ってます。もっといい試合が見せたかったし、期待も感じていたんですけど。やっぱりボクも普通の人間ですから……。

――ただ、対戦した勝村選手は「もう二度とレミギウスとはやりたくない」って苦笑してましたよ。

レミギウス　そう言われると、どう答えていいか（苦笑）。ボク自身も、日本のファイターはみんな強いって分かってますから、彼にもリスペクトを捧げたいと思います。それだけに、今回は失礼なことをしてしまったという気持ちがあるんですよ。次の大会では、必ず最高のコンディションで闘うことを約束します。

――『ZST GP2』の決勝で対戦を希望していながら実現しなかった所選手とは久々の顔合わせですが、闘ってみていかがでしたか？

レミギウス　今日、リングに上がったボク以外の全員が尊敬できる選手だと思いました。所選手も、やはり素晴らしい選手でしたね。前に闘ったときよりもさらにレベルアップしているのを感じました。

――レミギウス選手を見ていると、いま話しているときのように普段は凄く物静かですよね。だけど試合になるとメチャクチャ獰猛じゃないですか。そのスイッチの切り替えっていうのはどういう感じなんですか？

レミギウス　それは難しい質問ですね……。というのも、ボクは今日の試合で、そのスイッチの切り替えができなかった。肉体的なスイッチは切り替えられたんですけど、精神的なスイッチが入らなくて。いつもの試合なら、日常生活とはまったく違う自分になることができるんですけど。

――日本では、今年に入ってリングスの前田日明さんが活動を再開し、『HERO'S』という大会のスーパーバイザーに就任しました。そのことで『ZST』や『リトアニア・ブシドー』を巡る状況も変わってきていると思うんですが、そういう変化に対してはどう感じていますか？

レミギウス　もちろん、我々にも様々な影響があるのは感じてます。いろいろな形でボクたちを盛り上げていこうとしてくれているのも感じますし。今日の大会を見に来ていただいたのも光栄です。それだけに、いい試合ができなかったのが残念で。こういうときだからこそ、スイッチの入った本当の自分を見せたかったのに……。

――いやいや、そんな悪い試合じゃなかったですよ（笑）。とりあえず今日の結果のことは忘れて話しましょう。前田さんは4月のリトアニア大会も視察されていますが、4月、それに今回と前田さんが見ていることは心理的にどんな影響がありましたか？

レミギウス　マエダさんが見ていることで、いつも以上に頑張らなければいけないなと思っていましたね。

――前田さんに会うのは、4月が初めてだったんですか？

レミギウス　そうです。マエダさんはボクだけじゃなくてリトアニアのファイター全員から尊敬され続けている存在ですから、お会いできたことは本当に嬉しかったですね。

――何かお話はされたんですか？

レミギウス　リトアニアでマエダさんに言われたのは、「打撃は凄くいいけど、もっと寝技を鍛えないといけない」ということですね。それから『HERO'S』に呼ぶかもしれないと。……まあ、そういったような内容だったんですが、プロモーターと選手の会話というより、親子のような雰囲気でしたね。父親にお説教されてるような感じで。

――そういう会話は、日本人選手もかなり経験してると思います（笑）。前田さんには、本をプレゼントしてもらったそうですね。

メイン終了後、勝村がリングスルールでの所との再戦をアピール。すると会場からは大“アキラ”コールが発生。これに応えて、ついに前田が『ZST』マットのド真ん中に登場！

レミーガ敗れる！　5・4 ZST・7タッグマッチREVIEW

ダリウスがK-1出場、セミの小谷直之VS野沢洋之が野沢のケガで中止と手薄感漂う今大会だったが、メインの所&勝村VSレミギウス&エリカスが大爆発！　リトアニア組がド迫力の打撃で攻め込めば、所も掌底で応戦。フラフラになりながらも打撃をしのぎ、攻め疲れの見えるレミギウスから勝村が三角絞めで一本！　エキシビジョン風になりがちな総合タッグマッチも、『ZST』ではスリル&勝負論で沸点を超えてみせるのだ。

フルタイム闘って、三角の一本により日本勢が勝利。勝村はもちろん果敢な打ち合いで試合を引っ張った所もお見事！　試合後は揃って谷川Pにスカウトされていた。

勝村の三角絞めでレミギウスがタップすると、勝村応援団が多数詰め掛けた場内は超大歓声！　大ショックのレミギウスは、試合後もヘコみまくり……。

不調だったとはいえ、レミギウスの豪快な打撃は相手にとって恐怖そのもの。初対決の勝村も、ヒザをさんざん食らって防戦一方に。「クラッときましたね」（勝村）。

ボクは大きな大会に出たりお金を稼ぐのが目的じゃない。地球上に自分の居場所を見つけたいだけなんです。

レミギウス　2冊もらいました。1冊は日本刀についての本で、もう1冊は『五輪書』でした。ボク自身、日本の文化、特にサムライについては興味があるので嬉しかったですね。でも英語の本だったので、辞書を引きながら読んでいるところです（笑）。

——まあ、『五輪書』は日本人が読んでも難しいような本ですから（笑）。

レミギウス　リトアニアにも似たような種類の本があるので、それを参考にしながら読んでるんですよ。

——前田さんはレミギウス選手の素質に本当に惚れ込んでいて、一目見るなり「これはモノが違う」と言っていたらしいですね。今日の試合でも、レミギウス選手は〝前田日明の小さな恋人〟と紹介されてたんですよ。

レミギウス　そうなんですか！　それは……光栄です（笑）。

——前田さんからも出場を要請されている『HERO'S』なんですが、そういう大きな舞台に出ていくということに関してはどう受け止めてますか？

レミギウス　ああいう大きな大会に出られることは非常に光栄なことですし、喜んで出たいと思ってます。ただ、ボクが本当にしたいのは大きな大会に出ることやお金を稼ぐことではないんですよ。ボクが生きているのは、この地球上で自分の居場所を見つけるためで、その場所が大きいか小さいかは関係がないんです。

——以前、リトアニアでインタビューさせてもらったときに「複雑な家庭環境で育った」と言われてましたが、そういうことも関係してるのかもしれないですね。

レミギウス　そのときもお話したと思うんですが、ボクは自分の場所を見つけたいし、そこに傘を立てたいと思っているんです。雨が降ったらその傘を開いて、傘を持ってない人たちをできるだけ多くその下に入れてあげたい。ちょっと哲学的なたとえなんですけど、そうすることがボクという人間のステージを高めてくれることにもなると思ってます。

——いま格闘技に取り組んでいるのも、そのための道ということですね。

レミギウス　そういうことです。そして同時に、格闘技はボクの人生すべてでもある。子供の頃からこれ一本で生きてきて、ボクという存在と格闘技は切り離せないものになっていますから。

——『HERO'S』のような大きい大会に出るのはいいけれども、レミギウス選手の人生にとって意味があるものでなければいけないと。

レミギウス　そう思います。

——『HERO'S』では7月の大会から70キロのトーナメントを予定してるんですけど、誰か闘ってみたい選手はいますか？

レミギウス　できるだけベストなファイターと闘いたいです。マエダさんからは「キッド・ヤマモトと闘わせたいと思ってる」と言われましたね。

——山本KID選手ですか！　そうなったらホントに凄い打撃戦が見られそうで楽しみですけど、レミギウス選手としてはいかがですか？

レミギウス　人間の存在を定規のように計ることはできないので細かい評価はしたくはないんですが、やはり彼も尊敬に値する選手ですね。もし実際にオファーがきたら、喜んでお受けしますよ。彼が闘っている姿を見ると、とても親密なものを感じるんですよ。共感とでもいうか。

——共感ですか。それは具体的にどんな部分に感じるんですか？

レミギウス　彼の瞳の中には、炎が燃えているんですよ。そこにファイターとして、とても感じるものがありますね。

——瞳の中で炎が燃えてますか！

レミギウス　試合を見ているだけで伝わってきますよ。

——レミギウス選手のことはK-1の谷川プロデューサーも高く評価していて「K-1 MAXに出てほしい」とも言っているんですが。レミギウス選手はK-1ルール、バーリ・トゥードでも問題はないですか。

レミギウス　大丈夫です。でもどのルールが一番いいかと言われればVTですね。自分の力が一番発揮できると思います。ヒジ打ちありならなおいいですね。

——KID選手とヒジありでガンガン打ち合うところは見てみたいですねぇ。では最後に、もし本当に『HERO'S』に出たら、そこでどんなモノを見せたいと思ってますか？

レミギウス　自分の中で最高レベルの闘いをお見せしたいと思います。そしてファンの人たちに喜んでもらいたいです。そういう気持ちは『ZST』でも『リトアニア・ブシドー』でも常に持ってますから、繰り返しになりますけど今日の試合は本当に申し訳ないと思います……。

——いやいや、それはホントにもう大丈夫ですから（笑）。次の試合でレミギウス選手の本当の強さを大勢のファンに見せ付けてください。

『ブシドー』ドナタス代表は前田復活でいち早くリングス・ロゴ入りTシャツを製作。この機転というかちゃっかりぶりもリトアニア躍進の秘訣か

Morkevicius Remigivivs

リングス前田日明総帥のありがたい大会総括

レベル上がってるやんけ！

レベルが上がっている。グラウンドの打撃が制限されている分、グラウンドの技術があるね。ZSTのトップの選手は、世界に出て闘えるレベル。世界にも、ZSTでやらせれば面白い選手もいるし、ここの選手を『HERO'S』に引き上げることもできるし、うまく循環させて発展させたいね。レミーガはいつもよりも力が入りすぎてたね。　メインのタッグ形式は、隣にいたブラジル人のプロモーターのセルジオ・マックレイに聞いたら、「選手が常にいいコンディションで闘うことができるのでいい」と言っていた。リングス・リトアニアはネットワークの面では最先端をいっている。（旧リングス・ロシアの）パコージンは一人で何でもやって突き進んでいくタイプだったが、ドナタスはいろんな人を巻き込んで、物事を進めるのが上手い。（所に対して）リトアニアで評判になっているから、気をつけて下さいよ（笑）。グローブは付けなくてもいいけど、ゴム付けないとな。

試合後、コメントルームでもご機嫌だった前田総帥。まさに「俺の団体」と言わんばかりの我が物顔っぷりだった。

世界最高のラウンドガールはZSTが決める!3代目も“山本KID級”の逸材だ!!

ZST GIRL

吉田早紀 小野寺愛

ラウンドガールと言えば、ZST! ZSTと言えば、ラウンドガール!
と言い切っても過言ではないぐらい業界最高峰のラウンドガールを揃えるZST。
前田日明も来場の5・3Zepp Tokyo大会では3代目が初お披露目。見てみぃ、このカオ! このカラダ!

撮影／乾晋也

SAKI YOSHIDA

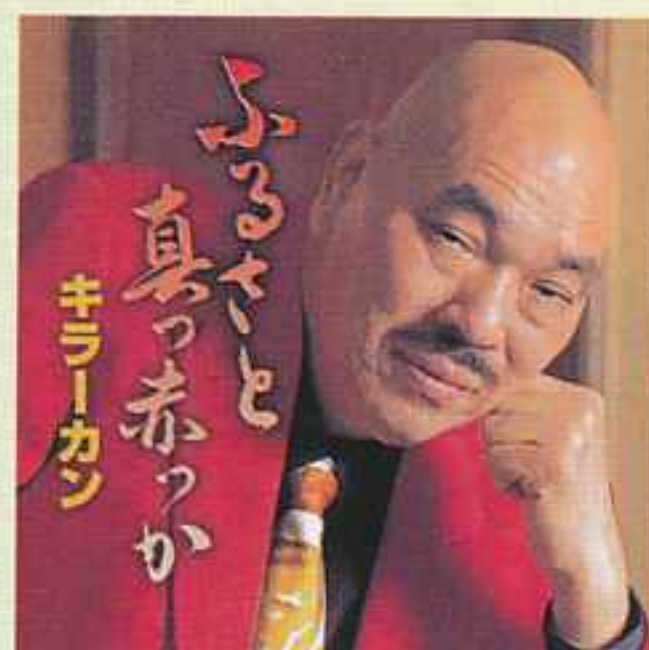
3代目の早希ちゃんはZSTガール史上最年少の16歳デビュー! しかも、現役女子高生!! 初の格闘技観戦となった「SWAT!」では、そのナマの迫力にビビってたじろいてしまったらしい。

AI ONODERA

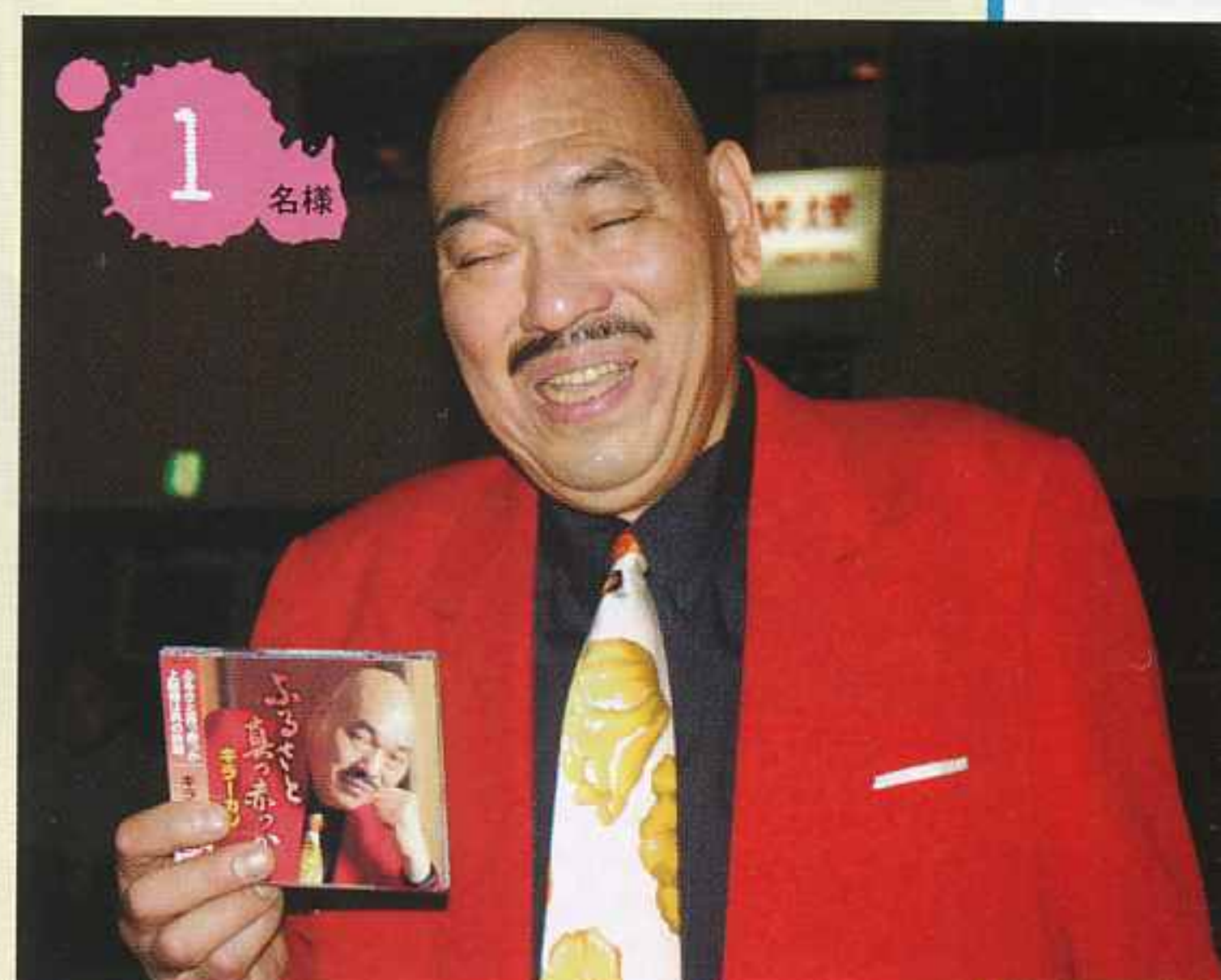
名前通りに笑顔が愛くるしい、みんなの愛ちゃん。卒業のウワサもあったが、ファンの熱烈な期待に応え、2代目からの継続参戦決定! 実はアガリ症らしいけど、そのポージングは堂々としたもの。

読プレコーナーにアルバトロス殺法が炸裂!

RADICAL PRESENT

CD
1名様

★『ふるさと真っ赤っか』
¥1200(税込)

"蒙古の怪人"キラーカンがCDデビュー! 故・三橋美智也に太鼓判を押されたその美声は必聴!! マジソンの次は『紅白』出場だ!!
【キラーカン提供】

■ちゃんこ居酒屋カンちゃん
HP***http://kilakan.at.infoseek.co.jp/

RUMBLE ROSES
3名様

★『ランブルローズ』¥7329(税込)

PS2専用のバカ売れ女子プロゲーム『ランブルローズ』をプレゼント! レースクィーン、教師、看護婦、くの一、女子高生などなど10名のセクシーキャラがくんずほぐれつの大乱闘! 泥レスもやっちゃうよ!!【コナミ提供】

■TEL***コナミホットライン
0570-086-573(平日9:00~19:00)
■HP***http://www.konami.jp/gs/game/rumbleroses/

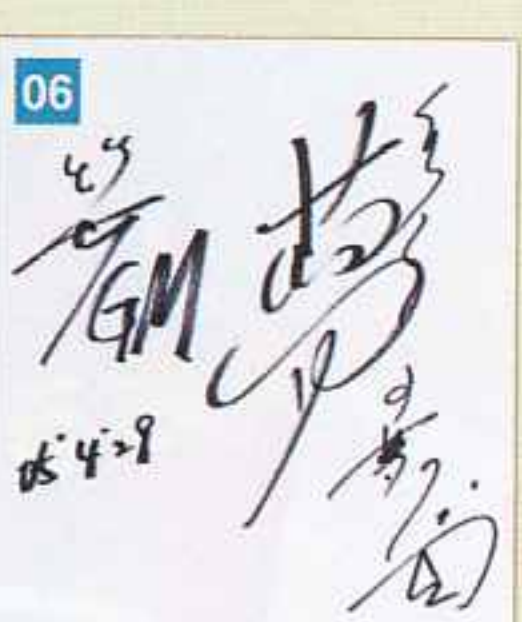
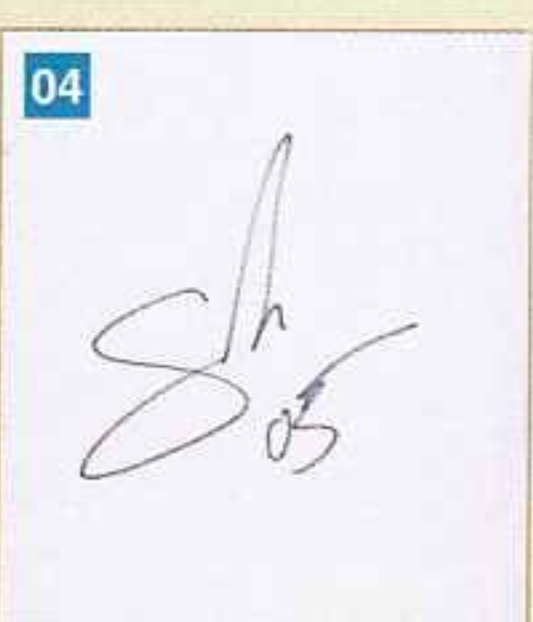
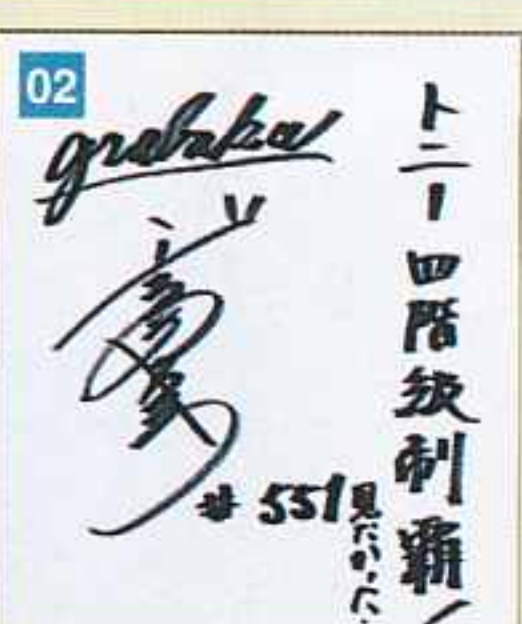
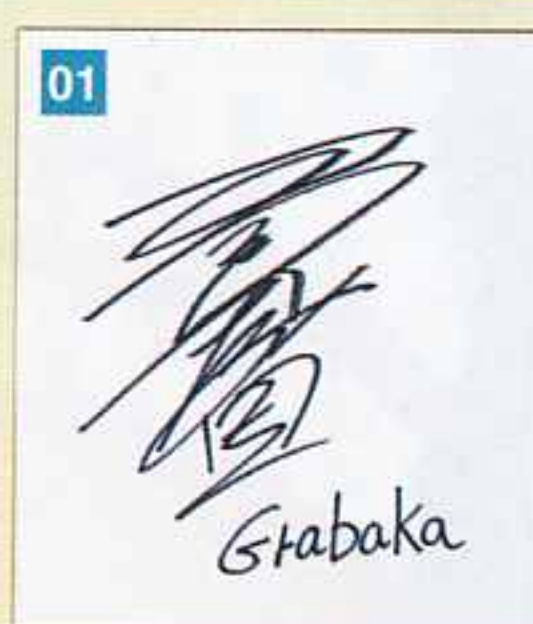
SPECIAL
各1名様

アントン総帥&ドラゴン&長州のBIG3、87年・蔵前の猪木vs長州、そして聖鬼軍などなど、超レアなテレカの数々を大盤振る舞い! 個人的には『ハッスル』で大噴火する田上火山が見たい!!
【岡本さん提供】

01★猪木&藤波&長州・BIG3テレカ
02★猪木vs長州テレカ
03★格闘衛星・闘強導夢テレカ
04★川田&田上テレカ

SPECIAL 2
各1名様

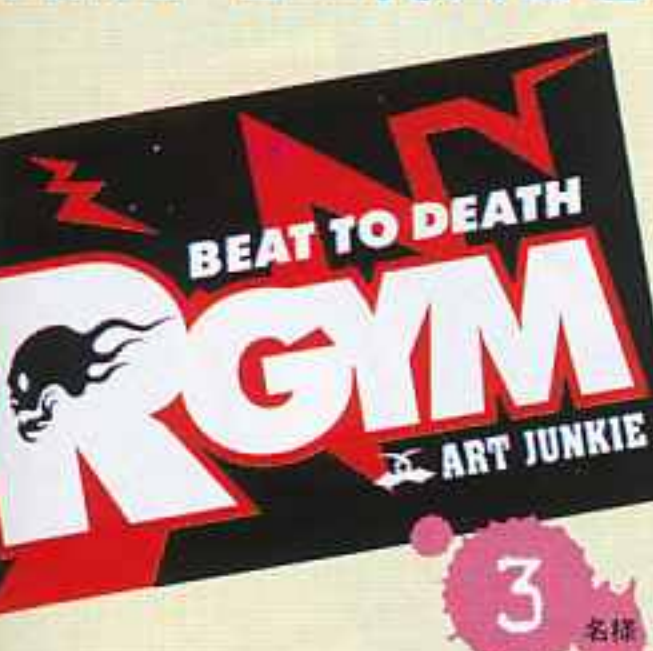
菊田&郷野の"GRABAKA"としての初サイン! 4月17日の『WE LOVE SABU』で貴重なサブゥーのサインもゲット!!

01★菊田早苗サイン色紙
02★郷野聡寛サイン色紙
03★菊田早苗&郷野聡寛サイン色紙
04★サブゥー サイン色紙
05★ディック東郷サイン色紙
06★大仁田&笹原GMサイン色紙

SMACKGIRL
セットで1名様

6・28スマック後楽園大会のライト級トーナメント準決勝に出場する15(いちご)。レプリカマスクをかぶって応援だ!!【15&スマックガール提供】

サイン入り!!

★サイン入り15応援マスク ¥3000
★スマックガール・ストラップ

■15HP***http://15ichigo15.fc2web.com/f_index.html
■スマックガールHP***http://www.smackgirl.com/

ART JUNKIE
3名様

★R-GYMステッカー ¥315(税込)

「隆多はくるから!」と佐伯さんも猛プッシュ! DEEPミドル級王者の"マッチョな兄貴"桜井隆多ステッカー登場!
【ART JUNKIE提供】

■TEL***GROUND COBRA 092-711-1021
■HP***http://www.artjunkie.jp/

SUPER BRAWL
2名様

★須田vsヴィターレ記念Tシャツ
(※プレゼントはLサイズ)

4月9日、ハワイで開催された『スーパーブロウル 39』。メインで組まれた王者・須田匡昇vsフィラニコ・ヴィターレのスーパーブロウル世界選手権は、残念ながら須田のKO負け。試合を裁いた島田レフェリーが記念Tシャツをくれました。【島田裕二提供】

SHINJUKU FIGHTER
1名様

★散打vs害裸
(※プレゼントはLサイズ)

新宿ファイターオリジナルTシャツ登場! 散打はわかるが、害裸ってなに? 「害裸? 当て字に決まってんじゃん」(by店長)
【格闘技ショップ 新宿ファイター提供】

■TEL***03-3354-1903
■HP***http://www13.ocn.ne.jp/fighter/

SPRING
2名様

★I LOVE SAKE Tシャツ
(※プレゼントはLサイズ)

4月30日、テレ東深夜の『やりにげコージー』で春一番を発見! 久々に闘魂注入する春さんを見ました。元気が一番!!
【スプリング・サービス提供】

■HP***http://www.haruichiban.com/

U.K.R.
2名様

★U.K.R.バーリトゥードTシャツ
¥3675(税込)

"キング・オブ・ボヤキスト"金原弘光のニューTシャツ登場! 池田大ちゃんとの『新日本プロレス学校対談』はP89から!!
【金ちゃん提供】

■HP***http://www.hiromitsu-kanehara.com/home/index.html

HUSTLE

とどまることを知らないハッスルグッズに、高田モンスター軍グッズが続々と登場! インリン様のサインはレア物ですよ!【DSE提供】

各1名様

★金村キンタローTシャツ
¥3990(税込)
ブラック/S～XL

★モンスターJ Tシャツ
¥3990(税込)
グリーン/S～XL

★アリシンZ Tシャツ
¥3990(税込)
ブラック/S～XL

★モンスター°C Tシャツ
¥3990(税込)
ブラック/S～XL

3名様 サイン入り!!

★インリン様サイン入り ハッスルハウス札幌大会ポスター

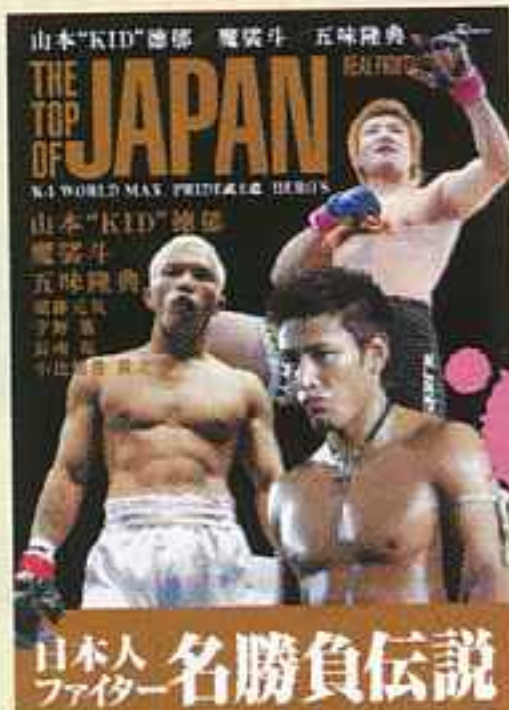
1名様

★インリン様キャップ
¥3150(税込)
パープル

■HP***http://www.hustlehustle.com/

BOOKS

各3名様

★『プロレススキャンダル事件史3』 ¥840(税込)
アントン・ハイセル、ミスター高橋本、闘龍門分裂、力道山の死因などスキャンダルの数々を再検証!! 前田×天龍の特別対談も同時収録!!
【宝島社提供】
■TEL***03-3234-4621
■HP***http://tkj.jp/

★『REAL FIGHT! EXTRA -THE TOP OF JAPAN-』
¥1500(税込)
魔裟斗、KID、五味、元気、長南。日本人のスーパーファイターたちの名勝負を、最前線のカメラが捉えた写真とともにイッキに紹介!!
【宝島社提供】
■TEL***03-3234-4621
■HP***http://tkj.jp/

★『プロレス、K1、PRIDE「禁忌」の読み方2 禁断の構図(アングル)』
格闘技探偵団十亀井誠・著 ¥1470(税込み)
早くも「禁忌」シリーズ第2弾登場! 謎のライター集団・格闘技探偵団が、アンタッチャブルな業界のタブーを独自の視点で激筆!!
【日本文芸社提供】
■HP***http://www.nihonbungeisha.co.jp/

★『一撃の拳 松井章圭』
北之口太・著 ¥1890(税込)
取材期間6年! 大山倍達、百人組み手、世界選手権制覇、組織の分裂、そしてK-1…。極真会館・松井章圭館長の壮絶人生を完全ドキュメント!!【講談社提供】
■TEL***03-5395-3522(学芸図書出版部)
■HP***http://www.kodansha.co.jp

BATI-BATI

3名様 サイン入り!!

★フーテンプロモーション旗揚げパンフ
バチバチが復活! 4月24日の旗揚げ戦を成功に収めた池田大輔の『フーテン・プロモーション』のカッコいいパンフをプレゼント!
【フーテン・プロモーション提供】
■TEL***03-3373-7939
■HP***http://www.fu-ten.jp/

GEP!

1名様 サイン入り!!

★赤まむしサイン入りポートレート(額入り)
4月23日、大日本時代に猛威をふるった葛西、非道、ジ・ウィンガーの"赤まむし"が初興行を開催! この模様はスカパーで6月にOA予定!!
【チョロ提供】
■TEL***GEP! 0749-64-1711
■HP***http://www.gep-u.com/

VALIS

3名様

★『ZERO-ONE IMPACT vol.7』
ZERO-ONEの波乱に満ちた歴史に終止符を打った2004年12月11日。現在のZERO-1 MAXにつながる重要な大会を収録!!
【ヴァリス提供】
■TEL***03-5342-2681

REAL JAPAN

3名様

★『真説タイガーマスク』
DVD/94分 ¥4935(税込)
5代目タイガーマスク・船木誠勝が登場する話題の映画『真説タイガーマスク』が遂にDVD化! 特典映像として初代から4代目までのタイガーが揃った伝説の試合を収録!!
【GPミュージアム】
■HP***http://www.gp-museum.com/

各1名様 サイン入り!!

★スーパータイガーフィギュア(サイン入り) ¥2100(税込)
★ザ・タイガーフィギュア(サイン入り) ¥2100(税込)
それぞれのフィギュアによりサインを書き分ける、皇帝のステキなこだわりが光ってます!【プロ格本舗バトルロイヤル提供】
■HP***http://www.battleroyal.jp/

1名様 サイン入り!!

TIGERMASK THE FIRST & THE TIGER II

★Wタイガー・ポートレート
6月9日、リアルジャパンプロレス(真日本プロレス)旗揚げ戦のメインは、佐山タイガーvs大谷の山口県民対決だ!! 【掣圏会館提供】
■HP***http://www.seiken-do.com/

応募要項

応募券

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦あなたが最も期待する中軽量級の選手は?
⑧船木誠勝と対談してほしいヒトは?

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F (株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「殺していいですよ」係まで

※締切は2005年6月15日(水)当日消印有効

QUEST

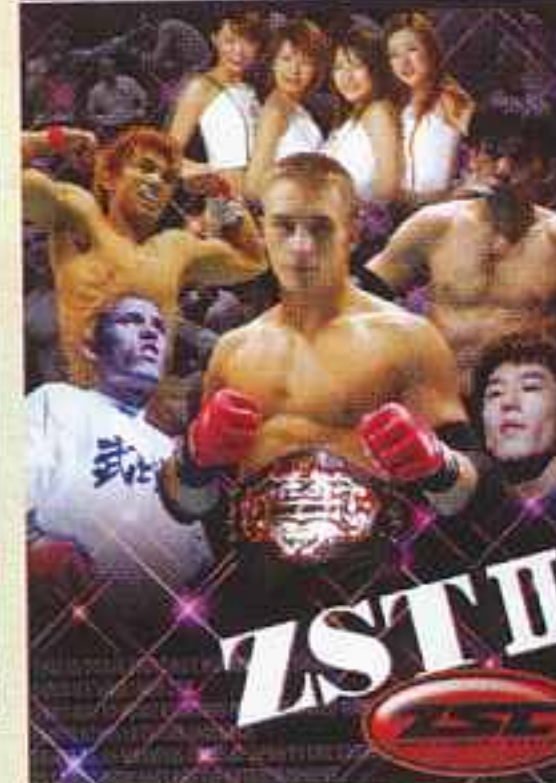
今月も超強力ラインナップ! 小林が自らセレクトした野良犬ベスト、ZST名勝負集第2弾、修斗ランカー植松の総合指南、忍者マスター初見先生、内家拳の第一人者・楊進のDVDをそれぞれ1名様に!!【クエスト提供】 ※全作品5月20日発売

■TEL***クエスト 03-3360-3810
■HP***http://www.queststation.com/

各1名様

★『実戦中國武術 太極拳護身術』
DVD/36分 ¥4935(税込)

★『武神館DVDシリーズ17 大光明祭'99』
DVD/180分 ¥5880(税込)

★『植松直哉 総合格闘技 完全教則・上級篇』
DVD/130分 ¥5880(税込)

★『ZST II』
DVD/240分 ¥5880(税込)

★『野良犬 小林聡伝説』
DVD/240分 ¥5880(税込)

『紙プロ』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。（何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい）
★代引き手数料は315円です。（代引き金額によって異なります）

『紙プロHand』でご注文の場合

詳しくは『紙プロHand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧下さい。

電話でご注文の場合

平日15:00〜22:00
(株) ダブルクロス 03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承下さい)。

ハッスル & 紙のプロレス コラボグッズ

第1弾 髙田総統グッズ

「ビビったか？ たじろいだか？」Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック／ホワイト] ¥3990 (税込)

「BITAAAAN!」Tシャツ
[S・M・L・XL ホワイト] ¥3990 (税込)

「BITAAAN!」メッシュキャップ
[ブラック／パープル] ¥3150 (税込)

©DSE

「ビビったか？ たじろいだか？」ナップザック
[ブループリント] ¥2100 (税込)

「髙田総統」フェイスタオル
¥2100 (税込)

第2弾 笹原GM「SHUT UP!」Tシャツ

(ラグラン七分そで)

BACK

[S・M・L・XL ホワイト×レッド]
¥4200 (税込)

トートバック〈ブラック〉
¥ 1,500

『カズ・H』Tシャツ〈ブラック〉
¥ 3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL

『COZY BAKA』Tシャツ〈ブラック〉
¥ 3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL

着ちゃったぞバカヤロー!!

マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥ 3,500 S or M or L or SOLD OUT

ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥ 3,000 XS or S or M or SOLD OUT or XL

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥ 3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT

残りわずか!

赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥ 3,800 S or M or L or XL

紙のプロレス RADICAL
No.87
2005年6月2日発行
No.88は
6月18日(土)発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
斉野もみじ
上杉ヒデトォニオ（新人）
松下ミワ（新人）
八木賢太郎
（38秒で負けちゃって非番）

終身名誉バイザー
吉田豪
助っ人
ジャイ子
電気部
ささきぃ
松澤チョロ
パンフ職人
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
森鷹博
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島勝儀
菊池茂夫
黒田史夫
試合写真
平工幸雄
乾晋也

お勘定&衣料部
林“GOKUTSUMA”一枝
体調
プリン体・入江（TwoThree）
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也
前田昌一

ハッスルグッズも好評発売中!!

©DSE

高田総統官帽
¥8190(税込)

高田モンスター軍

New Jersey Powerful Warrior Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト×パープル]
¥3990(税込)

モンスターJ Tシャツ
[S・M・L・XL　グリーン] ¥3990(税込)
(※5月中旬お届け予定)

アリシンZ Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック] ¥3990(税込)
(※5月中旬お届け予定)

モンスター°C Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック] ¥3990(税込)
(※5月中旬お届け予定)

"怒りの沸点"モンスター°C Tシャツ登場!!

モンスター軍ストラップ＆キーホルダー
各¥1050(税込)

インリン様キャップ
[パープル] ¥3150(税込)
(※5月中旬お届け予定)

モンスター軍マフラータオル ¥2100(税込)

インリン様Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック] ¥3990(税込)

高田モンスター軍Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト／ブラック] ¥3990(税込)

ビターンTシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト／ブラック] ¥3990(税込)

ハッスル軍

©DSE

目指せ！ハードコア・ヒーロー!!

ハッスルなでしこHikaru Tシャツ
[XS・S・M・L・XL　レッド]
¥3990(税込)

ハッスルI Tシャツ
[XS・S・M・L・XL　ブルー]
¥3990(税込)

ハッスルK Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック]
¥3990(税込)

金村キンタローTシャツ
[S・M・L・XL　ブラック] ¥3990(税込)
(※5月中旬お届け予定)

ハッスルメッシュキャップ
[ブラック／レッド／イエロー／ピンク／ブルー／グリーン]
¥3150(税込)

残りわずか!

ハッスルロゴTシャツ
[XS・S・M・L・XL　ホワイト／ブラック／イエロー／レッド／ピンク／ブルー／グリーン／オレンジ]
¥3990(税込)

ハッスルフェイスタオル
[ブラック／イエロー]
¥2100(税込)

ハッスルストラップ／キーホルダー
各¥1050(税込)

ハッスルリストバンド
[ホワイト／イエロー／グリーン／ピンク／ブラック／オレンジ]
¥1050(税込)

ハッスルホログラムステッカー
¥1050(税込)

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZINE MOOK 268
2005 NO.87
PRIDE・GP2005開幕
敗れてなお咲く花あり!!
平成17年6月20日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F 電話／03-5368-1795
ワニマガジン社 定価：本体819円＋税

9784898297483
ISBN4-89829-748-X
C9476 ¥819E
1929476008190
雑誌 69860―68
印刷：図書印刷株式会社